

員會ハ審査ノ末第一案ハ之ヲ可決スヘキモノト決シ三月十一日報告書ヲ議長ニ提出シタルモ第二案ハ委員會ノ報告ヲ經ス議決ヲ爲スニ至ラザリキ  
三月二十三日第一案ハ議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

六〇 關稅改正促進ニ關スル建議案

我カ帝國ノ現行關稅定率法ハ制定以來十有四年ヲ經過シ其ノ間多少ノ改正アリタレ共歐洲ノ大戰ニ依リ世界ノ物價ハ非常ナル變動ヲ爲シタルニモ拘ラス明治四十一年ノ物價ヲ基礎標準トシテ算定シタル從量稅ヲ以テ課稅スルモノ多數ヲ占メ居ルニ依リ現在ノ物價ニ依ル從價稅トノ均衡ヲ失シ又大戰以來歐米列國カ自國ノ産業保護ト貿易輸出入ノ均衡ヲ保全スル爲其ノ關稅ノ改正ヲ斷行シタルニ獨リ我カ國ノ關稅ハ其ノ均衡ヲ得サル爲國內産業ノ振興ヲ妨ケ延テ貿易ト輸入超過ヲ助長シ其ノ結果爲替ノ低落ハ生活必需品ノ騰貴ヲ促シ尙嗜好品ノ輸入増加ハ國民ヲシテ益奢侈贅澤ノ惡風ヲ誘導セムトス今ヤ我カ國ハ經濟的革正ヲ要スルノ秋ナリ政府ハ時代ノ趨勢ニ鑑ミ速ニ適當ナル改正案ヲ提出セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月七日太田信治郎君外二名之ヲ提出ス三月十日日本案ハ武藤金吉君外一名提出染料關稅撤廢ニ關スル建議案(六六)外五件(本項第二(六六)參看)ト一括シテ院議ニ付シ提出者(太田信治郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ一般關稅ニ關シマスル建議案ヲ提案致シマシタ、簡單ニ提出ノ理由ヲ申上ゲタイト存ジマス、御承知ノ通り大藏省ノ調ニ依リマスト、大正八年以來大正十三年ニ至ル輸入超過ハ二十二億六千萬圓、更ニ植民地ニ於ケル輸入超過ヲ加ヘマシレバ二十七億萬圓ト相成リマス、若シ本年度ノ輸入超過ガ假ニ三億萬圓アッタト致シマシレバ、三十億萬圓ノ輸入超過ト相成リマス、而シテ之ガ爲ニ爲替ガ常ニ片爲替ニナリマシテ、我國ノ爲替相場ハ度々非常ナル變動ヲ致シマス、其結果非常ナル不利ニ相成ツテ居ルノデアリマス、而シテ此時ニ當リマシテ最モ不備缺點ノ多イ所ノ現行ノ關稅ヲ改正致スコトハ、最モ必要ト認メマシテ、此建議案ヲ提案致シタルノデアリマス、御承知ノ通り現今ノ我國ノ關稅ハ從價稅ヲ以テ課スルモノト、從量稅ヲ以テ課スルモノト二ツニ相成ツテ居リマス、而シテ從量稅ヲ以テ課シマスモノハ明治四十一年ノ物價ヲ標準ト致シ、ソレヲ基礎トシテ組立テマシタ所ノ價格ニ從量ヲ以テ決定ヲ致シマシタル所ノ從量稅デアリマス、然ルニ御承知ノ通り世界大戰以來物價ハ非常ナル變動ヲ致シマシタ、今日ハ當時カラ見マシレバ三倍以上ニモ相成ツテ居ルノデアリマス、而シテ一方ニハ從價ヲ以テ課シテ居リマスモノハ、時々ニ相場ノ變動ニ順應致シマシテ、課稅ノ標準ガ異ツテ居リマスケレドモ、從價ヲ以テ課シテ居リマスモノハ、安イ當時ノ儘デ課セラレテ居ルモノモアルノデアリマス、之ガ爲ニ課稅ガ不均衡ニナツテ居リマスト申シマスルコトハ、甚シク差ヲ生ジテ居ルコトハ申スマデモナイノデアリマス、而シテ此改正ヲ致シマスルコトハ、今日輸入超過ヲ防止致シマス上カラ申シマシテモ、全く必要デアルト云フコトニナルノデゴザイマス、爾カ致シマシテ凡ソ何處ノ國デアリマシテモ、



其國ノ産業ヲ保護スル爲ニ、關稅ト云フ堤防ヲ其處ニ設ケテ、サウシテ國內ノ産業ヲ保護シテ居リマスルコトハ、世界ノ今日經濟政策ノ大勢ト申シテ宜シイノデアアル、然ル所我國ハ其大勢ニ反キマシテ、サウシテ内地ノ産業ヲ破壞致シマスルヤウナ關稅ガ制定致サレテ居リマスコトハ、私ガ茲ニ申上ゲルマデモナク、實例ヲ御考ニナレバ分ルノデアアル、大正元年マデニ我國ノ關稅ハ有稅品、無稅品ヲ平均致シマシテ、總額ノ約一割ニ當ッテ居ル、然ル所最近十箇年間ノ平均ハ同ジク無稅、有稅品ヲ平均致シマシテ、約四分七八厘ニシカ當ラヌノデアリマス、左様致シマスルト物價ガ上リマシテ貿易額ガ増加致シマシタ結果、關稅ノ定率ハ非常ニ變動ヲ致シマス、寧ロ非常ニ關稅率ガ低落致シマシタコトハ、全ク變態デアリマス、是ハ要スルニ現在ノ關稅ノ不備ダト云フコトハ、此一點デ御分リニナルダラウト思フノデアリマス、然ラバ外國ハドウデアアルカ、御承知ノ通り米國ナドハ非常ナ大量生産ヲ致シマシテ、世界ニ向ッテノ一大輸出國デアリマス、ソレニモ拘ラズ産業ヲ保護スル爲ニ、或ハ機械類ノ如キハ三割、織物類ノ如キハ四割ト云フヤウナ重稅ヲ課シテ居リマスノハ、全ク内地ノ産業ヲ保護シ、輸出入ノ均衡ヲ得セシメンガ爲ニ此關稅政策ヲ採ッテ居リマスコトハ、之ニ依ッテ見テモ明デアアルノデアリマス、又世界各國ノ關稅收入額ヲ調べテ見マスルト、英、米、佛、伊等ハ各一割内外ノ關稅收入ヲ得テ居リマス、然ルニ我國ガ獨リ四分八厘ト云フ低位ニ居ルト云フコトハ、關稅政策ノ全ク不備デアルト云フコトニ歸著致スノデアリマス、實例ト致シマシテ現ニ關稅ノ制定當時ニハ、從價ニ割ヲ以テ加算致シマシタモノガ、今日デハ六分位ニナッテ居ルモノガアル、或ハ七分ニナッテ居ルモノモアル、電動機ノ機械ノ如キハ二割ノ制定デアッタモノガ、今日デハ九分ニナッテ居ル、鑄鐵管ノヤウナ鐵類ノヤウナモノハ、從價ニ割ヲ以テ其當時制定シタモノガ今日ハ六分ニナッテ居ル、鐵道ノ機關車ノ如キモ從價ニ割カニ割五分位ニ制定サレタモノガ、今日ハ一割ニ至ッテ居ル、米國ハドウデアアルカト云フト、米國ハ之ニ二割五分ノ課稅ヲ致シテ居リマス、斯様ナ次第デアリマスカラ、全ク我國ノ關稅ノ不均衡デアルト云フコトハ明ニ相成ルノデアリマス、又織物ノ如キニ及ビマシテモ、日本ノ毛織物ハ非常ナ最近多額ノ輸入ガアリマシテ、最近マデ僅ノ間ニ殆ド八倍ノ輸入ヲシテ居リマス、而シテ輸入ヲ致シマ

スル元ハ多ク英國デアアル、英國ノ織物ヲ一番世界ニ於テ餘計需要致シテ居リマスノハ日本デアリマス、日本ニ二割内外ノ織物ヲ供給ヲ致シテ居ル、元英國ノ織物ハ盛ニア米利加ニ輸出致シマシタ時分ニ、亞米利加ハ内地ノ産業ヲ保護シ、國內ノ自給自足ノ計ヲ立ツル爲ニ、十割ノ課稅ヲ致シマシタ、然ルニ現在我國ノ輸入稅ハ僅ニ七分内外デアアル、又生絲ノ如キモノモ最近ニ至リマシテ、僅ニ三年間ノ間ニ二十倍ノ輸入超過ヲ致シテ居ル、斯様ニ我國ノ關稅ハ非常ナ低率デ僅ニ六分内外、亞米利加ニ於テハ之ニ十割以上ノ課稅ヲ致シテ居リマス、斯様ナ次第デアリマスカラシテ、我國ノ輸入ノ年々増加ヲ致シマスノニ、非常ニ便利ナル關稅デアリマス、彼ノ關稅政策ノ爲ニ一層輸入額ガ増加スルト云フコトハ、全ク此一點ニ在ルト私ハ思フノデアリマス、併ナガラ御承知ノ通り我國ハ原料ニ乏シイ國デアアル、天產物ニ洵ニ乏シイ國デアリマスカラ、原料ト致シマシテハ海外ヨリ輸入スル物ノ關稅ヲ引下ゲ、サウシテ内地ニ於テ之ヲ製造ヲ致シ、ソレヲ海外ヘ輸出致シマスルコトニナリマセヌケレバ、到底内地ノ輸出入ノ均衡ヲ得ルコトガ出來ナイト思ヒマス、輸入品ニ於キマシテモ、原料トシテ輸入スル物ニ對シテハ、是ハ成ベクハ無稅主義ヲ採リタイト思フノデアリマス、所ガ現今ノ關稅政策ハ全ク是ハ矛盾致シテ居リマス、一例ヲ申シマスレバ、鋼鐵ノ課稅ノ如キハ、大正十年ニ從來從價五分ノ關稅ヲ一割五分ニ引上ゲタ、一割五分ニ引上ゲタモノヲ以テ造ル所ノ機械ハドウデアアルカト申シマス、機械ハ前ニ申上ゲマシタ通り、非常ニ低率ナル稅金ヲ以テ之ニ課シテ居リマス、故ニ原料ガ高クツテ、其高イ關稅ヲ課セラレル所ノ高ク付ク原料ヲ以テ内地ノ工業家ノ造ッタ機械ヲ、安イ原料デ大量生産ヲ以テ、低廉ナル資金ニ依ッテ拵ヘタ所ノ外國製品ト、競争ヲ致サナケレバナラヌト云フヤウナ場合ニ居リマスカラ、内地ノ工業家ノ發展ヲ致シマセヌデ、非常ナル困難ノ立場ニ在ルト云フコトハ此一事ヲ以テモ分ルノデアリマス、然ル所聞ク所ニ依リマス、此原料タル所ノ鐵類ノ保護政策トシテ、或ハ鐵ノ自給自足ト云フヤウナ計畫ノ爲ニ、關稅ノ引上計畫ヲセラレタコトガアッタカノ如ク聞キマシタガ、右様ナ事ガ若シ行ハレマス、ト致シマシタラ、國內ニ於ケル所ノ工業家ハ、全ク破産状態ニ立至ルヨリ外仕方ガナイト思フノデアリマス、若シ一朝左様ナ事ガゴザイマ



シタナラバ、我國ノ工業家ハ海外輸入品トノ競争ニ堪ヘズシテ、是ガ全敗ヲ致スヤウナコトガゴザイマシタナラバ、大變ナ問題ガ起ルデアラウ、之ニ從事シテ居リマスル所ノ労働者ハ、或ハ非常ナ失業ヲ出ス、數十萬ノ失業ヲ出サナケレバナラヌカモ知レヌ、社會政策的ニ偉大ナ問題ガ茲ニ起ルダラウト思フデアリマス、而シテ此機械ノ輸入額ハ——大正十三年ニ於ケル所ノ機械ノ輸入額ハ總額二億三千九百萬圓デアアル、此二億三千九百萬圓ノモノガ若シ原料ヲ輸入致シマシテ、内地ニ於テ製作致シマスコトニナリマスレバ、此原料ノ價格ト云フモノハ總機械ノ價格ノ三分ノ一若クハ四分ノ一デアリマス、假ニ之ヲ三分ノ一ト致シマシテモ、僅ニ七千萬圓ノ輸入ヲ致シマスレバ、一億六千萬圓ノ輸入ヲ防止セラレルコトニ相成リマスガ、國內ノ産業ヲ發展セシメテ、尙且ツ輸入超過ヲ防止スルコトガ出來ルト致シタナラバ、國家ノ爲ニ大ナル好結果ヲ生ズルコトデアラウト、思フデアリマス、併ナガラ是等ノ問題ハ要スルニ區々ノ問題デアリマスケレドモ、大體ニ於テ我國ニ於テハ天産物ニ乏シイデアリマスカラ、此原料ニ付テハ、成ベク低廉ニ之ヲ輸入スルト云フ方法ヲ採ラナケレバナラヌ、之ニ就テ關稅撤廢ヲ御論ジニナリマス方ミノ御意見モ御尤デアリマス、併ナガラ其原料ヲ加工精選ヲ致シマシテ輸出スルト云フコトニ付テ、方法ガ確立致シマセヌケレバ相成リマセヌデアリマス、之ニ就テハ此製作品ニ付テノ所謂製作品ニ付テ出來上ツタル物ニ付テノ輸入ヲ調節致シマスモノニハ、ドウシテモ關稅政策ト云フモノ、茲ニ必要ヲ感ズル次第デアリマス、御承知ノ通り現在ノ貿易狀態ノ不利ハ、或ハ論者ハ金ノ輸出解禁ヲ唱へ、或ハ種々ナル議論ガアリマスルガ、之ヲ要スルニ貿易ノ均衡ヲ得セシメナケレバ止マナイデアリマス、貿易ノ均衡ヲ得セシメルニハ、ドウシテモ内地ノ産業ヲ發達セシメ、内地ノ工業家ガ總テ自給自給、進ンデ海外ニ之ヲ輸出シテ均衡ヲ保タシメルト云フヨリ外ニ政策ハ無イデアリマス、此根本問題トシテハ、全ク内地ノ産業政策ニ重キヲ置イタル所ノ事柄デナケレバナラヌト思フデアリマス、併ナガラ之ヲ縱斷的ニ議論ヲ致シマスレバ、個々ノ物ニ付テハ社會政策トシテ或ハ關稅ノ撤廢ノ議論モアリマセウシ、或物ハ又此關稅ノ引上ヲ爲サナケレバナラヌト云フ物モアリマセウケレドモ、是ハ縱斷的ニ縱ニ其物々々一ツニ付テノ事柄ニ

付テハ、左様ナ議論モアリマセウガ、左様ナ議論ニ拘泥致シテ居リマシテハ、一般ノ關稅ヲ改正スルコトハ出來ナイ、私共ハ各種ノ品柄ニ付テ色々先刻來論ジ、其他ニ付テ御議論モアリマシタガ、是等ノ關稅ノ改正ヲ爲サルト云フコトモ必要ガアルト存ジマスルガ、ソレハ個々一ツ一ツニ付テノ橫斷的ノ事デアアル、左様ナ事柄ヨリハ寧ろ國家經濟、我國ノ産業政策ニ付テ是ハ如何ニスルカト云フコトヲ大體ト致シ、更ニ國民生活ニ安定ヲ得セシメ、國民ノ生活ノ必需品ヲ低廉ニ供給スルト云フコトヲ緯ト致シテ、此大方針ノ下ニ於テ關稅政策ヲ行ハナケレバナラヌト私ハ思フ、ソレヲ矛盾シタル輸入業者ニ非常ナ便利デアルトカ、或ハ不便デアルトカ、或ハ一ツノ業務ニ付テノ縱斷的ノ事ニ拘泥ナサツテ、此關稅ノ改正ヲ爲サルト云フコトハ、甚間違ッテ居ルコトデアアル、是ハサウシタイデアリマセウケレドモ、左様ナ事ニ顧慮致シマシテハ、此問題ノ解決ヲスル時機ハ何時モ無イデアリマス、丁度論者ノ議論デ申シマスレバ、柳ノ枝ニ櫻ノ花ヲ咲カセヤウトシ、夏ノ土用ノ暑キ日ニ雪見ヲシタイト云フノデ、出來ナイ事デアリマス、兩方良イコトハ到底出來ナイ、是ニ於テカ大方針ヲ定メテ、ソレニ依テ國內ノ産業ノ方針ヲ定メルト云フコトハ、私ハ必要デアルト信ズル者デアリマス、只今ハ關稅改正ニ非常ニ好イ時機デアリマス、第一ニ日英協定ガ既ニ滿期ニナツテ居ル、之ニ依テ爭ガ生ジテ居リマシタ所ノ事柄ガ全ク取レタノデアリマス、更ニ關稅ヲ改正シマスルト、海外ノ輸入業者ノ見越輸入ヲ致スト云フヤウナ方法モアリマシタガ、今日ノ日本ノ經濟界ガ斯ノ如キ不況ニ在リマスカラ、此見越輸入ト云フコトハ今日デハ出來ナイ状態ニ居リマス、又世界各國ニ於テモ、我國ニ於テ關稅ヲ引上ゲレバ、報復的ニ關稅ノ引上ヲ行フデハナイカ、然ルニ今日ノ我國ハ曠古未曾有ノ大震災以來、非常ナ經濟界ニ動搖ヲ來シテ居ル、今ヤ此一大改革ヲ致シマスレバ、日本ノ經濟界ノ前途ヲ奈何セント云フ場合デアリマスカラ、世界各國モ之ニ同情ヲ持ツテ居ル次第デアリマス、此時代ニ相手ガ報復的ニ關稅ヲ引上ノ政策ヲ執ル必要モナカラウト思フ、斯様ナ好時機ニ於テ是非政府ハ此關稅ヲ改正致シテ、專ラ當業者ノ反對、輸入業者ノ便利、或ル特殊ノ者ノ反對論ナドヲ考慮ナサル必要ハナイト思ヒマス、斷然國策ノ上ニ根本政策ヲ樹テ、關稅ノ改正ヲ爲サイマスレバ、直ニ此輸出入ノ



均衡ヲ恢復スルノミナラズ、又我國ノ關稅收入ヲ增加致シマシテ、其增加致スノガ目的デハアリ  
マスマイケレドモ、結論ニ於テ増加ヲ致シマシタモノヲ他ニ利用ヲ致シマシテ、農村振興、其他  
國民ノ負擔ノ輕減等ニ充當致シマスコトガ出來タラバ、非常ナ結構ナ事ト私ハ信ズルノデアリ  
マス、是非此場合ニ改正案ヲ御提案アランコトヲ希望シマス

次テ本案ハ武藤金吉君外一名提出染料關稅撤廢ニ關スル建議案(六六)外五件(六六)參看)ト一括  
シテ政府提出染料製造獎勵ニ關スル法律案(第四項第一(三三))委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會  
ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果  
委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

### 六一 鹽田禁止地區解除ニ關スル建議案

曩ニ大藏省ハ明治四十三年及同四十四年ノ告示ヲ以テ十數縣ニ互リ製鹽禁止區域ヲ定メタリ而  
シテ其ノ理由ハ主トシテ生産額ノ比較的少量ナルニ比シ其ノ監督不便ナルニ在ルヤニ聽ク然ル  
ニ現今農村ノ疲弊困憊ハ其ノ極ニ達シ是カ救濟ノ要アルハ天下萬人ノ等シク認ムル所ナリ而シ  
テ舊製鹽地方ハ大抵半農半漁ノ寒村ナルカ故ニ斯業ノ禁止ハ全國數十百萬ノ製鹽業者ヨリ其ノ  
生活ノ資源ノ要部ヲ奪取スルノ結果ニ陷レリ是レ今日海岸農村ノ窮境ヲ誘致セシ最大原因ナリ

故ニ一日モ早ク之カ禁止解除ノ方針ヲ執ラムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月七日三橋四郎次君之ヲ提出ス二月二十四日本案ヲ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣  
旨ヲ辯明セリ

政府ハ明治三十八年ニ鹽專賣法ヲ規定シマシテ、續イテ明治四十三年及四十四年ノ大藏省告示  
ヲ以テ、全國ニ互ッテ鹽田ノ整理ヲシタデアリマス、其結果製鹽市町村ノ減少ハ三百ニ上リマ  
シタ、而シテ鹽製造人員ノ減少ハ一萬二千八百八人、製鹽地ノ反別ノ減少ハ千五百三十二町步、サウシ  
テ鹽ノ生産額ノ減少ハ一億七百萬斤餘ニ達シタデアリマス、而シテ此政府ノ鹽田ヲ整理シマ  
シタ理由ハ、政府ノ説明ニ依リマス、製鹽禁止地方ハ、製鹽地トシテハ劣等デアッテ、鹽ノ生産  
額ガ少イト云フコトデアッタ、第二ハ鹽ノ生産費ガ不廉デアルカラ、之ヲサセル時ニハ鹽ノ市價  
ヲ高メル憂アルコト、又其他單ナル問題ガアリマスガ、主トシテ此二ツノ理由ノ爲ニ整理シタト  
言ウテ居ルノデアアル、併シ其結果ハドウナリマシタカト云フト、今申上ゲタ通り、三百町村、一萬  
人以上ノ此人達ハ、多ク農村トハ言ヒマスケレドモ海岸デアリマス、即チ半農半漁ノ人デアリマ  
スカラ、其人カラ從來ノ生活ノ資源ノ半バ以上ヲ奪ツタト云フ結果ヲ來シテ居ルノデアリマス、  
是ガ今日ニ於テハ海岸地方ニ於ケル半農半漁ノ村落ノ非常ナ疲弊ヲ來シタト云フノ原因ノ一ツ  
デアアルノデアリマス、然ルニ政府ハ現在ニ於テハ此禁止地區ヲ解除スル意見ヲ持ッテ居ラナイト  
云ウテ居ルノデアリマスガ、併ナガラ鹽ノ專賣法ヲ實施シタル當時ト今日トハ、地方農村ノ狀況  
ガ非常ニ變化シテ居リマスカラ、此見地ヨリシテ政府ハ更ニ別ノ研究ヲ進メテ、此鹽田禁止地區  
内ニ在ル者ニシテモ、之ヲ許シテモ差支ナイモノハ之ヲ許シテ、サウシテ地方ノ者ニ新シキ生業



ヲ與へ、而シテ今日問題トナツテ居ル地方ノ農村振興策ノ一トシテ之ヲ舉ゲタイ、斯ウ云フコトガ私ガ此建議案ヲ提出シタ所以デアリマス、ドウゾ皆サンノ御賛成ヲ御願致シマス  
次テ本案ハ土井權大君外一名提出鹽ノ賠償價格均衡ニ關スル建議案(本項第二(二六))外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ爲スニ至ラザリキ

六二 石狩川本支流治水工事速進ニ關スル建議案

石狩川本支流ノ治水工事ヲ速進セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右八十四年二月七日神部爲藏君外六名之ヲ提出ス二月二十三日日本案ヲ院議ニ付シ提出者(澤田利吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

石狩川ノ本支流治水工事ノ速進ニ關スル建議案デアリマスガ、石狩川ハ北海道ニ於テ一番大キイ石狩原野ノ中央ヲ曲流シテ居ル大ナル川デアリマシテ、而モ平坦ナル土地デアリマス關係上、荒蕪地ノ如キハ此川ノ氾濫ノ爲ニ被害ヲ受ケル其面積ガ五萬餘町歩ニナツテ居リマス、斯様ナル廣サデ、其被害ヲ受ケル町村モ數十箇町村ニナツテ居リマス、非常ニ肥沃ナ土地ヲ有シナガラ斯様ナ關係デアリマスカラ未ダ荒蕪地ニ屬シテ居ル非墾地ト雖モ、耕作時期ニ於テ非常ニ立派ニ出來テ居ルモノモ秋ノ雨量ノ爲ニ之ヲ流シテシマフト云フヤウナ悲慘ナ關係カラシテ、或町村

ニ於テハ既ニ立派ニ開イタ其町村サへ、人口ガ半分ニ減ッタト云フヤウナ箇所モアル次第デアリマス、政府ハ曩ニ此河川ノ治水工事ノ必要ヲ認メマシテ、現在其工事ヲ繼續シテ居リマス、所ガ其工事ハ洵ニ遅々トシテ進マナイノデアリマス、殆ド其工事ハ箇所ニ依テハ蟻ガ物ヲ運ブト云フヤウナコトニ等シイ事ヲヤツテ居ル所モアリマス、デアリマスカラ此際北海道ノ拓殖事業速進ノ意味カラ致シマシテ、更ニ一段ノ進捗スベキ計畫ヲ立テ、戴キタイト云フコトガ本案ノ趣旨デアリマス、何卒諸君ノ御賛成ヲ仰ギマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

六三 小樽港ニ露國領事館設置ニ關スル建議案

對露通商上小樽港ニ露國領事館設置ノ要アリ政府ハ露國政府ニ交渉シ速ニ之ヲ實現セシメラレムコトヲ望ム

右建議ス



六四 小樽港及函館港ニ港務部設置ニ關スル建議案

小樽及函館兩港ハ其ノ發達近時著シキモノアリ之カ港灣取締ノ爲速ニ港務部ヲ設置シ開港港則  
ヲ實施セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右兩案ハ孰レモ十四年二月七日山本厚三君外六名之ヲ提出ス二月二十三日兩案ヲ一括シテ院議ニ  
付シ提出者(山本厚三君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

第四十六ノ建議案ハ、對露通商開始ノ曉ニ於テ小樽港ニ露國ノ領事館ヲ設置スルコトヲ、露西亞  
ノ政府ニ交渉ノ上デ之ガ速進ヲ圖ルコトヲ希望スルノデアリマス、國交ノ回復以前殊ニ歐洲戰  
争ノ始リマシタ以前ヨリ、此港ニ露國ノ領事館或ハ分館ヲ設置スルコトヲ希望致シマシテ、政府ニ  
於テモ亦露西亞ノ政府ニ於テモ略之ヲ認メテ居リマシタ、既ニ明治四十年七月ニ於テハ露都ニ  
於テ領事館ニ關スル規定ト云フモノガ調印サレマシタガ、其第二項ニ於テ帝國政府ハ露西亞ガ  
小樽港ニ領事館ヲ設置スル場合ニハ、之ニ承諾ヲ與フベシト云フコトヲ規定シテ居ルヤウナ次  
第デアリマス、其後實際ニ於テ露國ノ政府モ之ガ實現ヲ圖ラント致シマシタガ、偶歐洲戰亂ノ勃  
發致シマシタ爲ニ一時此事ガ中止ニナッタ次第デアリマス、殊ニ今回國交回復通商開始ノ曉ハ、  
從來ニ増シテ兩國間ノ通商關係ハ非常ニ旺盛ニナルト思ヒマスシ、殊ニ此方面ニ於ケル貿易關  
係ハ、一層盛ニナルト云フコトハ今カラ知ラル、ノデアリマス、仍テ政府ハ之ニ關スル協定ヲ爲  
サル場合ニ於テ、此小樽港ニ露國領事館ヲ設置スルヤウニ十分ニ御交渉ヲ御願シタイノデアリ  
マス、次ニ第四十七ノ議案ハ小樽港及函館港ニ港務部ヲ設置スルト云フコトハ、是ハ我國ノ稅關

所在地ニ於テ、港務部ノ設置ノ無イ所ハ今日函館港ノミデアリマス、從來港務部ハ內務省ノ所管  
ニ屬シテ居リマシタガ、昨年行政整理ノ結果之ヲ大藏省所管ニ移サレマシテ、稅關ノ所屬ニナッ  
タノデアリマスガ、此函館小樽ノ兩港ハ近年著シク發達ヲ致シマシテ、其出入スル船舶ノ如キモ  
非常ナ顯著ナ増加ヲ見テ居リマス、然ルニ此兩港ニ對シテ港務部ノ設置無キガ爲ニ、色々ノ船舶  
出入航運上ニ甚ダ支障ヲ生ズルノデアリマス、現ニ昨年末ニ於テハ小樽港ニ起リマシタ火藥爆  
發ノ慘事ノ如キハ、八十有餘名ノ人ガ一時ニ其生命ヲ失ッタト云フコトデ、殊ニ此ノ中三十名ハ  
粉碎致サレテ行方ガ判ラヌト云フヤウナ、我國ニ於テ前例ノ無キ慘事ヲ呈出致シマシタガ、是等  
ハ此港務部設置等ノ事ニ依テ、船舶ノ航運並ニ對岸ノ海陸連絡ノ方法ニ付テ、適當ノ規定ガ無  
イノモ一ツノ原因デアルト考ヘマス、斯様ナ次第デアリマスルカラ、此國交回復等ニ依テ一層船  
舶ノ出入ガ多カラントスル今日、此設置ヲ要スルコトハ最モ切ナルモノガアルト考ヘマス、殊ニ  
此兩案ニ付テ尙ホ詳細ノ事ハ委員會ニ於テ説明ヲ致シマスルガ、何卒御審議ノ上デ、滿場一致ノ  
御贊成ヲ願ヒタイト存ジマス

次テ兩案ハ一括シテ議長指名(九名)ノ同一委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二  
十四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十日  
報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果  
委員長ノ報告ヲ省略シ各原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

六五 三次江津間鐵道速成ニ關スル建議案

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第五項 上奏案及建議案



本線ハ明治二十五年法律第四號鐵道敷設法ノ豫定線中陰陽連絡線タル廣島濱田間ノ北半分ニシテ政府ハ夙ニ其ノ急要ナルヲ認メ大正十一年度以降同十八年度迄ノ繼續事業トシテ計畫シ議會亦之ヲ協贊シテ既ニ測量ヲ終リ將ニ工事ニ著手セムトスルニ莅ミ突然繰延ノ厄ニ遭フ然ルニ本線ハ陰陽ノ連絡産業開發及軍事上最樞要ニシテ且降雪期中ノ安全線ナルカ故ニ政府ハ速ニ之ヲ完成セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月七日平田民之助君外二名之ヲ提出ス二月二十三日日本案ヲ院議ニ付シ提出者(平田民之助君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ノ建議ヲ致シマシタ此鐵道速成ノ線ハ、江津ヨリ三次ニ達シマスル線デアリマシテ、此線路ハ明治二十五年ノ鐵道ノ敷設法、即チ法律第四號ニ依テ唯一ノ此山陰道ト山陽道ト連絡線トシテ豫定セラレタ、廣島ト濱田間ノ鐵道ノ一部デアアルノデアリマス、我國デ此組織立ツタ鐵道計畫ト致シマシテハ、此鐵道敷設法ガ一番初メデアリマシテ、日本全國ニ互ツテ此鐵道ノ大繩張ダケヲシタノデアリマスルカラ、其中ニ載セテアリマスル此線路ハ、全國中ノ連絡上是非トモナケレバナラヌ線路、即チ必要缺クベカラザル線路ヲ僅ニ四十線ダケヲ選ンダモノデアリマシテ、所謂此鐵道計畫トシテハ、最小限度ノ鐵道計畫デアリマシタガ、本線ハ實ニ其ノ一線デアアルノデアリマス、斯ル必要ナル線路バカリデアッタノデアリマスルガ、其後二十年間是等ノ此敷設法ニ載セテアリマスル各線ハ、大抵皆建設シ了ラレタノニモ拘ラズ、此線ハ中ニ實現ヲ致サレマセヌノデアリ

マスルカラ、本線中ノ山陽道ニ屬シマスル部分、即チ廣島カラ三次マデノ四十哩ノ間ハ私設ノ藝備鐵道ガ出來マシテ、其鐵道ハ既ニ大正二年カラ開業ヲ致シテ居ルノデアリマス、ソレデ此本院ノ方デハ元ト私ノ前ニ出テ居リマシタ恆松代議士及島田代議士等——私モ一度建議ヲ致シマシタガ、屢此本線ノ速成建議案ヲ提出ヲ致シマシテ、滿場一致ヲ以テ可決セラレマシテ催促ヲ致シマシタ結果、漸ク政府ハ四十二議會ニ於テ此本線ヲ第一期線ニ繰入レマシテ、サウシテ大正十一年度カラ十八年度マデノ計畫ト致シテ總工費千四百萬圓ノ年度割ヲ提案セラレマシテ、ソレガ次ノ第四十三議會デ可決セラレマシタ、即チソレガ最初ノ鐵道敷設法ノ豫定線中デハ、本線ガ最後ニ計上ヲサレタモノデアリマス、然ルニ其實測中大正十八年度完成ヲ、前ノ内閣ノ時ニ二十年度ニ繰延バサレマシタ、今回復タソレガ更ニ大正二十四年度ト云フコトニ延長サレマシテ、初メノ計畫カラ申シマスレバ六箇年モ繰延シニナッタノデゴザイマスルカラ、已ムナク本案ヲ提出致シマシタ次第デアアルノデアリマス、本線ハ元此敷設法デアリマスルコト、初メノ敷設法カラ申シマスレバ、此山陰山陽ノ連絡ノ目的ニナツテ居ッタノデアリマスルガ、其後此三次ト姫路間ノ陰陽ノ中央線ガ計畫セラレマシテカラハ、陰陽連絡ノ外ニ今一ツ一層重大ナル使命ヲ帶ビルコトニナッタノデアリマス、即チ二次カラ落合、新見、勝山、津山、陰陽兩道ノ間ヲ縱貫ヲ致シテ、姫路ヲ經テ大阪ニ達シマスルコト云フコトニナリマスレバ、濱田大阪間ノ鐵道ハ五十哩モ短縮スルコトガ出來ルノデアリマス、所謂此最短期ノ役目ヲ爲スコトガ出來ルノデアリマス、其外ニ尙ホ今回政府ハ四個師團ヲ減少サレマスル結果、或ハ岡山ノ師團ニ其減少ガ影響ヲスルヤウナコトガアリマシタナラバ、我が島根縣ハ從來廣島ノ師團ニ屬シテ居ッタモノデアリマスカラ、從前通りニ此廣島師團ト關係ヲ持ツヤウニナリマスコト、思ヒマスカラ、本線ノ建設ノ急ヲ要スルコトハ益明白ノ事ト存ジマス、又鐵道ノ榮養ノ上カラ考ヘマシテモ、本線ハ山陰山陽第一ノ大河デアリマスル、江ノ川ニ沿ウテ敷設ヲ致スノデアリマシテ、此江ノ川ハ山陰山陽連絡ノ唯一ノ動脈デアアルノデアリマシテ、物資ノ集散ガ古來此陰陽ノ間デハ此河ヲ樞軸トシテ脈絡ガ出來テ居ルノデアリマスルカラ、マダ此本線路ガ敷設セラレナイ今日デスラ、江ノ川ノ上流カラ河舟デ



下シマスル荷物ハ中々多量デアリマシテ、其河口ニ在リマス石見江津ト云フ驛ハ毎年發送貨物ガ三萬四千噸位デアリマシテ、山陰線——京都小郡間四百哩ノ間ニハ驛ガ百三ツモアリマス中デ、發送貨物ノ多イコトハ鳥取ニ亞イデニ番目デアアルノデアリマス、此事實ハ本線ガ鐵道ノ爲ニ頗ル有利デアツテ、地方開發ノ爲ニ緊要ナル線路デアルト云フコトヲ明白ニ證據立ッテ居ルデアリマス、本線ノ急ヲ要スルコトハ茲ニ極メテ適切ナル證據ガアリマス、凡ソ其驛ノ荷物ハ此發送ト到著ノ量ガ大抵似寄ッタモノデアアルノデアリマスガ此江津驛ハ發送ガ三萬四千噸アリマスルノニ、到著ノ荷物ハ僅ニ八千噸シカ無イノデアリマシテ、即チ比例デ申シマスレバ、四ト一トノ割合ニナツテ居ルノデアリマス、其譯ハ河船デ荷物ヲ下スノハ極ク易イコトデアリマスケレドモ、河船デ荷物ヲ上ボスト云フコトハ、中々十倍ノ日子ト勞力ヲ要スルモノデアリマシテ、ソレデ大阪カラ山陽マデハ、山陰線デ江津驛ニ取ッテ河船上ボシテ引合ハナイカラ、ソコデ大阪カラ山陽線藝備線デ三次ヘ取ッテ三次カラ河船デ下スノデアリマス、ソレガ爲ニ江津驛ノ發送ト到著ニスル懸隔ヲ生ズルノデアリマス、此點カラ見マシテモ、大阪ト濱田間ノ最短線建設ノ急ヲ要スルト云フコトハ明ニ御諒解ヲ得ラレルコト、存ジマス、殊ニ我が島根縣ハ全國中最モ鐵道ノ少イ次第デアリマシテ、鐵道ノ環狀線ノ周圍ガ六百哩モアルノデアリマシテ、其直徑三百哩ノ間ニ一本ノ橫斷線モナイト云フ哀レナ地方ハ、日本國中何處ニモ無イノデアリマス、私ハ以前カラノ速記録ヲ取調ベテ見マシタガ、明治二十五年ノ第三議會デ鐵道敷設法制定ノ當時、既ニ御出席中ノ關直彦君ハ委員會ノ意見ヲ代表シテ、痛切ニ陰陽ノ聯絡ノ急ヲ御述ニナツテ居リマシテ、其後四十二議會及四十三議會デハ政府當局ハ「本線ハ頗ル重大ナル意義ヲ持ッテ居ッテ急ヲ要スル線路デアルト」ト説明セラレテ居リマス、其當時廣島ノ横山君、湯淺君モ亦頗ル同情ヲ以テ政府ノ意見ニ贊成セラレ「假ニ他年他ノ線路ガ繰延ベラル、如キコトアツテモ本線ハ優先的ニ早ク建設セララルベキ意義ヲ持ッテ居ルト思フカラ只今ノ大正十八年完成ヲモウ少シ繰上ゲテ早ク建設シテ貫ヘヌカ」ト云フ希望の御質問ヲセラレテ居ル位デアッタニモ拘ラズ、一期線ニモ最後ニ組入レラレ、完成年度モ最長期ニセラレ、其上繰延毎ニ最モ長イ繰延ニ遭フノデアリマス

ガ、斯ノ如ク獨リ山陰ニ薄イト云フコトハ、決シテ國家ノ幸ニ非ラズト信ジマスカラ、今回モ亦議場一致ノ御同情ヲ以テ、偏ニ御贊成アランコトヲ切望致シマス

次テ本案ハ橋本喜造君外五名提出鐵道敷設法中改正法律案(第四項第二(一三))外十件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十一日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

六六 染料關稅撤廢ニ關スル建議案

染料關稅ヲ速ニ撤廢セラレムコトヲ望ム

右建議ス

六七 綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案

綿絲關稅ヲ速ニ撤廢セラレムコトヲ望ム

右建議ス



右兩案ハ孰レモ十四年二月七日武藤金吉君外一名之ヲ提出ス三月十日兩案ハ太田信治郎君外二名提出關稅改正促進ニ關スル建議案(六〇)、關直彦君外一名提出綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案(八七)、平野光雄君外一名提出蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案(一一七)、飯塚春太郎君外一名提出綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案(一二一)、小池仁郎君外十七名提出練乳粉乳輸入關稅引上ニ關スル建議案(一四三)ノ五案ト一括シテ院議ニ付シ各提出者ハ其ノ案ニ付趣旨辯明ヲ爲ス兩案提出者(武藤金吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

極メテ簡明ニ染料關稅撤廢ニ關スル建議案ノ趣旨ヲ說明ヲ致シマス、染料工業ノ政策ニ付キマシテハ、世界戰爭以後ニ於テ非常ナ國家ノ消長ニ關スル重大ノ關係ヲ持テ來リマシテ、今ヤ世界ニ於テ染料工業ノ問題ハ延テ國防ニ關係ヲ有シ、又此染料工業ヨリシテ、世界ニ於ケル化學ノ蘊奧ヲ究メテ、是ヨリモ生ズル所ノ化學工業ハ、世界ノ強弱ヲ判別スル位ノ力ヲ持ツ事業トナッテ居ルノデアリマス、而シテ我國ニ於キマシテハ御承知ノ如ク、大正四年ニ歐羅巴戰爭ノ際ニ於キマシテ保護會社ヲ設立セシメテ、之ニ特殊ノ補給利子ヲ與ヘ、昨年九月マデニ既ニ千二百四十萬圓ノ保護ヲ與ヘテ、政府ノ說明スル所ニ依リマス、其中デ數十種ハ成功致シテ居ルト申サレマス、更ニ又政府ハ新ニ染料工業獎勵ニ關スル法律案ヲ只今提出サレマシテ、更ニ二十種ノ獎勵法ヲ六箇年間、一箇年百圓以内ノ獎勵金ヲ出シテ獎勵スル、斯ウ云フ案ヲ出シテ只今委員會ニ付サレテ審議中デアリマスガ、我國ニ於テ染料ヲ使フ種類ハ二百餘種ニナッテ居リマス、而シテ此出來上ッテ成功シタト稱スルモノハ、私ノ知ル所デハ二十八種、更ニ二十種ヲ殖シマシテモ五十種ニ滿タナイノデアリマス、然ラバ此染料工業ノ政策ハ國防ト關係ヲ持チ、即チ爆彈ヲ拵フ、毒瓦斯ヲ拵フ、藥ヲ拵フ、斯様ナ仕事ニ對シマシテハ、國家ガ相當ノ保護ヲスルト云フコトハ勿論デ

アリマスガ、一面ニ於テ吾ガ生活ノ必需品タル織物、織物ノ色ヲ染メル爲ニ國內ニ於テ使フ所ノ染料ヲ一面ニ於テハ安クスルト同時ニ、又我國ノ纖維工業ハ主トシテ之ヲ輸出ヲ獎勵スルト云フコトノ原料ニ使フニ付キマシテハ、從來ノ保護會社ノ設立、高率關稅ノ賦課、輸入制限ト云フモノハ、果シテ之ニ適當スルモノデアるか否ヤ、私共ハ此國防上日本ニ於テ獎勵スベキモノニ對シマシテハ、特殊ナ保護方法ハ認メルモノデアリマスガ、爾餘ノ染料ニ付キマシテハ關稅ヲ撤廢シテ、一ハ輸出ノ獎勵ヲ爲シ、一ハ國內ノ生活ヲ易クスルコトノ方針ヲ執ッテ欲シト思フノデアリマス、此點ニ付キマシテハ前々同ニ於キマシテハ政府ニ質問ヲ致シテアリマスカラ、大要今日ノ說明ハ省略ヲ致シマシテ、之ヲ要スルニ此建議案ハ、國家ガ保護スベキモノハ致方ナイノデアリマスガ、其爾餘ノモノニ付キマシテハ、關稅ヲ撤廢シテ右ノ趣旨ヲ貫徹スルコトニシタイト云フノガ、本建議案ヲ出ス理由デアリマス、宜シク御審議ニ與リタウ存ジマス、次ハ綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案デアリマス、諸君、綿絲ノ需要ハ世界ニ於テ我國ハ最モ其需要ノ多イ國デアリマシテ、又綿絲紡績ノ發達ハ近時著シキ發達ヲ遂ゲテ居ルノデアリマス、而シテ此綿絲ハ然ラバ紡績會社ハ現在ニ於テ如何ナル地位ニ在ッテ、如何ナル國家ノ特殊ノ保護ヲ受ケテ居ルカ、又紡績會社ノ狀態ハ保護ヲセナイデヤッテ行ケルカ、ヤッテ行ケナイカ、又此綿絲ニ依テ出來ル綿製品ハ如何ニ國內デ使ハレテ居ルカ、又綿絲ニ依テ出來ル綿製品ノ海外輸出ハ如何ナル狀況ニ在ルカト云フコトハ、近時經濟政策ヲ論ジ、國民生活ノ狀態ヲ論ジ、又此大問題、實際問題ト致シマシテハ、私共ハ之ヲ眞面目ニ、最モ嚴密ニ此審查ヲ致シマシテ、相當ノ解決ヲ致シタイト云フ熱心カラ此案ヲ出シタ譯デアリマス、第一社會政策上、我ガ國民多數、殊ニ中産以上ノ國民ガ使ヒマスル所ノ綿服、綿製品ト云フモノヲ安クシテ、其生活ヲ緩和スルト云フコトハ、物價調節ノ上カラ行キマシテモ適切有效ナル所ノ政策デアルト信ジマス、第二ハ輸出獎勵ノ經濟政策上カラ申シマシテモ、我國ガ何ヲ以テ立國產業ノ基礎トスルカト云ヘバ、私ハ日本ニ於テハ纖維工業ガ第一ナリト算ヘルモノデアリマス、其纖維工業ノ中デ生絲即チ蠶絲——蠶絲ト並ンデ海外ニ輸出ノ見込ノアルモノハ綿製品デアリマス、輒近十箇年ノ間ニ綿製品ノ輸出ノ增加ハ、大正



五年ニ於テハ六千萬圓デアリマス、然ルニ大正十二年ニハ二億六千四百九十九萬圓ニ上ッテ居ル  
 ノデアル、而モ此原料ハ悉ク綿絲ニ俟タナケレバナラナイ、然ルニ此原料タル綿絲ハ如何ノ状態  
 デ在ルカト申シマスレバ、紡績會社ハ有ユル特殊ノ保護ノ下ニ、更ニ紡績會社ハ關稅ノ保護ノ下  
 ニ、操業短縮ノ下ニ、輸入制限ノ下ニ、有ユル輸入スル所ノ綿絲ノ、防禦方法ヲ執ルト同時ニ、國  
 内ニ於テハ資本家ノ横暴、資本家ノ專横甚シキモノガアルノデアリマス、是ハドウシテモ直シテ、  
 國民生活ノ中ニ於ケル所ノ必需品ヲ安クシ、輸入品ノ原料ヲ安クスルト云フコトガ出來マセヌ  
 ケレバ、輸出ノ獎勵即チ輸出ノ貿易ノ均衡モ、又爲替ノ均衡モ、金ノ解禁モ、此輸出ノ均衡ガ全  
 クナイトキハ、何ノ效モ無イト私ハ確信スル者デアリマス、果シテ我國ガ纖維工業ヲ發達シ、國策  
 上此工業ヲ獎勵スルト致シマスレバ、紡績ノ絲ノ輸入ノ關稅ヲ撤廢スルト云フコトガ、私ハ紡績  
 會社ニ對シテモ忠實デアルト同時ニ、國家ノ實際カラ言ッテ私ハ適當ナル措置デアルト考ヘルノ  
 デアル、紡績聯合會ノ調査ニ依リマスルト、大正十年ヨリ十二年ニ至ル我ガ經濟界ノ最モ不況ナ  
 ル時ニ於テモ、同會所屬ノ紡績會社ハ五十五、資本金ハ三億二千萬圓、此運轉錘數ガ四百二十萬  
 錘ニナッテ居ル、而シテ平均ノ純益率ハ二割五分ニナッテ居ルノデアリマス、其中ノ十大會社ノ所  
 有錘數三百八萬錘デアッテ、全體ノ七割四分ヲ占メテ居ルノデアリマス、之ヲ平均致シマスレバ、  
 實ニ三割八分ノ平均ニナッテ居ルノデアリマス、過去十年間ノ統計ヲ見ルニ、綿絲ノ輸出サレタ  
 モノハ年々餘リ増加シテ居ラナイ、之ニ反シテ綿製品ノ輸出ハ七倍ノ増加ヲ致シテ居ル、今ヤ原  
 料輸出ノ時代ハ去ッテ、精製品輸出ノ時代ニ移ッテ居ルノデアアル、若シ綿布ガ安ク原料ヲ供給サレ  
 ルナラバ、只今三億近クノ綿製品ハ、數年ナラズシテ私ハ生絲ト並ンデ輸出ガ出來ルコトヲ確信  
 スル者デアリマス、然ルニ綿絲關稅ノ撤廢ハ、紡績業者ガ人爲的ニ價額ノ釣上ヲ爲シテ、其價格  
 ノ釣上ハ操業短縮トナリ、資本ノ壓迫トナリ、紡績業者ハ其外ニ種々ナル特殊ノ保護ヲ有シテ居  
 ル、即チ船賃ガ安イ、仕入方ニ付テモ、六箇月モ金ヲ拂ハヌデ居ル、自由ヲ有シテ居ルニ拘ラズ、  
 綿製品ハ市場ニ織物ニナッテ、荷ガ出レバ直ニ金ガ這入ル、斯ノ如クニ致シマシテ、我國ノ紡績ハ  
 今日マデ保護サレテ居ッタノデアリマスガ、今ヤ紡績業ハ斯様ニ保護ヲ致サヌデモ、十分ニ相當

ノ利益ガ舉ッテ居ル、舉ッテ居ルバカリデハナイ、紡績業者其者モ、最早關稅ノ保護モ特殊ノ保護  
 モ要ラヌト云フコトハ明ニ申サレテ居ルノデアリマス、亡クナリマシタ和田豐治君ハ公開ノ席  
 ニ於テ、紡績保護ハ之ニ止メテ置イテ、サウシテ綿製品ヲ出ス方ニ力ヲ注グト云フコトガ、日本  
 ノ經濟政策トシテ、貿易政策トシテ相當ナリト云フコトヲ主張サレテ居ッタ、是ハ一昨年デアリ  
 マシタ、然ルニ紡績業ハ斯ノ如キ發達ヲ致シテ、斯ノ如キ利益ヲ得テ、甚シキハ七割ノ配當ヲ爲  
 シ、其重役ハ數十萬圓ノ賞與及報酬ヲ握ッテ居テサウシテ經濟ガドウノ、輸出貿易ガドウノト云  
 テ、社會政策ヲ啜々スルガ如キ政治家、若クハ實業家ガアリトスレバ、殆ド是ハ御話ニナラナイ  
 モノデハナイカト思フ、諸君吾々ハ紡績業者ガ本邦ノ工業ノ中心デアアルコトヲ認メルガ、何  
 故ニ保護ノ時代ヲ去ッテ、獨立シテ其原料ニ依テ綿製品ヲ國民ニ安ク提供シ、其原料ニ依テ輸出  
 綿製品ヲ盛ニ出スト云フコトニ手ヲ擴ゲテ經營ニナラナイノデアアルカ、何故紡績業者ハ操業短  
 縮ヲ爲シ、内ニ於テハ工女ヲ苦シメ、全夜業ヲ爲シ、深夜業ヲ爲シ工女ヲ苦シメ、サウシテ其紡  
 績工場カラハ多數ノ癩疾病者ヲ出シテ置キナガラ、民衆ニ媚ビル所ノ說ナドヲ執ッタリシテ、利  
 益ヲ壟斷シテ居ル、諸君勞働者ノ「ストライキ」ハ可憐ナモノトハ私ハ思フノデアリマス、勞働  
 者ノ「ストライキ」ハ賃銀ノ要求、待遇ノ優待ヲ迫ル位ニ止ルガ、資本家ノ横暴、資本家ノ「スト  
 イキ」ニ至ッテハ、國家國民ノ生活ヲ毒スル所ノ甚シキモノガアルノデアリマス、又資本家ノ横暴  
 ト自己ノ營業ノ保護トハ、國家ノ産業ヲ害スル甚シキモノガアルノデアリマス、諸君、金ノ解禁  
 論——武藤山治君ノ金ノ解禁論モ拜讀致シマシタ、又武藤山治君ハ此事ニ付キマシテハ當業者  
 デアル、又自由貿易論者デモアル、經濟論ノ達者ナル事、演說ノ立派ナル事ニハ敬服スルガ、  
 武藤山治君ハ自由貿易論ヲ唱ヘ、金解禁論ヲ唱ヘテ居ッテ、此綿絲ノ關稅ダケニハ保護論ヲ唱ヘ  
 テ居ルト云フコトハ、敢テ武藤山治君ヲ論ズル譯デハアリマセヌガ、武藤山治君ハ紡績聯合會ノ  
 牛耳ヲ執ッテ居ル、紡績業者ノ泰斗トシテ、或ハ此建議案ニ付テモ質問ノ通告ヲサレテ居ル位、  
 該博ナル知識ヲ持ッテ居ラレマスガ、此間違ッタ知識ヲ以テ、又自分ノ立場ヲ明ニシナイデ——  
 聯合會ノ武藤山治君デアアルナラハ、格別、苟モ我ガ議政壇上ニ立ッテ我ガ經濟政策ヲ論ジ、我ガ



貿易政策ヲ論ジ、國民生活ヲ云爲スル場合ニハ、先ツ當業者ノ位置ヲ離レテ、紡績業ハ如何ナル特點ヲ持ツテ居ルカ、如何ナル位置ニ在ルカ、ドノ點マデ讓ツテドウシテ、原料ヲ安クシテ國民ニ提供ガ出來ルカト云フコトヲ自省スルコトガ、最モ必要デハナイカト思フノデアリマス、サウスルト失業者が出來ルト云フカモ知レヌカ、紡績業カラ多少ノ失業者ガ出來テモ、綿製品ノ方デ安イ原料ヲ殖エテ參リマシタナラバ、綿製品ヲ經營ナサレタナラバ宜シイノデアリマセヌカ、國家ノ大局カラ見レバ、一面ニ於テ資本ノ横暴、資本案ノ横專ヲ防グト同時ニ民衆ノ利益ヲ圖リ、又輸出貿易ヲ盛ニスルト云フコトガ此趣意ニナツテ居ルノデアリマス、之ヲ要スルニ尙ホ憲政會カラモ革新俱樂部カラモ同様ノ建議案ガ提案サレテ居リマス、私共ハ此實際問題ニ付キマシテハ、力メテ實際的ニ之ヲ攻究シ、政府當局ノ反省ヲモ促シ、サウシテ内地ニ於テハ吾々國民ノ生活問題ヲ緩和シタイ、生活問題ヲ緩和スルニ付キマシテハ、食物ノ自給自足ト、著ル物ヲ安ク提供スルト云フコトガ、國內ニ於テハ國民生活安定ノ主ナルモノデアアル、又國ヲ富マシ、サウシテ我國ノ經濟界ヲ安定サセ、産業ヲ發達スルト云フコトニ付キマシテハ、生絲ト同ジニ綿絲業ヲ盛ナラシメ、輸出ヲ盛ニシテ、我國ノ産業ノ發達ト共ニ、世界ニ於ケル爲替相場ノ平定モ圖ッテ行クト云フコトガ本ニナリハセヌカト考ヘテ、此建議案ヲ提出致シ次第デアリマス、尙ホ詳細ノ事ハ、委員會ニ於テ調査シタル所、及意見ノ在ル所ハ申述ベタイ積リデアリマス、他派カラモ提出サレテ居リマスカラ、私ハ此程度ヲ以テ説明ノ一端ヲ表明シテ壇ヲ降りマス

右ニ對シ武藤山治君ハ質疑ヲ爲シ武藤金吉君之ニ應答ス

武藤山治君ノ質疑

只今一括サレテ議題トナリマシタル中ノ綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル議案ニ付テ私ハ御質問申上ゲタイト考ヘマス、私ハ本案ニ對シマシテハ、直接利害關係者デアリマスルガ故ニ、此案ガ委員會ヲ通過シ、本議場ニ於テ討議セラル、場合ニ於キマシテ贊否ノ意見ヲ述べ、若クハ表決ノ數ニ加

ハルト云フコトハ遠慮シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、併ナガラ私ガ本業ニ從事致シテ居リマスル經驗ヨリ、本案ガ委員會ニ付セラル、此場合ニ於キマシテノ私ノ見ル所ヲ申上ゲテ、皆樣ガ本案ニ對シ御判斷遊バス參考ニ供スルコトハ私ノ義務ナリト信ズルノデアリマス、只今政友會ノ重鎮武藤金吉君ヨリ本案ニ對シ詳細ナル御説明ガアツタノデアリマス、而シテ武藤君ノ御説明ノ中ニ特ニ私ノ名ヲ呼上ゲテ、サウシテ或場合ニ於キマシテハ私個人ノ人身攻撃ニ關スル點ニマデ及ボサレタノデアリマス、然ルニ此武藤金吉君ノ御述ニナリマシタル中ニハ事實ニ相違シテ居ル所ガ少クアリマセヌ、故ニ私ハ是等ノ點ニ付キマシテ私ノ見ル所ヲ申上ゲ、武藤金吉君ノ御辯明ヲ仰ギタイト思フノデアリマス、第一ニ武藤金吉君ハ社會政策ト貿易政策ヲ提ゲテ綿絲ノ輸入關稅撤廢ノ必要ヲ高唱セラレタノデアリマス、此點ニ付テ私ガ武藤金吉君ニ伺ヒタイノハ、若シ眞ニ武藤金吉君ガ社會政策ノ見地ヨリ此案ヲ御提出ニナリマシタナラバ、何故ニ綿絲ノミナラズ綿織物ノ輸入關稅撤廢案ヲモ御提出ニナラナツカカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、更ニ私ガ武藤金吉君ニ伺ヒタイノハ、若シ眞ニ武藤金吉君ガ社會政策ノ上ニ斯程マデ御心配ニナリマスナラバ、武藤金吉君ノ屬スル政友會ハ絶對過半數ヲ持ツテ長イ間内閣ヲ組織セラレテ居ッタノデアリマス、其間ニ何故ニ織物稅ヲ撤廢セラレナカッタカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、斯ノ如ク若シ社會政策ノ見地ヨリ本案ヲ御提出ニナリマシタナラバ、單リ綿絲ノ輸入關稅ノミナラズ、莫大小及綿織物ノ輸入關稅撤廢モ同時ニ本案ノ中ニ私ハ御籠メニナラナケレバナラヌモノデアルト考ヘマスガ、此點ハ如何デアルカト云フコトヲ御伺シタイノデアリマス、更ニ武藤金吉君ハ綿絲紡績業者ガ何カ特別ノ國家ノ保護ヲ受ケテ居ルヤウニ御述ニナツタヤウデアリマスガ、綿絲紡績業ハ輸入關稅ニ依テ國家ノ保護ヲ受ケテ居ル外ハ何物モ保護ヲ受ケテ居ラヌノデアリマス、惟フニ此武藤金吉君ノ述ベラレタノハ、蠶絲業ガ時々困ッタ場合ニハ帝國蠶絲會社ナドヲ拵ヘテサウシテ、國家ノ保護ヲ受ケラル、カラ、其事ヲ誤解セラレタノデハナカラウカト思ヒマス、吾々綿絲紡績業者トシテハ綿絲輸入關稅ノ外ハ何等ノ保護ヲ受ケテ居ラヌノデアリマス、故ニ此點ニ付テ武藤金吉君ハ綿絲紡績會社ガ此輸入關稅ノ外ニ國家ノ保護ヲ受ケ



テ居ルト御述ニナリマシタガ、吾ミガ如何ナル保護ヲ受ケテ居ルカト云フコトヲ御指摘ヲ願ヒ  
 タイノデアリマス、更ニ私ガ武藤金吉君ニ御尋ラシタイノハ、此紡績會社ノ高率配當ニ付テ武藤  
 金吉君ハ甚シク非難サレタノデアリマス、是ハ一般ニ誤解セララル、點デアリマスケレドモ、此點  
 ニ付テハ私ハ極メテ簡單ニ皆様ニ御説明申上ケルコトガ出來ルノデアリマス、若シ二十年前ニ東  
 京ノ真中デ一坪五十圓ノ地面ヲ買ッテ、ソレガ今日五百圓ノ相場ニナッテ居ル、之ニ對シテ地代ガ  
 一箇年三十五圓所得セラル、場合ニ於キマシテハ、其二十年前ノ五十圓ノ買入額ニ對シテハ七  
 割デアリマスガ、今日ノ五百圓ノ相場ニ對シテハ七分ヨリ當リマセヌ、綿絲紡績業ノ高率配當ハ  
 詳細ニ御調ニナッタナラバ、此一ツノ事實ヲ御考ニナレバ容易ニ御了解ニナルノデアリマス、今  
 日世間ニ此戰爭後出來タ所ノ紡績會社ハ一錢ノ配當モシナイモノモ澤山アルノデス、是ハ即チ  
 綿絲紡績業ト云フモノガ今日ノ工場ヲ建テ、今日ノ機械ヲ買入レ、バ利益ガナイト云フノガ、  
 即チ今日ノ現狀デアリマシテ、高率ノ配當ヲスルト云フノハ、明治十八、九年頃カラ一鍾二十二  
 三圓ノ頃ノ機械ヲ買入レテ、ソレガ日露戰爭頃ニ五、六十圓ニナリ、此度ノ大戰爭ニソレガ二  
 圓前後ニナッタ、斯ウ云フ方法ニ依テ高率配當ヲシテ居ルノデ、恰モ二十年前ニ買ッテ五十圓ノ地  
 面ガ、今日ハ五百圓ニナッテ、ソレガ三十五圓ノ地代ヲ取レバ五十圓ノ原價カラ言ヘバ七分割ノ配  
 當デアアル、今日ノ値段カラ言ヘバ七分ニシカナラヌ、此差異ヲ御考ニナレバ斯ノ如キコトハ賢明  
 ナル諸君ガ容易ニ御理解ガ出來ルト思ヒマスガ、武藤金吉君ハ尙ホ斯ノ如キ誤解ヲ御持チニナ  
 ルカドウカト云フコトヲ御伺致シタイノデアリマス、更ニ其次ニ私ハ武藤金吉君ノ事實ニ間違ッ  
 テ居ル點ヲ申上ゲマスレバ、武藤金吉君ハ紡績會社ガ操業短縮ヲシテ、市價ヲ釣上ゲル、斯ウ云  
 フコトヲ御述ベニナッタ、所ガ是程間違タコトハナイ、綿絲紡績業者ハ社會ニ非難ガアル爲ニ、  
 近年操業短縮ト云フコトハヤラナイ、全ク其事實ヲ誤ッテ居ラレルノデアリマス、一體此綿絲ガ  
 暴騰シタト云フコトハ決シテ紡績業者ガ操業短縮ヲヤッタ爲デハナイノデアリマス、即チ是ハ大  
 正十二年九月十二日大震災ノ爲ニ勅令ニ依テ輸入關稅ヲ撤廢サレタ爲ニ三品取引所ニ影響シ  
 テ、綿絲ノ暴落トナッテ、遂ニ基礎ノ弱イ紡績會社ハ工場ヲ閉鎖シタ、其結果トシテ生産ガ大ニ減

少シテ、其結果市價ノ暴騰ヲ來シタノデアリマス、其處へ爲替ガ下ッテ爲ニ綿價ノ暴騰トナリ、遂  
 ニ此綿絲ノ騰貴トナッタノデアリマス、然ルニ今日ハドウ云フ状態ニ居ルカト申セバ、即チ非常  
 ニ綿絲ガ高クナッタカラ、休ンデ居ッタ所ノ紡績會社ハ工場ヲ皆開始シタ、ソコデ生産ガ非常ニ増  
 加シ、昨今ノ綿絲ノ相場ト云フモノハ此建議案ガ出タ時分カラ見レバ非常ニ暴落シテ、今日ハ殆  
 ド不引合ニ近付イテ居ル、斯ウ云フ譯デアアルカラ、紡績會社ガ操短ヲスルガ爲ニ此綿絲ガ高ク  
 ナッタリ下ッタリスル次第デハナイノデアアルト云フコトヲ御諒承ヲ願ヒタイト考ヘルノデアリマ  
 ス、此點ニ付テ御理解ヲ下サルカ否ヤデアリマス、而シテ更ニ私ハ武藤君ニ御尋ラシタイノハ、  
 若シ武藤金吉君ガ綿絲ノ輸入關稅ヲ撤廢シテ、ソレガ爲ニ綿絲ガ安クナル、サウスレバ綿織物モ  
 安ク出來ルカラ非常ニソレガ國家ノ爲ニ利益デアアル、斯ウ御考ニナルナラバ、私ハ其處ニ非常ニ  
 誤解ガアルト云フコトヲ申上ゲタイノデアリマス、若シ大正十二年ニ實行サレタヤウニ、今日突  
 然綿絲ノ輸入關稅ノミヲ撤廢サレテ、ソレガ三品取引所ノ相場ニ大影響ヲシテ、遂ニ此綿絲商賣  
 ト云フモノガ不引合ニナリマシテ、綿絲ノ或ル部分ト云フモノハ支那ニ工場ヲ移シテ、其後へ織  
 物機械ヲ入レルト云フコトニナルノデアリマス、サウ致シマスト今日紡績會社カラ原資ヲ仰イ  
 デ居ル全國無數ノ織物業者ト云フモノハ、原料ヲ得ルコトニ殆ド困難ヲスル、全ク是ハ自家撞著  
 ノ矛盾シタ一ツノ提案ダト云フコトヲ私ハ申上ゲタイト考ヘマスガ、此點ニ付テ武藤金吉君ノ  
 御觀察ハ如何カト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、若シ此綿絲紡績業ノアル部分ガ不引合デ  
 支那ニ工場ヲ移シテ原絲トシテ賣ラヌデ、自分ノ拵ヘル絲ヲ自分ノ所デ織物機械ヲ入レテ之  
 ヲコナスヤウニナリマスレバ、全國ノ織物業者ト云フモノハ大恐慌ニ陥ルト私ハ思フノデアリ  
 マス、ソレナラ支那カラ買ヘバ宜イデハナイカト云フ議論ガアルカ知レマセヌガ、支那デ使フ絲  
 ノ質ト、日本ノ織物ニ使フ絲ノ質ト云フモノハ全然違ッテ居ルノデアリマス、故ニ支那ノ工場カラ  
 絲ヲ買ハウトスルト、常ニ日本向ノ絲ヲ註文シテ、ソレヲ買溜メ先約シナケレバナラヌ、其危險  
 ト云フモノハ中々大ナルモノガアルノデアリマス、故ニ是等ノ點ニ付テ私ハ武藤君ノ御説明ガ  
 ドウモ判然シマセヌカラ、其點ニ付テ武藤君ノ御説明ヲ仰ギタイト思フノデアリマス、更ニ私ガ



申上ゲタイノハ、私ハ武藤金吉君ノ言ハレタ通り、自由貿易政策ヲ信ズルモノデアリマシテ、自由貿易政策ト云フモノガ、眞ニ我國ニ最モ有要ナ政策デアルト斯ウ唱ヘル者デアリマスガ、併ナガラ本案ハ皆様ニ御考ヲ願ヒタイノハ、唯綿絲ノミ獨リ輸入關稅ヲ取ル、斯ウ云フヤウナコトヲシマシタナラバ、唯綿絲紡績會社ノミヲ苦メ、其結果ハ世ノ中ノ何人ヲモ益シナイ、斯ウ云フ結果ニ私ハ陥ルト云フコトニ付テ御考慮ヲ願ヒタイト思フデアリマス、若シ綿絲ノ輸入關稅ヲ取ラレ、其事ガ社會政策ノ上ヨリ國家ノ爲ニ必要ダ、斯ウ諸君ガ御考ニナリマスナラバ、先程申上ゲタヤウニ綿絲ノミナラズ、綿織物ノ輸入關稅モ、亦或ハ綿絲ヲ拵ヘル所ノ總テノ職工ノ食ベル所ノ食糧品、綿絲ヲ製造スル所ノ機關、サウ云フモノモ同時ニ輸入關稅ヲ撤廢ヲ遊バサナケレバ非常ニ綿絲業者ダケヲ苦メル、斯ウ云フ結果ニナツテ、決シテ私ハ國家ノ爲ニ利益デナイト考ヘマスガ、此點ニ付テハ武藤金吉君ノ御意見ハ如何デアリマスカ、今ヨリ七八年前ニ彼ノ有名ナル英吉利ノ「ゴブデン」ノ働キニ依リマシテ、英吉利ガ穀物條例ヲ廢シタ時ニ、唯穀物ノ稅ヲ取ッタバカリデナイ、英吉利デ七百五十種ノ品目ノ輸入稅ヲ撤廢シタノデアリマス、斯ノ如キ關稅政策ト云フモノハ唯其一ツヲ拵ヘテ是ガ高イカラ取ツタラ宜カラウ、是ガ安イカラ保護スル爲ニ之ヲ上ゲタラ宜カラウト、斯ウ云フヤウニ此考ニナリマシテ、サウシテ政府ニ向ツテ御建議ヲ爲サイマス、其結果ト云フモノハ私ハ極メテ不良ナル結果ヲ來スモノト考ヘマス、此點ニ付テ賢明ナル武藤金吉君ノ御高見ヲ伺ヘバ私ノ仕合ト思フデアリマス

武藤金吉君ノ應答

只今武藤山治君ヨリ數種ノ御質疑ガアリマシタガ、同君ハ此事業、此事ニ付キマシテハ最モ能ク知ラレテ居ル、最モ能ク知ラレテ居ツテ此質疑ヲ爲スト云フ御心中ヲ御察シ致シマシテ、大部分ハ御意見デアリマシタガ、折角ノ御質疑デアリマスカラ、之ニ對シテ私ハ答ヘヤウト思フ、社會政策ノ見地カラ云ツテ何故綿絲バカリノ關稅ヲ撤廢シテ綿布ノ輸入稅ヲ撤廢シナイカ、是ハ一ツノ御議論デ、尤デアリマスガ、我國ニ入りマス綿布ハ極メテマダ少ナイデアリマス、又是等ガ我

ガ綿製品ト比較ヲ致シマシタナラバ、私共ハ此綿布ノ輸入關稅ヲ撤廢スルモ相當ト考ヘテ居ルノデアアル、更ニ織物稅ニ論及シマシテ、國民生活ヲ安定スルナラバ、何故内地織物稅ヲ廢サナイカト云フ御議論ニ致ツテハ、此建議案ノ趣旨ト全然異ツテ、横車ト私ハ承知シテ御答スル必要ハナイ、ソレカラ保護政策、紡績會社ハ關稅ノ障壁ヲ置クノ外ニ何等保護ガナイト申サレマスガ、關稅ヲ置クト云フコトハ、我國ニ於テハ綿絲ノ關稅ハ確カ十數萬圓シカ關稅ヲ取ツテナイ、是ハ要ラナイガ爲ニ置クノデアツテ、收入ノ方カラ行ケバ僅ニ十數萬圓、サウシテ其入ルモノハ僅ニ支那カラ入ルノデアリマス、デ其他ニマダ英吉利カラモ亞米利加カラモ綿絲ト云フモノハ入ラナイヤウニ、此處ニ城壁ガ立ツテ居ル、武藤山治君ハ其他ニ恩典ヲ受ケテ居ナイ、保護ヲ受ケテ居ナイト申サレマシタガ、私ノ承知スル所ニ依リマスルト、紡績會社ハ郵船、商船會社ヨリ他ノ品物ニ比ベテ特別廉價ノ運賃ヲ以テ無數ノ棉花ヲ輸入シテ居ル、ソレデ其他ニ棉花ノ代金ハ六十日佛、九十日拂ノ低利資金デ爲替銀行カラ融通シテ居ル、是ガ結構デナイト申セマセウカ、郵船會社、商船會社ハ國家ノ保護ヲ受ケテ、棉花ダケハ特別ニ紡績會社カラ運賃ヲ取ツテ居ルノハ、是ハ如何デアリマスカ此他ニ流動資本ヲ要シナイ便利ヲ持ツテ居ル、一面莫大小工場ヤ、綿製品ノ方ハ現金デ賣ツテ倉カラ出シテ、直グニ賣レバモウ爲替ガ付イテ貸サナイ、而モ紡績會社ハ綿絲バカリデハナイ、絹絲紡績ニシテモ其通り、絹絲紡績ハ議題外デスカラ申シマセウケレドモ、武藤山治君カラ御話ガアッタ、此十大會社ハ日本ノ絹絲紡績ノ如キハ十貫目ノ原料デ三百圓、三百五十圓モ儲ケテ居ルデハナイカ、其他ノ綿織業者、莫大小業ト云フモノハ金ヲ持ツテ來ナケレバ原料モ入ラナイ、其又組織ト云フモノモ紡績會社ノ方ハ紡績聯合會ト云フ金城鐵壁ヲ築イテ、仕事ハ操業短縮ヲヤラウトスレバ操業短縮モ出來ル、深夜業モ全夜業モヤル、或ル場合ニハ賣止メヲスル、日本ニ於テ資本家ノ横暴、資本家ノ一種ノ「トラス」ヲ行ツテ居ルノハ紡績會社ヨリ外ニナイデハナイカ、而シテ紡績事業ト他ノ事業ト權衡ヲ取ツテ御覽ナサイ、貴下ハ自由貿易論ヲ唱ヘテ居ルガ、是ダケハ國家ノ保護ガ必要デアルト云フ、何所ニ理由ガアルカ、此點ニ就テハ保護政策關稅ノ保護ノ法ガナイト云フコトハ、折角ノ御尋デアリマスガサウ云フ保護ガアル、ソレカラ又操業



短縮ハ今ハヤラナイト云フ、サウ操業短縮ヲ始終ヤツタトキニハ堪ツタモノデヤナイ、又生絲ノ救濟策ニ論及セラレタガ、此場合ニ生絲ノ救濟策ヲ混同シテ此處ニ論ズルノハ、如何ニ武藤山治君ガ窮シタカ、貴下ハ非常ニ苦シイト云フコトヲ言フニ過ギナイカラオ止メニツタラ宜カラウ、更ニ原料ニ困ル、紡績會社ガ此原料ニ困ルト申シマシテ、サウシテ支那ノ輸入——武藤山治君ハ支那ニ紡績會社ヲ起サナイト云フ議論ヲ二三年前マデヤツテ居ッタデヤナイカ、支那ニ紡績ヲ起スベカラズ、支那ト競争ヲスルナト云フ議論ヲ唱ヘテ居ラレマシタガ、貴下ハソレヲ何時御取消シニナツタカ、現ニ鐘淵紡績會社ハ支那ニ紡績事業ヲ營ンデ居ルデハナイカ、モウ國民ハ能ク知ツテ居ルシ、又貴下バカリガ紡績デ人間ニナリ、議員ニナリ、サウシテ紡績デ以テ天下ノ事ヲ、經濟政策モ總テオヤリニナラウトシテモ、國民ハ貴下ノ議論バカリ傾聽スル譯ニハ參リマセヌ、支那ト日本トハ是カラハ紡績ニ於テモ絹絲業ニ於テモ恐ラクハ共通ニナリマス、又我帝國ハ支那ト總テヲ共通シテ、紡績ニシテモ、綿織物ニシテモ、絹織物ニシテモ經濟共通、原料共通、現ニ紡績會社ノ十大會社ハ支那各地ニ工場ヲ持タナイ所ハナイノデハナイカ、現ニヤツテ居ルデハナイカ、ソレデ何デ是ガ原料ノ不足ヲ來スカ、吾ガ關稅ヲ撤廢スルト云フコトハ、支那カラ入ルモノト緩和シテ、日本デ出來ナイ所ノモノハ、支那カラモ入レ、或ハ外國カラモ入レテ、小袖ノモノヤ何カハ之ヲ共通品ヲ作ツテ行カウトスレバ宜イノデアアル、何モ紡績業ヲ妨ゲヤウトシテ此案ヲ出シタノデハアリマセヌ、紡績業ト姉妹業ノ綿製品ヲ澤山作ツテ、輸出ヲ獎勵シテ産業ヲ盛ニスル、國內ニ於テハ此中産階級以下ノ著ル著物ヲ安ク著セタイト云フノガ此建議案ノ趣旨デアリマス、ソレカラ武藤山治君ノ自由貿易論モ學校デ學ンダ時ハ其通りカモ知レマセヌガ、アナタノ行動ハ一向新聞ニハ大袈裟ニ御書キニナルガ、平仄ガ合ハナイ、現ニ最近ニ於テハアナタ方ハ、公表ハシマセヌケレドモ斯ウ云フコトヲ希望シテ居ルデセウ、近ク實施ノ工場法ニ付テアナタ方ハ深夜業ヲ廢止スルト云フコトヲ考ヘテ居ル、否、ハ全夜業ヲ工場衛生ノ上カラ國民保健ノ上カラ言ツテ望ムモノデアルガ、アナタ方ハ深夜業ヲ廢止スルト云フコトヲ計畫シテ居ル、更ニ英吉利ノ關稅ノ御說明ガアツタカラ私モ英吉利ノ關稅ノ御話ヲシテ答ヘテ置キマス、英吉利ノ

關稅政策ノ古イ講釋ガアリマシタガ、武藤山治君等ハ新シイ政策ヲ斯ウ云フコトヲ考ヘテ居ル、英吉利ハ御承知ノ通り保守黨ノ天下ニナツタ、保守黨ノ天下ニナツテ保護主義ヲ以テ此棉花綿布ニ對スル所ノ特惠關稅ノ實行ヲ諸君ハ止シテ貫ヒタイト云フ希望ヲ持ツテ居ル、英吉利カ印度ニ對スル所ノ特惠關稅ヲ止シテ貫ヒタイト云フ希望ヲ持ツテ内ミアナタ方ガ近ク働キ出シテ居ルデアラウト思フ、サウ云ウ一面ニ於テ考フ持ツテ居ルナラバ、何故自ラ關稅ヲ撤廢シテ姉妹業タル綿製品ヲ助ケテ、一面ニ失業者ノ出來ルモノヲ其方ニ仕事ヲシテヤルト云フ、モウ少シ廣ク大キクナツテ自分ノ今マデ育ツテ、儲ケテ喰ベテ居ル所ダケガ繁昌スレバ宜イト云フヤウナ、ソナ客ナ考ヲ取ツテ、ソウシテ生産業ニ當ラレタラ如何デアリマセウカ、アナタハ委員デハアリマセヌケレドモ、重大ノ問題デアリマスカラ、私ハ此問題ノ付託サルベキ委員長ノ椅子ヲ保ツテ居リマスカラ、アナタガ委員會ニオ出ニナツテ、委員デハアリマセヌガ、國家ノ爲メ斯業ノ爲ニ該博ノ御意見ヲドシドシ御述ベニナツタラ如何デアリマセウカ、今日ハ時間ガアリマセヌカラ此邊デ御答ヲ御免ヲ蒙リマス

次テ兩案ハ太田信治郎君外二名提出關稅改正促進ニ關スル建議案(六〇)、關直彦君外一名提出綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案(八七)、平野光雄君外一名提出蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案(一一七)、飯塚春太郎君外一名提出綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案(一一一)、小池仁郎君外十七名提出煉乳粉乳輸入關稅引上ニ關スル建議案(一四三)ノ五案ト一括シテ染料製造獎勵ニ關スル法律案(第四項第一(三三三))委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ第一案ハ三月十三日、第二案ハ三月十八日夫々報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月十四日第一案ヲ院議ニ付シ委員長武藤金吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス



染料關稅撤廢ニ關スル建議案ハ、政府提出ノ染料製造獎勵ニ關スル法律案ニ牽聯シマシテ、是亦數回ニ涉ッテ詳細ナル審査ヲ致シマシタ、サウシテ内地デ出來マス染料ニ付キマシマシテハ、先刻獎勵案ノトキニ報告申上ゲマシタ通りデアリマスガ、爾餘ノ二百數十種ノ染料ニ付キマシテハ、政府ハ此建議案ノ趣旨ヲ尊重シテ次ノ議會マデニ關稅ヲ輕減スル、若クハ無稅ニスル方法ヲ以テ、此建議案ノ趣旨ヲ尊重スルト云フコトヲ聲明致サレマシタ、委員會ニ於キマシテハ滿場一致ヲ以テ本建議案ヲ可致決シマシタ、何卒本會議ニ於テモ御同意アラシコトヲ望ミマス

院議異議ナク原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

三月二十三日第二案ハ議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

六八 沼田若松間鐵道速成ニ關スル建議案

本線ハ上越南線沼田驛ヲ起點トシ利根郡沼田、薄根、白澤、東、片品ヲ經由シテ福島縣南會津郡檜枝岐ヨリ只見河沼郡柳津ニ出テ若松驛ニ通スル福島群馬ノ寶庫開發ノ鐵道ナリ本線ハ人文ノ開發產業ノ發展上極メテ緊要ナルノミナラス國立公園ノ候補地トシテ有名ナル尾瀨ヶ原尾瀨沼ヲ通過シ沿道ハ群馬縣福島縣共ニ千古不伐ノ森林ヲ有ス本鐵道開通セハ國家ノ利益ヲ增進スルコト亦大ナリ政府ハ速ニ鐵道網ニ編入シ且其ノ敷設計畫ヲ立テラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月十日生方大吉君外一名之ヲ提出ス二月二十四日本案ヲ院議ニ付シ提出者(生方大吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本鐵道ハ我國ニ於テモ重要線ト認メテアリマスル所ノ上越鐵道沼田驛ヨリ分岐致シマシテ、群馬縣利根郡沼田、薄根、池田、白澤、東、片品ヲ經マシテ、福島縣南會津郡以南以北ノ寶庫ヲ經テ、若松驛ニ達スル鐵道デアリマス、最モ此群馬福島縣下ニ於ケル其方面ノ開發上、最モ必要ナル鐵道デアルノデアリマス、御承知ノ通り此沿道ニハ千古不伐ノ森林ガ何萬町歩トアリマスルシ、又各種ノ鑛山モ澤山アリマスルシ、又溫泉モ隨分アリマシテ、若シ此鐵道ガ開通シタナラバ、國家人支ノ發展上多大ナル裨益ガアルノデアリマス、而シテ其國境ニハ今ヤ國立公園ノ候補地ト致シマシテ、天下ニ名ノ有ル所ノ尾瀨沼並ニ尾瀨ヶ原ノ大高原ガアルノデアリマス、ドウゾ諸君ノ御贊成ヲ得マシテ、此鐵道ヲシテ一日モ速ニ完成致シタイト云フノガ、私ノ本案提出理由デアリマス、ドウカ政府ニ於キマシテモ、本建議案ガ滿場一致ヲ以テ通過シタナラバ、速ニ著手セラレシコトヲ御願スル次第デアリマス

次テ本案ハ橋本喜造君外五名提出鐵道敷設法中改正法律案(第四項第二(一三))外十二件委員ニ併セテ託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月十一日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字ハ委員會修正)

沼田若松間鐵道<sup>○建設及</sup>速成ニ關スル建議

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第五項

上奏案及建議案

千八百六十九



本線ハ上越南線沼田驛ヲ起點トシ利根郡沼田、薄根、白澤、東、片品ヲ經由シテ福島縣南會津郡檜枝岐ヨリ只見河沼郡柳津ニ出テ若松驛ニ通スル福島群馬ノ寶庫開發ノ鐵道ナリ本線ハ人文ノ開發產業ノ發展上極メテ緊要ナルノミナラス國立公園ノ候補地トシテ有名ナル尾瀨ヶ原尾瀨沼ヲ通過シ沿道ノ群馬縣福島縣共ニ千古不伐ノ森林ヲ有ス本鐵道開通セバ國家ノ利益ヲ増進スルコト亦大ナリ政府ハ速ニ鐵道網ニ編入シ且其ノ敷設計畫ヲ立テラレムコトヲ望ム

右建議ス

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

### 六九 男女獨學者ノ學力檢定試驗制度ニ關スル建議案

現行專門學校入學者檢定試驗及高等試驗令第七條ニ依ル試驗ハ中等學校ニ入學セサル者ノ爲ニ設ケラレタル登龍門ナリト雖未タ以テ狹窄ノ憾ミナシトセス仍テ政府ハ左記ノ内容ヲ有スル制度ヲ新設シテ男女獨學者ノ爲ニ學力程度ヲ公認スルノ道ヲ開キ篤學ノ子女ヲシテ志ヲ遂ケシムルト共ニ方今ノ時弊タル入學難ノ緩和ニ資セラレムコトヲ望ム

一 中學校又ハ高等女學校ニ入學セサル者若ハ半途退學セル者ノ爲ニ毎年一回全國各中學校及高等女學校ニ於テ學力檢定試驗ヲ行フ

一 右學力檢定試驗ハ卒業程度ノモノノ外各學年修了程度ノモノヲモ行ヒ受験者ヲシテ隨意選擇セシメ合格者ニハ學力認定證書ヲ交付ス

一 右學力認定證書ハ中學校又ハ高等女學校ノ修了證書若ハ卒業證書ト同等ノ效力ヲ有ス

右建議ス

右ハ十四年二月十日河野正義君外三名之ヲ提出ス二月二十六日本案ヲ院議ニ付シ提出者(樋口秀雄君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此建議案ハ只今現行法ノ專門學校入學試驗ト高等試驗令ノ第七條ト云フモノガアリマシテ、正式ニ學校ヲ出ナイ者ニ對シテ試驗ヲ施シテ、同様ノ資格ヲ與ヘル制度ガアリマス、然ルニ今回ノ會期中ニモ或ハ義務教育ノ機會均等デアリマストカ、義務教育ノ普及デアルトカ、種々教育ニ對スル御案モ出テ參ルヤウナ状態デアリマシテ、從來ノ如ク例ヘバ中學ノ五年間ノモノヲ一度ニ試驗ヲスルト云フヤウナ制度ヲ更ニ一層擴メマシテ、資力不十分若クハ其他ノ事情ニ依テ通學スル便宜ヲ得ナイ生徒、學生等ニ對シテ、便宜ヲ供スル爲ニ中學、師範學校、若クハ其他ノ專門學校ニ於ケル各年ノ學力ト同一ノ程度ノ試驗ヲ施シマシテ、各年毎ニ其修業ノ證明ヲ致シテ、全部ヲ終了致シタ時ニ中學ナリ、女學校ナリ、其他ノモノヲ卒業シタ者ト同様ノ資格ヲ與ヘタイ、斯クスレバ普通教育普及ノ意味ニ於キマシテ、就學不可能ノ無產階級ノ爲ニスル教育普及ノ意味



ニ於テ、便利デアラウト思ヒマス爲ニ、本案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒滿場ノ御協賛ヲ得  
タイト思ヒマス

次テ本案ハ山枅儀重君外二名提出教育ノ機會均等ニ關スル建議案(一二)外十件委員ニ併セ付託ス  
ルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月九日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果  
委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

七〇 漁村振興ニ關スル建議案

從來農村振興ノ叫ハ幾多有識者間ニ於テ熱心ニ高唱セラレ政府當路者又之ニ鑑ミ農村振興ニ關  
スル施設事業ハ著著其ノ實現ニ努メツツアリト雖全國一萬二千有餘ノ町村中約五分ノ一ヲ占メ  
農村ト殆ト相讓ラサルノ重位ニ在ル漁村ノ振興ニ對シテハ兎角雲煙過眼視シ來レル嫌アルヲ免  
レス然ルニ現下ノ漁村民ハ疲弊困憊其ノ極ニ達シ窮迫ノ状態ニ見ルニ忍ヒサルモノアリ若今日  
ニ於テ之ヲ救濟シ之ヲ振興スルノ根本策ヲ講スルニ非サレハ國家將來ノ上ヨリ觀テ實ニ重大ナ  
ル結果ヲ生スルコトアルヘキヲ虞ル仍テ政府ハ速ニ漁村振興ノ根本策ヲ確立セラレムコトヲ望  
ム

右建議ス

右ハ十四年二月十日千葉宮次郎君外六名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ同君外二名提出淡路縦貫鐵  
道敷設速成ニ關スル建議案(八八)ト一括シテ院議ニ付シ提出者(千葉宮次郎君)ハ兩案ニ付左ノ如  
ク趣旨ヲ辯明セリ

從來農村振興ノ叫ビハ幾多有識者ノ間ニ於テ盛ニ且ツ熱心ニ唱道セラレマシテ、政府當路者ニ  
於テモ之ニ鑑ミテ、農村振興ニ關スル施設事業ハ稍其實現ニ努メツ、アルノデアリマスガ、農村  
ニ讓ラザル産業上ノ重位ニアリマスル漁村ニ對シテハ、未ダ何等ノ施設ガ出來テ居ラヌノデア  
リマス、漸ク十四年度ノ豫算中ニ於キマシテ、漁村共同ノ施設事業ト致シマシテ三十一萬餘圓ノ  
費額ヲ計上致シテアリマスガ、全國漁村漁民ノ今日ノ状態ニ於キマシテ、斯ノ如キ費額ヲ以テ漁  
村ノ振興ヲ圖ルト云フコトハ、甚ダ貧弱ニ存ズル次第デアリマス、我國ノ漁業者ハ此從業者ノ數  
ニ於キマシテ百三十餘萬人ヲ數ヘ、全國一萬二千餘ノ町村中ニ於テ約五分ノ一ガ即チ漁村漁民  
ヲ以テ占メテ居ルノデアリマス、隨テ其漁獲生産高ニ於キマシテモ、一箇年五億以上ノ生産力ヲ  
持ツテ居ルノデアリマス、尙又我國ノ歴史竝ニ國民生活ニ對シ特別ナル關係ヲ有シテ居ルト云フ  
コトハ、賢明ナル各位ノ疾ニ御存知アラセラル、所デアアルノデアリマス、現下漁村漁民ノ疲弊困  
憊ハ漸ク甚シキヲ加ヘマシテ、窮迫ノ状態ニ見ルニ忍ブベカラザル状態ニ在ルノデアリマス、若  
シ今日ニ於テ之ヲ救濟シ之ヲ振興スルノニ、何等カノ施設ヲ講ズルニアラザレバ、國家將來ノ上  
ヨリ見マシテ、實ニ重大ナル結果ヲ齎シ來スコトデアラウト私共ハ寒心ノ至リニ堪ヘヌノデア  
リマス、茲ニ私共ノ希望ノ一端ヲ具體的ニ申上ゲマスレバ、漁村漁民ノ經濟機關タルベキ全國三  
千七百ノ漁業組合ニ對シテハ、少クモ産業組合ニ對スルト同一程度ノ獎勵ヲ行フガ爲ニ、中央及



地方ニ於テ是ガ指導機關ヲ變更シ、改善ヲ加フルコトガ、其一案デアルト云フデアリマス、又漁業法中ノ漁業ニ關スル規定ヲ改正ヲ致シマシテ、漁場ノ保護ヲ完全ニスルト云フコトモ亦其一案デアルト思フ、又漁港避難港ノ修築ヲ一層獎勵ヲ致シマシテ、漁村ノ改良ヲ行ヒ、並ニ生産能率ノ増加向上ヲ圖ルコトモ其一ツノ案デアルト思フデアリマス、尙ホ水産金融ヲ改善スルノ一策ト致シマシテ、漁業抵當法案ヲ制定スベシト云フ提案ヲセラレタコトハ、本員ノ欣ブ所デアリマスルガ、尙ホ漁村ニ於ケル共同施設ノ主體タルベキ漁業組合及聯合會ノ制度ヲ改正ヲ致シマシテ、此活動ヲ獎勵スル等ノコトガ最モ喫緊ノ事デアラウト本員ハ信ズル次第デアリマス、尙ホ詳シイ事ハ是ガ付託ニナリマシタナラ、委員會ニ於テ愚見ヲ申上ゲタイト思フデアリマス、ドウカ御贊成ヲ願ヒマス、次ハ淡路縦貫鐵道ノ速成ニ關スル建議案デアリマス、我が帝國ノ鐵道ハ年々歳々進歩發達ヲ致シマシテ、全國ノ幹線ハ申スマデモナク、各地方ニ於ケル支線モ著々普及及増進ヲ致シマシテ、今ヤ其延長一萬哩餘ニ達シテ居ルデアリマス、是ハ地方産業ノ振興及文化ノ普及等ニ裨益スル、又貢獻スルコト少カラザル事デアアルデアリマスガ、不幸ニ致シマシテ、我が兵庫縣淡路兩郡ハ、山紫水明ニシテ風光絶美、古來ヨリノ歴史、文藝、詩歌ノ上ニ於キマシテモ、最モ著名デアルト云フコトハ、是亦各位ノ夙ニ御了承アラセラル、コトデアルト思フデアリマス、隨テ天然の遊樂公園ト致シマシテ、四時觀光ノ遊樂者ガ年々多キヲ加ヘテ居ルデアリマス、尙又之ヲ軍事上ヨリ見マスレバ、由良要塞、鳴門砲臺等ノ所在地ト致シマシテ、國防上一日モ閑却スルコトヲ許サザル要衝地帯デアアルデアリマス、且又交通上ヨリ申上ゲマスレバ、古來本州ト四國ノ連絡地點ト致シマシテ、運輸交通上極メテ樞要ナル位置ヲ占メテ居ルデアリマス、而シテ其人口ハ二十餘萬ヲ數ヘマシテ、直接國稅ニ於テ金額優ニ百萬圓以上ヲ負擔ヲ致シテ居ルデアリマス、然ルニモ拘ラズ、未ダ今日マデ國有鐵道トシテ寸尺ノ敷設ニ均霑スルコトヲ得テ居リマセヌコトハ、地方ノ交通ノ上ニ於キマシテ、産業文化ノ上ヨリ見マシテ、頗ル遺憾ニ存ズル次第デアリマス、故ニ政府ハ國有鐵道ノ精神ニ顧ミマシテ、速ニ其鐵道網中ニアリマスル所ノ洲本町ヨリ岩屋町ニ達スル二十哩ノ鐵道ヲ敷設セラレテ、以テ二十萬島民ノ福利ヲ増

進スルト共ニ本州ト四國ノ交通運輸ノ機能ヲ全カラシムルコトハ、國家ノ當然タル義務デアアルト私共ハ信ズル次第デゴザイマス、トシカ諸君ハ淡路二十萬島民ノ爲ニ、本案ヲ協贊セラレンコトヲ望ミマス

次テ本案ハ秋田寅之介君外一名提出下關漁港速成ニ關スル建議案(九四)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

七一 海外移民政策確立即行ニ關スル建議案

人口過剩竝資源不足ノ帝國存立上ノ二重大問題ヨリ見テ又海外移民カ母國經濟上竝國民精神上ニ及ホス利益ヨリ見テ海外移民政策ノ確立即行ハ帝國刻下ノ急務ト信ス政府ハ速ニ海外移民政策ヲ確立即行セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十二日今里準太郎君之ヲ提出ス二月二十六日本案ヲ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ



私ノ建議案ハ海外移民政策ヲ速ニ確立シテ、之ヲ斷行シテ貫ヒタイト云フノデゴザイマスガ、其理由ヲ私ハ悉ク證明スルコトヲ略シマスガ、唯移民政策ト云フ中ニ、私ノ希望ノ四五ヲ述ベテ置キタイト思ヒマス、私ハ昨年同様ナ趣旨ヲ致シテ置イタノデゴザイマスガ、政府デモ昨年移民調査會ト云フヤウナ種類ノモノヲ設ケラレマシテ、相當此方面ニ注意ヲ拂ハレ、又何カ畫策ガアツタヤウデゴザイマシタガ、本議會ニ何等ノ提案ヲ見ナカッタコトヲ非常ニ遺憾ニ思ッテ居リマス、同時ニ昨年モ私ハ非常ニ心配ヲシテ本席デ申述ベテ置キマシタガ、政府ガ唯一ノ移民地トシテ非常ニ樂觀シテ居ラレマシタ、南米方面デ、移民ニ對シテモ、一種ノ不安ガ——現在故障ガ起キテ居ルノデゴザイマスガ、是等ノ點カラ考ヘマシテモ、再ビ茲ニ建議案ヲ出シマシテ、滿場ノ諸君ノ御贊成ヲ得テ、政府ガ何等カノ處置ヲ速ニ執ッテ貫ヒタイト云フコトヲ建議シタイト思フノデゴザイマス、私ノ移民政策ト云フモノノ中ニ、色々私モ申シタイ事ガアルノデゴザイマスガ、第一ハ此際移民ニ關スル大方針ヲ定メルト云フコトガ最モ急務デアラウト思ヒマス、政府ハ先年ノ經濟會議デゴザイマシタカ、アレノ答申ニ基キマシテ南米移民ト云フコトヲ主トシテ居ル、ソレニ偏シテ居ルト云フ氣味ガゴザイマス、ソレハ只今申シマシタ通り、既ニ何等カノ故障ガ出來テ居ルノデゴザイマスカラ、此際モウ一步進シテ、帝國ハ此海外移民ト云フコトニ付テ、大方針ヲ定メル必要ガアルト私ハ思フデアリマス、ソレカラ第二ハ矢張是ハ私昨年ト同様ナ事ヲ本席デ申シタノデゴザイマスガ、此際多少ノ不利ハ忍ンデモ、移民ニ對スル條約ヲ出來ルダケ結ブト云フ方針ヲ進マナケレバナラヌト思フノデゴザイマス、是ハ色々北米ノ移民ニ關スル經過モゴザイマスガ、多少注意シテ居ラレル方ハ御承知ト思ヒマスガ、北米ノ移民問題トシマシテモ、アレモア、云フ結果ニナラヌ前ニ、アレカラ五十年前ニ思切ッテ、多少不利ヲ忍ンデ條約ヲ結ンデ居ッタラ、アンナ結果ニナラナカッタ事ト思ヒマス、唯曖昧ナ移民條約、條約デアルカ何デアルカ譯ノ分ラヌヤウナコトヲヤッテ居ッタ結果、遂ニ國內法ニ蹴ラレテ、今日ノ侮辱、不結果ヲ招イタモノト思ヒマス、ソレデ此際多少ノ不利ハ忍ンデモ、私ハ出來ルダケ此方面ノ條約ヲ結ブト云フコトニ努力シナケレバナラヌト思フデアリマス、ソレカラ第三ハ、此際政府ハ整備シ

タ移民局ヲ設置スル必要ガアルト思フデアリマス、此移民ニ關スル狀態ハ、私ハ大體伊太利ト日本ノ狀態ト能ク似テ居ルト思フデアリマス、伊太利ハ年々四十萬近クノ人口ガ増殖シテ居ル、サウシテ領土ハ矢張狹イ、植民地ヲ持タヌト云フ關係、是等ノ點カラ能ク似テ居ルト思ヒマスガ、伊太利デハ立派ナ移民局ヲ設置シテ、其移民局ノ活動ニ依テ非常ナル成績ヲ擧ゲテ居リマス、是ハ一寸御參考マデニ申シテ置キマスガ、最近五十年間ニ伊太利デハ三百六十萬人近クノ移民ヲ出シテ居リマス、我が日本ニ於テハ當年カラ見テ宜ウゴザイマセウガ、最近ノ統計ニ依リマスト、在外日本人ハ約百十萬、是ハ向フヘ行ッテサウシテ殖エタ者モゴザイマセウ、サウスルト約六十年近クノ間ニ百萬人、其殖エタ者ヲ減ジタナラバ六七十萬人、即チ一箇年ニ僅ニ一萬乃至二萬ノ海外移民ヨリシテナイト云フコトニナッテ居リマス、是ハ矢張私ハ統一シタ、整備シタ移民局ガ無イト云フコトニ歸スルダラウト思ッテ居リマス、是ハ最近ノ例デゴザイマスガ、伊太利デハ北米ノ移民ガ阻止サレタガ、ソレニモ屈セズシテ各方面ニ移民ヲ繰出シマシテ、矢張昨年モ一萬人二萬人モ這入ッテ居ルヤウデアリマス、而シテ十八萬餘ノ移民ヲシテ居ルヤウナ次第デアリマス、此點カラ見マシテモ亦ドウシテモ此際外務省ノ片手間、副業的ニ此移民問題ヲヤルト云フコトヲシテ居ルノハ間違ッテ居ルト思フ、日本トシテハ極メテ重大問題デアリマスカラ、是ハ一ツノ省ヲ建テ、モ私ハ差支ナイト思ヒマスガ、ソレハ兎ニ角トシテモ、少クトモ完備シタ移民局ヲ設置シテ、此事務ノ統一ヲ期シタイト思フノデゴザイマス、ソレカラ第四ハ、移民ニ關スル此法令ノ改正デゴザイマス、サウシテ保護獎勵費ノ増額デゴザイマス、御承知ノ通り是ハ主トシテ、否、全部南米移民ニ對スル補助デゴザイマスガ、僅ニ六十萬圓ヨリ支出シテゴザイマセヌ、是ハ各國ノ例ヲ見レバ能ク分リマスガ、其例ハ略シマスケレドモ、伊太利、英國、何レモ何千萬圓ト云フ移民ノ保護獎勵費ヲ出シテ居リマス、國狹ク人口ハ稠密セル我が日本デ、僅ニ六十萬圓ノ獎勵費ヲ出シテ居ルト云フコトハ、是ハ誤レル處置デアルト思ッテ居ルノデゴザイマス、之ニ關係シタ條令ヲ改正スルト共ニ、是等ノ豫算ヲ出來ルダケ増額ヲスルト云フコトヲ私ハ望ムノデアリマス、ソレカラ第五ハ矢張是ハ移民調査委員會アタリデ問題トナッテ居リマスガ、官民合同ノ



大移民會社ノ設立デゴザイマス、第六ハ低利資金ヲ此方面ニ融通スルト云フコトデアリマス、第七ハ海外ニ土地ノ買收デゴザイマス、私ハ此三ツノ點ニ付テハ多少申述ベタイコトモアリマスケレドモ、ソレハ略シマス、唯僅ノ金デ、或ハ何千萬圓ト云フ位ノ金デ、何十萬町歩ト云フヤウナ廣イ土地ヲ手ニ入レルト云フヤウナ機會ハ、私ハ此一兩年ヲ過ギタナラバ絶對ニ來ナイモノデアルト思フデアリマス、此點ハ十分ノ御注意ヲ私ハ御願スル者デアリマス、ソレカラ第八ハ、私ハ此移民ノ必要アル國民デアリマスカラ、海外ニ發展スルニ必要ナル教育ヲ、小學校ニ於テ特ニ施スト云フコトデアリマス、是モ詳シク申シマセヌガ、是ハ伊太利其他ニ於テ十分ノ例ガアルヤウデアリマスカラ、是ハ特ニ私ハ御注意ヲ願ヒタイト思フデアリマス、是ハ私ノ卑見ノ大樣デゴザイマスガ、私ハ是等ノ點ニ基イテ、是非今年度ハ此儘デゴザイマセウガ、來年度ノ豫算編成ニ際シテハ、十分ノ決心ト熱心トヲ以テ、此方面ノ解決ヲ願ヒタイト思フデアリマス、ソレカラ私ハ此際簡單ニ一二ノ點ヲ申シテ置カナケレバナラヌ、ソレハ人口ノ密度ト云フ點デゴザイマス、是ハ日本ノ人口ハ、一平方哩内地デ二千二十五人ト云フ密度ニナツテ居リマスガ、私ハモウ一步進ンデ皆サンノ御考ヲ煩ハシタイト思フデアリマス、ソレハ此面積ノ中デ生産ニ不適ナ場所、即チ沼、澤、池、其他山嶽地ト云フモノヲ除イテ、サウシテ各國ノ比例ヲ取ツテ、其密度ヲ見テ見ルト云フト、日本ハ一平方哩ニ二千四十二人、ソレカラ白耳義ガ八百七十五人、英國ガ八百一人、和蘭ガ八百二十八人、吾々ノ生活資料ヲ得ル實際ノ面積カラ見マスルト云フト、日本ハ世界第一ノ密度ヲ持ツテ居リマス、日本ガ吾々ノ主要食物デアアル所ノ米ヲ、年々何百萬石ト云フモノヲ輸入シナケレバナラヌト云フハ、此數字ヲ見タラ當然ノ結果デアラウト思フデアリマス、ソレカラモウ一ツハ此人口増加ノ點デアリマスガ、現在千ニ付テ約年二十人ヅ、増シテ居ル、是ハ大正三十二年ニハ約一億人ニ日本人ノ人口ハナリマス、ソレカラ御承知ノ通り世界ノ現在ノ人口ハ約二十億デアリマスルガ、三十二年ニ日本ノ人口ガ一億ニナリマス、世界ノ人口モ矢張三十億ニナル、斯ウ云フ比例デ、非常ナ勢デ人口ガ進ンデ行ツタ時ノ其時ノ密度ノ差ト云フコトニ吾々ハ注意ヲ拂ハナケレバナラヌト思ヒマス、即チ現在デハ二千二百二十五人デ

アツテ、八百餘人ノ密度デアリマスガ、百億、五十億ト云フ世界ノ人口ニナツタナラバ、一平方哩ニ六萬人住ムト云フ場合ニ、北米デハ六千人、南米デハ僅ニ百五十人住ムト云フヤウナ状態ニナルデアリマス、是ハドウシテモ出來ルダケノ努力ヲシテ、吾々ハ各方面ニ獨リ南米ノ如キ都合ノ好イ努力ヲ費サヌデモ、宜イ方面ニダケ、樂々ト移民スル安樂ノ計畫デナク、有ユル努力ヲ費シテ移民政策ヲ斷行スル決心ガ必要デアルト私ハ思ヒマス、ソレカラモウ一ツ皆樣ニ特ニ御注意ヲ願ヒタイノハ、海外移民ガ母國ノ經濟上、貿易上ノ方面ニ及ボス好影響ニ付テデアリマス、是ハ正確ナ數字ハ分リマセヌガ、年々五六千萬ノ金ガ海外移民ノ手ニ依テ母國ニ送ラレタ事實ガアリマス、サウスルト吾々ガ若シ此海外移民ト云フ方面ニ何千萬ト云フヤウナ多クノ金ヲ費シタトシテモ、其金ハ今マデノ間ニ海外ニ出テ居リマスル約百萬ノ人間ガ、年々吾々ニ送ッテ呉レルコトニナルデアリマス、サウシテ今後行ク移民モ矢張同様ナ成績ヲ以テ、同様ナ結果ヲ益此母國ノ經濟上、貿易上ニ好影響ヲ及ボスコト、私ハ信ジマス、是等ノ點カラ見マシテ、私ハ決シテ如何ナル思切ツタ施設ヲシテモ、目前ニモ損ハナク、無論國家將來ノ點カラ考ヘレバ、思切ツテシナケレバナラヌ次第デアルト私ハ思ヒマス、モウ一ツハ是ハ一言加ヘテ置キマスガ、此點ニ吾ガ留意シテ非常ナ努力ヲスルト云フコトハ、國民精神ニ及ボス影響ガ非常ニ重大ナモノト思フ、私ハ現在ノ日本ノ状態ハ色々ナ點モゴザイマセウガ、國民精神ノ墮落ト云フ點ガ非常ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、ソレカラ色々申述ベタノデアリマスガ、ソレハ略シマスガ、要スルニ私ハ此海外移民ヲドウ扱フカ、現在政府諸君モ是ノ必要ヲ認メテ居ルカ、唯之ヲ他ノ問題ト比較シテドウ扱フカト云フコトガ問題デアリマス、私ハ是ハドウシテモ此際他ノ色々ナ國內ノ問題ト共ニ、少クトモ同ジ程度ノモノトシテ、僅ニ年ニ六十萬圓位ノ支出ヲスルモノデナク、モウ少シ引上ゲテ、他ノ鐵道港灣ト云フヤウナモノト同等ニ、重要ナ大切ナ扱ヲシナケレバナラヌト思フデアリマス、此日本ノ帝國ノ存立ヲ安固ニスル、國家國民ノ生活ヲ安定サセルト云フ手段ハ幾ツモゴザイマセウガ、私ハ是ハ極メテ平凡ナ所ニ在ル、國ガ狭イ、人ガ多イト云フ此二ツノ簡單ナ事實ニ基イテ、海外ニ伸ビヤウト云フ極メテ簡單ナ事ヲ思切ツテ斷行スルト云フ點ニ在ルデア



ラウト思ヒマス、諸君ガ、又政府ガ、國民ガ鐵道、港灣、其他ノ國內問題ニ熱心デアルト同様ナ熱誠ヲ以テ、之ニ進ンデ行ク十分ノ價值ガアルト思フノデアリマス、簡單ニ所思ヲ述ベテ、諸君ノ御贊同ヲ求ムル次第デアリマス

次テ本案ハ、柏田忠一君外一名提出清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法廢止法律案(第四項第二(二))外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

### 七二 無盡業法改正ニ關スル建議案

曩ニ無盡業法公布セラレ庶民金融ノ秩序整頓ノ曙光ヲ見ルニ至レリト雖時勢ノ進運ニ伴ヒ同法中ニ改正ヲ加フルニ非サレハ完全ニ庶民金融ノ實ヲ發揮スル能ハサルノ嫌アリ仍テ政府ハ速ニ左記改正ヲ實行セラレムコトヲ望ム

- 一 會社拂込金額ノ増加(同法第三條參照)
- 二 掛金者ノ預金取扱ノ公認(同法第五條參照)
- 三 限度貸付制限ノ撤廢(同法第九條第二項參照)

### 四 其ノ他

#### 右建議ス

右ハ十四年二月十二日田崎信藏君之ヲ提出ス二月二十六日本案ヲ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

無盡業法ガ大正四年制定發布サレマシテ以來、我國ニ於キマシテ庶民金融機關ト致シマシテハ非常ナ發達ヲシタモノデアリマス、大正五年ノ當時ハ會社ハ僅ニ數ヘル程デアリマシタガ、今日デハ三百有餘ニナツテ居リマス、大正五年ニ於テ金額僅ニ四千萬圓デアッタモノガ、今日デハ四億以上ニ達シテ居リマス、尙ホ大藏省ノ免許ヲ受ケナイ無免許業者ガ現在ニ於テモ非常ニ多イノデアリマス、斯ノ如ク進歩發達致シマシタ無盡業法ヲ、此業法ノ改正ニ依テ尙ホ益發達セシメントスルモノデアリマス、故ニ第一ニ資本金ノ總額デアリマス、資本金ハ現在ニ於キマシテハ三萬圓以上デアリマスガ、茲ニ建議致シマスルノハ資本金ヲ五萬圓以上ニシタイノデアリマス、ソレカラ掛込者ノ預金ヲ取扱フコトヲ公認サレタイノデアリマス、次ニハ限度ノ貸付制限ノ撤廢デアリマス、今日ハ此無盡業法ハ相互ノ監督ニ依リマシテ、毎月又ハ隔月ニ加入者ニ給付スルノデアリマス、而モ貸付限度ヲ制限サレテ居リマス爲ニ、眞ノ金融機關トシテノ活用ヲ致シテ居リマセヌ爲ニ、限度貸付制限ノ撤廢ヲ望ムノデアリマス、其他此業法ノ無免許ノ者ニ對スル取締ノ方法ヲ御願スルノデアリマスガ、幸ヒ皆様ノ御協贊ヲ得マシレバ委員會ニ於テ逐條説明申上ゲタイト存ズルノデアリマス、我國ノ現在ノ銀行條例ニ依リマシテモ、可ナリ弊害ガアリマシテ、眞ノ金融業者タル仕事ヲ致シテ居リマセヌ、僅ニ此無盡業法ニ依リマシテ、中産階級又ハ無産階級ニ非常ナ便利ト利益ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、ドウカ願クハ滿場ノ諸君ノ御協贊ヲ願ヒタイ



ノデアリマス

次テ本案ハ高木益太郎君外二名提出會計士法案(第四項第二(一五))委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及一ハ委員會修正)

無盡業法改正ニ關スル建議

曩ニ無盡業法公布セラレ庶民金融ノ秩序整頓ノ曙光ヲ見ルニ至レリト雖時勢ノ進運ニ伴ヒ同法中ニ改正ヲ加フルニ非サレハ完全ニ庶民金融ノ實ヲ發揮スル能ハサルノ嫌アリ仍テ政府ハ速ニ左記改正ヲ實行セラレムコトヲ望ム

- 一 會社拂込金額ノ増加(同法第三條參照)
- 二 掛金者ノ預金取扱ノ公認(同法第五條參照)
- 三 限度貸付制限ノ撤廢(同法第九條第二項參照)
- 四 其ノ他

右建議ス

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果

委員長ノ報告ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

七三 國語調査會法制定ニ關スル建議案

現代ノ國文ニ使用セラルル漢字假名遣及國語ノ整頓ハ國民文化ノ發達上基本的ノ事業ニシテ民族百年ノ大計ニ屬ス政府ハ宜シク國語調査會法ヲ制定シ之ニ必要ナル機關ヲ設置シ一定ノ方針ノ下ニ其ノ遂行ヲ期スヘシ

右建議ス

七四 咸鏡線速成ニ關スル建議案

咸鏡線ノ速成ハ管ニ朝鮮東北地方ノ開發上必要ナルノミナラス近時其ノ實現ノ可能性顯著トナリ來レル吉會線ト相俟テ帝國臣民ノ大陸發展上極メテ緊要ナル問題ナリトス政府ハ宜シク之カ對策ヲ講スヘシ

右建議ス

右兩案ハ孰レモ十四年二月十二日松山常次郎君之ヲ提出ス二月二十六日兩案ヲ一括シテ院議ニ付

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第五項

上奏案及建議案



シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

近頃文部省ヨリ假名遣改訂案ナルモノガ發表セラレマシタ、其以前ニ漢字制限案モ發表セラレマシタガ、是等ノモノハ文部當局ノ聲明スル所ニ依レバ、新聞、雜誌等ノ必要、即チ日用便宜主義ニ從テ之ヲ制定致シタモノデアルト云フコトデアリマス、所ガ元來此國語ナルモノハ、我國ノ歷代ノ天皇ノ詔勅ヲ初メ、帝國憲法其他ノ法律、或ハ文學、藝術、歷史、科學等、皆此國語ニ依ッテ記載セラレ、ノデアリマシテ、唯今日ノ便宜主義ト云フコトダケヲ標準トシテ、之ヲ決定スベキモノデアハナイト信ズルデアリマス、又一方カラ考ヘマヌルナラバ、此國語ナルモノハ吾々ノ先祖デ吾々ニ遺シタ所ノ歷史的、社會的ノ產物デアリマシテ、吾々ガ輕々ニ之ヲ變更スベキモノデアハナイト信ジマス、戰國以來我國ノ此國語ガ非常ニ混亂致シテ來テ居ルノデアリマス、ソレガ爲ニ實際之ヲ用ユル上ニ付キマシテ非常ニ不便ヲ來シテ居ルト云フコトハ事實デアリマス、是等ノ事モ此場合ニ於テ整頓スル所ノ必要ガアルト思フノデアリマス、又一方カラ考ヘマヌルナラバ、國語ト云フモノハ時ガ移ルニ從テ段々發達シテ行クベキモノデアアル、或物ハ段々不要ニ歸シテ行キ、又新ニ必要ナル文字モ出來テ來レバ、新ナル用法モ生ジテ來ル譯デアリマス、隨テ是等ノ必要ニ對シテ、順應致シマシテ、國語ヲ整理シテ行クト云フコトモ必要デアリマス、斯ウ云フヤウナ各種ノ方面カラ考慮致シマシテ、此國語調査ト云フコトハ致サナケレバナラヌモノデアアルト思フノデアリマス、文部省ハ是マデ國語調査會ト云フモノハ起シテ居リマス、併ナガラ其規模ガ餘リニ小サクツテ、又其腰ガ据ッテ居ラナイ、少シク反對ニ遇ヘバ直ニ之ヲ中止スル、又思付イタヤウニ之ヲ起スト云フヤウナ狀態デアリマシテ、是デハ逆モ吾々國民ガ要求スル所ノ此國語調査會ノ大ナル目的ヲ達スルコトガ出來ナイト思ヒマス、國語ト云フモノハ國民ノ文化ノ基礎トナルベキモノデアリマシテ、文字、一ツノ用法ヲ決定致シマスルニ付テモ、歷史的ニ又學問的ニ慎重ノ研究ヲ致サナケレバナラヌモノデアリマス、明治時代ニ於テ法典編纂ノ大事業ヲ致シマシタガ、私ハ大正時代ニ於ケル文化的ノ事業トシテ、此國語調査ノ大事業ヲ完成致シタイト考ヘルノデアリマス、法典編纂ノ事業ヲヤルニ付キマシテハ、所謂六大法律學校ヲ拵ヘ、多ク

ノ人材ヲ養成シテ初メテ其目的ヲ達シタノデアリマス、此國語調査ヲヤルニ付キマシテモ、有ユル方面ノ學者ヲ集メ、更ニ有爲ナル若イ學者ヲ多ク養成致シマシテ、之ニ從事セシメルト云フコトガ必要デアアルト思フノデアリマス、今マデノヤウナ忽チ起シテハ忽チ之ヲ廢スルト云フヤウナコトデハ、逆モ其目的ヲ達スルコトガ出來ヌト思ヒマス、即チ茲ニ國語調査會法ト云フモノヲ制定致シマシテ、國民ノ協贊シタル法律ノ基礎ノ上ニ立ツテ、確乎タル國語調査會ヲ制定致シマシテ、茲ニ國語調査ノ國是ヲ定メ、民族百年ノ大計トシテ此事業ヲ完成スル所ノ必要ガアルト信ズルノデアリマス、即チ此所ニ建議案ヲ出シマシテ、國語調査會法ヲ制定シテ貫ヒタイト云フコトヲ希望スル所以デアリマス、願クハ諸君ノ御協贊ヲ仰グ次第デアリマス、次ニ咸鏡線速成ニ關スル建議案ノ提出ノ理由ヲ説明致シマス、御承知ノ如ク咸鏡線ナルモノハ朝鮮ニ於ケル所謂北鮮ノ咸鏡南北道地方ヲ貫通致シテ居ル所ノ幹線デアリマシテ、朝鮮ノ開發ノ爲ニ鐵道敷設ノ必要ナル事ハ申スマデモナイ事デアリマス、殊ニ此咸鏡地方ハ文化ノ遅レテ居ル處デアリマシテ、之ヲ開發シ、或ハ此方面ニ對スル治安ノ維持ヲ圖ル上ニ於キマシテモ、此鐵道ヲ速成ヲスルト云フコトガ必要デアリマス、殊ニ近頃支那ニ於ケル政變ノ結果、周圍ノ狀況ハドウシテモ吉會線ノ實現ヲ見ナケレバナラヌ狀態ニナツテ來テ居ルト私ハ信ズルノデアリマス、是等ノ事ヲ考ヘマシテ特ニ此咸鏡線ノ速成ト云フコトハ必要デアアルノデアリマス、然ルニ今年ノ豫算ヲ見マヌルト、約五百萬圓此咸鏡線ダケデ經費ヲ削減セラレテ居ルノデアリマス、今年ハ財政緊縮ノ爲ニ是ハ已ムヲ得ナイ事デアアルト吾々モ之ヲ認メルノデアリマス、今日ノ當局ノ公債政策、財政計畫方針ノ此趣旨ニ從ヒマヌルト、或ハ來年モ亦斯ノ如キ削減ヲ加ヘラレレナイカト云フコトヲ私共ハ心配スルノデアリマス、是ハ日本民族ガ大陸ニ發展スル上ニ、朝鮮統治ノ上ニ由々敷キ問題デアルト思フノデアリマス、茲ニ私ハ本建議案ヲ提出致シマシテ、此咸鏡線速成ヲ圖リタイト云フコトヲ希望致シテ居ル次第デアリマス、此事モ併セテ諸君ノ御協贊ヲ仰グ次第デアリマス

次テ第一案ハ山柝儀重君外二名提出教育ノ機會均等ニ關スル建議案(一二)外十一件委員ニ第二、案



ハ柏田忠一君外一名提出清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法廢止法律案(第四項第二(一二))外三件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末各原案ヲ可決ス(キモノト決シ第一案ハ三月九日、第二案ハ三月十二日夫々報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

七五 朝鮮及臺灣ニ地方自治制施行ニ關スル建議案

朝鮮及臺灣ニ地方自治制ヲ速ニ施行セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月十二日神田正雄君外一名之ヲ提出ス二月二十六日本案ヲ院議ニ付シ提出者(神田正雄君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本建議案ハ朝鮮並ニ臺灣ノ事項ニ關シテ居リマシテ、一面カラ考ヘマスレバ、内政上ノ問題デアリマス、併シ此朝鮮及臺灣ニ關スル事ハ延テ外交上ニ重大ナル意義ヲ齎ス所ノ案デアルト私ハ信ジテ居ルデアリマス、此點ニ於キマシテ私ガ説明スル理由ヲ御賛成下スツテ、此案ヲ滿場一致ヲ以テ御賛成アラント豫メ希望シテ置クデアリマス、御承知ノ如ク、朝鮮ハ明治四十三年八月二十九日ノ日韓併合條約ニ依リ、我國ト合併致シマシテカラ茲ニ十五年デアリマス、臺灣ハ明治二十八年四月十七日ノ下關條約ニ依リテ我國ノ版圖ニ歸シテ以來、茲ニ二十年ノ歲月ヲ經テ居

ルデアリマス、其間ニ於キマスル我ガ日本帝國ノ朝鮮及臺灣ニ施設スル方針ニ至ツテハ、只今モ朝鮮ノ鐵道ノ御話ガアリマシタガ、交通ノ政策、産業ノ方面ニ向ツテハ相當ニ見ルベキモノアル、現ニ統監時代ニ於テハ鐵道ノ如キモ僅ニ縱貫線ノ五百哩ニ足ラザル線路シカナカッタノガ、今日ハ千二百哩ニ及ブ鐵道ヲ有シテ居リ、統監時代ニ於テ朝鮮ヲ旅行スルト、朝鮮ノ政治ノ弊害ガ、山嶽ハ悉ク秃山ノ羅列デアアル、然ルニ今日、十五年ヲ經タル我國ノ治世ノ下ニ於テハ、漸ク山林モ開發サレルニ至ツタデアリマス、其他農業地ノコトニ致シマシテモ、約五割ノ増地ヲ爲シテ居リ、其他産業上ノ開發ニ向ツテハ、多大ナル貢獻ヲ爲シテ居ルコトハ吾々ノ認ムル所デアリマス、臺灣ニ於テモ然リデアリマス、物質上ノコト、詰リ臺灣ニ於ケル産業其他鐵道ノ如キハ、著シキ例ト致シマシテ、日本ガ臺灣ヲ領シタ當時ニ於テハ、僅ニ支那ノ玩具ノ如キ鐵道ガアッタニ過ギナイガ、今日ハ七百七十七哩ニ至ル鐵道ヲ有シ、其他産業上ノ開發ハ、是ハ著シキ例ハ、支那ノ領土デアアル所ノ對岸ノ福建省ニ於テハ、未ダ産業上臺灣ニ比スレバ非常ナル開發ガ遅レテ居ルデアリマス、然ルニ我ガ日本ニ歸屬シタル臺灣ハ、今日ニ於テハ産業、交通ノ方面ニ關シテハ相當ナル成績ヲ擧ゲテ居ル、其事ハ一タビ臺灣ヲ旅行スル人ノ何人モ認ムル所デアルト私ハ信ジテ居ルデアリマス、併シ人ハ麵麩ノミニ活キルモノニアラズ、朝鮮、一千七百萬ノ朝鮮人、臺灣、三百七十萬ノ臺灣本島人ハ、此日本ノ統治政策ニ於テ爲シタル所ノ物質的ノ政策ノミヲ以テ満足セズ、今日ニ於テハ此朝鮮ノ人及臺灣ノ人ノ間ニハ、ドウカシテ自由ヲ欲シ、自治ヲ欲スルノ念ハ鬱勃トシテ湧イテ居ルデアリマス、是ハ私ガ申スマデモナク、朝鮮ニ於テモ自治ヲ望ム運動、臺灣ニ於テハ議會請願ノコトハ、今回ノ議會ニ對シマシテ既ニ六回目ノ請願ガ出テ居ル有様デアリマス、斯ノ如ク單リ日本ガ朝鮮及臺灣ヲ領シテ茲ニ十五年、三十年ノ年月ヲ經テ、物質方面ニ於テハ相當ナル成績ヲ擧ゲテ居ルト雖モ、統治ノ根本ノ精神ハ矢張其土地ノ人ヲシテ日本ニ信賴シ、日本ト同化シ、日本ト共ニ此帝國ノ運命ヲ扶持スル所ノ根本トナル精神的ノ方面ノ統治ガ必要デアルト考ヘルデアリマス、此點ニ於テ私ハ現政府ヲ責ムルニ非ズシテ歴代ノ政府ガ動モスルト此新附ノ國民ニ對シ同一ノ待遇ヲ與ヘズシテ、或ハ一視同仁ノ名ノ下ニ、單



ニ名目ノ一視同仁ヲ爲シテ居ル場合モアル、最近ニ於テ文官總督制ニ變リ、從來ニ比スレバ多大ナル緩和ノ途ヲ講ゼラレテ居リマスガ、尙ホ眞ノ融和、相互扶助及共存共榮ノ眞ノ目的ガ精神的ニ達セラレテ居ルカト云フコトハ、非常ナル疑ヲ存シテ居ルデアリマス、何故ナレバ、大正九年、朝鮮及臺灣ニハ公共團體トシテ地方ノ自治制度ガ布カレテ居ルノデアリマス、臺灣ニ於テハ臺灣ノ評議會及其以下ニ至ッテ州、市、街、庄ノ公共團體ニハ評議會ガ出來テ居リマス、併ナガラ此評議員ナルモノハ總テ官選デアアル、朝鮮ニ於テモ稍同様デアアル、朝鮮ノ道評議會其以下ノ自治團體ニ於テモ、多數ハ官選ノ議員ヲ置イテ、總テノ自治制ヲ行ッテ居ルノデアリマス、是ハ如何ニ吾ガ今日ノ場合、日本ニ於テハ普通選舉ガ行ハレテ、將ニ一般ノ人ガ選舉權ヲ得ントスル時ニ當リ臺灣ニ於テハ、僅ニ官選ノ人ガ官吏ノ州知事、廳知事、市長、街長、庄長等ノ下ニ協議ニ與カル以外ニハ何等ノ自治的ノ權利ガ與ヘラレテ居ナイコトヲ遺憾トスルノデアリマス、過般此議會ニ於テ普通選舉法案ガ提出セラレタ場合ニ、總理大臣ハ此席ニ於テ斯ウ云フコトヲ仰シヤテ居ラレ「憲法御制定終極ノ御趣旨ハ廣ク國民ヲシテ大政ニ參與セシメラレ、周ネク國民ヲシテ國家ノ進運ヲ扶持セシメラレ、ニ在リ」ト云フコトヲ御述ニナッテ居ルノデアリマス、私ハ至極御同感デアリマス、又當日内務大臣ハ松田君ノ質問ニ對シテ斯ウ云フ御答ヲナサレタ「既ニ教育ハ普及シ政治能力ハ發達シテ居ル、同ジ帝國ノ忠良ナル臣民デアリナガラ、一部ノ國民ハ選舉權ヲ持ッテ居ルケレドモ、他ノ國民ハ之ヲ持タナイ、其所ニ何等ノ理由ヲ發見スルコトガ出來ナイ」ト云フコトヲ御答ニナッテ居ル、是ハ勿論内地ノ普通選舉問題ニ對シテ、私ハ顧ミテ朝鮮及臺灣ノ二千萬ノ同胞、是ハ私明ニ帝國ノ臣民デアリ、教育アル者ハ帝國ノ忠良ナル臣民デアルト信ズルノデアリマス、此見地カラ致シマスレバ、私ハ此二千餘萬ノ人ニ、速ニ自治ノ權ヲ與ヘ、他日ハ我が日本帝國ノ臣民トシテ、此一般ノ國民ガ有スベキ參政權ヲ得ルコトハ當然デアルト私ハ信ジテ疑ハナイノデアリマス、此見地カラ致シマスレバ、漫然トシテ今日ノ如ク朝鮮及臺灣ニハ單ニ形式的ナル自治制度ヲ施サズニ、我國ガ會テ經驗シタ如ク眞ノ自治制度、國民ノ選舉ノ下ニ成ル所ノ自治制度ヲ完全ニ施行致シマシテ、他日吾々ト共ニ議會ニ議員ヲ送り得ル素地ヲ造ルコト

ハ大ナル必要デアアル、是ハ我國ノ他日東亞ノ聯盟ヲ畫策シ、亞細亞民族ノ共ニ進ム所以ニ於テモ、最モ必要ナル事項デアルト信ズルノデアリマス、由來日本ノ東亞ニ於ケル政策ニ付テハ種々ナル事ガ言ハレテ居ル、ドウカシテ此東洋ノ民族ヲ打ッテ一團トシヤウト云フヤウナ話ガアル、而モ歐米カラ孤立ノ地位ニ立ッタ日本ハ、ドウカシテ東亞ノ人々ヲ打ッテ一團トシ一聯合ヲ造ッテ他ニ當ラナケレバナラヌト云フ場合ニ當リマシテ、今日日本ノ國民デアアル、新ニ日本ニ附隨シタル國民ニ向ッテ、眞ノ融和ヲ造ル所ノ道ヲ開カナイニ於テハ、如何ニ東亞ノ聯盟ヲ唱ヘ、有色人種ノ結合ヲ説イテモ、私ハ之ニ到達スル眞ノ道ヲ得ルコトハ出來ナイト信ズルノデアリマス、此點ニ於キマシテドウカ此建議案ノ趣旨デアアル、今日官選デアアル所ノ地方公共團體ニ向ッテ、速ニ選舉法ヲ以テ眞ノ自治ノ權ヲ與ヘテ、朝鮮ニ於キマシテハ一番小サイ面カラ、府デアアルトカ道デアアルトカニ向ッテノ議員ハ、悉ク人民ノ選舉ノ上ニ選出シテ出スヤウナ制度ヲ御布キアラシムコトヲ私ハ切ニ望ンデ居ル次第デアリマス、而モ此點ニ付テハ今日ノ總督デアリマセヌガ、臺灣方面ノ例ヲ申上ゲマス、臺灣總督トシテ文官政治ガ初メテ施カレタ場合ニ臺灣ノ人民ニ訓示ヲ致シマシテ「臺灣ノ民情ヲ觀察シ其忠順公ニ奉シ勤勉業ヲ勵ミ教化日ニ普ク人文年ニ進ミ風化最モ順境ニ在ルヲ洞察シ漸次立憲法治ノ民タルノ資質アルヲ認識シ云々」ト述ベラレテアル、是ハ五年前ノ事デアリマス、今日ニ於テハ教化ガ進ミ、之ニ對シテハ自治ヲ施シテモ聊カ差支ナイ程度ニ在ルト信ズルノデアリマス、此朝鮮及臺灣ニ眞ノ自治ガ施カレタ曉ニ於テ、初メテ私ハ朝鮮人ト日本人ノ融和、眞ノ心ノ融和ガ圖ラル、ト思フノデアリマス而シテ後初メテ外交上ニ日本ガ大キナ口ガ利キ得ル、日本ノ今日外交上ノ旗標ハ何デアルカ、同ジ文化ノ程度ノ國民ニハ、人種的差別待遇ヲ撤廢シナケレバナラヌト云フノガ、是ガ日本ノ外交上ノ旗標デアルト考ヘテ居リマス、然ルニ今日自分ノ國內ニ、而モ四分ノ一強モアル多數ノ人々ハ一切ノ自治權モ與ヘズニ抛ッテ置クト云フコトデハ、吾々ガ世界ノ外交上ニ向ッテ、日本ガ同一程度ノ文化ノ國民ハ差別ヲシテハナラヌト云フ聲言ヲ、如何ニシテ爲シ得ルカト思フノデアリマス、斯ウ云フ點ニ向ヒマシテ、私ハ此外交上ノ助ケノ上カラモ、先ヅ朝鮮及臺灣ニハ日本人ノ有スル憲法政治ノ一端ヲ布イテ、



地方自治ヲ施サレシコトヲ切ニ望ム所以デアリマス、ドウカ皆様ノ御賛成ヲ得テ、滿場一致ヲ以テ通過アラシコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス

右ニ關シ清水留三郎君、牧山耕藏君ハ政府ニ對シ質疑ヲ爲シ神田正雄君、下岡政府委員及濱田政府委員ハ之ニ應答ス

清水留三郎君ノ質疑

朝鮮及臺灣ニ地方自治制ヲ施行スルト云フコトハ、日本ノ植民政策上重大ナル問題デアリマス、故ニ私ハ政府當局ノ之ニ對スル御意思ヲ承リタイノデアリマス、昨年私ハ南洋方面ヲ旅行致シマシタ、偶比律賓ニ參リ、英領ニ參リ、蘭領ニ參リ、比律賓ハ亞米利加ガ同地ヲ占領シテ以來二十有餘年、其間ニ於テ既ニ自治ヲ行ヒ、又議會モ出來テ居リマス、今日比律賓ノ總督ナリ、軍司令官ハ亞米利加人デアリマスガ、各大臣ヲ初メ議會ノ人ニハ殆ド全部ガ比律賓ノ土人デアリマス是ガ今日比律賓ヲシテ獨立ノ機運ヲ開クニ至リマシタ所以デアリマス、私共議員團トシテ比律賓議會ヲ視テ參リマシタガ、比律賓ノ議會ニ於テハ寧ロ正面カラ正々堂々ト獨立ノ意見ヲ述ベ、若シ一朝獨立シタ場合ニ於テハ日本ノ援助ヲ乞フト云フコトヲ論ジタ議員ガアルノデアリマス、此比律賓ノ獨立ノ機運ハ、亞米利加ガ文化政策ヲ施行シタ結果デハナカラウカト思フ、又私共ハ瓜哇ヘ參リマシタ、瓜哇ノ狀態ヲ觀察スルト、蘭領印度ニ於テハ和蘭ガ同島ヲ占領シテ以來三百有餘年、未ダ武斷政策ヲ布イテ居ルノデアリマス、議會ハアリマスガ、丁度臺灣ニ於ケル日本ノ現在ノ諮問機關ノ如ク、半官民ノ議會デアリマシテ、人民ノ權利ハ少シモ認メラレテ居ラナイノデアリマス、無論自治制ハ布イテアリマセヌ、此和蘭ガ今日莫大ナル費用ヲ植民地カラ取ツテ、和蘭本國ノ財政上ニカラ與ヘテ居ル尤モ和蘭ノ此政策ニ依リマシテモ、其裏面ニハ各種ノ團體、特ニ祕密結社ガ起リマシテ、和蘭ニ對スル瓜哇ノ獨立運動ノ機運ヲ開カウトシテ居ルコトハ明デアリマス、所謂文化政策ニシテモ、或ハ武斷政策ニシテモ、是ハ植民政策上重大

ナル問題デアリマスカラ、臺灣並ニ朝鮮ニ向ッテ當局ハ武斷政策ニ依ルカ、文化政策ニ依ルカ、少クモ自治制ヲ布イテ臺灣議會等ノ如キモノヲ認メラレル意思デアルカ、之ニ就テ政府當局ニ幸ヒ下岡政務總監ガ見エテ見ラレマスカラ、之ニ對スル意見ノ御發表ヲ希望スル、次第デアリマス

下岡政府委員ノ應答

只今ノ清水君ノ御問ハ、植民地全體ニ對シテノ御問ノヤウデゴサイマスガ、私ハ朝鮮ダケノ事ニ付テ御答致シマス、朝鮮ハ日本ノ領土トナツテ以來十五年デアリマスガ、追々總テノ點ニ於テ進歩シテ居リマスガ、マダ地方自治ト云フ上ニ於キマシテモ完全ナル自治制度ヲ布クト云フ域ニハ達シテ居リマセヌ、大正九年ニ自治ノ基礎トナルベキ制度ノ改正ヲ行ヒマシテ面ニ於テモ協議會ト云フモノヲ設ケ、而シテ此協議會ノ議員タル者ハ、一部ハ官選ニシ、一部ハ民選ニスルト云フコトニ依テ現在マデ進ンデ居リマスガ、其成績ハ惡クハアリマセヌ、追々發達ノ機運ニ向ヒテ居ルト云フ狀況デアアル、又道ニ於キマシテモ評議員會ト云フモノヲ設ケ、是モ一部ハ官選、一部ハ民選ト云フコトデ自治體ノ先ヅ形——基礎ニナルモノヲ備ヘテ居ル、マダ完全ナル自治體ト申スコトハ出來ナイノデアリマスガ、先ヅ自治體ノ土臺ニナル所ノ事柄ヲ行ヒツ、アルノデアリマスルガ、此成績モ決シテ惡クハナイ、追々進歩發達ヲ見ルト云フ見込ハ十分アルノデゴザイマス、併ナガラ大體ニ現狀カラ申シマスルト、將來ハ益民度ノ進ムニ從ッテ、完全ナル自治制ヲ施行スベキ域ニ到達シナケレバナラヌト思フケレドモ、只今ノ所デハ直ニ一足飛ニ内地ノ制度ト同ジヤウナ自治體ニスルト云フコトハ、是ハ不可能デアリマスカラ、追々進歩ニ伴レテ改善ヲシテ行ク、斯ウ御了承ヲ願ヒタイノデアリマス、武斷政治ヲヤルカ、或ハ文化政策デヤルカ、勿論武斷政治ト云フヤウナコトハヤラナイ積リデアリマス、唯文化政治ダカラト言ウテ、民度ニ應ジナイ、非常ニ進ミ過ギタル制度ヲ施行スルト云フヤウナコトハ出來マセヌガ、世ノ進歩ニ伴レテ經濟ノ發展、社會ノ進歩、教育ノ進ムニ伴レテ追々政治上ニ關シテモ、相當ナ程度ニ於テ、



彼等ヲ先以テ自治ニ關スル所ノ——地方自治ニ關スル所ノ權限ヲ附與スルト云フ時代ニ到達スルト云フコトヲ目標トシテ治メテ行ク、斯ウ云フ方針ヲ執ッテ居ルノデアリマス、此點御了承ヲ願ヒマス

牧山耕藏君ノ質疑

只今神田君ヨリ提案ノ理由ニ付テ御説明ガアリマシテ、大體了承致シタノデゴザイマスルガ、即チ我國ノ植民地統治ノ根本ノ方針ハ、一視同仁ノ聖旨ニ基イテ、内地延長主義ヲ採ッテ居ルノデゴザイマスルカラ、植民地ノ文化ガ發達致シテ、相當ノ時期ニ達シタナラバ此建議案ノ如ク、即チ内地ノ市町村ニ相當スルモノニ對シテ完全ナル自治ヲ施行スルト云フコトハ、是ハ當然ノ歸結ダト思フノデアリマスルガ、此點ガ不明瞭ナヤウニ考ヘマスカラ、神田君ニ御尋致シマスルノハ、臺灣朝鮮ノ母國ノ市町村ニ相當スル全部ニ向ッテ、内地同様ノ自治制ヲ施行スルト云フ意味合デアリマスルカ、或ハ臺灣デ申シマスレバ臺北、基隆、臺中、臺南ト云フヤウナ重要ナ都市、朝鮮デアリマスレバ京城、釜山、平壤、大邱、仁川、群山、元山、鎮南浦ト云フヤウナ重要ナ都市斯ウ云フヤウナ主ナ都市ニ先ヅ地方自治制ヲ布イテ、漸次之ヲ全般ニ及ボスト云フ意味合デアリマスルカ、我國ニ於テモ明治十一年ニ府縣會規則ガ發布セラレマシテ、二十一年頃ニ至ッテ漸ク地方自治ト云フモノハ完成ヲ致シタヤウニ記憶致シテ居ル者デアリマスルガ、殊ニ此植民地ノ自治制施行ニ付テハ餘程考慮ヲ拂ハナケレバナラヌ點ガアルト思ヒマス、現在ノ諮問機關ニ於キマシテモ、動トモスレバ新附ノ民ト内地人ノ間ニ於テ施設經營ノ上ニ種々民族的ノ爭ガアルニ云フ事實ヲ見テ、私ハ非常ニ之ヲ遺憾ト感ジテ居ル者デアリマス、當局者ガ今日マデ重要都市ニ對シテモ自治制ヲ布クニ躊躇シテ居ルト云フコトハ、或ハ是等ノ點ニ深甚ノ注意ヲ拂ッテ居ルノデハナイカト思フノデアリマス、併セテ朝鮮ノ諮問機關設置後ノ成績ニ付キマシテ——尙ホ自治制施行ニ付テ今後重要都市ニハ何時頃カラ之ヲ施行スル方針デアアルカト云フヤウナ、是等ノ點ニ付キマシテハ下岡政務總監ヨリ御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス、尙ホ臺灣ノ事ニ付キマシテハ幸

ヒ濱田拓殖局長ガ出席サレテ居ルコトデアアルカラ、臺灣ニ關スル御意見モ伺ヒタイト思ヒマス

神田正雄君ノ應答

只今牧山サンカラノ御質問ハ、第一點ダケガ私ニ對スル御質問デアッテ、何時頃カラ施行スルカト云フコトデアアル、第二點ノ臺灣ニ關スル事ハ、臺灣ノ當局ニ御尋ニナッタ方ガ宜カラウト思フ、私ハ第一點ノ何時頃カラ地方自治制ヲ施行スルカト云フコトノ御尋ニ對シテ申上ゲル、ソレハ私ノ希望トシテハ即時ニ斷行シテ貰ヒタイ而モ是ハ多少土地ニ依テ文化ノ程度ガアルカラ、只今牧山サンノ言ッタヤウニ、一番先ニ文化ノ發達シタ所カラ布イテ、次ニ各地ニ及ボスト云フコトモ是ハ當局ノ方針デアリマセウガ、私トシテハ今日朝鮮及臺灣ノ現狀ニ顧ミレバ、決シテ日本人ノ考ヘルヤウニ、此自治制ニ不適當ナ民族デナイト信ジテ居リマス、此點カラ私ハ成ルベク即時ニ此地方自治制ヲ布イテ、朝鮮及臺灣ノ民度ニ適スルヤウナ方策ヲ當局ノ人ニ執ッテ戴キタイト思フノデアリマス

下岡政府委員ノ應答

牧山サンノ只今ノ御問ニ答ヘマスガ、朝鮮ノ重要都市ニ對シテ自治制ヲ布カウト云フ考ガアルカ、又考ヘテ居レバ其時期ハ如何デアアルカト云フ御尋デアリマスガ、何レ布カナクテハナラヌト云フコトハ考ヘテ居リマス、併ナガラ其時期ニ付テハ民度及其他ニ最モ考慮ヲ要スベキ點ガ澤山ゴザイマスカラ、マダ何時ト云フコトハ決メテ居リマセヌ、暫ク假スニ時日ヲ以テセラレシコトヲ希望致シマス

濱田政府委員ノ應答

只今牧山君カラ御尋ニナリマシタコトニ付キマシテ御答致シマス、臺灣ニ自治制ヲ施行スルト云フコトニ付キマシテモ、大體只今下岡政務總監ヨリ御説明ニナッタ所ト大體同様デゴザイマス



朝鮮臺灣共ニ大正九年ニ地方制度ヲ布キマシテ、今之ニ依リマシテ、地方自治團體ノ基礎ヲ固メ  
 タノデゴザイマス、サウシテ段々其發達ニ從ヒマシテ、殊ニ又文化ノ向上其他各般ノ進歩ニ伴ヒ  
 マシテ、ソレゾレ施設ヲシナケレバナラヌト信ジテ居リマス、唯併シ此自治制ヲ布クニ付キマシ  
 テ——完全ナル自治制ヲ布クニ付キマシテ、種々考慮シナケレバナラヌ問題ガゴザイマス、ソレ  
 ハ教育ノ普及、文化ノ向上、又自治ニ對スル訓練ノ行届クコト、云フヤウナコトヲ考慮シナケレ  
 バナラヌ事柄ガ種々アリマスノデゴザイマスカラ、其自治制ヲ布クベキ方法順序等ニ付キマシ  
 テハ、慎重考慮ノ上ニ之ヲ定メテ、實情ニ適當スルヤウニ致シタイト考ヘマスノデゴザイマス、  
 サウシテ臺灣ニ今日ノ自治制度ヲ布キマシテ以來ノ成績ハ、可ナリ宜シイノデゴザイマス、無論  
 自治制ノコトデゴザイマスカラ内地ニ於ケルト同ジヤウニ、多少、其團體内ニ幾ラカノ紛擾ガア  
 リマスコトモ、是ハ免レマセヌ事デゴザイマスガ、是ハ何時ニナツテモ常ニアル事デゴザイマス  
 ノデ、大體ニ於キマシテハ良好ノ成績ヲ擧ゲテ進ミツ、アルノデゴザイマス、ソレカラ又臺灣ニ  
 何時カラ完全ナル自治制ヲ布クカト云フコトニ付キマシテハ、只今申上ゲマシタ如ク、慎重考慮  
 ヲ要シマスノデ、折角政府ハ十分ノ調査ヲ進メテ後ニ致シタイト思ヒマスノデ、今日只今何時カ  
 ラト云フコトハ言明致シ兼ネルノデゴザイマス、サウシテ又臺灣ノ全部ニ一時ニ行フカ、一部ヅ  
 ツ行フカト云フコトニ付キマシテモ、同様是モ併セテ考慮シタ上ニ於キマシテ、慎重ニ定メタイト  
 存ジテ居ルヤウナ次第デゴザイマス。

牧山耕藏君ノ再質疑

一寸拓殖局長ニ伺ヒタイノデスガ、大連及旅順ニハ既ニ自治制ガ施行サレテ居ル、租借地ニハ自  
 治制ヲ施行シ、帝國ノ完全ナル新領土ノ重要都市ニ之ヲ行ハヌト云フノハドウ云フコトデゴザ  
 イマセウカ、此點ヲ一ツ伺ヒタイ

濱田政府委員ノ應答

牧山君ノ御尋ニ御答致シマス、大連及旅順ニ於キマシテハ自治政ヲ行ッテ居リマスガ、併シ是ハ  
 在留ノ日本人ニ限ルノデゴザイマス、詰リ各種機關ノ選舉人ナドモ皆日本人ダケガ選舉權ヲ持ッ  
 テ居リマス、併セテ此機關ヲ組織スル議員等モ日本人ニ限ッテ居ルノデゴザイマス、ソレデ今日  
 臺灣若クハ朝鮮ニ同様ニ自治制ヲ布クコト云フコトニナリマスレバ、内地人ダケニ限ルト云フ譯  
 ニハ行キマセヌ、勢ヒ本來ノ朝鮮人、又本來ノ臺灣人モ一絡ニ自治制ヲ布カナケレバナラヌヤウ  
 ニナリマスカラ、ソコデ朝鮮臺灣ニハ完全ナル自治制ヲ布カナイト云フコトニナツテ居ルノデゴ  
 ザイマス

右終ルヤ清瀬一郎君ハ本案ニ對シ左ノ如ク贊成ノ演說ヲ爲ス

吾々同志ノ者ハ一致致シマシテ本案ニ贊成致シテ居リマス、我國ノ植民地ノ行政組織並ニ行政  
 ノ實際ニ付テハ、改革スベキモノハ多々アルノデアリマス、併ナガラ植民地行政改革ノ第一歩ハ  
 其土地ノ人ミニ自治ノ權能ヲ與ヘルト云フコトガ出發點デアリマス、此意味ニ於テ本案ノ如キ  
 ハ直ニ實行シナケレバナラヌ我國ノ國策ノ一ツデアリマス、只今提案者ガ説明サレタ如クニ、本  
 院ニ於テ此建議案ガ通過スル曉ニハ、政府ニ於テハ更ニ再考ノ上ニ、速ニ實施ニ著手セラレンコ  
 トヲ希望スルノデアリマス

次テ本案ハ柏田忠一君外一名提出清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法廢止法律案(第四項第二)(一)  
 二)外四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十二日  
 報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果  
 委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ



七六 農村振興ニ關スル建議案

政府ハ農村振興ノ爲ニ速ニ左記事項ヲ實行セラレムコトヲ望ム

一 農家負擔ノ輕減

農家ノ負擔スル租稅其ノ他ノ公課ハ頗ル過重ニシテ爲ニ農家ハ經濟上ノ獨立ヲ保シ難ク農民離村ノ傾向ハ年ト共ニ益顯著ナルモノアリ而モ其ノ負擔ヲ商工業者ニ比スルモ甚シク均衡ヲ失スルモノアルヲ以テ速ニ之カ輕減ヲ圖リ田園ノ荒廢ヲ防止スルノ要アリ

二 自作農ノ維持及創定

農村不振ノ顯著ナル實相ハ自作農ノ漸減ト小作爭議ノ頻出トニ依リテ之ヲ窺フヲ得ヘシ今ニシテ之カ救濟ノ大策ヲ樹立スルニ非スムハ農民ハ安住ヲ失ヒ立國ノ基礎動搖スヘシ而シテ其ノ對策ハ種種アルヘキモ自作農維持創定ノ方策ヲ定メ自作者ノ安定ヲ圖リ小作者ノ向上ヲ誘導シ以テ農業經營ノ進歩ヲ促シ小作爭議ノ緩和ヲ圖ルハ農村振興ノ根本政策ナルト同時ニ重大ナル社會政策ナリ

三 農村教育ノ改善

我カ國ノ教育機關ハ近時漸ク整備ノ途ニアリト雖畫一的教育ノ餘弊ハ農村ノ人ヲ驅テ農業

労働ヲ忌避セシムルニ至レリ是レ農村農家ノ萎靡振ハサル所以ナリ宜シク農村教育ヲ改善シ勤儉力行ノ美風ヲ涵養シ農村青年ヲシテ安ムシテ田園ニ基礎産業ニ從事セシムルノ要アリ

四 農業金融ノ充實

從來我ガ國ノ金融制度ハ著シク中央ニ集注セル結果農村資金ノ枯渴ヲ來シ利率亦甚高キニモ拘ラス農家ノ負債ハ數十億ヲ超エトス農家ノ生産能力ヲ減殺シ國家經濟ニ損失ヲ醸スコト蓋巨大ナルモノアリ故ニ政府ハ既設農業金融機關ノ改造振作ヲ圖ルト共ニ別ニ農業資金制度ヲ設ケ政府若ハ營利法人カ地方ヨリ吸收セル低率ナル資金ハ之ヲ農業資金トシテ低利ニ農村ニ還元スル方法ヲ講スル等農業金融充實ノ爲ニ極力施設計畫スルノ要アリ

五 副業ノ獎勵

農業經營地積ノ狹少ト農業ノ期節的繁閑トハ餘剩勞力ヲ生セサルヲ得サルニ加ヘ近來農業ノ機械化ハ此ノ勢ヲ驅テ益急激ナラシメ爲ニ農家ハ労働ノ機會ヲ失フコト尠カラズ此ノ時ニ當リ農家ノ過剩勞力ヲ利用シテ其ノ收入ヲ増加セシムル副業ノ獎勵ハ農村振興上極メテ緊要ノコトト謂ハサルヘカラス政府ハ副業ノ獎勵ニ就テハ之ヲ等閑ニ付セサルカ如シト雖農村振興ノ急務ナルニ比スレハ未タ遺憾ナキ能ハス是レ特ニ其ノ獎勵ニ關シ徹底的普及ノ



方策ヲ望ム所以ナリ

右建議ス

右八十四年二月十二日荒川五郎君外十五名之ヲ提出ス二月二十六日議事日程ヲ變更シテ本案ハ床次竹二郎君外十四名提出農村振興ニ關スル決議案(第六項(四))ト一括シテ院議ニ付シ本案提出者(荒川五郎君)決議案提出者(三輪市太郎君)ハ孰レモ其ノ趣旨ヲ辯明セリ  
荒川五郎君ノ建議案趣旨辯明

諸君、世人ノ想像以上ニ實ニ重態ヲ極メテ居リマス農村ヲ其衰頹ノ深ミヨリ救濟シ、之ヲ振興セ  
ネバナラヌコトハ、眞ニ一日ヲ緩フスベカラザル次第デアリマス、洵ニ刻下焦眉ノ最モ重大事デア  
アルコトハ既ニ業ニ論ジ盡サレ説盡サレタ所デアリマシテ、今更喋々ノ辯ヲ要シマセヌ、唯此場  
合本建議案ニ付キマシテ、特ニ必要ト認メマス點ヲ成ベク簡單ニ説明致シテ、滿堂諸君ノ甚大ナ  
ル御同情ニ懇ヘタイト思ヒマス、茲ニ本問題ニ入ルニ先立ッテ此問題ガ當院ニ於テ如何ニ取扱ハ  
レテ居ルカ、院内ノ空氣ヲ少シク地方全國ニ紹介スルコトハ必要デアルト存ジマス、當衆議院ニ  
於キマシテハ大多數ノ諸君ガ深ク茲ニ思ヒヲ寄セラレマシテ、最モ眞面目ニ、最モ眞劍ニ之ヲ攻  
究シ、論議セラレツ、アリマス、又貴族院ニ於テモ理解アル諸氏カラ屢此問題ニ付テ傾聽スベキ  
切實ナル論議ヲ承リマスコトハ、私共多年此問題ニ努力シ來ッタ者ノ深ク敬意ヲ拂ヒ、感謝致ス  
所デアリマス、更ニ政府ニ於テモ財政困難ノ今日——殆ド命懸ケデ以テ財政ノ整理緊縮ヲ圖ラ  
ル、今ノ時ニ當リマシテ、獨リ此農政問題ニ付キマシテハ進ンデ新ニ國務省ヲ設ケ、又農村振興  
ノ基金ヲ作り、從來ノ振興費ヲ數倍モ増加計上セラル、等、其努力セラル、誠意ハ私共ノ大ニ多

トスル所デアリマス、本建議案ハ貴衆兩院議員中多數有志ノ一團デアリマス農政研究會ニ於テ、  
私共幹事ハ數回會合審議ヲ重ネマシテ、其總會モ開キ、又帝國農會ノ幹部トモ協議ヲ致シマシテ  
成案ヲ作りマシタ、政友會、中正俱樂部、革新俱樂部並ニ我ガ憲政會ノ四派全部及ビ無所屬ノ半  
數ノ諸君ヲ連ネテ、實ニ議會始ツテ以來會テ殆ドナイ程ノ大多數ノ贊成ヲ以テ提出致シタモノデ  
アリマス、我國舊藩時代ニ於テハ俸祿ハ皆米ヲ以テ致シマシタ、石高ノ公稱ヲ以テ各藩皆其地位  
藩格ヲ表シ、國民生活ノ基調ハ勿論、政務ノ根本モ全ク之ヲ米ニ置イテ、隨テ農業ニ付テハ各藩  
トモ深キ注意ヲ以テ共助共濟等ノ習慣ヲ養ヒ來リマシテ、其發達ヲ圖ツタモノデアリマス、各藩  
ガ各地方ニ割據スルダケンレダケ、全國ニ滿遍ナク此農業ハ全國平等的ニ安定シ來ッタモノデア  
リマス、然ルニ維新以來中央集權ノ制トナリマシテ、政務ハ皆中央中心主義トナリ、中央ニ直接  
シタルモノガ國家ノ政務デアル、地方ノ事ハ恰モ國家ノ政務デハナイカノ如ク、多ク等閑ニ附セ  
ラル、傾トナリマシタ、總テノ事ガ近ク眼ニ見、近ク耳ニ聞エルモノガ政治ノ目標トナリ、地方  
遠方ニ遠ザカルニ從ヒ其色彩ガ薄ク、殊ニ農村ノ如キハ殆ド眼中ニ無イト申シテモ宜イ有様デ  
アリマシタ、ソレガ爲ニ自然農村ハ新文明ニ浴スルコトガ出來ナイデ、其發達ヲ妨ゲラレタコト  
ハ洵ニ遺憾ノ至リデアリマシタ、是レ農村疲弊ノ一ツノ大ナル原因ト思ヒマス、手近ナ一例ヲ申  
シマスレバ通信制度ノ如キ、都會デハ郵便、電信、電話等實ニ織ルガ如クニ出來テ居ッテ、サウシ  
テ料金モ安イ特別ノ制度、便法ナドガ開カレマシテ、自由ノ適フ迅速自在ノ便利ガ與ヘラレテ居  
リマスノニ、田舎デハ一通ノ手紙、一通ノ電報ヲ出スニモ半日——甚シキハ一日ヲ費サナケレバ  
ナリマセヌ、又電報ヲ受取ルノニ、一里三十錢ト云フ電報料以外ノ料金ヲ出サナケレバ、翌日ノ  
郵便ト共ニ配達セラル、ト云フコトナドハ、實ニ金ノ尊イ田舎ノ人ハ辛ジテ電報ヲ出シテモ、而  
モソレハ電報タル效力ガナイト云フヤウナ有様ハ、金ノアル都會ニ安ク便利ヲ與ヘテ、金ノナイ  
不便ノ田舎ニハ料金ヲ多ク掛ケルト云フヤウナ事實、洵ニ是レ一視同仁ノ御聖旨ニモ悖リ、又平  
等ノ恩澤ニ浴セシムベキ政道ノ本旨ニモ反スルコト、思ヒマス、然ルニ世人ハ之ヲ恬トシテ顧  
ミナイ、實ニ大正ノ新文化ハ何處ニ在ルト申シマセウカ、都會ハ其力其富ガ多イ上ニ更ニ國費ヲ



入レ、又公費ヲ以テ諸般ノ設備ヲ致シマスルカラ、日ニ月ニ進歩致シマスケレドモ、田舎ハ此郵便局ノ如キデモ、其郵便局ハ更ニ必要ヲ感ジナカッタ舊キ時代ノ配置ヲ其儘ニ今日ニ存シ來ッテ居リマス、故ニ、今日ニ至ッテ非常ナ不便ヲ感ジマスルケレドモ、敢テ願ミラレナイノデアリマス、ソコデ全國到ル所郵便局ヲ設ケタイト云フ希望ハ非常ニ多ク、此當院ニモ多クノ請願ガ參リマスコトハ諸君ノ御承知ノ通りデアアル、然ルニ郵便局モ置ケバ直グ利益ヲ擧ゲラル、都市ト同ジ條件、同ジ費用ヲ出サナケレバ、農村ニ對シテ局ハ設ケラレナイ、サウシテ漸ク辛ジテ幸ニ設ケラレタ局ハ無集配局デアアル、都會地デハ無集配局デモ相當ニ利益ヲ擧ゲラレテ立ッテ行キマスケレドモ、田舎デハサウハ行キマセヌ、集配局デナクテハ殆ド意義ヲナサナイ、諸君、郵便ハ昔ノ飛脚デアアル、飛脚ノナイ無集配局ノ達磨局デハ、田舎ニハ何等ノ役ニモ立タナイ、然ルニソレヲ都會ヲ標準ニシテ、一向此邊ノ實狀ガ願ミラレナイ、此事實ヲ以テ見テモ、如何ニ日本ノ政治ガ中央中心主義デアアルカ、中央集權デアアルカ、近眼的デアアルカト云フコトガ分ルノデアリマセウ、デアリマスカラ、今日ノ此政治ハ田舎ハモウ駄目ダカラ、田舎ハ極メテ不便ダカラ、田舎ヲ棄テ都會ニ來ルト云フ、今日ノ政治ハ都會招來主義ト申シテモ宜イ有様デアアリマセヌカ、彼ノ文化駿々トシテ日ニ進ムト云フヤウナ形容詞ヲ是ハ田舎ノ兒童ニモ教ヘマスケレドモ、是ハ都會ノ商業工業ノ狀況ヲ形容シタルモノデアリマシテ、田舎ハ日ニ月ニ進ム所デハナイ、十年二十年モ更ニ進歩ヲ見ナイノミカ、却テ日ニ月ニ退歩シツ、アルノデアリマス、又田舎ノ人ノ租稅ヲ以テ建テタ都市ノ官立、公立ノ病院、又田舎ノ者ガ粒々ノ辛苦カラ掛金ヲシテ、其金ヲ以テ造ッテ、赤十字病院等、ソレ等ハ田舎ノ人ハ更ニ其利益ニ與ルコトガ出來ナイデ、都會ノ人、金持ヤ紳士ナドノ贅澤ナ療養所ニナッテ居ッテ、田舎ノ人ハ數里ノ道ヲ遠シトセズシテ、山坂ヲ越ヘテ行ッテモ、尙ホ當リ前ノ醫者ノ治療ヲモ受クルコトガ出來ナイト云フヤウナ有様デアリマス、斯様ナ例ヲ申シマスレバ幾ツモアリマスケレドモ、ソレハ略シマスガ、諸君、單ナル此一二ノ例ヲ以テ見テモ、果シテ地方農村ガ願ラレテ居ルト言ヘマセウカ、金ノ無イ田舎ノ者ヲ搾ッテ、サウシテ其金ヲ都會ニ振撒クト云ウテモ宜イヤウナ政治デアアリマスマイカ、之ニ加フルニ維新後農村モ解放セラ

レマシテ、其解放ノ爲ニ多年馴致セラレ來ッタ所ノ共濟互助ノ舊習慣ハ皆自然ニ頽レテシマッテ、之ニ代ル所ノ新良風、新習慣ナルモノハ一向起キテ來マセヌ爲ニ、一般ニ自由ハ放漫トナリ、者實ノ風ハ墮落シテ來タ傾ハ少クナイノデアリマス、殊ニ維新以來、各地方ニ盛ンニ行ハレル教育、此教育ナルモノハ全ク都會的ノ教育デアアル、千篇一律、劃一ニ市民的ノ教育ヲ與ヘテ、農村の指導ト云フモノハ、缺ケテ居ル、例ヘバ清潔法ト云フコトハ、教ヘマスガ、土地ニ親シムト云フコトハ、教ヘナイ、否ナ糞水ヲ掬スル善農ノ仕事ハ、清潔法ニ反スルカノヤウニ教ヘ込マレテ居ル、又金錢ヲ目標トスルコトハ、教ヘマスガ、天然ヲ相手トスルコトハ、教ヘナイ、斯様ナ有様デアリマルカラ、今日ノ國民教育ト云フモノハ、幼稚ナル彼等小國民ヲ驅ッテ農村ヲ棄テヨ、田舎ヲ去レ、月給取リトナレ、商工業ニ移レト、日々ニ強ヒテ居ルヤウナ有様ト申シテモ宜イノデアリマス、斯様ニ政治ハ中央集權トナッテ、中央的ニ施サレテ、教育モ都會的ニナッテ農村ノ實情ハ顧ミナイ、サウシテ地方ノ解放ト共ニ此善良ナル指導ガ缺ケテ居リマス、斯様ナル結果此劃一的ニ指導セラレタル農村ノ國民ガ、ドウシテ繁昌シ得ルコトガ出來マセウカ、殊ニ最モ此農村ノ打撃ハ、農産ノ米麥ナルモノハ、他ノ物價ト比例シテ其價ガ上ラナイ、其上ラナイノハ、是モ農者ノ苦シム一大原因デアリマス、他ノ普通ノ商品、生産品ハ、皆生産者カラ一旦市場ニ出ル、即チ市場經濟ノ支配ヲ受ケマスケレドモ、農産物ハ、生産者タル農業者ハ同時ニ消費者デアリマスカラ、其大半ハ生産者ガ之ヲ消費スルノデアリマス、其半數ガ市場經濟ノ支配ヲ受ケル、其半數ニ受ケル影響ガ均ラサレテ、全般ノ生産ニ及ブカラシテ他ノ物價ガ上ガル割合ニ比シテハ、米價ハ半バモ上ッテ來ナイト云フヤウナ有様デアリマスカラ、農業家ハ安イ米麥ヲ賣ッテ高イ日用品ニ生活シナケレバナラヌト云フ實狀ニ在ルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、農村ガ今日ノ窮狀ニ陥ルト云フコトハ、寔ニ當然デアリマス、此點ハ爲政家ノ特ニ大ニ注意ヲ拂ヒ、是ガ方策ヲ立テネバナラヌ大切ナ事デアリマス、先年米穀法ガ設ケラレマシテ、更ニ今期議會デ是ガ改正セラレマシタコトハ、幾分カ此邊ノ救濟ニナリマスケレドモ、併シ此米麥タル農産物ニ對シテ最低價格ノ保障ヲシテ、其生産努力ノ安定ヲ圖ルニアラザル限リハ、決シテ完全ニ是ガ救濟ハ出來ナイノ



デアリマス、以上諸原因ノ外、近年世界ノ交通、世相ノ變化、勞銀ノ騰貴等、諸種複雑シタル所ノ關係ニ依リマシテ、遂ニ農村ハ今日ノ如キ窮迫ヲ告グルニ至ッタ次第アルト思ヒマス、之ヲ振興致シマスルノニハ、多種多様幾多ノ方法ガアリマスルガ、併シ是等ハ殆ド悉ク皆財政ニ關係致シマシテ、中々容易デアリマセヌ茲ニ其中ニ於テ最モ行ヒ易ク且ツ急ヲ要スルモノ五項ヲ擧ゲテ、今日此建議ヲ致シタ次第デアリマス、デ今其項目ヲ簡單ニ略述致シタイト思ヒマス、第一項ハ農家負擔ノ輕減デアリマス、租稅其他ノ公課ノ如キハ、利益ノ極メテ乏シイ農村ト、働キ次第ノ利益ヲ擧ゲラレル所ノ商工業者ナル此都會トヲ一律ニ同ジ率ヲ以テ、之ヲ律シ租稅ヲ徵スルト云フコトガ、今日ノ如キ實際上ノ負擔ノ均衡ヲ失シテ居ル所以デアリマス、デアリマスルカラ今日ハ農村ニ居リマスルト、負擔ノ重キニ堪ヘナイカラシテ、都會ヲ目掛ケテ、サウシテ我が大切ナ墳墓ノ土地ヲ棄テ、去ル者ガ少クナイノデアリマス、サウシテ一方都會ニハ人ガ溢レル、今日都會ノ住宅難ヲ懇ヘル聲ハ、地方農村ノ荒廢ノ事實ト表裏相爲スモノデアリマシテ、都市住宅難ノ聲ハ、即チ田舎ノ人ガ都會ヘ去ル足音ト申シテモ宜イノデアリマス、而シテ其彼等ガ村ヲ離レル、離レル度毎ニ村ニ殘ッテ居ル者ハ、其稅ヲ倍加セラレマスカラ、ドウシテ此農村ニ居ル者ガ立行キマセウカ、故ニ此負擔ヲ斟酌輕減シナケレバ、農村ハ日ニ荒廢スルノ外ハアリマセヌ、今其負擔均衡ヲ得セシムベキ方法ヲ一々申上ゲマスレバ、非常ニ時間ヲ費シマスカラ、唯項目ダケヲ申上ゲマス、第一ニハ田畑所得算定法ヲ改メルコト、第二ニハ府縣稅戶數割ヲ改正スルコト、第三ニハ國有財産ヤ國營事業ガアル其町村ニ於テハ、ソレヲ一個人ノ財産ト同ジ割合ニ見テ、ソレニ相當スル費用ヲソレニ負擔シテ貰フ方法ヲ設ケルコト、第四ハ町村ニ土地ヲ有シテ他郷ニ住ム者ニモ、其人ノ戶數割ニ相當スル所ノ課稅ヲスルコト、第五ハ町村ノ國庫金取扱ハ都會ト違ヒマス、殊ニ此零細ナル僅ナ金ヲ取扱フノデアアル、凡ソ手數ト云フモノハ金額ニハ比例シナイノデアリマス、一厘デモ一通ノ徵稅通知書ハ要ルノデアリマス、然ルニ金額ニハ比例シテ手數料ヲ出スト云フコトハ、手數ニ對スル手數料デナイノデアリマス、實際ニ是ハ合ハナイ所以デアリマスカラ、ソレヲ相當ノ手數ノ割合ニ應ジテ、取扱手數料タル交付金ヲ出ス方法ニスルト云フコ

トガ即チ實際ニ嵌マリ相當ト思ヒマスカラ、其割合ニ交付金ヲ増加スルコト、ソレカラ第六ニハ地租ヲ改廢スルコト、第七ニハ地租附加稅ノ制限率ヲ下ゲルコト、並ニ第八、義務教育費國庫負擔額ヲ増加致シテ、成ベクハ速ニ小學校教員給料ノ全額ニ至ルヤウニナシタイ、政府ハ十五年度ヨリ二千萬圓ヲ増額スルト云フコトヲ公約セラレマシタガ、尙ホ出來得ル節約ヲ致シテ、二千萬圓デアリマセヌ、尙ホ其以上ニ奮發シテ、速ニ教員給料ハ全額ヲ政府ヲ受持チ、學校ノ設備、消耗費ハ地方ヲ受持ツト云フ風ニナツテ、始メテ國民教育ノ精神モ貫徹致シ、且ツ地方農村ハ大ニ救ハルコト、思フノデアリマス、以上ガ此建議案第一項ノ說明デアリマス、第二項ハ自作農ノ維持及創定デアリマス、農村ノ安固ヲ圖ルニハ、農家自ラガ自ラノ土地ヲ耕作スルノデナクテハナラヌト云フコトハ申上ゲル迄モナイ、故ニ自作農ガ大部分ヲ占ムルト云フコトガ農村維持ノ理想デア、現在ノ自作農ヲ維持シテ、サウシテ今日ノ小作ヲモ昇格セシメテ自作農ニ爲スヤウニ致スト云フコトハ、是ハ農村ヲ維持スル第一ノ理想デアアルバカリデハナイ、サウナツタナラ小作爭議ハ自然ニ無クナルノデアリマスガ、是ニハ相當低利資金ノ融通等ノ費用モ要リマシテ、相當ノ努力ヲモ拂ハナケレバナリマセヌケレドモ、併シ地主ト小作人ト利害相反スル今日ノ現狀ヲ其儘ニ置クト云フコトハ、農政ノ根本ヲ破壊スルモノデアアル、爲ニ勢ヒ小作爭議ノ頻出致シマシテ、國家ハ其煩ニ堪ヘザルノミナラズ、爲ニ其費ス所モ非常ニ多大ニナツテ、農村ハ益疲弊シ、思想ハ愈惡化シテ、遂ニ恐ルベキ重大ナル結果ヲモ起スノ虞モアリマシテ、洵ニ國家百年ノ大患ヲモ致サン虞レガアル、故ニ今日多少ノ費用ハ奮發シテモ、他日ノ此大患ニ想ヒ比スレバ、實ニ何デモナイコトデアリマスカラ、政府ハ一日モ速ニ自作農ノ維持創定ノ確立實行ヲスベキコトガ必要ニ迫ッテ居リマスガ、此事ニ付テ如何ナル手段方法ヲ執ルベキカハ、一々此場合説明スルコトヲ省キマシテ、是ハ委員會ニ讓ルコト、致シマス、第三項ハ農村ノ教育ノ改善、此事ハ前ニ總論ニ述ベマシタ通り、現在ノ平民的劃一ノ教育ヲ改メテ、實際ニ即スル農村教育ノ施設ヲセナケレバ農村ハ立行カナイ、凡ソ國家ハ國家愛ヲ基調トスル精神生活ヲ爲スヤウニ指導シテ教育セナケレバナラヌノハ申ス迄モナイ、其國家愛ト云フモノハ土地ニ親シミ、土地ヲ愛スル觀念カラ生ジテ來ルノデ



アリマス、隨テ農ヲ主トシ農ヲ重ンジ、農業ガ安定スル、國家ハ均シク安定致ス所以デアリマス、土地ニ根據ヲ持タズ、即チ根柢ナク浮游シテ居ル所ノ者ガ、永久性ヲ有シナイト同ジク、農業ヲ重ンジナイ國ハ衰亡致スノデアリマス、國家愛ハ實ニ土地カラ生ズル產物デアアル、彼ノ「佛蘭西」ノ「フイジオクラット」ノ申シタ通りニ、土地ヲ愛スルコトヲ知ラヌ者ハ國家愛ノ道德ヲ説イテモ、ソレハ斷ジテ血ニナリ、肉ニナリ得ナイト申シマシタ通りデ、實ニ農村ノ改善ハ國家百年ノ長計デアリマシテ、一日モ速ニ其力ヲ茲ニ致サンケレバナリマセヌ、ソレニハ第一ニ師範教育カヲ改善シナケレバナラヌ、今日ハ農村ヲ知ラナイ者、農村ニ親シミノナイ者、否農業ヲ卑シム者ヲ入レテ、サウシテ其者ニ依テ農村ヲ離レタ教育ヲ致シテ居ル、是等ノ人ニ依テ農村の子弟ヲ導カウト云フコトハ、是ハ寧ロ出來ナイノガ當然デアリマス、農村思想ノ無イ者ガ農村思想ヲ入レヤウト云フ、無イモノカラ有ルモノヲ造ラレル理ハナイノデアリマス、此農村教育ニ根本的ノ改善ヲ致スト云フコトハ、洵ニ一日モ忽セニ出來ナイコト、思ヒマス、第四項ハ農業低利金融ノ充實デアリマス、我國ノ金融制度モ政治ガ中央集權ニナッタ通りニ、著シク金融制度ハ都會的商工的ニナツテ居リマス、金融ハ悉ク中央ニ——都會ニ集中サレマシテ、地方ノ零細ノ資金スラ總テガ都市ニ吸收セラレルヤウナ制度ヲ馴致シマシテ爲ニ、農村ノ資金ハ枯渴シ、隨テハ利率ガ高イノモ當然デアリマス、全體農村ノ事業ハ皆長期ニ互リマスカラ、一般ノ利率ヲ以テシテモ農村ハムツカシイノニ、唯今ノヤウナ次第デ皆此金利ガ高イ故ニ、農業ノ經營施設ヲ改良シヤウト思フテモ、器械農業ヲ獎勵シヤウト思フテモ、或ハ土地改良事業ヲ致サウト思フテモ、今日ノ如ク梗塞セル此高イ利ノ金融デハ、斷ジテ實效ヲ擧ゲ得ラレルモノデアリマセヌ、故ニ政府ハ從來アル農業金融機關ヲモ之ヲ改善振作スルト共ニ、別ニ農業資金制度ヲ設ケテ、郵便貯金ヤ竝ニ公債等ニ依テ地方カラ得タル低率ノ資金ヤ、竝ニ營利法人ガ地方ヨリ吸收シタル資金ニ對シテ、之ヲ低利ニ農村ニ還元スル方法ヲ講ズルガ如キ、農村金融ノ圓滑ヲ圖ルノハ極メテ必要デアリマシテ、今日ノ農家ノ負債ハ無慮五十億圓ト稱セラレテマス、之ヲ救済スルト云フコトハ洵ニ刻下ノ急ニ迫ツテ居リマス、第五項副業ノ獎勵、我國ノ地積ト農法ノ關係上、其餘力ヲ十分ニ利用シテ大ニ

副業ヲ獎勵致シ、勤勉力行ノ美風ヲ涵養シ、農村ノ潤ヲ十分ナラシメヤウト云フコトハ是ハ洵ニ必要ナ事デ、何人モ説ク所ガアリマスケレドモ、今尙ホ其指導ト獎勵トノ途ヲ缺キマシテ、多年遲々トシテ一向ニ振ハヌ狀況デアリマス、政府モ茲ニ見ル所アツテ、明年度ニハ三十四萬圓ヲ入レテ、此副業ノ獎勵ニ努メントスルノハ、ソレハ吾々モ歡迎致ス所デアリマスガ、尙ホ大ニ其力ヲ此獎勵ニ注イデ、徹底的普及ノ方策ヲ立テルコトハ極メテ大切ト考ヘマス、其詳細ニ至ツテハ之ヲ委員會ニ讓ルコトニ致シマス、以上五項即チ農家負擔ノ輕減、自作農ノ維持及創定、農村教育ノ改善、農村低利資金ノ充實、副産ノ獎勵、是等ハ目下農村振興ノ要目中ノ最モ緊要ナルモノデアリマス、私共ハ茲ニ特ニ最モ嚴肅ナル最モ緊張シタル意味ニ於テ、速ニ反響アル有力ナル此建議ノ成果ヲ熱望致シマスル所以デアリマス、諸君、都會ハ消費シ、農村ハ生産スル、國民生活ノ資源ハ實ニ農村ニアルノデアアル、農村ガ萎靡振ハズシテドウシテ國民生活ノ安定ヲ得ラレマセウカ、古ノ名君賢相ガ農ニ重キヲ置ク施設ハ古イケレドモ、其眞理ハカアル生命ヲ有スルノデアリマス、水戸烈公ノ農人形ノ教ノ如キハ、洵ニ今人ノ俱ニ學ブベキ所デアリマス、然ルニ今日農ヲ卑シムコトハ一般國民思想ノ病トナツテ居リマス、隨テ農村疲弊ノ聲ハ全國ニ充チテ居リマス、農村ガ疲弊スル、疲弊スルト云フ言葉ハ全國ニ盛ナルダケソレダケ、其聲ガ又疲弊ヲ増シテ速度ヲ加ヘテ來ルノデアリマス、一方ニハ農村ハ詰ラナイト言ヒナガラ、一方ニハ農村ノ青年子弟ヲシテ農村ニ留マレト云フ、是ハ洵ニ無理ナ註文デアリマス、農村疲弊ノ聲ハ實ニ農村ヲ捨テヨ、農村ヲ去レトトノ呼聲ト謂ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、子弟ヲ都市ニ追ヒヤル鞭ノ音ト謂ハナケレバナラヌノデアリマス、斯クテ日ニ益農村ハ疲弊致ス此有様ハ、一日モ半時モ捨置カレヌコトデアリマシテ、農村ノ安全ヲ圖ラナケレバ、國家ノ此胴體タル全國農村ガ立行カナイデ、其頭顱タル都市單リ安全ヲ得ヤウト云フノハ無理デアリマセヌカ、都會ハ遂ニ農村子弟ノ墓場ト化スルノ日ガアラウト憂ヘラレルノデアリマス、今日自由貿易論者ハ外國米ガ安イカラソレヲ買ヘバ經濟上差支ナイト言フ、此經濟論ハ姑ク措キマシテモ、凡ソ此生産ナルモノハ風土氣候ノ產物デアルト云フコトヲ知ラナケレバナラヌ、異ナル風土氣候ノ物ハ、形ハ同ジデモ



其質ハ違フカラ、決シテ其異ナル所ノ人ノ體ニ、或ハ實際ニ合ハナイノデアリマス、寒イ所ノ米ハ脂濃イ、同ジ米ニシテモ寒イ所ニハ脂質ヲ含ンデ居ル米ガ出來ル、之ニ反シテ臺灣ノヤウナ熱イ所ノ米ハ「サラ」シタ脂氣ノナイ米ガ出來ル、米ノ形ハ同ジ米デアリマスケレドモ、其實質ハ全ク異ツタ異物デアアル、其異物デアアル米ガ唯米ノ形ヲシテ居ルカラト云ッテソレヲ輸入スルモ、内地人ニハ適シナイノガ當然デ、現ニ一般ノ人ガ外國米ヲ嫌ダト云フ、嫌ナ筈デアアル、其風土氣候ノ產物デナケレバナラヌモノヲ、他ヨリ持ッテ來マスカラ日本人ハ嗜好シナイ、嗜好シナイノハ適セナイ證據デアアル、然ルニソレヲ嗜好サセル爲ニ内地米ト混ゼタリシテ、今ハ到ル所ニソレヲ人々ハ攝ッテ居リマスガ、漸次聽テ之ヲ好ムニ至ッタ日ニハ、吾々ノ身體、吾々ノ精神ハ、ドレダケノ損失毒ヲ被ルコトデアリマセウ、民族ノ發達進歩ノ上ニドレダケノ害ヲ與ヘ、民族ノ元氣ヤ血ヲ銷磨スルコトデアリマセウカ、洵ニ唯米ノ形ヲ見テ、米ノ實質ヲ知ラナイ、更ニ米ノミデアアリマセウ、風土氣候ノ產物、ソレガ吾々ノ養デナケレバナラヌ、是等ノ如キ有様カラ、今ヤ日本ハ外國ノ衣ヲ著、外國ノ食ヲ食ヒ、サウシテ外國的ニナルケレドモ、而モ低イ、弱イ、低級ノ外國的ノ人トナッテ、何所ニ大和民族ノ眞生命ヲ求ムルコトガ出來マセウカ、ドウシテ日本人ノ眞骨頭ヲ發揮スルコトガ出來マセウカ、諸君、今日ノ如キ有様ニシテ農村ノ疲弊ノ聲ハ、是レ民族ノ吾々ノ血吾々ノ精神、吾々ノ身體ガ日ニ疲弊スルコトヲ意味スルデアアル、此實際ノ現狀ハ一朝一夕ニ來ナイカラ、世間ノ人ハ恬トシテ顧ミマセウケレドモ、我ガ國家將來ニ想ヒ到レバ實ニ由々シキ重大事ト謂ハナケレバナラヌデアリマス、冀クハ農村ノ此問題ハ當ニ單ナル農村ノ事ト思ハズ、國家民族ヲ擧ゲテ共ニ努力セラレンコトヲ切望シマス、尙ホ一體今日世間ノ人ハ、動モスレバ日本ハ物資ガ少ナイ、瘠セテ居ルナド、頻リニ日本ノコトヲ詰ラヌモノ、ヤウニ

役ニ立タヌヤウニ言ハレル、是ハ洵ニ無氣力者ノ言フコトデアルト私ハ思フ、日本ハ何モ昔カラ變ツタコトハナイ、日本ノ力デ世界戰爭ニモ加ハレバ、日清、日露ノ戰モヤッテ來タ日本デア

ル、近來俄ニ日本ノ土地ガ瘠セタ譯デハナイノデアリマス、土地ガ瘠セテ居ルトカ、土地ノ力ガ無イト云フコトハ、何等憂フル譯ガアルノデハナイ否ナ却テ之ガ惠マレテ居ルコトヲ悟ルベキデ

アル、沃土ノ民ノオアラザルハ逸スレバナリ、瘠土ノ民コソ其奮勵努力ニ依テ發達シ得ルコトハ、世界ノ歴史ノ上ニモ世界ノ實地ノ上ニモ明カナ事實デアリマス、災害アリト雖モ災害ナキ國民ハ發達セズ、災害ニ遭ウテ其災害ヲ踏越ヘテ行ク所ニ民族性ノ進歩ガアルノデアリマス、吾々ハ此大和民族ノ一員トシテ立ツニ於テ、都會モ田舎モ日本ハ皆詰ラヌ、日本ヲ去レ、日本人ヲ捨テヨト云フガ如ク、今日世間ノ人ノ言動サレルヲ聞クハ、日本人ソレ自身ガ萎縮シツ、アルト云フコトハ、是ハ洵ニ痛憤ノ至リト思フデアリマス、政府ハ大ニ農村ニ其力ヲ盡スト共ニ、農村ノ青年モ元氣奮發シテ挽回ニ猛進シテ貫ヒタイ農村青年諸君ヨ、農村ハ氣清ク都會ノ氣ハ濁ッテ居ル、田舎ハ新鮮ニシテ都會ハ腐敗シテ居ル、農村ハ天真爛漫其天ヲ對手ト致シ、都會ハ譎詐變幻極リナキ人ヲ對手ト致シマス、古ヨリ大人物ハ農村カラ出テ居ルノデアリマス、是ハ都會ハ短急ニシテ農村ハ雄大デアアルカラデアリマス、興國有爲ノ國民精神ヲ養成シ、國家萬歲ノ堅實ナル基礎ヲ作ルニハ、此農村ニ力ヲ用キナケレバナラヌデアリマス、農村青年ヲシテ此困難ナル中ニ踏留ッテサウシテ、茲ニ彼等ニ新天地ヲ拓カシメルヤウニスルノハ、御同様ノ責任デアアル、社會ハ大ナル教育デアリマス、今日ハ人々ノ口ニ依リ、才ニ依テ皆卑屈懦弱ヲ教ヘテ居ルト云フコトハ洵ニ御同様相濟マヌ次第デアリマス、何卒理解アリ同情アラレル滿場ノ諸君ノ滿腔ノ熱血ヲ以テ、茲ニ甚大ナル御盡力アランコトヲ切ニ希望致ス次第デアリマス

三輪市太郎君ノ決議案趣旨辯明

吾々提出ノ農村振興ニ關スル決議案ノ理由ヲ大要説明致シマス、國家ガ農村振興ノ政策ヲ施スノ必要アルコトハ、朝野ヲ通ジテ苟モ政治ニ携ハル所ノ者ハ特ニ認メテ居ル事デアリマス、其方法ニ至リマシテハ、只今荒川君ノ述べラレタル如ク、有ユル方法ガアルノデゴザイマス、又其以外ニ私共モ方法ニ付テハ案ガ出來テ居ルノデゴザイマス、或ハ高橋農相ガ貴族院デ御述ニナリマシタ如キノ方法モ是亦良イ事デアラウト思ヒマス、併シ私共ガ決議案ヲ出シマシタル意味ハ、此場合ハ其政策ハ何レデモ政府ノ擇ム所ニ任シマシテ、唯促進ヲ期スルノデアリマス、今期議會



ニ提出サレマシタル豫算案ヲ見マスルニ、農村ノ事業ニ計上ノ金額ト云フモノハ極メテ僅少デ  
 ゴザイマシテ、根本ノ振興政策ト云フモノハ、是ハ解釋ノ如何ニ依リマスルガ、吾々ヨリ見レバ  
 殆ド無イト云フ程ノモノデアリマス、殊ニ四十九議會ニ滿場一致テ通過ヲ致シタル所ノ農村振  
 興建議案ノ第一ニ重キヲ置イタルモノハ、義務教育費國庫負擔増加デアリマス、然ルニ大正十四  
 年度豫算ニハ之ヲ計上セラレズ、其他貴衆兩院ニ於テ政府ガ答辯ヲセラレタ所ヨリ鑑ミマシタ  
 ナラバ農村振興ヲ緊急ノ事業トハ御認メニナツテ居ラナイト云フコトハ明ニナツタノデゴザリマ  
 ス、之ヲ看過スルトキニハ、荒川君モ只今言ハレタ如ク、國家ノ基礎ヲ危ウスルト云フコトノ虞  
 ノアルコトハ、是ハ與黨諸君ト同感デゴザイマス、故ニ私共ハ茲ニ權威アル決議ニ依テ政府ヲ鞭  
 撻シテ、迅速ニ振興ノ策ヲ遂行セシメント云フガ大體ノ目的デアリマス、先ヅ是ヨリ第一ニ述ベ  
 テ見ヤウト思ヒマスル點ハ、農民ハ今ヤ地主モ小作モ共ニ危機ニ瀕シテ居ルコトハ、荒川君同様  
 ノ觀察ヲ持ツテ居ルノデゴザイマス、其影響ハ商工業ニモ及ボシテ居ルノデゴザイマス、即チ農  
 業者ヲ得意トスル商工業者ハ、共ニ今日ハ疲弊ノ極度ニ陥ラントスル場合デゴザイマス、斯クマ  
 デニ立至ツタル所以ノモノハ、全ク町村ニ財源ノ確實ナルモノガ無イ爲デゴザイマシテ、地租、營  
 業稅、所得稅、相續稅、其他主ナルモノハ國ニ府縣ニ徵收サレテ、町村稅トシテハ是ガ附加稅カ、  
 若クハ戶數割ノ如キ、不徹底ナル稅源ニ依テ辛ウジテ維持シテ居ルノ狀態デゴザリマス、然ルニ  
 町村費ノ歳出ガ年々増加ヲ致シマスル、其支出ノ途ハ大部分義務教育費デアリマス、農村ハ義務  
 教育費負擔ノ爲ニ疲弊シテ居ル事實ヲ茲ニ明瞭ニスル爲メト、併セテ都市ノ隆盛ナルニ引代ヘ  
 テ、農村ノ振ハナイ其貧富ノ懸隔益甚シキヲ加ヘル趨勢ヲ示スニ便宜ノ爲メニ、既往十箇年間ノ  
 調査シタル所ノ全國町村費ノ歳出總額ト、教育費總額ト、教員俸給費總額ヲ掲載シ、併セテ全國  
 ノ都市ノ部分ヲモ町村ト同様ニ調べタル此所ニ一葉ノ調査表ガアリマスルカラシテ、之ヲ細カ  
 ク説明スルノ煩ヲ省キマシテ、議長ニ御願シテ、只今演說ヲ致シテ居ル此所へ挿入サレルコトヲ  
 特ニ御願ヲ致シテ、是デ御承知ヲ願ハウト思フノデゴザリマス——幸ニ御許シテ得マシタカラシ  
 テ、此點ハ成ベク要點ダケヲ述ベマス、全國ノ町村ノ教育費ハ大正三年度ノ額ニ比シマシテ——

其中間ハ省略ヲ致シマス、大正十二年度ニハ殆ド四倍ニ増加ヲ致シテ居リマス、其他ノ經費ハ二  
 倍半弱ノ増加ニナツテ居リマス、其町村費ノ歳出ノ中、教育費ノ百分比ハ大正三年度ニハ四十一「パ  
 ーセント」弱デアリマシタガ、大正十二年度ニハ五十一「パーセント」ニ上リマシタ、又全國都市ノ  
 教育費ハ大正三年度ニ比シテ大正十二年度ニハ五倍ニ増加ヲ致シテ居リマス、其他ノ經費モ同  
 ジク五倍ニ増加ヲ致シテ居リマス、其都市ノ歳出總額ノ中、教育費ノ百分比ハ十四「パーセント」  
 弱ニ當リマス、大正十二年度ニ至リマシテモ同ジク十四「パーセント」弱デアリマシテ、市ハ少シ  
 モ異動ヲ致シテ居ナイノデゴザイマス、斯ノ如キ計算ニナリマシテ、町村ニシテハ教育費ハ歳出  
 ノ半額ニ上ツテ居ルノデゴザイマス、此趨勢ヨリ打算ヲ致シテ見マスレバ、十年後ニハ教育費ハ  
 六割以上ノ多キヲ占メルコトハ疑ナイノデゴザイマス、然ルニ都市ニ依ツテハ歳出總額ノ増加率  
 ハ町村ノ倍額ニ達シマスガ、其中教育費ハ十箇年ヲ通ジマシテ一割五分ニ止ツテ居ルノデゴザイ  
 マシテ、此先キ十年後ニ於テモ、此歩合ニハ變リノナイト云フコトガ推定シ得ラレルノデゴザイ  
 マス、實ニ今日都市ガ教育費ノ如キヲ苦痛トシマセヌノハ、全ク負擔力ガ益加ハルコトガ窺ハレ  
 ルノデアリマシテ、言換ヘレバ富ガ益増スト云フコトデアリマス、然ルニ政府ガ農村ノ窮迫ヲ御  
 認メニナラヌモノカ、或ハ御認メニナツテモ吾々ノ見ル所ト其程度ニ於テ異ツテ居ルモノカトモ  
 思ヒマスルガ、貴族院ニ於テ佐藤友右衛門君ノ農村問題ノ質問ニ對スル農相ノ御答辯ノ速記録  
 ヲ熟讀致シマシタガ、振興ノ方法ハ至極私共ノ共鳴スル所デアリマスナレドモ、第一肝要タル負  
 擔ノ輕減ノ點ニハ、御熱心ノ足ラザルヤウニ感ジマシタノデゴザイマス、其御答辯ノ一節ヲ茲ニ  
 御紹介致シマス、要點ノ一部ヲ讀ミマス「唯農村振興ト云フノハ我々ノ考ヘテ居ル所デハ公課ノ  
 負擔ヲ減ズルト云フ一方ニ傾クニアラズシテ、寧ロ其負擔ガ重キヲ輕ク感ズルヤウニ積極的ニ  
 收穫ヲ殖シタイ、斯ウ云フ考ヲ以テ此農村振興ノ事ハ計畫シテ居ル次第デアリマス」、云々ト  
 言ハレテ居リマス、此御演說ニ依リマスレバ、重イ負擔デモ重クハ感ゼナイヤウニスルト云フ  
 御方針トモ思ハレマス、政府ノ力ヲ藉ラズシテ、農村自ラ行フ所ノ今日餘力ガアルトノ御觀察  
 デアルカ、或ハ負擔ノ輕減ハ圖ラズトモ、之ニ代フルニ他ノ振興策ヲ執ルト云フ御方針デア



カハ判然シマセヌガ、此御答辯カラ見レバ、政府ハ振興ノ方法ヲ御指導下サルニ止ルモノ、如キ感シガ致シマスノデゴザイマス、是ガ根本ニ於テ私共ト見ル所ガ異テ居ルノデゴザイマス、今日ノ農村ハ如何ナル良イ振興策ガアリマシテモ、資金ヲ要スルコトハ到底自力ニ依テ爲シ得ヌノデアリマス、全ク力ハ盡キテ居ルノデアリマス、農村振興ヲ説ク者ハ、何時モ農村ノ状態ガ瀕死ノ境ニ在ルト説キマスガ、瀕死ノ境ニ在ルトスレバ、其瀕死ノ者ガ到底一人デ藥ヲ買フコトモ出来ナケレバ金モ無イ、全クソレヲ認メタモノナラバ、藥ヲ購フテ救済スルガ當然ノ道デアラガ、政府ガ瀕死ノ境ト認メテ居ラレヌト云フコトハ、此政策ノ上ニ於テ自ラ判断ガ出来ルノデゴザイマス、是ハ見様ニ依テ異ナル點デ致方ガナイガ、私共ノ見ル所デハ農村ガ斯クマデ困憊シタノハ、農村ソレ自身ガ招イタ罪デアアルマイト思ヒマス、全ク是ハ現内閣ニ限リマセヌガ、歴代ノ爲政者ガ方針ヲ誤ッタ結果ガ此ニ至ラシメタモノデアッテ、之ヲ言ヒ換ヘテ見レバ、政府ハ都市ニ偏重シテ町村ヲ輕視スル結果ガ此ニ至ッタモノデアラウト思フノデゴザイマス、其重ナル原因ハ繰返シ申シマスガ、即チ義務教育費ノ如キハ國庫ガ當然負擔スベキモノデアアル、各與黨ノ諸君モ是ハ認メテ居ルノデアアル、政府モ之ヲ認メテ居ルノデアアル、然ルニ之ヲ町村ニ賦課シタル結果ガ今日ノ疲弊ヲ招イタノデゴザイマス、農村振興ハ政府ハ全ク文字通りニ考ヘテオキデニナルヤウデアアル、在來ノ状態ヲ一層振ヒ興スルノ政策ガ振興ノヤウニ御考ニナッテ居ルヤウデアアルガ、私共ノ見ル所ハ十年以前ノ境遇ニ復活スレバソレ宜イノデアアル、今日ノ如ク農村ハ十年以前ニハ困憊ハ致シテ居リマセヌ、農村ノ今日ノ塗炭ノ苦ミヨリ救ヘト云フノガ眼目デアリマス、振興ト云フヨリモ、寧ロ救済ト云フ言葉ガ今日ノ状態ニハ當倣ッテ居ルモノデアラウト思ヒマス、實ニ衣食住ノ點カラ見マシテモ、文化ノ施設關係ヨリ見マシテモ、國民中感ムベキ者ハ農民デアリマス、重ネテ申上ゲマス、農民ハ實ニ感ムベキ状態ニ在リマス、世ノ中ニ社會主義ヤ共產主義ノ聲ノ起ルノモ忌憚ナク私ガ申シテ見レバ、皆政府ノ施設ガ誤ッタ結果誘致スルモノト思ヒマス、同時ニ農村ニ對シテモ此場合救済政策ヲ施サレバ、國家ノ前途ニ不祥事ノ起ラヌトモ保シ難イト思フノデアリマス、是ハ最モ爲政者ノ御注意アルベキ事ト信ジマス、次ニ質サントスル事

ハ農村振興ニ充當スル財源ノ有無ノ點デアリマス、吾ミハ政府ニ向テ直ニ農村振興ノ政策ヲ立テ、其經費ハ追加豫算トシテ當議會ニ提出セラレシコトヲ望ムニ於テハ、其財源ヲ質スコトハ肝要デアラウト思ヒマス、吾ミハ大正十四年度ニ於テハ二千萬圓以上ノ餘裕アルコトヲ斷言シテ憚ラヌ所デゴザイマス、此確信ノ下ニ農村振興策ノ一部ト謂フベキ義務教育費國庫負擔法中改正法律案ヲ提出致シタノデゴザイマス、然ルニ議會開會ノ劈頭ニ提案ヲ致シマシタル案ハ、二月三日ニ漸ク上程サレマシテ、提案者ノ説明ハ之ヲ大要ニ止メ、財源論ハ後ノ贊成演説者ニ譲ルト言明サレタノデアリマス、之ニ代ッテ登壇サレタ所ノ高田松平君ハ平素ノ長廣舌ニ引換ヘテ演説ニ要シタル時間ハ僅ニ五分間、其反對セラレマシタル理由ハ、提案者ノ説明ニ財源ヲ説カレザルニ在ルモノ、如クデアリマシタ、仍テ吾ミハ同君ノ降壇ヲ待ッテ贊成ノ討論ニ依テ大ニ其財源ノ有ルコトヲ論ゼント期シタルニ、高田君ノ演説ガ終ルノ瞬間ニ、突如トシテ議長ヨリ討論終結ノ出デタルコトノ報告ガアリマシタ、吾ミ惟フニ討論トハ贊否ノ議論ヲ闘ハスルコトガ討論ナリト信ズルノデゴザイマス、贊成演説通告者ハ十數名ノ多キニ上ッテ居ルニモ拘ラズ一名ノ登壇ヲモ許サズシテ、反對側ニノミ勝手ノ議論ヲ吐カセテ、之ヲ反駁スベキ機會ヲ與ヘズ、多數ヲ恃ミテ其動議ヲ可決スルノミカ、國民ノ利害休戚ニ關スル重要問題ヲ委員會ニ付託モセズ、即決否決シタルコトハ諸君モ御承知ノ通りデアリマシテ、吾ミハ確信スル財源論ヲ唱ヘル機會ハ失ッタノデアリマスガ、併シ吾ミガ有リト主張スル其金ハ、今尙ホ政府ニ餘裕トシテアルノデゴザイマスルカラシテ、義務教育費國庫負擔増加モ農村振興ノ一部デアレバ、他ノ振興策ニ充當スルコトヲ望ム爲ニ、茲ニ諸君ガ如何ニ色々御批評ニナッテモ、私ハ財源論ヲ述ブルノ必要ガアルト信ズルノデゴザイマス、此財源ガ有ルト云フコトヲ確實ニ示シマスルニハ、大正十四年度ノ豫算歲入ヲ明ニスルヨリ途ハナイノデアリマス、或ハ私ノ述ブル事ハ同僚ヨリ他ノ機會ニ於テ述ベタコトモアリマシテ、重複スル事ガナイトハ申サレマセヌガ、本案ヲ説明スルニハ此財源ガ最モ骨子デアリマス、財源ナカリセバ如何ニ吾ミ政府ニ迫ルト雖モ施ス途ハナイノデアアルカラシテ、此場合ハドウシテモ今一應財源論ヲ明ニシテ置カケレバナラナイト存ジマス、震災前ノ大正



十一年度ノ歳入豫算ニ比シテ、大正十四年度ノ歳入豫算ハ約一億萬圓少ク見積ツテアリマスルガ、大正十二年度ノ豫算ハ震災後ニ於テ更正サレマシテ、震災ノ爲ニ歳入ニ減少ヲ來ス額ガ四千萬圓ト見積ツテ居リマス、其實行豫算ハ大正十二年度ニモ踏襲セラレ、其後歳出追加五千萬圓ノ協賛ヲ與ヘタノデアリマスカラ、隨テ歳入ニ缺陷ヲ生ズベキ筈デアリマスルガ、政府ハ大正十三年度ノ歳入豫算ニハ不足ヲ生ゼスト言明致シテ居ルノデアリマス、果シテ然ラバ五千萬圓ハ震災打撃ガ復興シテ納稅資力ガ恢復シタモノカ、豫算編成ノ根本ニ於テ歳入見積リノ過少デアッタコトノ二途ヨリ外ニハナイノデアリマス、況ヤ今日ノ純然タル剩餘金ノ一億二千萬圓ノ大部分ハ大正十二年度ノ剩餘金デアリマス、ソレニ何ゾヤ大正十四年度ノ歳入豫算ハ前年度ニ比シテ僅ニ三千二百萬圓ノ増加ニ止メラレタコトハ、餘リ過少ノ見積リデアラウト思ヒマス、ソレ以上ニ歳入ヲ二千萬圓増サレテモ大正十一年度ノ歳入ニ比シテ八千萬圓少イノデアリマス、ソレコレヲ推シテ考ヘテ見マスレバ、大正十四年度ノ歳入ニ二千萬乃至三千萬ノ餘裕ノ生ズルコトハ疑フノ餘地ガ無イデアリマス、併シ是ハ或ハ抽象論デアルト云フ護リガ起ルカモ知レヌデ、茲ニ私ハ進ンデ確ト認メマスル歳入ノ餘裕ノ點ヲ指摘致シマス、純剩餘金二億二千萬圓ハ大正十五年度以後ノ歳入不足ニ補填セラル、コトニナツテ居リマス、此金ノ利息ト云フモノハ何レニ計上シテアルノカ私ニハ見當ラナイノデゴザイマス、此金ニ對スル利息ヲ年六末ノ利率ト致シマシテ、之ヲ一箇年半見積リマシテモ、之ニ依テ生ズル利息ハ一千九百八十萬圓ト云フ金ニナルノデゴザイマス、今一ツ確實ト信ジマスル點ヲ述ベマス、今期議會ノ豫算内示會ニ私共ニ渡サレタル、大正十四年度豫算綱要中ノ大正十三年度歳入歳出實行豫算額調ノ、前年度剩餘金繰入ノ改正實行豫算額ハ、六千九百四十七萬七千九百八十圓ト掲ゲテアリマス、其後本年ニナツテ豫算案ト共ニ出サレマシタ大正十四年度豫算參考書ナルモノニハ、大正十四年度ニ於ケル前年度剩餘金ノ計算中ニ、大正十二年度ヨリ繰越スベキ純剩餘金ノ中、大正十三年度實行豫算ノ財源ニ充當シタル金額トシテ示シ居レル額ハ、七千九百四十五萬四千八百八十八圓ニナツテ居リマス、之ヲ豫算綱要ノ金額ト對比致シマスレバ、九百九十七萬二千五百五圓ノ差ガ生シマス、是ハ豫算

内示ノ後ニ於テ大正十三年度へ繰越ヲ多ク爲サレタモノデアツテ、之ニ最終ノ差引殘餘金二十一萬三千七百七十二圓ヲ加ヘマスレバ、茲ニ一千八十八萬六千二百七十六圓ト云フ剩餘ガ生ズルコトモ明デアリマス、今一層確實ナリト信ジマスル財源ハ酒造稅ニアリマス、大正十四年度ノ酒造稅金ノ見積ト、大正十一年度ノ稅金ト比較シマスレバ、大正十四年度ハ二千五百萬圓少イノデアリマス、又大正十二年度ニ比較致シマシテモ、大正十四年度ハ二千五百萬圓少イノデアリマス、更ニ大正十三年度ノ豫算ト比シマシテモ、大正十四年度ハ二千五百萬圓少イノデアリマス、既往三箇年ニ對比シマシテ平均二千四百萬圓ガ十四年度ニハ減少シテ見積ツテアルノデゴザイマス、豫算委員會ニ於テ酒造稅ノ歳入見積ノ少イコトヲ質問シタル其時ニ、政府ノ答辯ハ酒造業者ガ大正十四年度ニハ酒造稅率ヲ増加セラレルコトヲ見越シテ、大正十三年度ノ釀造石數ガ増シテ居ルモノデアルト云フ豫想カラシテ、大正十四年度ニ於ケル造石數ヲ一割三分減少スルモノト云フ見込デ、歳入豫算ヲ立テタモノデアルト云フ御答辯デゴザイマス、吾々ハ酒造當業者ニ問ヒ質ス所ニ依レバ、大正十四年度ハソレ程釀造石數ハ減ラナイト云フコトデアリマスルガ、此點ハ假ニ政府ノ答辯ヲ信ジマシテ、果シテサウ云フコトナレバ大正十四年度ニ一割三分減シタル其石數ト云フモノハ、大正十三年度ニ見越シテ多ク造ツテ居ルト云フコトガ、一點疑ノ餘地ガ無イノデゴザイマス、殊ニ酒ノ釀造時期ト云フモノハ、大概十一月カラ翌年ノ三月頃マデニ終ルモノデゴザイマシテ、大正十三年度ノ歳入トナルベキモノハ、今申ス通り大正十二年ノ冬ヨリ大正十三年ノ春頃マデニ釀造シタルモノニ對シテ、課稅ヲスルモノデアリマスガ故ニ、大正十四年度ノ豫算ヲ編成スル頃ニハ、既ニ大正十三年度ノ釀石數ノ増加シテ居ル其程度ト云フモノハ最早明ニナツテ居ルノデゴザイマス、然ルニ政府ハ其當時既ニ之ヲ知ツテ居ナガラモ、大正十四年度ニ見積リヲ減ジタル所ノ此二千百萬圓ト云フモノハ、當然十三年度ノ決算ニ増加スルコトヲ知リナガラ、之ヲ何等知ラザルモノ、如ク、故意カドウカ知リマセヌガ、之ヲ明ニセナイノハ不深切デアラウト思ヒマス、吾々ハ此點ヨリ見テ大正十三年度ノ酒造稅ガ、二千百萬圓乃至二千六百萬圓ノ豫算面ヨリ增收スルコトハ當然デ、是ハ一點疑フ餘地ガナイト信ジマス、尙ホ大正十五年度以



後ニナリマスレバ、大正十一年度ノ歳入額程度ニ回復スルモノト信ジマス、隨テ剩餘金ヲ補填スル途モナクナル、假ニ政府ノ豫定ノ通り補填ノ要アリトシマシテモ、歳入不足ニ充當ノ概計表ノ中ニハ、剩餘金ノ不足補充ニ保留スル必要ナクモ、支出モ揭ゲテアルト思ヒマス、此事ハ見ヤウノ相違デアリマスルカラシテ、此場合多クハ述ベマセヌガ、元來濱口藏相ハ手堅イ政治家デアリマシテ、野黨ノ時代ニハ政府ノ歳入見積ガ多キニ過グルト論難サレタルコトハ毎度ノコトデアリマス、然ルニ一年トシテ不足ヲ見タコトハアリマセヌ、其濱口藏相ガ御編成ニナツタ豫算デアリマスルカラ、歳入ハ思切ッテ内輪ニ見積ッテアルト云フコトモ窺ハレルノデアリマス、殊ニ舊臘ノ豫算内示會ノ時ニ同僚ヨリ義務教育費國庫負擔ノ増加ヲ大正十四年度ヨリ施行スルノ意思アリヤ否ヤヲ質問シタル時ニハ、更ニナイト答ヘラレタ、進ンデ大正十五年度ハ如何ト質問ヲ致シマシタル其答辯ニモ、同ジク十五年度ニモ財源ハナイト御答ニナリマシタ、幸ニ議會ガ開ケマシタ後ニハ、大正十五年度ヨリ義務教育費國庫負擔増加ヲ行フト御聲明ヲセラル、ニ至リマシタノハ、農村ノ爲ニ喜ブベキコトデアリマスルガ、是トテモ一、二箇月ノ間ニ決シテ此財源ガ自然ニ湧出タモノデモ何デモナイ、議會ガ開カレテ後ニ十五年度ヨリ支出スル見込ガアルトスルナラバ、豫算内示會ノ時ニモアツタモノデアアル、茲ガ即チ現内閣ガ農村振興、其一部ノ義務教育費國庫負擔増加ノ如キニハ重キヲ置イテ居ナイ所ノ證據デアアル、併シ義務教育費ヲ増加シマスルモ、農村振興ノ一部デアリマスカラシテ、今ヤ義務教育費ハ否決ノ運命ニ至リマシタガ、其金ヲ農村振興ニ充當ヲ致シタナラバ、其恩惠ヲ受ケル所ノ大部分ハ等シク農村デアリマスルカラシテ、當然義務教育費ハ當議會ニ計上セラルベキモノデアリマシタノガ、斯ウ云フ結果ニナリマシタノデアアルカラシテ、ドウカ此點ハ諸君モ御賛成ヲ願ヒタイノデゴザイマス、次ニ質サントスル事ハ現内閣ノ閣員中憲政會出身ノ大臣諸公ハ在野當時ニ絶叫サレタル主義政策ヲ、朝ニ立ッテ行ハレナイ其責任ヲ此場合明ニシマシテ政府ニ御再考ヲ望ムノデアリマス、農村振興ヲ圖ラントシマスルニハ、先ヅ以テ公課負擔ノ爲ニ疲弊困憊ニ陥ツタ其負擔ヲ輕減スルコトガ急務デアアルト云フコトハ、憲政會ノ諸君ガ多年御主張ニナツタコトデアリマシテ、吾ト雖モ之ニハ同感デアリマス、憲

政會ハ如何ニ御熱心デアッタカト云フコトノ沿革ヲ是ヨリ述ベヤウト思フノデアリマス、農村ガ近年來程ニ困窮セナイ其以前ノ大正ノ初ニ當リ、桂公ノ組織サレタ憲政會ノ前身タル同志會ノ時代ヨリ、負擔輕減ハ黨ノ旗印トサレマシテ、地租輕減、營業稅全廢ヲ絶叫セラレタノデアリマシテ、國民ハ一時其聲明ニ動かサレテ、輿論ハ益盛トナリマシテ、遂ニ何人ノ教唆シタモノデアッタカ、地租輕減又ハ營業稅全廢ニ反對ノ議員ニ對シテハ、辭職ヲ勸告スル者モアリ、商業取引關係ヲ斷絶スル者モアリ、議員ニシテ會社重役デアレバ、株主ヲシテ其重役ノ排斥ヲ圖リ、銀行重役デアレバ、其銀行ニ取付騒ギヲ起サセ、實ニ惡辣手段ヲ巧妙ニ行ツタノデアリマス、實ニ此手段ニ依テ、時ノ政府及政友會ト云フモノハ苦メラレタモノデゴザイマス、其作戰ガ圖ニ當リマシテ山本内閣ニハ民心ガ離レ、加フルニ「シーメンズ」事件デ倒閣ヲ致シタノデゴザイマス、其後繼ニ清浦内閣ノ組織ヲ見ントスルニ方リマシテ、絶對多數黨タル政友會ノ意嚮ガ反對ニ傾キマシタルガ爲ニ、流産ニ終リマシテ、意外ニモ大隈内閣ト云フモノガ出來タノデゴザイマス、其當時ノ同志會即チ憲政會ノ前身タル同志會ハ與黨トシテ、現在ノ加藤首相、若槻内相、武富時敏氏ノ如キガ閣僚ニ加ハラレタノデアリマス、是ニ於テ國民ハ政府與黨ガ在野ノ時ニ主張セラレタ地租輕減、營業稅全廢ノ公約ヲ追ラントスル其氣勢ノ擡頭スルニ機先ヲ制シテ、歐洲戰亂ノ勃發ヲ幸トシテ之ニ參加シ、國民ノ租稅輕減運動ヲ戰爭ニ轉嫁セシメント圖ツタモノデアリマス、聯合軍ニ我國ノ加入ヲ申込ミタル時ニハ、戰爭ノ初メデアリマシテ、聯合軍ノ勢ハ好イ、日本軍ノ加入ヲ辭退シタニモ拘ラズ、政府ハ内政問題ニ利用スル目的デアアル爲ニ、不利益ナル條件ヲ附シテ戰爭ニ參加シタノデアリマシタ、アノ時ニ急ガズニ置イタナラバ、其後間モナク聯合軍ノ形勢ガ惡クナツタ時ニ、彼カラシテ加入ヲ求メラレテ參加シタナラバ、有利ノ條件ガ得ラレタノデアリマシタモノヲ、政權ヲ把持スル爲ニ我國ヨリ戰爭ノ押賣ヲシテ、不利益ナル條件ノ爲ニ講和ノ時マデ全權大使ノ列國ノ談判ニ苦マレタノハ實ニ惜ムベキ事デアリマシタ、而シテ帝國議會ニ在リマシテハ、政友會ヨリ在野當時ニ主張サレタル負擔輕減ノ實行ヲ迫ルハ當然ノ事デアリマスルガ故ニ、其對抗策ニ苦ミマシタル折柄ニ、其議會ニハ陸軍二個師團増設問題ガアツテ、政友會ノ主張



ハ、國防ノ設備ニハ絶對ニ反對スルモノデナイガ、歐洲ノ大戦亂ノ實驗上ヨリ、武器ノ改良、軍隊ノ編制等、何レ國防方針ニ變化ヲ來スコトヲ認ムルノミナラズ、假想トスベキ敵國ハ孰レモ聯合軍ニ加ハリ、國防上ニ憂フル點ナケレバ、今暫ク歐洲戰亂ノ經過ヲ見ルマデ延期スベシト云フ、極メテ妥當ナル意見ヲ唱ヘタモノデアル、然ルニ政府ハ輕減論ノ起ルコトヲ虞レマシテ、一面ニハ政友會ノ絶對多數ヲ破ラントシテ、政友會ハ國防ニ反對スルモノトノ理由ノ下ニ議會ヲ解散シタノデアル、其當時ノ大臣諸公ガ現内閣ノ總理大臣、若クハ現内務大臣デアルノデス、此人ノ内閣ニ依テ今ヤ陸軍四個師團ヲ減ジ、之ニ依テ生ズル金ヲ兵器改良費ニ充當スルコトノ政策ヲ採ラレタノデアリマスルガ、實ニ是ハ諸君ガ如何ナル感ジヲ持タレルノデゴザイマセウカ、餘事ニ涉リマスカラ此點ハ多クハ論ジマセヌガ、其解散ニ依テ行ハレタ臨時選舉ニ於テハ、憲政會ノ諸君即チ政府黨ハ、又モ地租輕減營業稅全廢ヲ再ビ旗印トシテ選舉民ノ同情ヲ買ッタノデアル、質朴ナル農民ハ之ヲ信ジタノデアアル、偶疑フ者ガアレバ其當時ノ辯明トシテ曰ク、政友會ガ多數ノ力ヲ阻止シタノデアアル、此選舉ニ政友會ヲ破ッテ多數ヲ贏チ得タナラバ、必ズ負擔ノ輕減ヲ實行スルト聲明シタモノデアル、此場合ニ國民ガ信ズルノモ亦無理カラヌノデアアル、何トナレバ只今述ベタ通り大騒ギヲシテ、政友會ノ議員ニ對シテ負擔ノ輕減ニ贊成ヲセヨト迫ッタ時ニ、政友會ノ議員ハ國家本位デ黨略ヲ離レテ、斷乎トシテ其說ヲ跳付ケタモノデゴザイマス、之ガ爲ニ總選舉ニ臨ンデ政友會ガ阻止シタモノデアル、ト云フコトヲ、國民ノ信ズルガ當然デアリマス、私ハ當時政友會ニ居リマシタガ爲ニ能ク知ッテ居ルノデアアル、實ニ與黨ノ責任ヲ他黨ニ轉嫁シテ其場限りニ民衆ニ迎合シタ戰略ヲ執ラレタト云フコトハ如何ナルモノデゴザイマセウカ、勿論其總選舉ニハ大干渉ハアリマシタガ、兎ニ角政友會ヲ解散前ノ二百名以上ヨリ百名餘ニ蹴落シテ位置ガ轉倒シタノハ、全ク負擔輕減論ニ依タモノデアアルノデゴザイマス、是ニ於テ大限内閣ハ安全トナリマシタ、議場ニ於テモ與黨ガ多數ヲ制シテ居リマシテ意ノ如クナッタモノデアアル、誠意ガアッタナラバ此時ニ既ニ地租輕減、若クハ營業稅全廢ノ實現ヲ圖ルベキガ當然デアリマス、其時ノ政府ハ恬トシテ之ヲ顧ミナカッタノデアリマス、與黨諸君モ殆ド今日ノ如クニ之

ヲ咎メナカッタノデアリマス、國民ハ始メテ夢ガ覺メテ政府ニ實行ヲ迫レバ、是亦歐洲戰亂ニ藉口シテ、我が國民性ノ愛國心強キヲ奇貨トシテ、其責任ヲ免レタモノデアリマス、其當時知識階級ノ者在ッテハ、我國ガ戰爭ニ參加スベキ時期ノ到來前ニ、強テ加ハッタノハ此運動ノ豫防策デアッタト云フコトヲ知ッタガ爲ニ、遂ニ同志會即チ憲政會ハ、天下ノ信望ヲ失ッテ長ク野ニ在ルノ已ムヲ得ヌニ至ッタノデアリマス、其後大正六年六月、三十九議會ノ寺内内閣ノ時代ヨリ、又復憲政會ハ負擔輕減論ヲ唱ヘ出シタモノデアアル、就中義務教育費ニ對シテハ、三十九議會ニハ法律案ヲ出シ、委員會ニ於テ各派一致ノ建議案ニ改マッテ本會ハ無事ニ通過シテ、其建議ニ基イテ四十議會ニハ寺内内閣ヨリ義務教育費ノ提案ヲ致シタモノデアアルガ、其寺内内閣ハ憲政會ノ諸君ガ官僚内閣ナルガ故ニ、不信任ヲ唱ヘタ内閣デアアル、却テ不信任ヲ唱ヘラレタ内閣ガ、先以テ此義務教育費ノ國庫負擔ニ一千萬圓ノ皮切りヲ致シタノデアアル、併シ此寺内内閣ノ一千萬圓ヲ提案ヲ致サシメタ内容ハ、政友會ガ行ハシメタルモノデアアル、當時ハ吾々モ矢張政友會ノ一人デアッタノデアアル、兎モ角官僚内閣デモ是ダケノ事ヲシテ居ル、其後二回憲政會ト國民黨トハ聯合シテ、矢張教育費ニ對シテハ建議案ヲ出サレタノデアアル、其後第四十四議會以後ハ分離シテ、憲政會國民黨モ間斷ナク建議案ヲ出サレテ居ルノデアアル、其後四十六議會ニ於テ加藤友三郎男ノ内閣ニ依テ、義務教育費負擔三千萬圓増加ノ提案ヲサレタノデアアッテ、是モ議會ハ通過シテ今日ノ四千萬圓トナッタノデゴザイマスルガ、是モ政友會ガ内容ニ於テハ行ハシメタモノデアアッテ矢張當時ノ内閣ハ官僚内閣デアアル、而モ憲政會ノ諸君ハ超然内閣、官僚内閣トシテ反對シタ内閣デモ、斯ノ如ク義務教育費即チ農村振興ノ爲メニハ、相當ニ力ヲ盡シテ居ルノデアアル、義務教育費審議ノ其都度ノ演說若クハ建議案ノ理由書ヲ朗讀致シタナラバ、去ル三日ノ義務教育費國庫負擔法中改正法律案ニ對シテ反對スルコトハ出來ナイノデアアル、尙ソレノミナラズ諸君ノ良心ニ訴ヘテ見給ヘ、昨年ノ五月ノ衆議院議員ノ總選舉ノ場合ニ、諸君ハ候補者トシテ如何ナル演說ヲ致シテ居ルノデアアル、或ハ其以前ノ即チ一昨年ノ九月ノ縣會議員ノ總選舉ノ應援演說ニモ、諸君ノ中ニ矢張地方演說ヲセラレタコトガアルガ、何レモ說カレタル所ノ事ハ矢張義務教育費國庫負



擔增加、或ハ農村振興、地租輕減、營業稅全廢等ヲ絶叫セラレタモノデアッテ、一ツトシテ國民ノ即チ町村民ノ負擔ノ輕減ニ關係ナイモノハ、ナイノデアアル、尙又現内閣ガ成立後ニ開カレタル特別議會ニハ、農村振興政策ト云フモノハ毛頭見ルベキモノガナカッタ爲ニ、國民ハ一時驚イタノデアアル、然レドモ短期ノ議會デアルト、一面ニハ矢張諸君ヨリ堂々ト農村振興ニ關スル建議案ヲ提出セラレマシテ、其條項ノ中ニハ只今申ス第一ニ義務教育費國庫負擔增加ノ事ガ揭ゲテアッタノデゴザイマス、其他種々ナル振興政策モ絶叫セラレタノデアリマスルガ、是ハ幸ニ滿場一致デ通過致シマシタガ、其時ニ吾々ノ提案シタ農村振興案ヲ一蹴ニ葬ラレタ——事ノ是非ハ姑ク論ジマセヌガ、兎ニ角其當時ノ與黨ノ案ノミヲ可決セラレタ、其態度ニ依テ全ク政府ガ農村振興政策ヲ施ス下心ガアッタノガ窺ハレルノデアアル、均シク政友本黨ヨリモ提案シタル農村振興ノ問題ヲ故ラニ否決シテ、與黨ノ案ヲ可決致シタノハ、是ガ實現ノ結果ハ農村ニ對スル功名手柄ヲ憲政會、否チ與黨ノミニ之ヲ奪ハントシ、即チ野黨ノ力ハ藉リナカッタト云フ全ク手柄ヲ自黨ニノミ收メントスル考ヨリ、斯ウ云フ態度ニ出タモノデアルト想像ヲ下シタ、爲ニ却テ地方ニ於テハ愈來ル通常議會、即チ此議會ニハ積極的ニ農村振興政策ヲ立テラレルモノト期待シテ居ッタノデアアル、所ガ豈圖ランヤ期待ハ全ク裏切ラレタノデアリマス、實ニ現内閣ノ諸公ノ眼中ニハ、農村振興政策ト云フモノガ無カッタコトガ明ニナッタノデゴザイマス、但シ農相ノ御苦心ハ認メラレマスルガ、是トテ極メテ僅少ナモノデアリマシテ、總額二百五十萬圓ノ中、漁業、畜産、其他種々ノモノヲ控除シタナラバ、農業ニ直接關係ノアル金額ト云フモノハ僅ニ六十有餘萬圓デアリマシテ、今日ノ極端ニ窮乏ニ陥ッテ居ル農村ノ救済ニ何ノ效果ガアリマセウカ、以上述べマシタル所ノ事實ノ相違ノ無イ事ヲ私ハ茲ニ證明スル爲ニ、關係ノアル速記録ヲ全部讀ムコトハ頗ニ堪ヘマセヌカラ、茲ニ憲政會中ノ最モ罕ニ觀ル濱口藏相ノ、最近ニ於ケル輕減論ヲ常議場ニ於テ述ベラレタル演說ノ一部ヲ茲ニ讀ミマス、大正十二年ノ一月二十一日ノ官報デアリマス、本會ハ一月三十日ニ開カレタ、其時ノ速記デゴザイマス、地租條例中改正法律案、提出者安達謙藏君外四名、全黨員ノ贊成此地租條例ノ第一條中「四箇五」ヲ「二箇五」ニ、「三箇二」ヲ「一箇七」ニ改

ム、斯ウアルノデゴザイマス、次ニ附則トシテ「本法ハ大正十二年分地租ヨリ之ヲ適用ス」ト此外ニ營業稅法廢止法律案、醬油稅則廢止法律案、自家用醬油稅廢止法律案、織物消費稅法中改正法律案、此四ツニ對シマシテハ内容ヲ省略致シテ置キマス、此案ノ上程セラレタ場合ニ、濱口藏相ガ演說ヲサレマシタ其要點ヲ茲ニ朗讀ヲ致シマス、是ハ演說速記ノ中ノ最モ要點デアリマス、前ハ略シマス「是ヨリ減稅ヲ行フニ當ッテ何故ニ吾々ガ此五ツノ法律案ノ提案ヲ致シタカト云フ理由ニ付キマシテ、聊カ説明ヲ加フル必要ガアラウト思ヒマス、近來農村ノ人々ガ次第ニ減少ヲ致シマシテ、都會集中ノ傾向ガアルト云フコトハ、爭フベカラザル現象デアリマス、此現象ハ一面ニ於キマシテハ工業ノ隆盛ヲ意味スルモノデアリマスルガ、是ト同時ニ半面ニ於テハ農村ノ疲弊ヲ物語ッテ居ルモノデアリマス、農村ノ疲弊シテ居ルト云フ事實ハ、殆ド説明ヲ要シナイ程天下ニ明ナル事柄デアリマス、果シテ然ラバ如何ニシテ農村ノ振興ヲ圖ルベキデアリマスカ、固ヨリ我國ノ農業組織ガ其根柢ニ於テ近代ノ經濟組織ニ適合シナイト云フコトモアルノデアリマセウ、併ナガラ古來ノ因襲ニ依テ出來タ所ノ今日ノ我國ノ農業組織ヲ、一朝ニシテ根本ヨリ改造スルト云フコトハ、是ハ至難ノ事業デアリマス、今一ツノ原因ハ農業労働者ノ缺乏シテ居ル結果ト致シマシテ、農村ニ於ケル勞銀ガ高イ、是モ亦農村疲弊ノ一ツノ原因デアラウト思ヒマス、其原因ハ農業労働者ガ段々都會へ吸收ヲサレル、或ハ鐵道ノ敷設ニ、河川ノ改良ニ、港灣ノ修築、道路ノ修繕ノ如キ、政府ノ事業ノ方ニ吸收ヲサレマス結果ニ外ナラヌト思フノデアリマス、斯ノ如ク農村ノ疲弊ノ原因ハ一ニシテ止リマセヌ、煎ジ詰メテ申シマスレバ、畢竟全體トシテ農業其モノノ利益ガ少イ結果ニ外ナラヌト思フノデアリマス、此少イ利益ト云フモノヲ、小作人ト地主トガ分配ヲシナケレバナリマセヌガ故ニ、勞働爭議ガ頻々トシテ發生スルニ至ルノデアラウト思ヒマス、果シテ然ラバ農村ノ疲弊ヲ救済シテ之ガ振興ヲ圖ルニハ、何ト致シテモ農業ノ利益ト云フモノヲ増加スルト云フ外ニハ途ガ無イノデアリマス、「農業ノ利益ヲ増加シマスルニハ積極的ノ方策ト消極的ノ方策トガアリマセウガ、積極的ニ中シマスレバ所謂農村振興策ナルモノデアリマス、農村振興政策ニハ、固ヨリ種々ノ方法ガアリマセウ、例ヘバ負擔ノ輕減ヲ圖ッテ、ソレニ依



テ間接ニ農村ヲ振興スルト云フコトモアリマセウ、又農業家殊ニ中以上ノ農業家ニ向テ對人的ニ信用ヲ附セル爲ニ、産業組合ノ中央金庫ノ如キモノヲ設ケルト云フコトモ洵ニ宜シイ方法デアラウト思ヒマス、其他低利資金ノ供給ヲ潤澤ニスルト云フコト、或ハ適當ノ手段ニ依テ米穀類ノ價ヲ調節スルト云フコト、肥料農具ノ購入ニ付テ相當ノ便宜ヲ圖ルト云フコト、又農業教育ノ振興其他種々ノ手段ガアラウト思ヒマス、斯ノ如キ農村振興ニ關スル各種ノ方法ニ付キマシテハ、速ニ調査研究ノ上出來得ルダケ早ク實行ヲ致サセテ農村振興ニ資セナケレバナラヌト思フデアリマス、併ナガラ是等ノ方法ノ大部分ト云フモノガ實行サレマシテモ、其效果ヲ十分ニ發揮スルマデニハ相當ノ年月ヲ要スル譯デアリマス、到底農村疲弊ノ急ヲ救フ間ニハ合ヒ兼ルノデアラウト思ヒマス、ソコデ一面ニ於テハ農村振興ニ關スル諸般ノ方策ヲ研究致シ、之ヲ實行スルト同時ニ、速ニ適切ナル應急策ヲ行フト云フ必要ヲ感ズル譯デアリマス、其應急策ノ中デ、ドウ云フ事柄ガ最モ適切デアリ、且又最モ實行のデアルカト申シマスレバ、即チ地租輕減ガ是デアリマス、吾々ガ地租輕減ノ主張ヲ致シマス所以ノモノハ、純然タル應急策ニ外ナラヌデアリマス、取敢ヘズ此應急策ヲ行ヒマシテ、幾分タリトモ農民ノ疲弊ヲ救フト同時ニ、前申シマシタ如キ農村振興ノ政策ヲ實施致シタイト思フデアリマス、是即チ吾々ガ法律案ヲ提出致シマシテ、大正十二年ノ地租ヨリ之ヲ實施致シタイト云フ所以デアリマス、然ルニ政界ノ一部ニハ地租委讓論ト云フ議論ガアリマシテ、相當ニ有力ナル方面ニ依テ唱道サレテ、居リマス「此場合——此地租ト云フ所デ騷擾ヲ極メテ居ルヤウデス、續イテ矢張濱口雄幸君ノ續デアリマス」此地租委讓ニ付テハ、營業稅トノ權衡モアリマス、其他租稅全體ノ組織並ニ體系ニ關スル重大問題モアルバカリデナク、新ニ少カラザル財源ヲ要スル關係モアリマスルガ故ニ、輕シク決定ヲ致スベキ問題デハアリマセヌ、ソレ故ニ地租委讓ノ問題ハ之ヲ一般ノ稅制整理ノ問題ニ讓リ、此場合ハ應急的ノ地租輕減ヲ行フ外ハナイデアリマス、吾々ハ地租ノ輕減ヲ主張スルト同時ニ、營業稅ノ根本的改正トニ竝負擔ノ輕減ヲ主張スル者デアリマス、其理由ニ付キマシテハ、既ニ法律案ノ理由書ニ於テ詳シク述ベテアリマスルガ故ニ、茲ニ之ヲ繰返スノ必要ヲ認メマセヌ云々トアルノデゴザイマス、今讀ミマシタ濱口

藏相ノ御演說ハ、藏相ハ固ヨリ閣員諸公ニ於キマシテモ、是ハ御否認ハ出來ナイモノト思ヒマス、私ガ之ヲ詳シク述ベマシタ所以ノモノハ、此御演說ノ通りノ政治ヲ現内閣ガ爲サレバ宜シイノデアルカラ、之ヲ詳シク述ベタノデゴザイマス、是ガ行ハレタナラバ、此通りノ趣旨ニ依テ政治ヲ行ハレタナラバ、國民ハ満足致シマセウ、此御演說ヲ現内閣ガ顧ミラレナイモノハ何レニ在ルカ、今ハ農村ノ困憊ヲ認メナイト云フニ在ルカ、或ハ農村ノ疲弊ハ認メテモ、都市ニ偏重スルノ餘リニ、農村政策ヲ施スノ財政ニ餘裕ガ無イト云フデアアルカ、ソレトモ又復大隈内閣當時ノ例ニ倣ッテ、只今與黨ノ諸君ヨリモ言ハレル如ク、震災ノ復興ニ藉口スルノデアアルカ、震災ノ復興ニ藉口セラレマシテモ、震災復興固ヨリ是ハ必要デアアル、必要デアルト認メタガ故ニ、關東ノ一地方デアアル、全國的ニ見レバ一部ノ此震災ニ對シテモ、幾億萬圓ト云フ巨額ヲ吾々ハ協賛ヲ與ヘテ居ル、實ニ此負擔ノ爲ニ農村ハ苦ンデ居ル、泣イテ納稅義務ヲ盡シテ居ルノデアアル、震災復興ノ方ハ今ヤ其緒ニ就イテ居リマス、現ニ震災後ニ此帝都ノ土地ガ益暴騰スルニ鑑ミマシテモ、明デアアルガ、農村ノ土地ハ今日マデハ半額若クハ三分ノ一ニ下落致シテ居ルノデアアル、都市ト農村ト此有様ハ霄壤ノ差ガアルノデアアル、私ハ過ル第四十七議會ノ時ニ復興費ノ問題ノ外ニハ涉ラヌト云フ各派ノ申合モアリマシタガ、之ニ服從セズシテ政府ニ私ガ質問ヲ致シマシタノハ、全ク政府ハ固ヨリ政黨ノ有力ナ諸君ハ都市ニノミ重キヲ置イテ、瀕死ノ農民ヲ閑却セラレテ居ル嫌ガアリマシタガ故ニ、之ヲ憂ヘタノデアリマスガ、果シテ私ノ憂ヘタ通りノ今日成行ニナッテ居ルノデゴザイマス、時代ガ違フ、震災後ノ今日デアルト云フコトヲ與黨諸君ノ口ヨリ只今屢耳ニ致シマシテゴザイマスガ、然ラバ此濱口藏相ノ御演說ト云フモノヲ取消シテ反古ニスルノデアリマスカ、假ニ之ヲ取消シテモ、昨年ノ五月ノ總選舉ニ諸君ガ唱ヘタ主義主張ト云フコトハ、國民ハ能ク知ッテ居ルノデアリマス、之ニ背イタナラバ諸君ハ茲ニ批評スルノ勇氣ヲ以テ、選舉民ニ向ッテサウ云フ態度ヲ執ルノ勇氣ガアリマスルカ、アルナラバ都市ノ人デアアル、都市ヲ選舉區トシテ居ル人デアアル、農村ヨリ選出サレタ御方ニ於テハ此議場ノ態度ト、選舉區ニ於ケル態度トハ約變スルコトハ亦明デアアル、現内閣ノ總理大臣ハ一面ニハ憲政會ノ總裁デアアル、自己ノ率



キル黨員ガ、第四十九議會ニ於テ農村振興ニ關スル建議案ニ、義務教育費國庫負擔問題ヲ初メ種  
種ノ條項ヲ列ネテ提案シタルノデアアル、到底政府ガ實行シ能ハヌト認メタナラバ、其提案ヲ何故ニ  
其當時ニ止メナカッタモノデアアルカ、之ヲ默認シタル以上ハ、政治道德ノ上ニ於テ當然此議會ニ  
建議ノ趣旨ニ副フベキ政策ヲ立テ、協賛ヲ求ムルガ立憲政治ガ常道デハナイカ、然ルニ之ヲ行  
ハザルノミカ、此議會ニ於テモ只今現ニ重ネテ、與黨諸君ヨリ農村振興ノ建議案ヲ提出セラレタ  
ノデアアル、荒川君ノ御説明ニ依レバ、冒頭ニハ現内閣ニハ如何ニモ一點非難スベキ所ノ無イ政治  
ノヤウニ謳歌サレタモノデアアル、而シテ理由ヲ——漸次論旨ヲ進メラル、ニ應ジテ、現内閣ノ政  
治ニ慍ラヌト云フコトガ明ニ現レ來タノデハナイカ、洵ニ矛盾撞著トハ、此事デアラウト思フ、  
政府ガ四十九議會ニモ其建議案ヲ認メナガラ行ハナイ、之ヲ私ハ官僚内閣、超然内閣ナラバ斯ノ  
如キ議論ハ致シマセヌ、實質ハ兎ニ角内閣諸公、或ハ與黨ノ諸君ハ自ラ政黨内閣ト稱シテ居ル、  
而シテ内閣總理大臣ハ與黨ノ中堅タル憲政會ノ總裁デアアル、其總裁ガ自黨ノ率キル黨員ヨリ建  
議案ヲ出ス場合ニ於テ、到底實行シ得ラヌト思フモノナラバ、何ガ故ニ之ヲ默認シテ置クノデ  
アルカ、一度ナラズ二度マデモ默認スルトハ何タル行動デアアルカ、之ヲ無遠慮ニ私ハ率直ニ評シ  
テ見ルナラバ、全ク實行ノ誠意ハ無イノデアアルガ、唯選舉區民ニ對スル申譯の口實ノ爲ニ、已  
ムヲ得ズ之ヲ不問ニ付シテ提案ヲサシテ置クモノデアラウト思フノデゴザイマシテ、洵ニ建議  
スル其人ノ唱フル所モ矛盾致シテ居レバ、政府ノ態度モ怪訝ニ堪ヘヌノデアアル、斯ウ云フ意味ニ  
於テ私共ハ此決議案ヲ提出致シタルノデアアル、最後ニ今一言ヲ致シマス、農村振興政策中ノ義務教  
育費國庫負擔增加問題ニ關シマシテ、全國民ハ大正十四年度ニ實現ヲ望ムノ餘リ、全國ニ涉ル所  
ノ町村長始メ、村、郡、縣ノ農會ニ關係ノ人々ハ、何レモ東都ニ集ッタノデゴザイマスノミナラズ、  
教育ニ關係ノ主ナル人々モ集ッタノデゴザリマシテ、此各方面ノ人ガ茲ニ義務教育費國庫負擔増  
加期成同盟會ヲ組織シタコトハ、諸君モ御承知デアリマセウ、然ルニ此運動タルヤ實ニ秩序整然  
トシテ、政府ハ勿論各政黨ヲ訪問シテ運動致シタルデアアルガ、加藤首相ハ之ニ面會ヲ許サレナ  
カッタノデアアル、併シ此運動モ遂ニ空シクナッタノデゴザリマス、私ハ其當時各方面ノ代表者タル

所ノ人々ガ集ッテ、心血ヲ澀イデ運動致シタルモノガ、首相ニモ此意味ガ徹底セナカッタコトハ洵  
ニ遺憾ニ感ジマスルガ故ニ、此場合ニ於テ其當時ノ宣言申合等ヲ御紹介ヲ致シテ置キマス、「宣  
言、義務教育費國庫負擔金額實現ノ急務ハ吾等之ヲ呼號スル事久シ世論亦翕然トシテ共鳴シ、  
今ヤ其熱烈ナル叫ハ全國ニ滿テリ、然ルニ現内閣ハ此輿論ヲ無視シテ顧ミズ、單ニ財政困難ニ藉  
口シテ是ガ實現ニ努メズ、直ニ之ヲ解決セントスルノ意氣ナシ、若シ目下ノ形勢ノ推移ニ任セン  
カ吾等ノ期待ヲ裏切り、國論ノ壓倒セラル、ニ至ラン事火ヲ賭ルヨリ明ナリ、吾等ハ到底現狀ヲ  
坐視スルニ忍ビズ、奮然蹶起シ、有ユル方途ヲ講ジ、飽迄其所信ノ遂行ニ向ッテ猛進シ、誓ッテ是ガ  
實現ヲ圖リ、以テ國論ノ光輝ヲ發揚センコトヲ期ス、敢テ天下ニ宣ス、大正十四年一月十九日、義  
務教育費國庫負擔増額期成同盟會」決議、大正十四年度ニ於テ義務教育費國庫負擔金二千萬圓  
増額ノ實現ヲ期ス」モウ一ツ此先ヲ注意シテ聽キ給ヘ、「申合一、義務教育費國庫負擔金二千萬圓  
増額ヲ十五年度ニ於テ實行スベシト云フガ如キ聲明ニハ一切耳ヲ藉ササル事一、本件ヲ十四年  
度ニ成立セシムルコトニ反對スル代議士ハ、將來絶對ニ之ヲ排斥スル事一、本件若シ十四年度ニ  
於テ不成立ノ場合ニハ其真相ヲ全國民ニ宣傳周知セシメ、徹底的ニ其善後策ヲ探究スル事」今一  
ツハ吾々ガ提案シタル所ノ義務教育費國庫負擔增加問題ハ國民ノ利害休戚ニ關スル重大問題デ  
アルニモ拘ラズ、委員會ニモ付託セズシテ即決否決スルト云フ報道ガ新聞ニ依テ傳ハリタル結  
果、此期成同盟會ハ更ニ覺書ヲ作成シテ、諸君ノ御手許ヘモ配付シタモノデアラウト思フガ、是  
亦義務教育費ハ既ニ否決サレタ今日ト雖モ、農町村ニ於テドレ程熱心デアッタカト云フ程度ヲ示  
ス事例トシテ、茲ニ此覺書ヲモ朗讀致スノデアリマス、覺書「義務教育費國庫負擔増額ニ關スル  
改正法律案ハ慎重審議ノ上政府並ニ與黨ノ本問題ニ對スル詳細ナル所見ト、的確ナル決議トヲ  
國民ノ前ニ聲明スル爲ニ之ヲ委員付託セラレタシ、是レ實ニ本問題ニ對シ誠意ヲ示スベキ當  
然ノ道ナリト信ズ、大正十四年一月二十九日、義務教育費國庫負擔金額期成同盟會、帝國聯合  
教育會、帝國農政協會、全國町村長會」斯ノ如ク全國民ヲ舉ゲテ義務教育費ノ國庫負擔增加ノ實  
現ヲ望ンダモノデアリマス、又當然此義務教育費國庫負擔スベキコトハ、吾々ノミナラズ與



黨諸君ト雖モ之ヲ認メテ居ル所デアアル、然ルニ先程モ申シマス通りニ繰返シ茲ニ申上ゲマスガ、諸君ハ政府黨デアアル、而モ多數黨デアアル、現内閣ガ成立シタ所以ノモノハ、加藤子爵、其個人ノ御信任ニ依テ大命ガ降下シタモノデアアルカ否ヤト云フコトハ、固ヨリ宮中ノ事デアアツテ、吾々窺ヒ知ルコトハ出來ヌガ、併ナガラ其御信任ヲ得ラレタ所ノ原因ナルモノヲ糺シテ見レバ、與黨諸君ハ選舉ノ結果多數ヲ得テ、其總裁ナルガ故ニ茲ニ大命ガ降下シタモノデアアラウト云フコトハ、畏多クモ想像スルニ難カラヌ事デアアル、然ラバ其與黨諸君ガ先刻以來申ス如ク、總選舉ノ場合ニ主義政策トシテ唱ヘラレタコトハ、即チ農村振興政策デアアリマセヌカ、或ハ先刻ノ批評ノ中ニ、濱口藏相ノ此演說ヲ以テ論ズレバソレハ震災前デアアルト云フガ如キ、即チ震災後ニ於テ全ク財政状態ガ異ツタト云フ、此際ニ隱レテ此責任ヲ遁レントセラル、ガ如キ諸君ノ口吻デアアルガ、總選舉ハ震災後ノ昨年ノ五月デアアル、其五月ニ至ツテモ農村ノ振興、或ハ國民ノ負擔ヲ諸君ハ絶叫致シタデアハナイカ、今震災ニ藉口スルモノナラバ、其當時國民ヲ欺イタト云フ結果ニナリハシナイカ、ソレヲ與黨諸君ガ建議案ヲ提出スルノハ、吾輩ハ誠意ヲ以テ建議案ヲ提出スル者デナイト思フ、首相ハ自己ノ率キル與黨諸君ニ依テ此政權ヲ獲得タ内閣ガ、其諸君ノ立場ノ苦シイ所ノ義務教育費若クハ農村振興ノ政策ヲ樹テナイト云フコトハ、是ガ立憲政治家ノ爲スベキ行動デアアルカ諸君ハ固ヨリ一國ノ選良デアアルガ、古イ所ノ言葉ニ譬ヘテ見ルナラバ、全ク一將功成リテ萬卒枯レルカノ如キ感ジガスル、諸君、茲デ吾輩ヲ批評スルガ如ク、現政府ノ農村振興政策ヲ行ハナイノハ、震災ノ爲ニ財政ニ餘裕ガ無イ、震災復興ノ爲ニ是ガ爲シ得ナイト云フガ如キコトヲ選舉區ニ向ツテ唱ヘルノ勇氣ガアリマヌルカ、震災復興ハ先刻モ申ス如ク吾々モ必要ヲ認メルモノデアアルガ、是ハ恰モ一時的ノ大負傷ヲ受ケタト同様デアアツテ、應急ノ手當ヲスレバ、自然ト體質其モノガ健康ナルガ故ニ、恢復モ又速カナルモノデアアル、農村ハ外形上ハ何等形ヲ現ハシテ居ナイケレドモ恰モ、呼吸器病患者ノ瀕死ノ状態ニ在ルガ如キ有様デアアツテ、之ヲ一地方ノ復興ノ爲ニ幾億萬圓ノ巨額ヲ投ジ、而モ此負擔ニ農村ハ苦ンデ居ル、而シテ農村振興ト雖モ義務教育費ノ如キハ僅ニ二千萬圓ノ金デアアル、其二千萬圓ノ金タルヤ、先刻來私ガ述ベルガ如ク明ニ財政ニ餘

裕ノアルモノデアアル、之ヲ濱口藏相ハ故意カ若クハ農村ヲ顧ミナイカ、獨リ濱口藏相ノミナラズ、現内閣ガ諸君ヨリ大多數ヲ以テ提出シタル建議案ガ、四十九議會ニ於テ全會一致ヲ以テ通過致シタル案ヲ認メナイト云フ事ガ、立憲政治ノ行動デアアルカ、斯ル院議ヲ尊重セヌ内閣ガ、立憲政治ト言ヘマスカ、全ク憲政會ガ非難攻撃シタル所ノ寺内内閣、若クハ加藤友三郎内閣ト雖モ、官僚内閣トシテ諸君ガ不信任案マデ出シタ其内閣ト雖モ、兎ニモ角ニモ四千萬圓マデ、今日國庫デ負擔スル所ノ提案ヲ致シタデアハナイカ、然ルニ何ゾヤ年中行事ノ如ク建議シ、先刻ハ一部ヲ讀ンダノデアアル、從來ノ演說ヲ悉ク此處デ晒シテ見タナラバ、此與黨ノ諸君ハ——主ナル諸君ハ如何ニ責任ヲ感ゼラル、デアアラウカ、餘リ責任ヲ感ゼザル行動デアアルマイカト私ハ思フノデアアル、眞ニ誠意ガアツタナラバ、形式的ノ建議案ト云フモノヨリモ、諸君ガ膝詰談判デ現内閣諸公ヲ動かセバ、易々タル問題デアアル、野黨ノ者ハ如何トモ、建議案若クハ決議案ニ依ルヨリ外ニ途ハ無イガ、與黨ノ諸君ハ政黨内閣デアアツテ、諸君ノ立場ハ其主義政策ニ依テ當選シ得テ、其結果ガ政權ヲ獲得タナラバ、何ゾ形式的ノ建議案ヲ出スノ必要ガアリマセウカ、私ハ農政研究會ノ諸君ト共ニ、此農村ノ爲ニハ建議案モ亦宜イト云フ考ヲ持ツテ居ッタガ、吾々ノ黨派ガ茲ニ決議案ヲ提案スル所以ノモノハ、最早國民ハ建議案ト云フガ如キモノハ、一片ノ形式ニ過ギナイモノデアアル、何等權力ノ無イモノデアアル、何時モ地方ノ選舉ノ度毎ニハ、負擔ノ輕減論ヲ振擧シテモ、憲政會系ノ人々ハ十年以前モ其通りデアアツタガ今回モ其通りデアアル、而モ震災後ニ於テノ選舉ニ於テモ、之ヲ旗印トシテ選舉ニ贏得タ者ガ、此所ニ於テハ震災ノ復興ト云フモノニ藉口シテ責任ヲ免レントスルガ如キ行動ハ、返ス——モ遺憾ノ至リデアアル、加之農村振興ノ一部ノ義務教育費ヲ審議スルニ當テ反對スル所ノ理由ハ財源論デアアル、財源ガ果シテアルヤ否ヤト云フコトハ、贊成者ヲシテ、徹底スルヤウニ十分其意見ヲ述ベル機會ヲ與フベキモノデアアルニモ拘ラズ、此財源論ヲ明ニ唱ヘタナラバ反對ノ理由ガ消滅スルガ爲ニ多數ヲ恃ンデ口ヲ開カシメズシテ、闇カラ闇ニ葬ルト云フヤウナ行動ハ、吾々政友本黨ニ對シテハ兎モ角、全國民ニ對シテ斯ル非立憲的ノ行動ヲ執ツテ、ソレデ此事實ヲ選舉區ニ於テ赤裸々ニ告白スルノ勇氣ガアリマヌルカ、其場合ニハ口ヲ拭ッ



テ何等此問題ニ觸レナイコトハ明デアリマス、斯クマデニ申シタナラバ諸君モ悟ル所ガアラウト思ヒマスルカラシテ、此程度ニ止メマス、願クハ此權威アル決議案ヲシテ、政府ニ直ニ實行セシメラレルヤツ、御賛成アラシテコトヲ望ミマス

次テ兩案ハ之ヲ一括シテ議長指名(十八名)ノ同一委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十七日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ(決議案ニ對スル委員會報告ハ第六項(四)參看)

三月二十四日本案及床次竹二郎君提出ノ農村振興ニ關スル決議案(第二項(四))ノ兩案ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長小西和君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

農村振興ニ關スル建議案外一件ノ委員會ノ經過及結果ヲ簡單ニ御報告致シマス、只今上程セラレマシタ荒川五郎君外十五名提出、農村振興ニ關スル建議案、並ニ床次竹二郎君外十四名提出ノ農村振興ニ關スル決議案、此二ツヲ一括シマシテ、委員會ヲ開キマシタ、先ヅ提案者カラ提案ノ理由ヲ承ッテ、其次ニ政府ノ此案ニ對スル所見ヲ求メマシタ、次ニ質問應答ニ入りマシテ、委員ト提案者及政府當局、此間ニ熱心ニ、又特ニ實質ニ質問應答ヲ重ネマシタコト數回デアリマス、質問應答ノ内容等ハ速記録ニ掲ゲラレテ居リマスガ故ニ、ドウゾ御覽ヲ願フコトニ致シテ省略ヲ致シマス、唯一言附加ヘテ置キタイノハ、床次君外十四名提出ノ決議案、此決議案ノ本文ノ内ニ農村振興ニ關スル施設極テ僅少ニシテ毫モ其根本ニ觸ル、モノアルヲ見ス」ト云フ一句ガアルノデアリマス、之ニ對シテ三土政府委員カラ逆襲的ニ提案者ニ對シテ質問ガアリマシテ、農村振興ト云フ極メテ地味ナ、極メテ眞面目ナ委員會ニ於キマシテ、稍波瀾ヲ起シ、活躍ヲ呈シタコトハ稀有ノ現象デアッタト申サナケレバナラヌ事柄デアリマス、併ナガラ要スルニ提案者ニ於キマシテモ、又特別委員ニ於キマシテモ、政府當局ニ於キマシテモ、農村ヲ振興シナケレバナラヌト云フ意見ニ

至ッテハ、大體ニ於テ意見ハ能ク一致シテ居リマシタ、故ニ質問應答、議事、總テ極メテ円滑ニ進行致シマシテ、遺憾ナキ經過ヲ遂ゲタノデアリマス、其結果ハ農村振興ニ關スル建議案ハ、政友本黨ノ委員諸君ハ反對ヲセラレマシタケレドモ、大多數ヲ以テ可決ヲ致シタノデアリマス、次ニ農村振興ニ關スル決議案、此方ハ政友本黨ノ諸君ガ御賛成デアリマシタケレドモ、大多數ノ委員ノ意見ト致シマシテハ、既ニ同一趣意ノ建議案ガ決議ヲセラレマシタ以上ハ、改メテ此決議案ヲ決議スル必要ハナイ、此理由ニ依テ、院議ニ付スルノ必要ナシト云フ事ニ決議ヲセラレタノデアリマス、此段御報告申上ゲマス

右ニ關シ加藤鏝五郎君、高田耘平君ハ政府ニ對シ質疑ヲ爲シ三土政府委員之ニ應答ス

加藤鏝五郎君ノ質疑

私ハ極ク簡單ニ一二政府ニ質疑致シタイト思ヒマス、農村疲弊困憊ノ狀ハ、吾々都市ニ住居致シテ居リマス者デモ、洵ニ同情ニ堪ヘサルコトデアリマシテ、從來ニ於テ米價調節、即チ米價ノ鈞上ゲノ如キモ出來ルダケ辛抱ヲ致シタノデゴザイマス、何ガ故ニ農村ガ昨今斯ノ如ク疲弊困憊致シタノデアラウカ、其因縁遠ク、又諸種雜多ナ原因ガアルデアリマセウガ、私共都市ニ住ミマス者ヨリ之ヲ極ク大雜把ニ見ル時ニ於キマシテ、農村ガ近代科學ノ應用ヲセザルト云フコトハ、少クトモ昨今ノ疲弊ヲ致シテ居ル所ノ主ナル原因ノ一ツデアラウト考ヘルノデアリマス、之ヲ都市製造工業ガ近代科學ヲ極度ニ利用シ、尙ホ及バザルヲ恐ル、ニ比較シテ見レバ、農村ハ昔ナガラノ作業經營ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、斯ノ如キ狀態デアリマシテハ、經濟上ノ弱者トナルノハ當然デアアルノデアリマス、私ハ先般大河内正敏子ノ「農村振興ニ關スル一考察」ト云フ小冊子ヲ讀ミマシテ、洵ニ同感ニ堪ヘナイノデアリマスガ、ドウシテモ農村振興ヲ爲スニハ、根本的ニ近代科學ノ應用ト云フ事ヲセナケレバナラナイ、大雜把ニ申シマスレバ、斯ウ云フ結論ニ至ルノデアリマスガ、政府ハ本年本院ニ二百五十萬圓ノ農村振興費ニ協賛ヲ求メラレタノデアリマシ



タガ、勿論此中ニ左様ナ事ヲ含マレテ居ルデアラウト存ジマスガ、吾々ハ甚ダ之ヲ物足ラナク感ズルノデアリマス、私ガ茲ニ政府ニ御尋致シタイコトハ、農村振興ハ斯様ナル立場ヨリ見マスレバ、今ノ儘デ唯彌縫姑息ノミヲ致シテ居ラル、ノニ於テハ、農村ハ何時マデモ振興セナイト思フノデアリマス、大局ヨリ見テ科學應用ト云フコトニ對シマシテ勿論考慮シテ居ラレルノデアリマセウガ、唯彌縫姑息、現狀ノ儘ニ於テ此振興ヲ圖ラレルヨリモ、寧ロ根本的ニ立直ス所ノ計畫ノ下ニ、同ジ著手致シマシテモ其立場ニ於テ爲サナケレバナラヌト思フノデアリマス、勿論是ハ資金ノ問題デアアルノデアリマスルガ、此邊ハ政府ハドウ云フ御計畫ガアルノデアアルカ、根本的ニセントスル御計畫ノ下ニ著手サレツ、アルノデアアルカ、現狀ヲ漸次對症的ニ振興サセントスルノデアアルカト云フコトヲ私ハ先ヅ御伺致シテ見タイト思フノデアリマス、之ニ對シマシテ、勿論如何ニ近代科學ヲ利用致シマシテモ、一年ノ收穫ヲ二回、三回トスルコトハ是ハ不可能デアラウト思フノデアリマスルガ、要ハ近代ノ科學ヲ利用シテ、勞力ノ餘剩——本日ノ與黨諸君ノ建議案ノ中ニモアルガ勞力ノ餘剩ヲ以テ他ノ副業ヲ試ミル、或ハ他ノ副業ニ於キマシテモ、科學ノ立場ニ於テ科學ヲ利用シ、機械力ヲ利用シテサウシテ、此副業或ハ小工業ヲ營ム、サウシテ收入ヲ増加サス、是ガ私ハ振興ノ一義デアアルト思フノデアリマス、本日ノ與黨諸君ノ建議ニモ、農村教育ノ改善云々ト云フコトガアリマス、勿論必要デアリマスルガ、此教育ヲ改善致シマスル前ニ收入ヲ増加致ス方法ヲ講ジマスレバ、農村青年ハ必シモ離村セナイ、結局ハ根本ハ經濟ノ問題デアアルノデアリマスルガ、是ハドウシテモ機械力ノ應用——吾々都市ノ門外漢ヨリ見マシテモ、機械力ヲ應用シテ勞力ノ餘剩ヲ作ラシムル、サウシテ其力ヲ以テ他ノ收入ノ途ヲ講ズル、斯ウセナケレバナラヌト思フノデアリマスルガ、其中ニ私共ノ見地ニ於テ看過スベカラザル事ハ、所謂農業電化ト云フコトデアアルノデアリマス、鐵道ノ電化、或ハ工業ノ電化、家庭ノ電化ト申シマスルガ、此農業ノ電化ト云フコトハ、看過スベカラザル事デアアルト私ハ思フノデアリマス、或ハ灌漑用ニ今我國ニ於テモ使用サレテ居ル、私共ノ知ッテ居ル範圍ニ於キマシテモ、收穫ノ作業ニ於テ電力ヲ使用シテ、色々ノ作業ヲ致シ、ソレガ爲ニ十日ノ仕事ガ一日ニ成ル、斯様ナル事ハ共同經營ヲセナケレバナラヌノ

デアリマスルガ、政府ノ曩ニ本院ノ協賛ヲ求メラレマシタ中ニモ、共同經營ノ施設ト云フ事ガアルノデアリマス、是ハ斯様ナル電力ノ使用ナドト云フコトニナリマスレバ、自然サウナッテ行クノデアリマスルガ、是等ノ問題ハ既ニ我國ニ於テ著手致シテ居ルノデアリマス、或人ハ之ヲ農業界ノ革命ト申シマスルガ、勿論此問題一ツニ依テ農村ガ振興シ得ルモノデアラウトハ思ハナイノデアリマスルガ、少クトモ農村振興ノ主ナル一ツニナルデアラウト信ズルノデアリマス、政府ニ於テハ斯様ナル問題ニ對シ、農業電化ノ問題ニ對シ相當ノ御研究、御調査モアルコトデアラウト思ヒマスルガ、其點モ伺フヲ得バ幸甚トスルノデアリマス、私ノ専門家ニ聽キマスル所、又新シキ雜誌、其他ノ書籍ニ依テ見ル所ニ依リマシテモ、歐羅巴ノ如キハ相當此電化ト云フコトニ力ヲ盡シテ居ルノデアリマシテ、瑞典ノ如キハ政府ガ國策トシテ農業電化ヲ獎勵致シ、既ニ全耕地ノ四割弱マデモ配電網ガ行ッテ、尙ホ政府ハ銳意全部ノ耕地ヲ電化サセントシツ、アルノデアリマス、又佛蘭西ノ如キハ非常ナル力ヲ盡シマシテ、三十億法ノ大金ヲ掛ケテ「ロトヌ」河ノ水力ヲ利用シテ、農業電化ノ爲ニ力ヲ盡シテ居ル、或ハ昨年ノ如キハ雜誌ニ依テ見マスルト云フト、六億法ヲ四十年ノ長期ニ互ッテ貸付ケル、農業電化普及金融法ト云フモノヲ議會ノ協賛ヲ求メマシテ、長期ニ互ッテ配電網ノ爲ニ貸付ヲシテサウシテ、電化サセント致シツツアルノデアリマス、又露西亞ノ如キガ電力國有「レーニン」以來農業電化ニ努メタルコトハ最早申ス迄モナイコトデアリマスルガ、英國ノ如キモ此點ニ於テ努力シツツアルノデアアル、我國ハ此點ニ於テハ地理地勢ノ上ニ於テ、水力電氣ノ最モ豊富ナ所デアリマシテ、之ヲ相當ニ利用スルニ於テハ、是ハ農業界ノ革命トマデモ行カナイデアリマセウガ、少クトモ非常ニ振興ニ資スル一ツノ原因ニナルコトヲ信ズルノデアリマス、斯様ナ事ヲ申シマスルト、如何ニモ机上ノ空論ノ如クデアリマスルガ、我國ノ電燈ハ聞ク所ニ依レバ最近五六十年間ニ於テ普ク山村水郭ニ普及致シマシテ、世界第一ノ普及ニナッテ居ルト云フノデアリマスルガ、是ハ農村ニ配電網ヲ造ル先ヅ第一歩ガ入ッテ居ルノデアリマシテ、相當ノ考慮ト相當ノ力ヲ盡シマシタナラバ、農業電化ト云フコトモ必ズシモ机上ノ空論デナカラウト思フノデアリマス、勿論吾々ハ都市ニ住居致シマシテ、此問題ハ門外漢デアアルノデアリマスルガ、



併ナガラ農村ノ疲弊、農村振興ト云フ聲ハ、我が衆議院ニ於テモ屢繰返サレツ、アルノデアリマシテ、此近代科學ノ應用、特ニ農業電北ト云フコトハ、看過スベカラザルコトヲ信ジマスルガ故ニ、以上二三ノ點ニ付テ、政府ニ於テ定メシ御研究、御調査ニナツテ居ルコトデアラウト信ジマスルガ故ニ、其御研究ノ結果、將來之ニ對スル御抱負、御計畫モアラバ、此場合承ルコトヲ得バ幸甚トスル者デゴザイマス

三土政府委員ノ應答

加藤君ノ御質問ニ御答致シマス、御説ノ通り農業電化ト云フコトハ、世界各國ノ問題デアリマシテ、我國ニ於キマシテモ段々此事ハ實行サレツ、アル狀況デアリマス、御承知ノ通り最モ我國デ農業電化ノ行ハレテ居リマスノハ、福岡、佐賀縣ノ如キデアリマス、佐賀縣、福岡縣ノ一部ニ於キマシテハ非常ニ普及致シテ居ルノデアリマス、農商務省ニ於キマシテモ農業電化ニ付キマシテハ色々研究致シテ居リマスルガ、唯地方ニ依テ非常ニ事情ヲ異ニ致シマスル爲ニ、急ニ全國ニ之ヲ行フコトガ出來ナイノデアリマス、即チ電氣ノ供給ガ不足ニシテ農村ニ之ヲ用ユルダケノ、餘裕ガナイト云フ所ハ、到底高價ニ付キマシテ、農村ニ之ヲ利用スルコトガ出來ナイノデアリマス、又農村ニ電力ヲ用キマシテモ、農村ノ餘剩能力ヲ用ユベキ一即チ農村電化ニ依テ農業勞力ニ節約ヲ加ヘマシテ、其剩シ得タ勞力ヲ利用スベキ他ノ仕事ノ無イ所ニハ、農村電化ハ行ハレヌノデアリマス、私共ノ理想ト致シマシテハ、段々ニ農事ノ改良ヲシテ、農村ノ所謂農産物ノ收穫ヲ増加シテ、農家ノ經濟ヲ改善スルト同時ニ、一面ニ於キマシテハ純農業ニ用ユル勞力ノ剩リヲ他ノ仕事ニ用キマシテ、此他ノ仕事ニ於ケル收入ヲ段々増加シテ、共ニ與ニ進ンデ農村ノ經濟狀態ヲ改善シナケレバナラス、其一段ト致シマシテハ、或ハ今日マデノ農業勞力ノ節約ノ爲ニ、又農業以外ノ所謂副業ノ動力ト致シマシテモ、電力ヲ利用致シマスコトハ最モ必要ト考ヘルノデアリマス故ニ、政府ニ於キマシテハ銳意是ガ調査研究ヲ致シテ居リマスガ、前申シマスヤウニ、地方ノ狀況ニ依リ電力ノ安イ所、供給ノ十分ナル所、不足ナル所、又農村ノ副業等ノ發達ノ狀況ニ依リ

マシテ一概ニハ參リマセヌ、成ベク早ク之ヲ普スル及方針デゴザイマス、而シテ今回農村振興ノ計畫ヲ立テマスニ付キマシテモ農村電化ト云フ問題ニ付キマシテ多少ノ計畫ヲ立テ、見ヤウト致シマシタノデアリマスケレドモ、今少シク研究ヲ要スルモノガアリマスカラ、今回ノ豫算ニ計上シテ御協賛ヲ經マシタモノ、中、若干ノモノハ一二年ニシテ止ムモノモアリマスカラ、其後ニ代ルモノニ對シテ、成ベク農村電化ノ計畫ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、政府ノ考ヘマス所ハ、加藤君ノ御希望ノ點ト寸毫モ相違ハアリマセヌケレドモ、右申シマスヤウナ事情デアリマスカラ、此段御諒承ヲ願ヒマス

高田松平君ノ質疑

私ハ此際肥料ノ問題ニ付テ政府ノ意見ヲ承ツテ置キタイノデアリマス、其理由ハ、近來肥料會社、殊ニ過磷酸ヲ製造スル會社、即チ大日本人造肥料會社、「ラサ」磷礦株式會社、住友肥料部、多木肥料株式會社、日東硫酸株式會社、是等ノ過磷酸ヲ主トシテ製造スル會社ガ共同販賣會社ヲ組織シテ、之ニ依テ生産ノ制限及價格ノ協定ヲ爲サントスルノ狀況ニ立至ツテ居ルノデアリマス、元來吾々ノ聞ク所ニ依レバ、此過磷酸ヲ製造スル各種ノ會社ノ多クハ、戰時好景氣ノ時代ニ於テ巨費ヲ投ジテ工場ヲ擴張シ、爲ニ資本金ガ非常ニ擴大シタ、然ルニ一方ハ農家ノ經濟困難ナルニ伴ツテ施肥ノ狀況モ漸次經濟的トナリ、之ガ爲ニ過磷酸肥料ノ需要額ガ漸次減少シタルノ結果、肥料會社ノ經營ガ非常ニ困難ニ至ツタノデアリマス、故ニ是等ノ會社ハ現在ノ狀態ニ顧ミテ各自ノ資産ヲ整理シ、販賣ノ方法ヲ一新シ、從來ノ弊習ヲ改メ、價格ノ協定及生産ノ制限ヲ爲シ、以テ會社ノ經營ヲ安固ナラシムルト共ニ、曩ニ無謀ニ擴張セラレタル工場ノ設備費、震災ニ因リ損害ヲ受ケタル工場費、其他災害ニ因ル損失ヲモ肥料ノ消費者タル農業者ニ轉嫁セシメントシツ、アルノデゴザイマス、勿論吾吾ハ此共同販賣株式會社ガ、其販賣ノ方法其他ガ公正ニ行ハル、ト云フコトニナレバ、幾分肥料ノ價格ヲ低下シ得ル場合モアリマスルカラ、吾々ハ此共同販賣會社ノ成立ニ絕對ニ反對スル者デ



ハナイノデアリマス、併ナガラ前申上ゲマシタ通り、現在ノ狀況ニ依リマスレバ、各會社ガ一二ヲ除クノ外、殆ト維持困難ノ場合ニナツテ居ル際ニ於テ此危急ヲ救フベク生産ノ制限ヲ爲シ、價格ノ協定ヲ爲スト云フコトガ其目的デゴザイマスルカラシテ、決シテ其價格ヲ低廉ニスルト云フ目的デナイコトハ明デゴザイマス、即チ此販賣株式會社ノ成立ニ依テ、農家ノ買入ル、所ノ肥料ト云フモノガ、或一ノ專賣業者ノ販賣スル所トナルガ故ニ、價格ガ暴騰シ、ソレガ爲ニ農民ノ受クル損害ト云フモノハ非常ニ多大ナルモノニ陥ル虞ガアルノデゴザイマス、現在ノ農家經濟ノ狀況ヨリ申シマスレバ、肥料ノ爲ニ農家ノ支出スル所ノ經費ハ、殆ト農産物ノ百分ノ十五ヲ占メテ居リマシテ、租税、公課ノ負擔ヨリモ其金額ガ頗ル多イノデゴザイマス、然ルニ此農家ガ非常ニ困ツテ居ル際ニ、肥料製造業者ガ一種ノ「トラスト」ヲ作ツテ、販賣ノ株式會社ヲ作ツテ、其會社ノ危機ヲ救フベク價格ノ協定及生産ノ制限ヲ爲スト云フコトニ付キマシテハ、農村ノ振興農民ノ福利ヲ圖ル上ヨリ、何等カ之ニ對シテ政府ガ適當ノ措置ヲ執ルノガ當然デアルト信ズルノデゴザイマス、此點ニ對シテ政府當局ハ如何ナル方針ヲ以テ此「トラスト」ニ對シテ取締ヲ爲シ、而シテ價格ノ協定及生産ノ制限ニ依テ、農民ノ受クル所ノ被害ヲ救フ御意思デアルヤ否ヤト云フコトヲ、此場合極メテ簡單デゴザイマスケレドモ、御聲明ヲ願ヒタイト思フノデゴザイマス

三土政府委員ノ應答

過磷酸肥料業者ガ出資ヲ仕合ヒマシテ、一ツノ共同販賣會社ヲ組織スル計畫ヲ持ツテ居リマスルコトヲ、農務當局ト致シマシテハ聞及ンデ居リマス、御承知ノ通り我國ノ肥料會社中、過磷酸肥料製造會社ハ最モ窮地ニ陥ツテ居ルノデアリマス、即チ事業界ノ好景氣ニ際シマシテ事業ヲ擴張致シ過ギ、即チ我國ニ於キマシテ、大體過磷酸肥料ノ需要額ハ五六十萬噸ト見テ居リマスガ、然ルニ現在ノ過磷酸肥料製造會社ノ製造能力ガ百二十萬噸以上ニナツテ居リマス、是ガ即チ製造會社ガ非常ニ窮地ニ陥ツテ居ル原因デアリマス、非常ニ苦シイ立場カラシテ、何トカシテ業態改善ヲ致シタイト云フコトカラ、此組合ヲ組織致サウ——共同販賣組織ヲ致サウトスルノダラウ

ト思ヒマス、併シ勿論此共同販賣ノ組織ガ出來マスレバ、善良ナ目的ニ之ヲ用キマスルナラバ、或ハ無益ノ競争ヲ避ケル、或ハ錯綜シタル販賣ノ爲ニスル運賃ガ——高ツテ居ル所ノ運賃ノ節約ガ出來ル、其他色々ノ利益ガアリマス爲ニ、肥料ノ價格ガ低下スルノデアリマスガ、併ナガラ右申スヤウナ事情デ、此窮地ヲ脱スル爲ニ斯様ナ共同販賣ノ會社ヲ組織シヤウト云フノデアリマスカラシテ、或ハ之ガ爲ニ肥料ノ製造販賣ガ一手ニ壟斷セラル、ノ惡結果ヲ來ス虞ナシトシナイノデアリマス、申スマデモナク今日ハ農村振興ノ叫ビガ朝野ニ滿チテ居ル時代デアリマス、此農村ノ經濟狀態ヲ改善致シマスルニハ、農村ノ收入ヲ増加シ、支出ヲ輕減シナケレバナラス、而シテ農村ノ購入スル最モ主ナルモノハ肥料デアリマス、此肥料ガ高クナルト云フコトニ付テハ、農務當局トシテ非常ニ注意ヲ拂ハナケレバナラヌト思ヒマス、故ニ此共同販賣ノ組織ヲ作リマスコトガ、肥料價格ヲ低下セシムル結果ニ終リマスナラバ宜ウゴザイマスガ、之ガ爲ニ或ハ獨占的トナリ、或ハ專賣的トナリ、壟斷的トナツテ、價格ヲ引上ゲルコトニ終ルコトヲ虞レマス、故ニ此成立ニ付キマシテハ深甚ナル注意ヲ拂ツテ居リマス、之ガ成立致シマシテ事業ヲ經營スル曉ニ於キマシテ、當局ト致シマシテハ注意ヲ致シマシテ、徒ニ人爲的ニ引上ゲルヤウナ結果ヲ來サシメナイヤウニ注意致ス積デアリマス、之ガ取締法ニ付キマシテハ、若シ現在ノ法規ニ依テ足ラヌ所ガアリマスレバ、或ハ法規ノ制定ヲスル必要ガアルカモ知レマセヌ、兎ニ角政府ハ非常ニ注意ヲ以テ視テ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

討論ニ入り福井甚三君及丹下茂十郎君ハ決議案ニ岡田温君ハ建議案ニ對シ賛成演説ヲ爲ス

福井甚三君ノ決議案賛成演説

只今上程相成ツテ居リマスル農村振興問題ハ、既ニ多年ノ懸案デアリマシテ、今更之ヲ呶々スル必要ハ殆トナイ位デアリマス、唯論議ニ徒ニ數年ニ互ツテ居ルガ、其實行ガ甚ダ伴ハナイコトハ本員ノ最モ遺憾トスル所デアリマス、就キマシテハ只今委員長ノ御報告サレマシタル建議案ノ



内容ナドハ、既ニ本院ノ院議トシテ、曩ニ通過ヲ致シテ居ルモノデアリマスカラ、吾々ハ其内容ニハ同意致シマスルガ、建議ノ形ノ上ニ於キマシテハ反對スル者デアリマス、其理由ヲ簡單ニ述ベント致シマスルカラ、暫ク御清聴アラントコトヲ望ミマス、此農村振興ノ問題ハ既ニ只今ヨリ十六七年ニ於キマシテ、生産調査會ト云フモノヲ組織ヲ致シ、調査ヲ爲サレテ來タノデアリマスルガ、歐洲戰爭ノ結果其影響ト致シマシテ、經濟關係ハ大影響ヲ致シタノデアリマス、隨テ此經濟組織ガ俄然變化ヲ生ジマシタ爲ニ、益農村ノ經濟ガ惡化ヲシタノデアリマス、是ニ於テ愈農村振興ヲ高唱スル聲ガ天下ニ喧々囂々ト起ツテ、遂ニ大輿論トナツタ次第デアリマス、其結果具體的ニ本院ニ上程ニナツタ次第デアリマシテ、殊ニ去ル四十六議會ニ於キマシテハ、恰モ農村議會トモ云フベク、各派ヨリ重要ナル建議案、若クハ法律案等、實ニ四十件ノ多キニ上ツタノデアリマス、其中十六件許リヲ一括ヲ致シテ委員會ニ付託サレ、其委員會ノ委員長ハ即チ我黨ノ元田肇君ガ當ラレタノデアリマス、而シテ此農政、農村問題ニ付キマシテハ、委員諸君ハ政黨政派ヲ超越シテ、慎重ナル審議ヲセラレマシタル結果、最早本會議ニ於テ討論スル必要ナシト云フ熱心ナ態度ヲ以テ、決議案ノ成案ガ委員會ニ於テ出來上ツタノデアリマス、事苟クモ重大ナル問題デアリマスルカラ、念ノ爲ニ其成案ヲ簡單ニ朗讀シテ置キタイト思ヒマス、第一農林省ノ獨立デアリマス、又第二ニハ臨時調査會ヲ置クベシ、第三、從來ノ實例ニ徴シテ政府ハ院議ヲ重シクセザル所ノ憾ガアルカラ、又既ニ制度ガ出來テ居リマシテモ、其運用上徒法ニ歸スル虞アルカラ、其實行ヲ期センコトヲ望ムト云フ第三項デアリマス、而シテ其調査事項ト致シマシテ、最モ重要視スル所ノ問題ハ、第一米穀法ノ運用ヲ完ウシ、相當價格ノ調節ヲ圖ルコト、二、農村組合ノ改善普及ヲ圖ルコト、三、農村ニ對スル社會的施設並ニ堅實ナル娛樂、其他風教ノ振作ニ關スル施設ヲ圖ルコト、四、稅制ヲ整理シ過重ナル負擔ヲ輕減シ、且ツ其均衡ヲ圖ルコト、五、産業組合中央金庫其他金融機關ノ權限ヲ擴張シ、更ニ低利資金ヲ圓滿ナラシムルコト、六、地方農村ヨリ郵便貯金ノ大部分ヲ集メテ置キナガラ、其大部分ハ之ヲ都會ニ貸付ケ、若クハ政府ノ財政ノ遺餘ニ使ヒ、農村ニハ更ニ還元セズ、農村ノ金融ハ益枯渴スル傾向ガアル爲ニ、桂内閣當時ニ於キマシテ其割台ヲ定メテアッタニモ拘ラズ、

爾後ノ經過ニ見ルニ政府ハ之ヲ實行シテ居ラヌカラ、今後ハ之ヲ嚴重ニ實行セシムルコト、六、農村現在ノ各種組合ノ適否、更ニ農業組合ヲ設クルノ可否等ヲ審査シ、且ツ其機能ヲ完ウセシムルコト、七、行政整理ノ現在行ハレ居ルガ、遲々トシテ進マズ、茲ニ是非一層促進セシムルコト、而シテ農具改良農業技術ノ向上ニ付テ政府ハ是ガ保護獎勵ヲ爲スコト、及肥料其他物資ノ購入販賣等ニ關シ、共同作用ヲ助長スルコト、土地ノ改良依託林ノ改良ヲスルコト、八、副業ヲ獎勵スルコト、九、小農及自作農保護ノ方法ヲ立ツルコト、十、人口増殖ノ實績ニ鑑ミ移殖民ノ根本策ヲ講ズルコト、十一、農業經濟其他農業獎勵ノ根本的調査ヲ爲スコト、更ニ第二段ト致シマシテハ、一、米ノ專賣法制定ノ件、二、農家保健法ニ關スル件、三、小作制度確定ノ件、四、自治體ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルガ爲メ國有林原野ヲ自治體ヲシテ使用收益セシムルコト、以上ノ成案ガ即チ農村振興ニ關スル上ニ喫緊ナル事項ヲ網羅シタノデアリマス、就中焦眉ノ急務ト致シマシテハ、農村ニ對スル負擔ノ輕減ト低利資金ノ融通ヲ圖ルコト、是ガ最モ焦眉ノ急務デアリマシテ、漁村ニ對スル負擔ノ輕減ト低利資金ノ融通ヲ圖ルコト、是ガ最モ焦眉ノ急務デアリマシテ、衆議院ハ是等ノ項目ハ何レモ農政根本策ト認メテ、其當時ノ委員諸君ハ政黨政派ヲ超越シテ、衆議院任ヲ有シテ居ル問題デアリマス、斯ノ如ク此農村振興ノ問題ニ對シテハ政黨政派ヲ超越シテ是非速ニ解決ヲシナケレバナラヌ責任アルニモ拘ラズ、今日未ダ誠意アル所ノ積極的ノ施設ノ實行ヲ見ルヲ得ザルガ爲メ、國民ハ之ヲ何ト見テ居ルデアリマセウカ、國民ハ吾々ノ代表スル所ノ政黨政治ノ效果ヲ疑ヒ出シ、議會政治ト云フモノ、責任ハ、ドウ云フ所ニアルノデアラウカト、少段ニ疑フヤウニナツタコトハ事實デアリマス、徒ラニ建議案ヲ出シテモ、決議ヲ致シマシテモ、少



シモ、徹底的ニ實現ヲシナイ、宣言バカリ致シマシテモ其實ガ更ニ舉ガラナイ、農村ノ前途ハ今後如何様ニ成リ行クデアラウカト、農民ハ常ニ心配ヲ致シテ居ルデアリマス、然ルニ議會ガ解散ダ、ソレ總選舉ダト云フ場合ニハ、何レノ政黨モ第一ニ國民ノ負擔ヲ輕減シナケレバナラヌ、低利資金ヲ供給シ、自作農ノ維持創定ヲシナケレバナラヌ、義務教育費國庫負擔ノ増額モスル、産業開發ノ爲ニハ鐵道モ架ケテヤル、文化ノ發達モ圖ル、農業ハ國家ノ大本デアルカラ、農村振興策ヲ第一ニヤラナケレバナラヌト國民ニ公約シテ來タデアリマセヌカ、殊ニ現内閣諸公竝ニ現内閣ヲ支持セラル、所ノ與黨ノ諸君ガ護憲ヲ高唱セラル、所以、特權内閣ヲ打破シテ政黨内閣制ヲ樹立スル、政黨内閣制ノ樹立ヲ高調スル所以ハ、即チ責任政治ノ確實ヲ期スルノデアル、而シテ責任政治ノ確立ハ國民多數、即チ農村ノ利害ガ政治的ニ此議會ニ向ッテ反映セシムル所ノ責任政治ヲヤルノデアルト誓ッテ來ラレタデアリマセヌカ、然ルニ今年ノ豫算ヲ見マズルニ、一ツモ國民ノ期待スル施設モセズニ、公約シタル所ノ施設ノ實現スベキモノ無キノミナラズ、國民多數ノ熱望スル、全國ノ輿論ニシテ而モ津々浦々マデ、其恩惠ニ浴スル所ノ、例ノ義務教育費國庫負擔增加問題デアリマス、此問題ニ對シテモ政府ハ公約ヲ無視シテ、一紙半錢ダモ支出シ能ハザルト云フガ如キハ、實ニ輿論ヲ無視スルコト甚シイデアリマセヌカ、又現内閣ハ行政財政整理ノ結果一般會計ニ於テ一億五千餘萬圓、特別會計ニ於テ一億四百餘萬圓、合計二億五千六百萬圓ノ行政整理ヲシ、節約ヲ致シタト頻ニ天下ニ吹聴ヲ致シテ居ラレルガ、何等國民ノ負擔ノ輕減モ圖ラズ、却テ物價ノ騰貴ヲ招來セシメ、國民生活ニ毫モ安定ヲ與ヘズ、國民ノ實生活ニ立脚シタル施設ヲ少シモシナイトハ、何タル無責任ノ事デアリマセウカ、國民生活ノ不安定ヨリシテ思想上面白カラザル現象ヲ生ジツ、アル農村ノ狀態デアルニモ拘ラズ、此重大ナ農村振興ニ對シテ僅カ特別會計トシテ二百五十萬圓ヲ支出シテ、極メテ不徹底ナル消極的ノ施設ヲ爲シタルニ過ギナイデアリマス、斯様ナコトテ今日疲弊困憊ヲ致シテ居ル所ノ農村ノ救済ト云フコトモ出來ナイデアリマス、又況ヤ我が農村ノ振興、農村經濟ノ改善ヲ爲シ得ベキモノデナイト私ハ斷ズルデアリマス、是デ護憲内閣ノ責任ヲ盡シタリト申サレマセウカ、政府ガ如何ニモ農村

ニ誠意アリ同情ガアル如ク吹聴セラレル、二百五十萬圓ノ支出ハ果シテ如何様ニ支出ヲセラレルカト申シマスレバ、即チ農業共同施設獎勵金ニ對シテハ十六萬三千三百七十圓デアリマス、共同齋倉庫助成金ニ於テハ六十二萬九千二百七十六圓、農業ノ倉庫建設獎勵金ニ於テハ六十二萬八千圓、農具ノ改良普及獎勵費ニ於テハ二十一萬八千三百二十二圓、産業組合中央會事業助成金ニ向ッテハ七萬一千二百五十三圓、副業獎勵費ニ向ッテハ三十四萬三千五百六十二圓、畜産共同施設獎勵金ニ向ッテハ六萬五百四十四圓、種牛馬補充並ニ畜力利用獎勵金ニ於テハ七萬八千三百二十八圓、漁業共同施設獎勵金ニ於テ三十一萬三千五百五十五圓、斯ノ如キ僅ノ費途ヲ以テ何レノ方面ニ大ナル效果ガ擧ゲラレマセウカ、政府ハ農村今日ノ狀態ヲ如何様ニ見テ居ラレルヤヲ疑ハザルヲ得ナイデアリマス、又誠意ノ疑フ點ハ、現ニ本案ノ如キ重要ナル問題ヲ審議スル委員會ノ經過ヲ見テ居リマスルニ、委員會ヲ開クコトガ僅カ五回デアリマス、而モ二月二十五日ノ本會議ニ於テ吾々ノ提出致シマシタル決議案ニ對シ、横暴ニモ多數ヲ以テ討論ヲモ打切り、委員會ハ唯二月二十七日ニ一回ヲ開カレ、其後一週間モ開カズシテ、三月五日、六日ニ一回ツ、開カレタノデアリマス、而シテ又其後十二日間モ打棄ッテ置イテ、三月十八日ニ四回目ヲ開キ、三月二十日ニ漸ク五回目ヲ開カレタヤウナ次第デアアルノデアリマス、殊ニ主管ノ農商務大臣モ、大藏大臣モ、此委員會ニ一回モ出席セズト云フガ如キハ、實ニ不誠意極マル取扱ヲ以テ審議セラレタト云フコトハ、本員ノ最モ遺憾千萬トスル所デアリマス、而シテ其委員會ニ於ケル政府委員ノ御答辯ヲ承ッテ見マスルノニ、一面農村ニ對シ、非常ニ御同情ヲ以テ御熱心ナル御研究ニナツテ居ルコトハ多ト致シマスルガ、其施設ノ實行ノ誠意ヲ疑ハザルヲ得ナイデアリマス、始終政府委員ノ御答辯ヲ承ッテ見マスルト、唯農村振興ニ今回計上サレタ所ノ、二百五十萬圓ノ支出ノ範圍ニ御説明ガ止マルヤウデアリマシテ、何等積極的ニ速ニ實行スルト云フ所ノ御確信ガナイヤウデアリマス、總テ農家經濟ガ改善セラレザル限リハ自作農モ、農村教育モ、金融ノ圓滑モ、十分ノ效果ガ現ハレナイ、農家經濟ノ改善ヲ圖ルニハ農家ノ自覺ニ俟ツ外ナシトノ大體ノ御意見デアッタノデアリマス、根本政策トモ言フベキ農産物ノ増殖ヲ圖リ、食糧ノ自給自足ト云フ——隨テ人口ノ増加ニ鑑



ミテ、此大ナル農業政策ヲ樹テルト云フ、確乎タル所ノ御決意ハナイヤウデアリス、ドウモ我國ノ經濟ノ立直ハ農業本位デナク、商工立國ノ方針ノヤウデアリマス、又早速次官ノ御答辯ヲ承リマスルニ、農村振興ニハ決シテ冷淡デハナイガ、財政ノ許サザルガ故ニ、何レ他日稅制整理ノ上考慮シテ見ヤウト云フ、財政緊縮ノ一點張ノ御説明デアッタノデアリマス、成程早速君ハ本日大藏次官ノ御立場上御尤ノヤウデアリマスルガ、元來早速君ハ野ニオキデニナッタ時ニハ如何デアリマセウ、早速君ハ農村振興ナルモノハ一日モ忽セニスベカラザル問題デアアル、國民ノ負擔ヲ輕減シナケレバナラス、物價ノ調節ヲ圖ラナケレバナラス、隨テ金ノ解禁モシナケレバナラス、稅制ノ整理モシナケレバナラスト云フコトデ、時ノ政府ニ向ッテ責任觀念ヲ問ハレ、政治家ノ本領ハ責任觀念ガ肝要デアルト、常ニ此所ニ大言壯語セラレテ居ッタノデアリマス然ルニ御役人トナラレマス、早速君ニ限ラズ、孰レモ御役人ニナラレマス、ドウモ變ルト見エマシテ、其責任觀念ガ何時ノ間ニカ御忘れニナッタヤウデアリマシテ、國民負擔ノ輕減トモナラズ又農村振興ノ一端トモナルベキ義務教育費國庫負擔増額モ本年ハ支出ガ出來ナイ、其他ノ負擔ノ輕減タル地租免除等ノコトハ、何レ稅制整理ノ上最善ノ努力ヲシテ見ヤウト云フノミデアリマス、斯ノ如キ當局ノ御考デアルト致シマシタナラバ、吾々現在横ッテ居ル、此我國ノ未決問題ノ中ニ於キマシテ、是程重大ナル問題ハナイト云フ、此農村振興ニ對シテ極メテ悠長ニ、暢氣ニ唯僅ニ二百五十萬圓ノ金ヲ以テ消極的ニ農村ヲ振興セントセラル、ニ至ッテハ、我國ノ國費ノ分配ト云フモノハ、矢張中央集權ガ多クシテ地方ニ於テハ極メテ薄イヤウニ私ハ考ヘルノデアリマス、果シテ然ラバ地方ノ農村ノ國民ハ大ニ落膽致スデアラウト私ハ思フノデアリマス、其結果思想上ニモ大影響ヲ及ボシハシナイカト大ニ憂フルノデアリマス、此見地ヨリ致シマシテ、吾々ハ農村振興ト云フ問題ハ政治ニ於キマシテモ、社會上ニ於キマシテモ、國家ノ重大問題トシテ取扱ハナケレバナラス、即チ根本政策ト致シマシテハ、農村ノ負擔ノ輕減、自作農維持、創定、小作制度、耕地ノ整理、開墾助成法ノ改正、食料政策、關稅政策等ノ問題ニ對シテハ、速ニ積極的ニ遂行シテ行カナケレバナラヌト存ズルノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ恆久的ノ財源ヲ捻出致シマスルカ、又ハ土地公債

ヲ以テヤルカ、何レニシテモ一大決心ヲ以テ斷行セズンバ、何年經チマシテモ現在ノ遣方デハ農村振興ノ問題ヲ解決出來ルモノデハナイト本員ハ信ズルノデアリマス、吾々ハ今更悠長ナル建議ヲ致シマスルヨリモ、決議案ヲ以テ政府ニ反省ヲ促シ、以テ國家興廢ニ關スル此重大ナル農村振興ノ遂行ヲセシメント欲スル次第デアリマス、然ルニ先刻委員長ノ御報告ヲ承リマスルト、委員會ニ於テハ與黨諸君ヨリ提出サレタル建議案ヲ多數ニテ通過致シマシタ以上ハ、吾々ノ提出致シマシタル決議案ヲ論議スルノ必要ナシトノ理由ヲ以テ、一蹴セラレタルコトハ、本員ノ深ク遺憾トスル所デアリマス、併ナガラ委員會ニ於キマシテモ、此議場ニ於キマシテモ、形ノ上ニ於テ或ハ多數橫暴ヲ以テ本案ヲ葬ムラル、運命ニ遭遇致シマシテモ、全農村國民ハ現内閣ノ不誠意ナル態度ニ對シテ今日建議案トスルヨリモ、強キ意味ノ決議案ヲ提出シ、大ニ政府ニ反省ヲ促スコトガ適當ノ處置ナリト認め、共鳴贊成スルモノト堅ク信ズルノデアリマス、故ニ本員ハ建議案ノ内容ニハ同意贊成ヲ致シマスルガ、建議案ノ形ノ上ニ於キマシテハ、反對ノ意ヲ表スルモノデアリマス、隨テ農村振興ニ關スル決議案ニ贊成スルモノデアリマス

岡田溫君ノ建議案贊成演說

私ハ只今問題ニナッテ居リマスル所ノ荒川五郎君外十五名ノ提出ニナッテ居リマスル、農村振興ニ關スル建議案ニ贊成ヲスル者デアリマス、是等ノ理由ハ最早述べヌデモ宜イ筈デアリマスルガ、併シ今日農村振興論ノ支障トナッテ居ル事柄ハ、今日モ尙ホ學者、言論界、及知識階級等ニ於テハ今日ハ農業ハ相當ノ保護ヲサレテ居ルノダ、農業ニ對スル世話ハ最モ行届イテ居ルノデアアル、然ルニ農業者ハ我田引水ノニ勝手ナ熱ヲ吹クガ、ソレハ餘リ勝手デアルト云フヤウナ風ニ、此吾吾ノ唱道シマスル農村振興論ニ對シテ、十分ニ耳ヲ傾ケラレヌト云フヤウナ傾向ガ一部分ニアタルノデアリマス、故ニ是等ガ農村振興上一大支障ト思ヒマスカラ、私ハ其點ヲ少シ質問シテ置キタイト思フノデアリマス、過去現在ニ於ケル產業政策及社會政策ノ上カラ農村振興ニ關係ノアル總テノ施設ヲ先ヅ國費ノ分配上カラ考察シマスルトキハ、農村的施設ガ國政上如何ナル地位



ニ在ルカラ窺フコトガ出來ルト思ヒマス、明年度ハ御承知ノ通り農林省獨立スルコトニナッテ居  
 リマスルガ、其經費ハ總額デ四千四百四十六萬餘圓ト云フモノデアリマスルガ、此金額ハ彼ノ電話  
 交換擴張費ト略相伯仲スル金額デアリマス、電話交換擴張費ノ明年度ノ年割額ハ三千七百萬圓  
 デアリマスカラ、農林省ノ經費ヨリハ四百萬圓程少ナクアリマスルガ、併ナガラ農林省ノ經費ノ  
 中ニハ産業組合中央金庫ノ出資ノ五百萬圓ヲ初メ、其效果ノ農村以外ニ及ブモノガ相當アリマ  
 スルカラ、ソレ是レ精算シマスルト、二ツハ稍相近イ金額ニナルデアリマス、此電話交換擴張  
 費トハ如何ナル性質ノ費目デアリマセウカ、是ハ無論今日ハ電話ト云フモノハ一刻片時モ必要  
 缺クコトノ出來ナイ文明ノ利器デアリマスルカラ、是ハ出來ルダケ普及完備セシムルコトハ望  
 マシイコトハ勿論デアリマスルケレドモ、其利益恩典ヲ受ケル部分ハ中流以上ノ商工業者、若ク  
 ハ都會ニ居住スル人ノ一部分デアリマシテ、其他ノ者、殊ニ農村ナドノ者ハ直接ニモ間接ニモ何  
 等ノ利益恩典ヲ被ルコトノナイ事業デアリマス、是ト一省全體ノ費用トガ相似タモノデアリマ  
 ス、今一ツ他ノ方面ニ斯様ナコトヲ伺ヒマスルト、食糧政策ハ今日國政上重大問題ノ一デアリマ  
 ス、所デ其食糧生産ヲ中心トスル普通農業及園藝農業及米麥諸雜穀、果樹蔬菜其他特殊作物等ノ  
 生産ニ關係シマスル費用、即チ開墾助成ダトカ、耕地整理ノ費用トカ、或ハ試驗研究、指導獎勵ト  
 カ、各種ノ補助トカ、農業ノ大部分ニ關係スルモノ、一切合切ノ經費ノ合計デモ、是ハ六百六十  
 一萬七千餘圓デアリマス、此經費ハ丁度遞信省ノ豫算ノ中ニアリマス、航路補助費ヨリカ尙ホ十  
 六萬圓程少イノデアリマス、航路補助トハ如何ナル性質ノ費目デアリマセウカ、是ハ申上ゲルマ  
 デモナク南北支那、露領、其他内地島嶼等ニ關スル航路ニ對スル補助金デ、少數ノ汽船會社ニ支  
 給スル金デアリマス、是等ノ會社ハ航路一ツ一ツヲ調ベマスルト、相當ノ理由モアリ、必要ナ事  
 情モ無論アリマスケレドモ、其會社全體ノ營業成績ハドウカト云ヒマスルト、時ニハ消長ハア  
 リマスルケレドモ、大體ニ於テ相當ノ成績ヲ舉ゲ、好景氣ナ時ニハ二割三割ト云フ配當モシタリ  
 多額ノ積立金モシタリ、或ハ役員ノ報酬等モ官界ニ比較シテ見マスルト、割合ガ宜イト云フ状態  
 ニナッテ居リマスルガ、斯様ナ會社ニ對スル少數ノ會社ニ對スル補助金ノ方ガ普通ノ園藝ノ一切

ノ研究獎勵ニ對スル費用ヨリモ、尙ホ十六萬圓程多イノデアリマス、私ハ此一二ノ例ニ依テ見マ  
 シテモ、現在ノ園藝政策及社會政策ガ如何ニ商工業ニ厚ク、農業者ニ薄ク、又如何ニ都市ニ重ク、  
 農村ニ輕イカト云フコトヲ數字的ニ證明スルコトガ出來ルノデアリマス、然ラバ國家社會ニ對  
 スル義務ノ負擔ハドウカト云フト、是ハ色ニナコトガアリマスケレドモ、他ノ事ハ略シマシテ  
 唯一ツ少數商家ノ負擔ノ上カラ見タイト思フノデアリマス、是ハ色ニアリマスガ、私ハ先年宇  
 都宮ノ稅務署デ調べマシタ其資料ヲ唯一ツ舉ゲテ見タイト思ヒマス、是ハ各職業別ニ依テ其所  
 得ト負擔スル直接國稅トノ比較デアリマスルガ、所得ヲ同一ニシテ農業者ノ負擔ヲ百トシタ時  
 ニハ工業者ガ七十二、商業者ガ五十八、金貸業ガ四十九、從業者ガ二十七ト云フ割合ニナッテ居  
 マス、斯様ナモノヲ集メテ見マスルト非常ニ澤山アリマスケレドモ、此二三ノ例ヲ舉ゲテ見マシテ  
 モ我國ノ農業者ハ義務ノ負擔ハ最モ重ク、保護恩典ハ最モ薄イト云フコトニナッテ居ルノデアリ  
 マス、今一ツ私ハ世界各國ニ於ケル農業保護獎勵ノ程度ト、我國ニ於ケルソレ等トヲ比較シテ考  
 ヘテ見タイト思ヒマス、是ハ固ヨリ事情條件ノ違フモノ、比較デアリマスカラ、正シイ精細ナコ  
 トハ出來マセヌガ産業政策ノ上ニ於テ最モ重要ナルハ關稅政策デアリマス、此關稅政策ノ上カ  
 ラ見テ外國ヨリ輸入スル、競争品ニ對スル課稅ノ率ヲ見マシタナラバ、凡ソ其國ガ其産業ニ對シ  
 テ執ル保護ノ精神ノ厚薄ヲ窺フコトガ出來ルノデアリマスガ、此稅率ニ取リ、主要穀物ノ小麥ニ  
 付テ窺ヒマス、日本ハ只ノ七十錢デアリマス、亞米利加ノ如ク農業ガ有利デアリ、且ツ輸出國デ  
 アリマシテモ、時々加奈陀ヤ亞爾然丁邊リカラ安イ小麥ガ這入ッテ來テ、ソレガ爲ニ農業者ガ困  
 ルカラ、斯様ニ日本ノ二倍以上ノ稅ヲ課ケテ保護ヲシテ居ルモノデアリマス、唯英吉利ダケハ御  
 承知ノ通りノ國情デアリマスカラ、穀物ニ稅ヲ課ケテ居ラナイ、是ハ彼ノ國ハ千八百四十六年ニ  
 穀物稅法ヲ廢シテシマッタ、ソレハ當時ニ於テ英吉利ノ商工業ハ世界唯一ノ地位ヲ占メテ居ルカ  
 ラシテ、保護ヲ廢シタ方ガ利益デアルト云フコト、今一ツハ印度ヤ加奈陀ヤ、濠洲等ト云フヤウ  
 ナ豐饒ナル、大農業地ヲ屬領地ニ持ッテ居ルカラ一向差支ガナイカラ、斯様ナ政策ヲ執ッタノデア



リマスケレドモ、其他ノ國ニハ皆前ニ申シタヤウニ、日本ナドニ較ベルト遙ニ厚イ保護政策ヲ執ッ  
 テ居ルノデアリマス、故ニ私ハ時々聞キマス所ノ言論界ナリ學者ナリガ、日本ノ農業ハ相當ニ  
 保護セラレテ居ル、世話ガ行届イテ居ルト云フコトハ何ヲ捉ヘテ言ハレルノカ、如何ナル材料ニ  
 依テ言ハレルノカ、私ハソレガ分ラナイ、サウ云フヤウナ資料ハ何所ヲ尋ネテモ無イノデアリ  
 マス、是ガ最モ農業者ノ苦痛ニ感ズル所、事實ニ於テハ非常ニ薄イ取扱ヲ受ケテ居リナガラ、エ  
 ライ保護ヲサレテ居ルヤウニ謂ハレルノガ一層ノ苦痛デアリマス、元來都會ニ於キマシテハ新  
 聞、雜誌或ハ演説等ニ依テ、各階級ノ輿論ヲ略々窺フコトガ出來マスケレドモ、農村ナドニハ其輿  
 論ヲ表明スル形式ガ不備デアリマスカラ、農村ノ輿論ト云フモノハ一向分リ悪イ、如何ナルモノ  
 ガ地方ノ輿論カト云ヒマスト多クノ場合ハ極ク一部分ノ者ガ唱ヘテ、更ニ他ノ一部分ノ者ガ何  
 ヤラ分ラズ之ニ雷同シテ、大多數ノ者ハ唯默々トシテ居ルノデアリマス、斯様ナ事柄ヲ捉ヘテ、地方ノ輿論  
 ト言ウテ居ラレルノデアリマスカラ、時ニ依リマスルト、其輿論ガ地方民ノ意見ト一致スル事モアレバ  
 反對ノ事モアルノデアリマス、デアリマスルカラ地方ノ事柄ニ對シテハ、此默々タル大多數ノ言  
 ハザル輿論ト云フモノヲ傾聽スル明敏ト政治トガナカッタラバ、到底統御スルコトガ出來ナイ  
 ト思フノデアリマス、幸ニシテ現内閣ハ此傾向ヲ洞察サレマシテ、明年度カラ多年ノ要望デアッ  
 タ農林省ノ獨立ヲ始メ、非常ニ窮セル財政ノ中カラ金額ハ左程サウ多クハアリマセヌケレドモ、  
 兎モ角農村振興策ト云フ新ナル題目ノ下ニ獎勵政策ヲ執ラレタノデアリマスカラ此精神ヲ擴充  
 サレタナラバ、希クハ平和ノ方法ヲ以テ農村ノ振興ヲ進メルコトガ出來ルデアラウト思フノデ  
 アリマス、故ニ吾々ハ、ドウカ此建議案ハ採擇サレルノミナラズ、一日モ早ク是ガ實現セラレン  
 コトヲ希望スルノデアリマス、最後ニ一言申上ゲタイノハ、本黨ヨリ御提出ニナリマシタ決議案  
 ニ對シテ吾々ハ反對セザルヲ得ナイヤウナコトニナッタノデアリマス、其御精神ハ十分二分ッテ  
 居リマスルシ、御精神ニハ反對デモ何デモアリマセヌケレドモ、併ナガラアノ決議案ハ何ヲ爲ス  
 ベキカト云フコトガ實ハ不明デアッタノデアリマス、今日農村振興策ヲ論ズルノニ最モ重要ナノ  
 ハ農村振興策トハ如何ナル事ヲ爲スカト云フ問題ヲ捉ヘルコト、如何ニシテ實現スベキヤト云

フ方法ヲ研究スルコト、誰ガ之ヲ行フカト云フ責任者ヲ定メルコトガ肝要デアリマシテ、是等  
 ガ不明デアリマス、問題ハ總テ空論ダト思ヒマス、不幸ニシテ本黨ノ御提出ノハ當時ニ於キマス  
 ルアノ案ノ委員會ノ説明ニ依リマシテモ、其點ガ不明デアリマスカラ、吾々ハ已ムヲ得ズ反對ラ  
 シタノデアリマス、吾々ノ提出シタノハ此點ガ明ニ示シテアルノデアリマス、マダ是デ全部盡キ  
 タノデアリマセヌケレドモ、之ヲ行ヘバ振興策ニナルノデアリマスカラ、茲ニ眞劍味ガアルト思  
 フノデアリマス、私ハ此點ニ於テ、ドウカ吾々ノ提案シタ所ノ此建議ガ、一日モ早ク實行セラレ  
 ンコトヲ希望致シマシテ、贊成ノ趣旨ヲ述ベマス

丹下茂十郎君ノ決議案贊成演説

私ハ只今上程ニナッテ居リマスル荒川五郎君外十五名ノ諸君ヨリ御提出ニナッテ居リマスル建議  
 案ニハ、遺憾ナガラ反對ノ意思ヲ持ッテ居ルノデアリマス、而シテ本黨提出ノ決議案ニ贊成スル  
 者デアリマス、農村ノ問題ハ既ニ諸君ヨリ屢當議場ニ於テ論議サレテ居リマス、殊ニ四十五議會  
 以來、毎回當議場ノ問題トナッテ居ルノデアリマシテ、就中昨年ノ特別議會ニ於テハ、我黨及與黨  
 諸君、竝ニ其他ノ諸君ヨリ建議案ガ提出サレマシテ、兎モ角滿場一致ヲ以テ可決サレテ居ルノデ  
 アリマス、又本議會ニ於キマシテモ、開會ノ劈頭以來有ユル機會ノアル毎ニ論議サレテ居ルノデ  
 アリマス、ソレダケ實ニ農村ノ問題ハ、國家ノ浮沈興廢ニ關スル所ノ重大ナル問題デアアルノデア  
 リマス、詰リ國民ノ實生治ニ觸レタル所ノ緊切ナ、即チ國家問題デアルト申シテ宜カラウト思フ  
 ノデアリマス、私モ農村出身者ト致シマシテ、農村ノ問題ニ付キマシテハ常ニ憂ヘテ居ル、聊カ  
 心配ヲ持ッテ居ル一人デアアルノデアリマス、併ナガラ農村ノ問題ハ只今申上ゲル通り、大體ニ於  
 テハ既ニ論議シ盡サレテ居ルノデアリマス、隨テ成ベク重複ヲ避ケタイト思ヒマスケレドモ、暫  
 時ノ間御許ヲ願ヒマス、農村ノ問題ハ最早議論ノ時機ニ非ズシテ、實行ノ時機ニ入ッテ居ルト云  
 フコトハ、何人モ認メテ居ルノデアリマス、併ナガラ政府ハ昨年特別議會ニ於キマシテ、全會一  
 致ヲ以テ可決シテ居リマスル所ノ、此農村ノ建議案ニ對スル各事項ニ付キマシテハ、未ダ根本的ノ



所謂農村問題ヲ解決スベキ方策ガ出テナイノデアリマス、即チ大正十四年度ノ豫算ヲ見マシテ吾々ハ甚ダ失望致シタノデアリマス、吾々ハ現内閣ノ無爲無策ニ失望致シタバカリデアリマセヌ、蓋シ與黨諸君ニ於キマシテモ、現内閣ノ無方針無經綸ニ向ッテハ、聊カ憐ラザル事ガアルト思フノデアリマス、吾々ハ與黨諸君ノ建議案ノ其精神ニ向ッテハ、必シモ反對ラスル者デハナイノデアリマス、唯案其モノ、形式ニ於テ私ハ同意スルコトガ出来ナイノデアリマス、即チ農村ノ問題ニ付キマシテハ從來屢議場ニ於テ決議サレテ居ル、度々建議案ハ提出サレテ居ルノデアアル、隨テ其建議案ニ對シテ政府ガ適當ナル方策ヲ立テナイ以上ハ、何度之ヲ繰返シテモ無駄デアルト思フノデアリマス、即チ建議案ノ如キ手緩イ事デテハ、到底實現ヲ期スルコトガ出来ナイト思フノデアリマス、ソレ故ニ我黨ノ提出致シマシタ所ノ決議案ノ強キ意味ニ於ケル所ノ院議ヲ以テ、政府ヲ鞭撻スルト云フコトノ必要ヲ認メタノデアリマス、ソレノミナラズ私ハ與黨諸君ノ建議案ノ提出ノ動機ガ、甚ダ純真デナイト云フ點ニ於キマシテモ、同意ヲ表スルコトガ出来ナイノデアリマス、諸君ノ建議案ニ掲ゲラレテ居ル、而モ其第一番目ニ掲ゲラレテ居ル所ノ農家負擔ノ輕減ノ問題ハ如何デアリマスカ、固ヨリ今日農家ガ過重ノ負擔ニ苦メラレテ、爲ニ益生活ヲ脅威セラレ、經濟難ニ陥リ、愈農村ノ疲弊困憊ヲ來シテ居ルト云フコトハ、是ハ明瞭ナル事實デアリマシテ、此際農家ノ負擔ノ輕減ヲ圖ルト云フコトハ、最モ必要ナル事デアリマシテ、是ハ何人モ異論ノ無イコトデアリマス、而シテ農村ノ負擔ノ中デ、最モ重要ナルモノハ何デアアルカト申シマシレバ、義務教育費ノ負擔デアラウト思フノデアリマス、與黨諸君ガ眞ニ此農村負擔輕減ニ付キマシテ左程熱心デアリ、誠意ガアルナラバ、何故諸君ハ曩ニ我黨ガ提出致シマシタ所ノ義務教育費國庫負擔法改正案ニ反對セラレタノデアアルカ、其時諸君ノ一舉手一投足ハ、只今建議案ニ書イテアル農家ノ負擔輕減ニ直ニ一指ヲ染メ得ルノデアアル、ソレガ出来ナイノデアアル、而モ其時ハ如何デアアルカ、政友本黨ガ全國ノ町村長ヲ煽動シタト云フコトデ、之ヲ葬リ去ッタノデハナイカ、而シテ今ニ至ッテ其テ隱レニ此建議案ヲ出スト云フコトハ何事デアアルカ、其矛盾撞著洵ニ嗤フベシデアアルノデアリマス、斯ノ如キヨガラセヲ致シマシテモ、今日ノ農家、今日ノ國民ハ諸君ヲ信

ジナイノデアリマス、更ニ過般當議場ニ於キマシテ、東武君ハ政友會ヲ代表セラレタ演說ニ於キマシテ、斯ウ云フコトヲ述ベラレテ居ルノデアアル、普通選舉、或ハ貴族院改革等ノ問題ノ前ニハ、農村振興ノ如キハサマデ重要ナル問題デハナイト云フコトヲ論斷セラレタノデアアル、諸君、多數ノ諸君ハ過グル總選舉ニ於テ、多少共農村ニ關係ヲ持ッテ居ル人ハ、農村振興ト云フ問題ヲ力說高唱サレタコトハ今尙ホ吾人ノ耳ニ新ナル所デアリマス、而モ農村ニ理解アリヤ否ヤヲ疑フヤウナ人、即チ市部ノ人ニ於キマシテモ、其政見ノ中ニハ堂々ト農村問題ヲ掲ゲテ居ッタノデアリマス、謂ハバ農村問題ハ過グル選舉ノ御題目ノ一ツニナッテ居ッタノデアリマス、此題目トナッタ所ノ重大ナル農村振興ノ問題ヲ、唯單ニホソノ申譯的ノ建議案デ以テ此事ヲ葬リ去ラントスルコトハ、實ニ我ガ農民、殊ニ選舉民ヲ愚ニスルモノデアッテ、最早多數ノ國民多數ノ農民、多數ノ選舉民ハ諸君ヲ信用シナイノデアリマス、唯一ツ諸君ノ建議案ノ趣旨ニ共鳴スル事ガアリマス、ソレハ何デアアルカト申シマスルト、與黨諸君ニスラ現内閣ノ政策ニ對シテ不信任ノ意思ヲ表明セラレタト云フ一事デアリマス、更ニ政府ノ金科玉條トシテ居ル所ノ農村振興ノ施設ニ付テ聊カ批評ヲ試ミタイト思フノデアリマス、曩ニ豫算ニ於テ審議シマシタ所ノ農村振興ノ九項目、即チ二百九十萬圓ノ豫算ハ、當時實ニ貧弱ナルコトニ一驚ヲ喫シタノデアリマスガ、而モ斯ル少額ノ資金デ以テ農村振興ノ事成レリト云フニ至リマシテハ、之ヲ無爲無策ト謂ハズシテ何ゾヤデアアル、政府當局ハ行政財政ノ整理緊縮ノ今日ニ於テ是ダケノ金、是ダケノ金額ヲ取り得タコトヲ以テ一大成功ナリト壯語スルニ至ッテハ、餘リニ傍若無人ナル、此自惚ニ驚カザルヲ得ナイノデアリマス、高橋農相ノ大抱負、高橋農相ノ大經綸ガ即チ是ダケデアアルカ、願クバ同氏ノ抱負ノ片鱗デアッテ欲シイト思フノデアリマスケレドモ、遺憾ナガラ恐ラク是ガ全鱗デアラウト思ッテ、甚ダ心細イ感ジガ致スノデアリマス、殊ニ今回計畫サレマシタ所ノ事業ハ、寧ろ屬僚案デアルト云フコトヲ申スノデアリマス、何所ニ大抱負ガアルカ、何所ニ大經綸ガアルカ、殆ド從來行ッテ來タ所ノ屬僚的ノ小刀細工、燒直シ、聊カ之ニ型置ヲシテ居ルカ、乃至ハ多少ノ變更ヲ見タニ過ギナイノデアアル、眞ニ農村問題カラ論ジマシタナラバ、枝葉末節デアアル、微温不徹底デアアル、因循姑息



ニ過ギナイノデアリマス、モット農村問題ノ根幹ニ觸レタル所ノ問題ガ幾多横ッテ居ルデハナイカ、是等ノ問題ニ一指ヲ染メルコトノ出来ナイト云フコトハ、洵ニ其無策憫ムベキデアル、過日本案ノ委員會ニ於キマシテ、三土農商務次官ハ、我黨提出決議案ノ理由書ニ記載シテアル所ノ、即チ毫モ根本ニ觸ル、モノアルコトヲ見ズト云フ此點ニ向ッテ喰ッテ掛ッテ、甚ダ論難攻撃セラレタト云フコトデアリマス、然ラバ問フ、我國ノ經濟問題ナリ、或ハ社會問題ナリ、若クハ政治問題トシテ極メテ重要ナル所ノ食糧問題ハ、如何ニ解決セントシテ居ルノデアルカ、嘗テ高橋農務大臣ハ食糧ノ獨立ハ必要デアアル、食糧ノ自給自足ハ必要デアアル、必ズヤラナケレバナラヌト云フコトヲ言ッテ居ルノデアアル、其問題ハ如何ニセントシテ居ルノデアルカ、隨テ此食糧問題ノ解決ニ對シテ耕地ノ改良、耕地ノ擴張、是ハ國策トシテ遂行セナケレバナラヌ問題デアアル、併ナガラ何等是等ニ對シテ策ノ施スベキモノハ無イノデアアル、耕地整理、或ハ開墾ハ固ヨリ、干拓ナリ、是等ノ事業ニ付テハ如何ナル國策ヲ遂行セントシテ居ルノデアルカ、若シ國策ノ遂行上是等ノ事業ガ必要デアルト云フコトデアラバ、耕地整理ノ國策モ亦可ナリデアアル、又現在ヨリヨリ以上ニ補助ヲ増額スルト云フコトモ亦必要デアアル、殊ニ開墾ニ至リマシテハ、曩ニ助成範圍ヲ三反歩以上ニ及ブト云フ建議案ガ出テ、今委員會デ審議中デアルト承知致シテ居ル、斯ノ如キ時代ニ於キマシテ、而モ本年度豫算ニ於キマシテハ開墾助成費ニ於テ六十萬圓餘ノ減少ヲシテ居ルノデアアル、何タル矛盾デアアルカト申サネバナラヌ、又一面ニハ政府ニ於キマシテハ數年來開墾干拓ニ關スル豫定地ヲ調査致シマシテ、各府縣ニ涉リマシテ多數ノ面積ヲ調査致シテ、居ルノデアアル、此成案ガ出来テ居ルノデアアル、是等ニ對シテハ如何ナル方針ヲ取ラントシテ居ルカ、若シ必要トナラバ政府自ラ直營モ可ナリ、又民間ノ企業ヲ助成スルコトモソレヲ獎勵スルコトモ亦必要デアアル、併ナガラ折角調査シタ事業ヲ其儘箱ノ奥ニ藏ッテ置クト云フ状態デアアル、而モ開墾理立ト云フ問題ニ付キマシテハ、農商務省ト内務省トニ扞格ヲ來シテ居ル、農商務省ニ於テ折角調査研究シテ測量ガ出来テ、而モ成案ヲ得タモノニ對シテ、内務省ハソレニ反對ヲスルト云フヤウナ奇現象ヲ呈シテ居ルノデアアル、又大問題トシテハ米穀ノ專賣問題ノ如キ、或ハ米價ノ公定相場ヲ定ム

ルト云フ問題ノ如キハ、如何ニ扱ハントシテ居ルカ、自作農創定問題ヲ如何ニスルカ、或ハ肥料政策ヲ如何ニ確立スルカ、蠶業ノ統一改善ヲ如何ニ試ミルカ、農林教育ヲ如何ニ取扱ハントスルカ、殊ニ農林教育ト致シマシテ、義務教育費ハ姑ク別トシテモ、農村ノ青年男女ノ教養指導、之ヲ如何ニスルカト云フ問題デアリマス、前ニ加藤知正君ヨリ農村ノ青年教育問題ニ付キマシテハ、最モ熱心ナル御論ヲ拜聽致シマシテ、大イニ吾モ同感致シタデアリマスガ、併ナガラ農村ノ青年ノ教養ト共ニ、農村ニ於ケル女子ノ教養ト云フコトハ大ニ注意セネバナラヌ大問題デアアルト私ハ思フノデアリマス、農村ノ荒廢ノ因ガ確ニ農村女子教育ニ大關係ヲ持ッテ居ルト云フコトヲ申シタノデアリマス、現在ノ狀況デハ所謂農村ニ於ケル子女ノ向學心ハ非常ニ進歩致シテ居リマス、高等女學校ヲ卒業シナケレバ一人前ノ女子ニハナラヌト云フコトヲ皆自覺シテ居ル、ソレ故ニ皆都會ニ集中致シテ居リマス、農村ニハ教養ノ機關ガ無イノデアリマス、自然ニ農村ノ子女ハ都會ノ物質文明ニ憧レテ、再ビ農村ニ歸ッテ鎌ヲ持チ鋤ヲ取ルト云フコトヲ厭フト云フトニナルノデアリマス、斯ノ如クニシテ先ニ我黨ノ東郷君ヨリ申サレタ農村青年ノ結婚難ト云フコトモ此所カラ出發シテ來ルノデアリマス、若シモ之ガ満足ニ行カナケレバ農村ノ青年ハ益滔々トシテ都會ニ集中スルノデアリマシテ、農村ノ荒廢ハ必然ノ結果ト申シタイノデアリマス、ソレ故ニ農村ノ子女ノ教育ト云フコトヲ如何ニ取扱ハントシテ居ルカ、是等ノ問題ハ最モ重要ナ問題ト承知致シテ居リマス、其他金融問題ナリ、或ハ經濟問題ナリ、殊ニ農村社會問題ト致シマシテ地主小作ノ關係、之ヲ圓滿ナル調和發達ヲ遂ゲルト云フコトハ最モ必要デアリマスガ、ソレニ對シテハ小作法制定ナリ若クハ是等ノ緩和ニ關スル所ノ制度ヲ設ケナケレバナラヌ事ト思フノデアリマスガ、是等ニ付テ未ダ現内閣ノ方針ヲ一モ聽クコトガ出来ナイノデアリマス、其他農村ノ基本的ノ問題ニ對シテハ、何等ノ手ヲ染メテ居ナイト云フコトヲ甚ダ遺憾ニ考ヘルノデアリマス、偶口ヲ開キマスレバ、耕地整理國營ハ困難デアアル、或ハ米ノ專賣ハ至難デアルト思フ、自作農ノ創定ハヤルニ越シタコトハナイケレドモ、之ヲヤルニハ多額ノ資金ヲ要スル、或ハ長年月ヲ要スルカラシテ容易ニ手ヲ著ケルコトハ出来ナイ、或ハ目下調査中、目下研究中一ニモ二ニモ調査



研究デ以テ抽象的ナ言辭ヲ以テ遁レテ、所謂一時遁レヲシテ居ルノデアアル、斯ノ如ク致シテ居ル中ニ刻一刻農村ハ荒廢シツ、アルノデアアリマス、彼ノ四十六議會ニ於キマシテ農村救済ニ關シテハ、先以テ農村ノ資金ノ充實ヲ圖ルト云フコトガ必要デアアル、隨テ産業組合ノ圓滿ナル發達ヲ圖ルト云フコトヲ以テ捷徑ト致ス、此理由ヲ以テマシテ産業組合中央金庫法ヲ當議院ヨリ提出致サレマシテ之ガ可決ニナリ、直ニ一千五百萬圓ノ資金ヲ政府ガ負擔スル事ニナッタノデハナイカ、僅ニ農村金融ト云フ此一ツノ問題ニ付テスラ、四十六議會ニ於テハ一千五百萬圓ノ支出ヲ致シタノデハナイカ、而モ農村振興ノ問題トシテ麗々シク九ツノ項目ヲ舉ゲテ僅ニ二百五十萬圓デアアル、所謂高橋農相ノ御言葉ヲ藉リテ言ヘバ二階ヨリ目藥デアアル、或ハ三階ヨリ目藥デアアルカモ知レヌノデアアリマス、而モ特ニ此場合申上ゲテ置キタイ事ハ、此度ノ行政整理ニ於キマシテ、農林省本省費ニ於キマシテ七百七十一萬七千餘圓ノ整理節約ヲ致シテ居ルノデアアリマス、此整理節約ハ——吾々ハ未ダ行政財政ノ整理緊縮ヲ不徹底デアルト云フコトヲ申シテ居ルノデアアリマスガ、此農林省本省費ニ於キマシテ七百七十一萬七千圓ノ中ノ、固ヨリ大部分ハ事務費ニ屬シテ居リマス、即チ行政整理ノ中ニ含マレテ居ルノデアアリマスケレドモ、而モ其中ニ實際ニ於キマシテ農業ニ關スル獎勵費補助ノ施設マデ同ジク削減サレテ居ルノデアアリマス、即チ玉石共ニ焚カレテ居ルノデアアリマス、其一例ヲ舉ゲテ見マスレバ、補助費ニ於キマシテハ十九萬九千圓削ラレテ居ルノデアアリマス、尙ホ産業獎勵費ニ於キマシテハ百十八萬二千圓削ラレテ居ルノデアアリマス、其他一々茲ニ枚舉致シマシタナラバ、或ハ二百五十萬圓ハ差引零ニナリハシナイカト思フノデアアリマス、唯單ニ名目ヲ變ヘテ、サウシテ右ノ手ニ多キヲ奪ツテ、左ノ手ニ少ク與ヘテ居ルニ過ギヌノデアアリマス、而モ農村ノ振興問題ハ大ニヤルカラ安心セヨト云フコトハ特別議會ニ於テ高橋農相ガ言明サレテ居ルノデアアリマス、其言明ノ結果ガ大ニ努力ヲサレタ 其捻出額ガ二百五十萬圓ト云フ事デアアリマス、是ハ嘗テ吾々ガ志賀和多利君カラ頂戴致シマシタ「膽豆ノ如シ」ト言フ言葉ハ、今日高橋農相ニ御返上申上ゲテ置クノデアアリマス、以上申上ゲマシタ理由ニ依リマシテ、私ハ現内閣ノ此農村振興ニ關スル問題ニ付キマシテモ、非常ニ貧弱ナル點ニ遺憾ヲ表ス

ルモノデアアリマシテ、ソレガ爲ニ從來屢提出致シマシタ所ノ建議案ノ趣旨ヲ體シテ、政府ハ直ニモット農村ノ根柢ニ觸レタ重要問題ニ付テ對策ヲ確立センコトヲ希望スルノデアアリマス、之ヲ以テマシテ私ハ折角デアリマスケレドモ、與黨諸君ノ建議案ニハ反對ヲ致シマシテ、吾黨ノ建議案ヲ支持シ茲ニ贊成スル者デアリマス

他ニ通告者ナク討論ハ茲ニ終局ス先ツ本案ニ付起立採決ノ結果起立者多數ヲ以テ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ(決議案ノ結果ハ第六項(四)參看)

七七 米麥其ノ他農產物ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

政府ハ米來其ノ他農產物ノ關稅定率法改正法案ヲ速ニ今期議會ニ提出セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月十二日荒川五郎君外十五名之ヲ提出ス三月三日本案ヲ院議ニ付シ提出者(八田宗吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ荒川五郎君外十五名ノ提案デアリマシテ贊成者二百九十二名、合計三百八名ノ贊成者ヲ有スル建議案デアリマシテ、如何ニ本問題ニ對シテ我が國民ガ要望スル熱烈ナル情ガアルカハ、此數字ニ依テ明ナル事デアリマスノデ、國民ガ如何ニ本問題ノ解決ニ對シテ熱心ヲ籠メテ居ルカト云フコトハ、私ガ説明ヲ要セザルコト、信ズルモノデアリマス、今ヤ農村振興問題ハ、各黨



派ノ一致セル叫ビ聲トナッテ、今ヤ本會議ニ於キマシテモ委員會ニ付セラレ、審議中ニ屬スル問題デアリマスルガ、此振興問題中ニ於キマシテ、本問題ノ如キモ特ニ重要ナル案件デアリマスルガ爲ニ、特ニ茲ニ掲ゲテ本員ヨリ説明申上ゲル次第トナッタノデアリマス、言フ迄モナク農村ノ振興ト云フ上ニ於キマシテ、今申上ゲマシタル如ク、本問題ノ如ク米麥其他農産物ノ關稅定率ヲ改正シテサウシテ行カウト云フ所ノ趣意ハ農民ノ生産シタル米麥ト云フヤウナ産物ガ、生産費ヲ償フコトガ出来ナイト云フヤウナ價ノ安イモノデ、賣拂ハナケレバナラヌト云フヤウニナリマシタナラバ、唯カ粒々辛苦シテ農業ニ從事スル者ガアリマセウカ、ドウシテモ之ヲ相當ナ價格ヲ保持シテ、サウシテ農民ガ安ンジテ地方ニ生業ヲ營ミ得ルダケノ價格ヲ維持スルト云フコトガ、農村振興ノ上ニ於テ最モ力ヲ加ヘナケレバナラヌ點デアルト信ジマス、然ルニ此點ニ對シマシテ現在ドウ云フ風ニナッテ居ルカト云フコトヲ申シマスルト、現行關稅定率ナルモノハ明治四十三年、今ヨリ十五年前ニ定メラレタモノデアリマシテ、未ダ是ガ變更ガナイノデアリマス、而シテ大正十年以來米穀ニ對シマシテハ米穀法案ガ制定サレマシテ、需給調査ガ出來ルノデアッテ、而モ此第二條ニ於キマシテハ「政府ハ米穀ノ需給ヲ調節スル爲テニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀ノ輸入稅ヲ増減若ハ免除スルコトヲ得」斯様ニ第二條ニ掲ゲテアルノデアリマス、然ルニ特ニ必要アリト政府ガ認メタ場合ニ當ッテハ、此關稅ニ對シテ増減ヲ爲シ得ルヤウニナッテ居ルニ拘ラズ、政府ガ之ニ對シテ増額ヲ爲シタト云フヤウナコトハ曾テ試ミナイノデアリマス、殊ニ大正十一年ノ如キ米穀法實施以來僅ニ一年デアッテ、米ガ非常ニ增收トナッテ豊作ノ時ニ當ッテ、政府ハ何等此關稅ニ對シテ増額ヲ試ミラレナイ、故ニ北米合衆國、加奈陀ノ方面ヨリシテ、米ハ日本ニ於テ餘ッテ居ルニ拘ラズ、價ガ安クテ農民ガ歎イテ居ルニ拘ラズ、亞米利加合衆國ヨリ四十六萬石モ這入ッテ居ル、サウシテ輸入額ハ一千三百一十一萬八千五百圓ト云フ額ニ達シマシテ、右當リ二十八圓五十九錢ト云フ價格デアリマス、元來此加州米ハ溫帶米デアアル、溫帶米デアアルカラシテ、日本ノ丁度三等米ニ適シテ居ル米ノ性質デアッテ、日本人ノ嗜好ニハ頗ル適當シテ居ル、然ルニ此米ノ關稅率ナルモノハ明治四十三年ニ於テ熱帶地ヲ標準トシテ定

メタ價格デアリマス、申シマスルト云フト米ニテハ明治四十三年當時ヨリ決メラレテ居ル輸入關稅ハ百斤ニ付テ一圓デアアル、小麥ガ九十七錢、當時是ガドウナッテ居ルカト云フノニ、暹羅邊リノ熱帶米ハ一等白米ガ十二圓二十錢デ、外國ノ小麥ガ九圓二十七錢ト云フ價格デアアル、然ルニ大正十二年ノ調ニ依リマスルト云フト、十二年ニナリマシテハ四十二年當時一等米ガ十二圓二十錢デアッタモノガ二十圓六十錢トナリ、小麥ハ九圓二十錢ノモノガ十四圓六十錢ト云フ高イ金額ニナッテ參ッタノデアリマス、斯様ニ以前ト今日トハ外米ノ價格ガ變ッテ居ルニモ拘ラズ、當時ノ關稅率ヲズツト實行シテ居ル、而シテ、政府ガ米穀法ノ第二條ニ依テ増減シテ行ッテ、茲ニ旨ク調節ガ出來ルニ拘ラズ、稅率ヲ上ゲタト云フコトハ一回モナイト云フ狀況ハ、頗ル此法案ヲ實施スル上ニ於テ消費者側ニ厚キ同情ヲ拂ッテ、サウシテ生産者側ヲ顧ミナイ所ノ實例デアルト云フコトヲ、吾々平素痛歎シテ居ル、ドノ政府モ何時デモ斯ンナ實例ニナッテ居ル、何故ナレバ關稅ヲ引下ゲ、或ハ撤廢スルコトハ消費者ノ喜ブ所デアリマスケレドモ、生産者ハ之ニ對シテ怨嗟ノ聲ヲ放ツコトヲ知ラナイ、又關稅ヲ上ゲテ行クト云フコトハ、生産者側カラシテ餘リ喜バレナイノミナラズ、却テ外國カラ抗議ヲ申込マレルト云フコトガ通例ニナッテ居リマス、故ニドノ政府モ特ニ必要ナル場合ト米穀法ノ第二條ニ掲ゲテ居ルニ拘ラズ、加州米ガドシドシ這入ルト云フコトハ必要ナル場合デアアル、然ルニ之ヲ投ヤッテ益米ハ安クナルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、既ニ時ヲ經過スルコト十六年前ニ設定サレタルモノヲ、今日此稅率ヲ變更セザルト云フコトハ、頗ル政府ノ行爲ニ對シテ大ニ鑑ミラレナケレバナラヌ點デアルト吾々ハ感ジテ居ルノデアリマス、而シテ現在ノ關稅定率ヲ改正シナカッタナラバ、將來ハドウ云フ影響ガ我國ニアルカト申シマス、我國ノ對外貨幣價格ト云フモノガ、若モ元ニ戻ッテ紙幣本位ノ圓ガ金貨本位ノ圓トナル時ガ來マシタナラバ、亞米利加ノ米作業ト云フモノハ大發展ヲ爲シ、我國ニ對シテ非常ナ輸入ヲ爲スコトニナルノデアリマシテ、我國ノ米作ハ是ト競争スルコトガ出來ズシテ、大脅威ヲ受ケル時機ガ到來スルト信ズルノデアリマス、中華民國、又支那ガ今ハ輸出ヲ禁ジテ居ルカラ宜シイガ、後來再ビ輸出ヲ解禁スルヤウナ場合ガ到來シマシタナラバ、我國ノ米作業ヲ保護スルコトハ



到底出來ナイコトニナツテ來ル、是ハ關稅率ヲ改正シナケレバナラヌ大原因デアルト吾々ハ感ジテ居ルノデゴザイマス、米ニ付キマシテハ此邊ニ止メテ置キマスガ、小麥ニ付テ一應申上ゲナクテハナリマセヌ、小麥ニ付テ申上ゲレバ、大麥其他ノ農産物ハ之ヲ以テ類推スルコトガ出來マスカラ、小麥ニ付テ申上ゲマス、今日ハ小麥ノ價格ガ生産費ニ對シテ安イト云フコトハ一般ノ認メル所デアリマス、何ガ爲ニ小麥ガ安イカト申シマス、歐洲大戰ノ影響ヲ受ケマシテ、歐洲各國ニ於テ小麥ヲ作ツテ居ッタ國ガ戰爭ノ爲ニ小麥ヲ作ルコトガ出來ズシテ、サウシテ却テ之ヲ輸入スルコトニ努メマシタ、其輸入スル所モ平生取引ヲシテ居ッタ所ノ東亞細亞方面、印度トカ濠洲トカ云フ方面ト取引ヲ爲スコトガ出來ナイ爲ニ、專ラ北米合衆國、亞爾然丁、斯樣ナ方面ニ歐洲方面ニ於ケル輸入ノ活路ヲ見付ケマシタ、故ニ加奈陀亞爾然丁方面ニ於キマシテ此要求ニ應ズルガ爲ニ、未墾地ヲ開墾シテ生産ヲドシ、増シマシテ、小麥ヲ非常ニ生産シマシテ、之ヲ戰地タル歐洲方面ニ輸出致シタノデアリマス、此未墾地ヲ開イテ小麥ヲ非常ニ栽培シマシタル此生産ノ數量ナルモノハ、頗ル大ナルモノデアリマス、平和ガ恢復シテ來マシテ、サウシテ交戰國デアッタ諸國ノ小麥ノ生産額モ次第ニ恢復シマシタケレドモ、新開地ノ農業者タル加奈陀方面ノ小麥生産者ハ、歐洲方面ニハ需要者ガ無クナツタケレドモ、ソレヲ廢メルコトモ出來ナイ、外ノ作物ニ轉換スルコトモ出來ナイ狀態ニナツテ居リマスノデ、益小麥ノ生産額ト云フモノガ殖エテ來マシテ、縮小スル狀況ガナイノデアリマス、況ヤ露西亞等ガ土地制限ヲ行ツテ、サウシテ斯樣ナ小麥等ノ生産ニ對シマシテモソレト、制限ヲ加ヘマシタコトモ、之ヲ撤廢シテ參ツタ今日ニ於キマシテハ、最早露西亞、羅馬尼方面ノ秩序ガ恢復スルト共ニ、小麥ノ生産額モ益大キクナツテ來マス爲ニ、小麥ノ生産者ノ大脅威デアリマス、是ハ關稅率ヲ改正シテ、サウシテ斯樣ナ生産者側、農産物ヲ生産スル者ニ保護ヲ加ヘナケレバナラヌト云フコトハ、私ガ茲ニ呶々ノ辯ヲ要セザルコトデアリマス、以上申述ベマシタヤウナコトハ、米麥等ニ付テノ一端デアリマスガ、農産物モ矢張之ヲ以テ推測ルコトガ出來ルノデアリマス、此際政府ハ速ニ關稅率ノ改正法律案ヲ議會ニ提案シテ、サウシテ農民ノ懇フル苦痛ノ聲ヲ止メサシテ、今日ノ時弊ヲ救ハレンコトヲ望ムモノデアリマス

ス

次テ本案ハ荒川五郎君外十五名提出農村振興ニ關スル建議案(七六)外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

七八 國幣中社眞清田神社陸格ニ關スル建議案

尾張國一宮市所在國幣中社眞清田神社ヲ官幣大社ニ陸格セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十二日服部英明君之ヲ提出ス三月十二日本案ヲ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ヨリ眞清田神社陸格ニ關スル建議案ヲ提出致シテ置キマシタニ付キ、簡單ニ其理由ヲ説明致シマス、本文ニ入ル前ニ一言御斷リヲ申上ゲテ置キマス、本案ハ事神様ニ關スル事デゴザイマシテ、而モ神代ニ於ケル神様ノ御名前ヲ申上ゲルコトデアリマスカラ、間違ヒマシテハ洵ニ恐懼ノ至リニ存ジマスカラ、原稿ヲ朗讀的ニシマスコトヲ御承引願ヒタイノデアリマス、尙ホ速記ノ方



モ御困難ト存ジマスカラ、極メテ緩慢ニ申上ゲマスルカラ此段御諒承ヲ願ヒマス、謹ンデ惟ルニ眞清田神社ハ神代ノ御創立ニ係リ、古ヨリ官社ニ列セラレ正一位ヲ賜リシ、吾國中國第一ノ明神大社デゴザイマシテ、維新後ニ至リマシテ明治十八年國幣社ニ列セラレ、尾治田ノ田原ノ里、松子島即チ今ノ愛知縣尾張國一宮市ニ鎮マリ座シ給フ、抑モ眞清田神社ハ天孫天子火、瓊々杵尊ノ御時、御畏クモ右大臣家大物主命之ヲ創立シテ、自ラ止ラセ給ヒシガ、日子火火出見尊ノ御宇ニ至リマシテ、尾張國造天別天之火明命此ノ宮ニ移リ止ラセ給ウタノデゴザイマス、天日子火、瓊々杵尊ノ御時西北ノ大陸ヨリ外寇筑紫島ニ攻メ來リマシテ、即チ、高天原ニ天ツ神國ツ神八萬神ヲ神集ヒニ集ヒ給ヒ、神議ニ議リ給ヒテ、竟ニ尊親ヲ神后ト西征マシマスコトニ決シマシタ、乃チ右大臣家武知男命ヲ總軍司令頭長トナシ、經津主命、武甕槌命、稚武王命、建御名方命ヲ初メ玉柱屋命、顯國玉命、豐城入昆古命、前玉命、五十猛命、鹽土翁命、豐玉武毘古命、味耜託彥根命ノ諸軍神ヲ從ヘ、軍勢一萬八千神ヲ率キテ猿田毘古命ヲ嚮導トシテ天降リマシ、給ウタノデアリマス、日夜重ヌルコト五十三日ニシテ西國ニ著御マシマシス、先ヅ關ヲ立テ、筑紫島ノ賊軍ヲ防ガセ給フ、其地ヲ住防ト云フノデアリマス、尊ハ軍司令頭長武知男命、竝ニ智略ニ富メル少名毘古那命、事代主命ノ兄弟ト籌ヲ陣中ニ運シメ給フ、一日賊軍勢ヲ更ニ南島ニ移サントスト告グルモノガアリマシテ、乃チ神后木花咲耶姬尊ハ親ヲ將トナリ、味耜託彥根尊、興玉命ヲ副將トシ、軍勢八千五百神ヲ率キテ、又猿田毘古命ヲ嚮導トシテ、軍船ニテ南島ニ渡リ之ヲ防ガセ給ウタノデアリマス、然ルニ外寇日夜大舉シテ來リ攻メ、既ニ壹岐對馬ヲ掠奪シ、更ニ筑紫島ヲ襲ヘリ、我軍大ニ防ギ戰フト雖モ衆寡敵セズ、屢利ヲ失フ、乃チ尊四方諸々ノ州國ニ詔シテ軍兵ヲ催サシメ給フ、義ニ輝ク神々亦多シ、我軍大ニ振フ、尊ハ諸將ニ命ジ部署ヲ定メ、一齊ニ奮ヒ戰ハシメ、竟ニ賊軍ヲ虜ニセシメタノデアリマス、二十六日遅レマシテ南島ノ賊軍亦平定致シマシタノデアリマス、尊ハ筑紫ヲ鹽土翁命、豐玉武毘古命ニ守ラセ、南島ヲ興玉命、味耜託彥根命ニ守ラセ、住防下ノ關ヲ玉柱屋命ニ守ラシメ、其他ノ諸軍神初メ軍勢ヲ從ヘ、高天原ニ還リ上ラセ給ウタノデアリマス、後西征ノ功ヲ論ジ其賞ヲ定メ給フ、即チ總軍司令頭長武知男命ニ特ニ詔シテ、諱ヲ大物

主命ト賜ヒ、其子孫一族ヲ豐岡始原瑞穗國ノ中央ニ於テ東西南北ノ海ニ至ルマデノ總司令頭長ノ家ト定メ給フ、命乃チ瑞穗國ノ中央ナル尾治田ノ田原ノ里松子島ニ宮殿ヲ建テ、止マラセ給ウタノデアリマス、之ヲ眞清田ノ宮ト申上ゲルノデアリマス、其他ノ十七軍神ハ各州國ヲ賜リ各地ニ割據シテ命ノ軍令ニ從ヒ、各國ニ治メシメ給ウタノデアリマス、日子火々出見尊ノ御時代ニ至リマシテ、第三ノ皇子天別天之火明命ヲ尾治田ノ國造ト爲シマシ、命ハ母神佐奈木毘女命ト共ニ高天原ヨリ同國田原ノ大物主命ノ止マリマシ、眞清田ノ宮ニ移リ止マラセ給ウタノデアリマス、然ルニ今ヤ大物主命ノ麾下ニ座シマシ、經津主命、是ハ香取神社ニ御祀リシテアルノデアリマス、武甕槌命、是ハ鹿島神社ニ御祀リシテアルノデアリマス、建御名方命ハ諏訪ニ御祀リ致シテアルノデアリマス、各神社ハ何レモ官幣大社ノ社格ヲ以テ祀ラセ給ヘルニモ拘ラズ、其總軍司令頭長タリシ大物主命ノ神靈ヲ祀レル神廟ニ、其國ノ國造火明命ヲ配祀シ給ヘル眞清田神社ノミガ、反ッテ國幣中社ナルハ、其權衡ヲ失スルノミナラズ、實ニ皇室尊嚴ノ神聖ニ關スルモノナリト信ズルノデアリマス、仍テ茲ニ默視セント欲スルモ默視スル能ハザルモノデアリマス、是レ本員ガ政府ヲシテ速ニ調査審理ヲ進メシメ、官幣大社ニ陸格スルノ手續ヲ爲サシムル爲敢テ本案ヲ提出シ、諸君ノ協贊アラント切望スルノデアリマス

次テ本案ハ岡本實太郎君提出猿投神社昇格ニ關スル建議案(三三)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

七九 警察費國庫下渡金連帶支辨規定改正ニ關スル建議案



地方府縣ノ警察費ニ對シ中央政府ヨリ補給シツアル下渡金ノ現行制度ノ基準ハ明治二十一年ノ制定ニ係レリ爾來三十有餘年ノ間交通機關ノ發達地方人口ノ激増文化ノ普及等ニ伴ヒ其ノ進歩變遷ノ程度ハ當年ニ比シ恰モ隔世ノ感アリ而モ今尙三十有餘年前ノ古キ基準ノ下ニ之カ支辨ヲ爲シツアルハ甚々時代ニ副ハサルモノアリ仍テ政府ハ速ニ之カ適當ノ改正ヲ斷行セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十二日千葉宮次郎君外三名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(千葉宮次郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此地方警察費連帶支辨金ノ規定ノ法案ハ、現在ニ於キマシテハ、東京府ガ十分ノ六デアリマシテ、大阪府ガ十分ノ三半ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、其他ノ各府縣ハ何レモ均一的ニ六分ノ一ノ規定ニ現在ハ施行セラレテ居ルノデアリマス、所ガ此規定ハ遠ク明治二十一年ノ制定ニ係リマシテ、爾來三十有餘年間、其間ニ於キマスル國運ノ進歩發達、或ハ交通機關ノ變遷等ニ伴ヒマシテ、又地方ニ於ケル文化ノ普及等カラ考ヘマシテ、其制定當時ニ比シマスレバ、實ニ隔世ノ感ガアルノデアリマス、隨テ時代ノ進歩ト國情ノ變化ニ伴ヒマシテ、此規定ヲ改正シマスルト云フコトハ、當然ノ歸結デアルト私共ハ信ズルノデアリマス、茲ニ一例ヲ申上ゲマスレバ、東京、大阪ノ如キニ大都市以外ニ於キマシテモ、京都、兵庫或ハ神奈川、愛知、廣島、山口、福岡、長崎ノ一府七縣ノ如キハ皇室ノ御警衛上ニ於キマシテモ、又國際關係ノ上ニ於キマシテモ、國家

警察ノ事務ハ他ノ各府縣ニ比シテ非常ニ繁多デアルト云フコトハ、争フベカラザル事實デアアルノデアリマス、故ニ政府ハ各般ノ制度規定ヲ改正スルノ此際此時ニ當リマシテ、此規定ヲ改正スルコトハ當然ノ必要ト存ジマシテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマスカラ、ドウカ幸ニ各位ノ御協賛ヲ願ヒタイ次第デアリマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ三月二十二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十五日本案ヲ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一六四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

### 八〇 高等師範學校設置ニ關スル建議案

山形縣山形市ニ高等師範學校ヲ設置シ優良ナル中等學校教員ヲ養成セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月十二日佐々木春作君外三名之ヲ提出ス三月十二日本案ヲ院議ニ付シ提出者(佐々木春作君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ



高等師範學校ヲ山形市ニ建設スルト云フ案デゴザイマス、適材ヲ適處ニ配シマシテ其能率ノ増進ヲ圖ルト云フコトハ、恰モ適當ナル地所ニ適當ナル學校ヲ建設シテ、其進歩發達ヲ圖ルト云フコト、意味ハ殆ド似テ居ルノデアリマス、乃チ學校ヲ建設スルニ於キマシテモ、或ハ工業學校ハ工業學校ノ特色ガアリマス、商業學校ハ商業學校ノ特色ガアリマス、師範教育ハ又師範ノ特色ノ特色ガアリマシテ、其土地ノ状態、其土地ノ總テノ環境ガ其學校ニ適當センケレバ、將來ニ於テ其發達進歩ト云フコトヲ期スル譯ニハ參リマセヌ、其次ニハ交通ノ便モ必要デゴザイマセウ、併ナガラ絶對必要トスル所ハ何デアリマスカト申シマス、健康ノ地カ否カト云フノデゴザイマス、即チ其土地ニ流行病デアルトカ、風土病デアルトカ、傳染病デアルトカ、絶對ニ無イト云フコトガ第一ノ問題デアリマス、其以上ニ只今申シマシタ師範教育ニ適當スル所ノ學校ノ歴史ニ徴シテ最モ適シテ居ル、是ガ必要デゴザイマス、第三ニ若夫レ重大ナル山川草木ガ背景トナリ、保護色トナッタコトナラバ、ヨリ以上ノ適地ト謂ハナケレバナラヌノデアリマス、山形市ハ此師範教育ニ付キマシテハ、縣外ニ要求サレテ澤山ノ教師ガ出テ居リマス、是ハ全ク雄辯ニ物語ッテ居ルモノト確信シテ疑ハナイノデアリマス、總テノ意味ニ於テ此師範教育ナルモノハ、山形市ガ最モ適地デアルコト、確信シテ提案シタ次第デゴザイマス、宜シク御審議セラレテ、御贊成アラシコトヲ希望シマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十三日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

八一 國立公園調査會設置ニ關スル建議案

國立公園ニ關スル政策ヲ確立シ其ノ候補地ト計畫ノ大要ヲ調査決定セシメムカ爲ニ適當ナル調査機關ヲ設置セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十二日鈴木隆君外四名之ヲ提出ス三月十二日本案ヲ院議ニ付シ提出者(嶋居哲君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

國立公園調査會設置ニ對スル建議ノ趣旨辯明ヲ簡單ニ申述ベタイト存ジマス、國立公園設置ノ論、此可否ニ至ッテハ既ニ問題デアアリマセヌ、唯是ハ實現實行ニ向ッテ國民ノ要望スル所デアアルノデアリマス、是ガ實現ニ向ッテ一步ヲ進メンガ爲ニ、茲ニ調査會ヲ設置スルノ建議ヲ爲シタノデアリマス、本議會ニ於キマシテモ、多クノ國立公園ノ建議案ガ提出サレテ居ルコトニ鑑ミマシテモ、其必要ガアルト信ズルノデアリマス、歐洲大戰前後ニ於キマシテ諸種ノ文化的施設ガ陸續トシテ現レテ居リマスニモ拘ハリマセズ、我が大日本帝國ハ自然ノ大公園ガアルニモ拘ラズ、此事ニ未ダ著手セラレテナイノハ洵ニ遺憾ニ堪ヘザル次第デアリマス、故ニ此建議案ヲ提出シマスル其理由ト致シマシテ、此公園ノ區域ヲ明ニシ、又計畫ノ大綱ヲ示スト云フコトハ、各方面ニ於テ、或ハ林業ニ、或ハ河川ニ、或ハ海岸ニ、ソレト、地方民ノ施設經營ニモ大關係ガアリマスカラシテ、茲ニ諸君ノ贊成ヲ得テ調査會ヲ設置致シマシテ、政府當局ガ賢明ナル舉ニ出デラレンコトヲ希望シテ已マザル次第デアリマス、簡單ニ趣旨ヲ申述ベマス



次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十三日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告原ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

### 八二 國立公園調査ニ關スル建議案

帝國ノ地理歴史及自然現象社會ノ趨勢輿論ノ傾向竝各般ノ實情ニ鑑ミレハ國立公園ヲ造設スルノ必要アリ本件ニ就テ論議スル者相次キ帝國議會ニ之カ建議案及請願書ノ提起セラルルモノ亦尠カラサルハ其ノ證左ニ非スヤ又國立公園トシテ指定セラルヘキヲ豫想シ勞資ヲ吝マシテ若干ノ施設ヲ試ミムトスル者續出ス故ニ政府ハ速ニ相當ノ人物ヲ朝野ニ需メ適切ナル方法ヲ立テ以テ國立公園ノ選定乃至其ノ施設經營ニ關スル調査ヲ遂行セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月十二日小西和君之ヲ提出ス三月十二日本案ヲ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ

### 辯明セリ

本案提出ノ理由ハ此建議案ノ趣旨書ノ本文ニ詳カデアリマスルカラ、此場合改メテ申上ケル必要ハアリマセヌ、全部省略シタイト思ヒマス、殊ニ只今嶋居君カラ御述ベニナリマシタノデ、此建議案モ亦花ヲ添ヘタヤウナ心持ガ致シマス、旁々一入省略スルノ當然デアアルコトヲ認ムル次第デアリマス、唯一言致シタイコトハ、私ト致シマシテハ國立公園トシテ、世界ノ狀態ニ鑑ミ、日本ノ有様ニ察シマシテ、ドウシテモ海ヲ中心トシタモノデナケレバナラヌト思フノデアリマス、我が日本ハ西ノ方ニ於テ英國ト相竝ンデ我ガ日本ハ二大海洋國デアアル、殊ニ我日本ハ英國ニモ増シテ海トノ關係ガ極メテ深イ國デアリマス、其國ニ於テ日本ノ國民ハ海ニ御尻ヲ向ケテ山ノミヲ眺メテ居ルト云フ狀態デアルカラシテ、我國ハ一向發展シナイノデアアル、此點カラ言ウテモ大ニ海國思想、海洋趣味ヲ發揮サセナケレバナラヌ、然ルニ山ノミヲ眺メテ或ハ海ヲ忘レルナドト云フコトハ以テテノ外ノ事デアリマス、殊ニ我ガ日本ノ小サナ土地ニ於テ、山ノミヲ眺メテ居ル、其山ハドナ山デアアルカ「アルプス」ニ較ベテ殆ド其若干分ノ一ニ過ギナイ斯ノ小サナ山「ヒマラヤ」ニ較ベテハ殆ド丘陵ノ如キ山ヲ捉ヘテ、是デ以テ我ガ日本ノ誇ニシヤウト云フコトハ以テノ外ノ事デアリマス、海ヲ忘レテ我ガ日本ノ發展、國民ノ向上ヲ期サウト云フコトハ、思モ寄ラヌノデアアル、所デ日本ノ國民ハドウシテモ此海ト云フモノニ親シムト云フコトニ致シタイ、此意味ニ於テ、私ハ瀬戸内海ヲ國立公園トスルト云フコトガ最モ其當ヲ得タモノト信ジマス、併ナガラ此場合ニ於テ私ハ必シモ瀬戸内海ヲ主張スル者デナイ、公正ナル方法ニ依リマシテ、政府ニ於テ朝野ニ適當ナ人ヲ求メテ、此人ガ公明正大ニ調査研究ヲ遂ゲラレテ、サウシテ其結果トシテ、最モ日本ニ適切ナル所ノ國立公園ヲ選定セラレンコトヲ希望スルノデアリマス、私個人ト致シマシテハ、蓋シ其場合ニ瀬戸内海ガ必ズ其選ニ入ルト云フコトヲ信ズル者デアリマス、併ナガラ何レニシテモ、公明ナル調査研究ヲ希望スルノデアリマス、此意味ニ於キマシテ此建議案ヲ提出シタ次第デアリマス、ドウカ諸君ノ御賛成ヲ切望致シマス



次テ本案ハ鈴木隆君外四名提出國立公園委員會設置ニ關スル建議案(八一)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

### 八三 本州ト島嶼間ノ交通ニ關スル建議案

淡路壹岐對馬隱岐佐渡沖繩群島薩摩大島小笠原諸島伊豆七島其ノ他ノ島嶼ト本州ノ交通ハ從來私設會社ノ獨專ノ營業ニシテ其ノ設備ノ不完全ナルハ勿論取扱ノ不親切ナル實ニ名狀スヘカラスアルモノアリ殊ニ外海數十里ノ地點ニ散在セル島嶼ノ如キハ冬期缺航十數日ノ久シキニ及フコト屢ニシテ殆ト別世界ノ感ナキヲ得ス之カ爲島民カ文化ノ遲滯停頓甚大ニシテ又其ノ地方ノ產業上至大ノ障礙ヲ被ル等國家交通政策上ヨリ見ルモ片時モ等閑ニ付スヘカラサルモノアリ而シテ政府ハ從來鐵道ノ設備ナキ土地ニスラ必要ニ應シテ連絡船ヲ發航シツツアル事實ニ徴スルモ苟モ一國ヲ成シタル各島嶼ニ對シテハ國防上及現下交通機關ノ整備セルニ鑑ミ一刻モ速ニ是等窮狀ニ迫レル國民ヲシテ文明ノ恩澤ニ浴スヘク適當ナル連絡船ヲ備ヘ以テ完全ナル航海設備ヲ施サレムコトヲ望ム

### 右建議ス

右ハ十四年二月十三日古川清君之ヲ提出ス三月十二日本案ヲ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ御承知ノ通り本州ト南ハ琉球、薩摩ノ大島、西ハ壹岐、對馬、日本海ニ於テ隱岐、佐渡、北ハ千島、太平洋ニ於テ小笠原島、伊豆諸島、瀬戸内海ノ淡路島等ノ島國ト本州トノ交通ニ關スル建議案デゴザイマス、御承知ノ通り是等ノ島嶼トノ交通機關ハ、私設會社ガ國庫ノ補助ニ依テ僅ニ交通ヲ保タレテ居リマスルガ、此設備ガ洵ニ不完全デアリマシテ、文化ノ進運、産業ノ發達ガ之ガ爲ニ阻害サル、コトハ實ニ甚大ナモノデアリマス、又交通政策ノ上カラ申シマシテモ、鐵道ヲ國有ニシタ趣旨カラ鑑ミマシテモ、是ハ政府ガ直接其交通機關ノ設備ヲ爲スノハ當然デアラウト思フノデアリマス、ドウカ是等百萬ノ島民ニ甚大ナル同情ヲ持チ、滿場一致御採用アラント切望致シマス

次テ本案ハ清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道速成ニ關スル建議案(一八)外十三件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ



八四 貴生川加茂間鐵道速成ニ關スル建議案

政府ハ速ニ草津線貴生川驛ヨリ關西本線加茂驛ニ至ル鐵道ノ敷設ヲ速成シ以テ交通運輸ノ便ヲ開キ産業開發ノ實ヲ擧ケラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十四日高井商二君外三名之ヲ提出ス三月十二日本案ヲ院議ニ付シ提出者(高井商二君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本鐵道ハ滋賀縣ノ草津線ノ貴生川驛カラ、京都府下ノ關西本線ノ加茂驛ニ至ル二十有七哩餘リノ鐵道デアリマス、此鐵道ガ地方ノ文化並ニ産業ノ開發上、或ハ又交通政策ノ點カラ考ヘマシテ、非常ニ必要ナル線路デアルト云フコトハ明ナコトデアリマス、既ニ四十六議會ニ於テ、大正十三年度カラ起工サレルト云フ線路ニナツテ居ッタノデアリマス、元來此鐵道ハ多年地方民ガ其敷設ヲ希望シテ居リマシタモノデアリマスガ故ニ、此決定ヲ見マシテ地方民ハ非常ナ喜ビヲ持ツテ居ッタノデアリマス、然ルニ不幸ニシテ彼ノ大震災ノ影響ヲ受ケ、且又財政緊縮方針ノ時ニ際會シマシタ爲ニ、是ガ十六年度迄起工ガ延期サレタト云フ次第デアリマス、餘リニ地方民ガ此決定ヲ歡喜シテ迎ヘタト正反對ニ、此延期ニナリマシタコトニ對シテ非常ニ失望シテ居ルノデアリマス、ドウカ政府ハ地方ノ産業並ニ文化ノ開發ヲ促進スルガ爲ニ、又交通政策完備ノ點カラ考ヘマシテモ此地方民ノ熱烈ナル懇請ヲ斟酌サレマシテ、成ルベク速ニ本鐵道ノ起工並ニ完成ニ考慮ヲ拂ハレタイト云フコトヲ切望シテ已マナイ次第デアリマス、是レ私ガ本案ヲ提出シマシタ理由デアリマス、ドウカ滿場各位ノ御賛成ヲ願フ次第デアリマス

次テ本案ハ清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(一八)外十四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

八五 關ケ原本ノ本間鐵道速成ニ關スル建議案

政府ハ速ニ東海道本線關ケ原驛ヨリ北陸本線木ノ本驛ニ至ル鐵道ノ敷設ヲ速成シ以テ交通運輸ノ便ヲ開キ國防ノ用ニ供シ並産業開發ノ實ヲ擧ケラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十四日藤澤萬九郎君外二名之ヲ提出ス三月二十三日日本案ヲ院議ニ付シ提出者ノ趣旨辯明ヲ省略シテ(本項(一四〇)參看)清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(一八)外二十七件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ換出セリ



即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一九三)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

八六 蠶絲織物ノ單科大學設置ニ關スル建議案

養蠶及製絲ハ我カ國ノ最重要ナル産業ノ一ニシテ生絲及絹織物ハ實ニ我カ貿易ノ大宗タリ隨テ蠶絲織物ヲ學術的ニ研究シテ組織的ニ發展セシムルコトハ刻下ノ急務ニシテ蠶絲及織物ニ關スル單科大學設置ヲ要望スル所以亦茲ニ存ス

前橋市ハ關東蠶業ノ中心地ニシテ國立蠶業試驗所ノ桑園アリ縣立蠶業試驗所アリ輸出製絲ハ岡谷ニ次キ玉絲製造ハ豊橋ヲ凌ク又撚絲業盛ニシテ絹織物業發展ス故ニ蠶絲織物ノ統一的研究ニハ最適當ノ地ナリト信ス依テ政府ハ前橋市ニ蠶絲及織物ニ關スル單科大學ヲ設置シ以テ健全ナル發達ヲ促進セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十四日清水留三郎君之ヲ提出ス三月二十三日本案ヲ院議ニ付シ提出者ノ趣旨辯明ヲ省略シ(本項(一四〇)參看)武藤金吉君外六名提出蠶絲局設置ニ關スル建議案(一八〇)外三件委

員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ニ追加シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

八七 綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案

政府ハ速ニ關稅定率法中綿織絲ニ關スル輸入關稅ヲ廢止スルノ法律案ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

右建議ス

右ハ十四年二月十四日關直彦君外一名之ヲ提出ス三月十日本案ハ武藤金吉君外一名提出染料關稅撤廢ニ關スル建議案(六六)外五件(本項第二(六六)參看)ト一括シテ院議ニ付シ贊成者(山本芳治君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

綿絲ノ關稅撤廢案ニ付キマシテ、本員カラモ提案ノ理由ヲ說明致シタイト考ヘテ居ッタノデアリマスガ、只今武藤金吉君ノ說明ヲ承リマスト云フト、提案ノ理由ハ大要盡サレテ居ルト考ヘマス、議事ノ進行ヲ圖リマス爲ニ、說明ハ委員會ニ於テ致スコトニ致シマス

次テ本案ハ武藤金吉君外一名提出染料關稅撤廢ニ關スル建議案(六六)外五件(六六)參看)ト一括



シテ政府提出染料製造獎勵ニ關スル法律案(第四項第一(三三))委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會  
ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果  
委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

八八 淡路縦貫鐵道敷設速成ニ關スル建議案

淡路ハ二十有餘萬ノ人口ヲ有シ一箇年國稅納額一百萬圓以上ニ達セリ今ヤ我カ國有鐵道線ノ總  
延長約一萬哩ニ垂ムタルニモ拘ラス獨リ淡路ニ對シテハ未タ嘗テ寸尺タモ國有鐵道ノ敷設ヲ見  
サルカ爲今ニ其ノ恩典ニ浴セス而モ淡路ハ古來本州ト四國トノ聯絡地點トシテ運輸交通上極メ  
テ樞要ノ位置ヲ占ムルノミナラス國防上ヨリ之ヲ見ルモ由良要塞福良砲臺等ヲ有スルカ故ニ一  
刻モ閑却シ得サルノ要衝地タルコト勿論ナリ然ルニ現在ニ於テハ洲本町ヨリ福良町ニ達スル約  
十五哩間ハ不完全ナカラモ地方私設鐵道ヲ敷設シ淡路國一部分ノ交通機能ヲ辛ウシテ助成シツ  
ツアルニ過キス政府ハ宜シク鐵道網中淡路洲本町ヨリ岩屋町ニ至ル約二十哩ノ間ヲ縦貫スル鐵  
道ヲ速ニ敷設シ本州ト四國トノ交通運輸聯絡機能ヲ全カラシメラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月十四日千葉宮次郎君外二名之ヲ提出ス三月二十日本案ハ同君外六名提出漁村振興  
ニ關スル建議案(七〇)ト一括シテ院議ニ付ス  
(議事ノ經過ハ本項(七〇)參看)

本案ハ清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(一八)外二十件委員ニ併セ  
付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ  
報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

八九 苫小牧廣尾間鐵道速成ニ關スル建議案

膽振國苫小牧ヨリ鵠川日高國浦河ヲ經テ十勝國廣尾ニ至ル間ノ鐵道ヲ速成シ以テ運輸交通ノ發  
達ヲ促進セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

九〇 京極紋籠間及京極壯瞥間鐵道速成ニ關スル建議案



膽振國京極ヨリ喜茂別壯營ヲ經テ紋籠ニ至ル間及京極ヨリ留壽都ヲ經テ壯營ニ至ル間ノ鐵道ヲ速成シ以テ運輸交通ノ發達ヲ促進セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右兩案ハ孰レモ十四年二月十四日手代木隆吉君外一名之ヲ提出ス三月十二日兩案ヲ一括シテ院議ニ付シ提出者(手代木隆吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本建議案ハ北海道膽振國、苫小牧町カラ日高ノ浦河ヲ經テ十勝國廣尾ニ達スル所ノ百二十八哩ノ線路デアリマス、此速成ヲ要望スル所ノ建議デアリマス、本線路ノ沿線ハ北海道ニ於キマシテモ古クカラ開ケタ所デアリマスガ、從來交通ガ頗ル不便デアッタガ爲ニ、開拓ガ最モ後レテ居ルノデアリマス、此沿線ニハ將來開拓スベキ所ノ土地ガ非常ニ多ク、又森林ニ富ンデ木材ノ搬出ガ將來頗ル多イコトガ、豫想サレルノデアリマス、又荒地モ多ク之ガ開發ハ同地方ノ發展ノ爲ニ最モ有力ナル基礎ヲナスモノデアリマス、又海岸ガ北海道ニ於キマシテモ、最モ魚族ニ富ンダ方面デアリマシテ、此海田ノ開發ト云フコトモ亦非常ナ將來ノ事業ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ此地方ノ交通ハ頗ル不便デアアル、先程申シタ通りデアリマスガ、殊ニ日高國、是ハ三百十方里ノ面積ヲ持ッテ居リマスケレドモ、未ダ一寸ノ國有鐵道ヲモ有シナイノデアリマス、斯ノ如ク一寸ノ國有鐵道モ持タヌヤウナ所ハ他ニ例ヲ見ナイ所デアリマス、北海道ノ平均カラ申シマスト云フト、百方里ニ對シテ二十七哩以上ノ國有鐵道ヲ有シテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ日高國ダケデモ、少クモ、八九十哩ノ鐵道ヲ持タナケレバナラヌ割合ニナツテ居ルノデアリマス、ソレ程此地方ガ交通ノ上ニ虐待サレテ居ルノデアリマシテ、是非此點ニ付キマシテハ當局ノ十分ナル注意ヲ煩シタイト思フノデアリマス、此鐵道ハ只今工事ノ進行中デアアル室蘭ノ

輪西カラ長萬部ニ通ズル、所謂長輪線ノ開通ト相俟チマシテ、此線路ハ北海道ニ於ケル南部ノ交通機關ノ幹線ヲ爲スモノデアリマス、東部北海道カラ西部北海道ニ通シ、内地ニ交通スル所ノ最モ短イ距離ニ在ルノデアリマス、現在東部北海道ニハ常ニ百萬噸以上ノ滯貨ガアリマス、現在ノ日本ノ交通線ダケデハ、到底將來益増加スル所ノ貨物ノ運輸ガ付カナイノデアリマス、其上カラ見マシテモ、是非此線ヲ速ニ建設シテ交通ヲ發達スルコトガ必要ナノデアリマス、モウ一ツ議題ニナツテ居リマス所ノ京極紋籠間及京極壯營間ノ線路ハ今ノ長輪線ノ一驛デアアル所ノ紋籠カラ、函樽線ノ京極ニ連絡スル所ノ四十六哩、ソレカラ京極カラ留壽都ヲ經テ壯營ニ至ル所ノ二十九哩ノ鐵道デアリマス、而モ此沿線ニハ將來開拓スベキ所ノ土地ガ非常ニ多ク、木材、礦物、サウ云フモノニ非常ニ富ンデ居ル、北海道ニ於テ是非開發シナケレバナラヌ所ノ地方ニ在ルノデアリマス、殊ニ此線路ハ室蘭ト小樽ヲ連絡スル所ノ最短距離デアアル、現在室蘭カラ岩見澤、札幌ヲ經テ小樽ニ至ル所ノ哩數ハ百三十三哩一分ニナツテ居リマス、併シ此線路ニ依リマスト云フト九十四哩四分、差引三十八哩七分ノ短縮ガ出來ルノデアリマシテ、交通上最モ便利ナル所ノ線デアリマス、一面是ガ將來北海道ノ軍事上ニ取ッテモ重要ナ線路ノ一ツニナルノデアリマス、是モ前ト同ジヤウナ理由ニ依リマシテ速成ヲシテ、此地方ノ開發ニ資セラレンコトヲ要望スルモノデアリマス、何卒御賛成ヲ願ヒマス

次テ兩案ハ清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(一八)外十五件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ



九一 磐梯山猪苗代湖ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案

政府ハ風光明媚世界の風致ヲ以テ其ノ名高キ磐梯山猪苗代湖ヲ中心トスル國立公園ヲ設定シ以テ此ノ勝景ヲ發揮セシメ内外人ノ一大遊園地タラシムヘシ  
右建議ス

右ハ十四年二月十四日八田宗吉君外一名之ヲ提出ス三月十二日本案ヲ院議ニ付シ提出者(八田宗吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ第四十六議會ニ於キマシテ、滿場一致テ可決セラレマシタル建議案デアリマス、而シテ政府ニ於キマシテモ、ソレトシテ調査ヲ了セラレタルコト、信ジテ居リマス、斯様ナ次第デアリマシテ、詳細ナル事ハ委員會ニ於テ申述ベタイト存ジマス、ドウカ御賛成ヲ仰ギマス

次テ本案ハ鈴木隆君外四名提出國立公園調査會設置ニ關スル建議案(八一)外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

九二 日光國立公園設置ニ關スル建議案

奥日光ヲ中心トスル栃木群馬兩縣ニ跨ル山岳地方ハ國民ノ保健教化上或ハ外客ノ誘致上其ノ他大公園トシテノ必要ナル條件ヲ具備スル世界的大風景ニシテ眞ニ本邦無比ノ國立公園好適地ト認メラル依テ政府ハ速ニ此處ニ國立公園設置ノ計畫ヲ決定シ官民ヲシテ據ル所アラシメ以テ漸次事業大成ノ方策ヲ講セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月十四日高橋元四郎君外二名之ヲ提出ス三月十二日本案ヲ院議ニ付シ提出者(高橋元四郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今議題トナッテ居リマス、日光國立公園設置ニ關スル建議案ヲ説明致シマス、此日光ノ國立公園ニ適當デアルト云フコトニ付テハ、十數年以前ヨリ地方議會並ニ關係町村等カラ、請願若クハ幾多ノ建議意見等モ出テ居リマス、又四十六議會ヨリ、ソレ以前ニモ一二回アリマシタガ、當議場ノ滿場一致ノ決議ニ依テ通過致シテ居ル案デアリマスカラ、今蛇足ヲ加ヘル必要ハ無イヤウデアリマスガ、只今國立公園ハ海ヲ中心トスルモノデナケレバイカナイト云フヤウナ御意見モアリマシタ、吾々ハ山嶽黨デアルカラ、山ヲ主張スルト云フ意味デハナイノデアリマス、併ナガラ國立公園トシテ耻デナイ所ノ素質ヲ備ヘタモノヲ、國立公園ニスルト云フ主張ヲスル一人デアリマス、此意味ニ於テ從來ノ關係カラ此日光ヲ中心トシテ栃木縣並ニ群馬縣ノ一部ヲ之ニ加ヘテ、國立公園ニスルト云フコトニ付テハ、地方廳ニ於テモ中央政府ニ於テモ、今日迄幾多ノ調査ヲ遂ゲ



テ居ルノデアリマスカラ、例へバ只今調査設置ノ建議案ガ提出サレテ、提出者ノ説明ガアリマシタガ、其調査會ノ調査ヲ要セスシテ、最早國立公園ノ候補地トシテ決定シテ差支ナイ所ノ素質ヲ備ヘテ居ルト云フノハ、此日光ノ如キハ即チ其一ツデアルト私ハ思フノデアリマス、詳細ナ事ハ勿論委員會ニ於テ説明致ス考デアリマスガ、區域ヤ何カニ付テ一言申シテ置キタイノト、ソレカラ甚ダ僭越ナ事ヲ申上ゲルヤウデアリマスガ、四十六議會カラ今日迄ノ議會ニ於テ通過シマシタ、國立公園設置ニ關スル建議案ハ、其數恐ラク四十以上五十二達スルダラウト私ハ思フノデス、若シ之ヲ悉ク採用シテ國立公園ニスルト云フコトニナレバ、我が日本國ハ北ハ北海道ヨリ南ハ九州ニ至ルマデ、悉ク國立公園トスルコトニナルト思ヒマス、無論我が日本ハ日本國全體ガ國立公園トナルノ素質ヲ或ハ備ヘテ居ル國カモ知レマセヌ、併ナガラ自カラ物ニハ緩急モアリマスシ、又現今ノ政府ノ財政狀態カラ言ヘバ、其悉クノ希望ヲ實現スルコトハ到底不可能ナ事デアリマス、併ナガラ今ニシテ豫メ其顯著ナルモノニ對シテハ、國立公園ノ候補地トシテ、政府ガ之ヲ指定シテ置ク必要ガ大ニアルダラウト思フノデス、例へバ其地方ニ於テ土木上ノ施設ヲシ、道路若クハ治水ノ事業ヲスルト致シマシテモ、是ガ國立公園ノ候補地デアルトシテ、將來國立公園トナッタ場合ニ其使用ニ堪ヘルダケノ設備ヲ今スルト云フコトハ、地方中央ノ兩者ノ經濟ヲ通ジテ非常ニ便益ナ事ガアルト思フノデアリマス、甚ダ自分ノ關係デアリマスカラ——自分ノ出シタモノニ付テ例ヲ申上ゲルト、栃木縣デ日光カラ群馬縣ニ通ズル道路ヲ假ニ造ルト致シマシテモ、現在ノ道路ヲ造ル規定ニ於テハ、三間ナリ四間ナリノ幅デ用ガ足りテ居リマス、將來國立公園トナッテ其用ヲ爲スニハ、之ヲ五間幅ニシ七間幅ニスル、例へバ治水上ノ設備ヲスルト致シマシテモ、サウ云フ必要ガアラウト思ヒマスカラ、調査ヲ要セスシテ國立公園トシテ差支ナイダケノ素質ヲ備ヘタ地方ノ候補地ニ向ッテハ、豫メ政府ガ指定シテ置クコトガ、將來國立公園ヲ實現シ、達成スル捷徑デアラウト私ハ信ズル者デアリマス、尙ホ申上ゲマスレバ澤山アリマスガ、大體以上申上ゲタ點デ詳細ノ事ハ委員會ニ讓リマスガ、區域ノ事ヲ申上ゲテ置キマス、此建議案ノ區域ハ栃木縣ノ方ハ日光男體山、中宮祠ヲ中心トシ、日光町、今市町、三依藤原、栗山村、足尾町、庚申山ヲ含

ム鹽原温泉、或ハ那須温泉、其他附近ノ一帯ノ區域、群馬縣ノ方ハ栃木縣ニ接續セル白根山、茲ニ菅沼、丸沼、大尻沼ヲ中心トスル東小川山林、之ニ接續セル平川山林、尾瀬沼ヲ包容セル戸倉山林、武尊山、追貝、吹割瀧、赤城山、竝ニ伊香保、榛名山一帯ノ區域殊ニ丸沼附近ヲ通過シマス上越南線、沼田驛ヲ起點トシマシテ私設鐵道敷設ノ計畫モアルノデアリマスカラ、何卒以上ノ理由ニ依テ御賛成アラントコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ鈴木隆君外四名提出國立公園調査會設置ニ關スル建議案(八一)外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

九三 速記ノ事項ヲ國定教科書ニ記載ニ關スル建議案

日本速記術發明セラレテヨリ茲ニ四十有餘年帝國議會ヲ初メ公私各般ノ會議講演著述通信等ニ利用セラレ我カ國文化ニ貢獻スル所頗ル大ナルモノアルノミナラス將來之カ普及ニ依リテ益人々ノ促進ニ資セラルヘキハ論ヲ俟タサル所ナリ然ルニ速記ニ關スル一般の知見ニ至リテハ毫モ國民ノ間ニ周知セラレス隨テ之ニ對スル理解ノ缺如セルハ頗ル遺憾トスル所ナリ仍テ國定教科書中ニ速記ニ關スル梗概ヲ記述セラレムコトヲ望ム



右建議ス

右ハ十四年作間耕逸君外二名之ヲ提出ス三月十二日本案ヲ院議ニ付シ提出者(黒住成章君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

社會ノ發達ニ伴ヒマシテ、一面速記ノ利用ガ益盛ニナツテ參リマシタ、仍テ今後一層國民ノ間ニ速記ヲ普及セシメル目的ヲ以チマシテ、此速記ノ概念ヲ國定教科書ニ加ヘラレンコトヲ要望スル建議デゴザイマス、委員會ニ於テ詳述致シマスカラ御贊成ヲ願ヒマス

次テ本案ハ山橋儀重君外二名提出教育ノ機會均等ニ關スル建議案(一二)外十二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

九四 下關漁港速成ニ關スル建議案

四面環海ノ我國ニ於テ逐年水産事業ノ發展ハ眞ニ刮目ニ値ス而モ此等水産物ノ殆ト總テヲ吞吐スル下關ハ全國否世界一ト稱セラルル集散高ヲ有スルニ拘ラス何等漁港トシテノ施設ナキ爲國家人ノ被ル損害擧テ數フヘカラス政府ハ宜シク下關ニ漁港ヲ速成シ國家ノ福利ト國民生活上

ニ慶幸ヲ齎サレンムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十四日秋田寅之介君外一名之ヲ提出ス三月十九日院議ニ付シ提出者(秋田寅之介君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

下關漁港ニ關シテハ、第四十九議會ニ於テ請願セラレ、貴衆兩院ニ於テ採擇セラレテ居ルノデアリマス、下關漁港施設ノ急務ハ農商務省ニ於テモ大ニ之ヲ認メラレ大正十三年八月マデニ實地ノ調査ガサレテ居ルノデアリマス、又書類書面等モ全部完成サレテ居ッタノデアリマシテ、同年ノ議會ニ御提出ニナル筈デアリマシタガ、彼ノ大震災ニ依テ是等ノ調査材料ハ全部烏有ニ歸シタト云フコトデ、提案セラレナカッタコトハ甚ダ遺憾ニ存ズル次第デアリマス、併ナガラ是ハ天災ノコトデアリマシテ致方ガナイト思ッテ居ル、越エテ其調査材料ハ再ビ完成セラレマシタノデ、十四年度ノ豫算ニ編成セラレテ居ッタト云フコトデアリマスルガ、財政緊縮ノ故ヲ以テ遂ニ削除ノ運命ニ陥ッタコトハ、重ネク遺憾ニ堪ヘヌノデアリマス、下關ノ水産物ノ輸出入ノ額ハ六千萬圓以上ニ達シテ居リマシテ、尙ホ下關築港ノ不完備ノ爲ニ、下關ヲ經由セズシテ朝鮮、臺灣ノ近海等ヨリ直接内地ノ各方面ニ輸入セラル、額ハ三千數百萬圓ニ達スルノデアリマシテ、是等ヲ合セマスルト一箇年一億圓ニ達スルノデアリマス、之ヲ東ノ大漁港タル銚子港ノ集散高ガ四百萬圓ト聞イテ居リマスルガ、若シ果シテ然リトスレバ其約二十五倍ニ當ルノデアリマス、又彼ノ世界無二ノ大漁港ト稱セラレテ居ル英國ノ「グリムスビー」ハ漁港トシテ完備セルコトハ成程世界一カモ知レマセヌガ、漁區ニ於キマシテモ、其漁獲高ニ於キマシテモ、下關ハ之ヲ凌駕シテ居



ルノデアリマス、今私ノ取調べマシタ一二ノ統計ヲ申上ゲマスレバ、英國ノ漁區水深二百米突以  
内ノモノデアリマスルガ、此總面積ガ六十七萬八千九百平方里デアリマス、之ニ對シマシテ日本  
ハ幾ラカト申シマスレバ、日本近海ノ百尋以内ノ所ノ總面積ハ九十二萬四千四百八十三平方里  
デアリマス、英國ニ對シマシテ四割バカリ大キクナツテ居ルノデアリマス、尙ホ歐洲大戰前即チ  
千九百十二年、即チ我ガ大正元年ノ統計ニ依リマスルト云フト、世界第一ノ漁港ト稱シテ居ル  
彼ノ「グリムスビー」ノ年額ノ陸揚高ハ十九萬百二十九噸デアリマス、又「ハル」港ハ八萬四千七  
百五十四噸デアリマスルガ、下關ハ汽車ニ依テ送ラレルモノデモ十二萬噸以上ニ達シテ居ルノ  
デアリマス、之ニ前ニ述ベマシタ下關ヲ直通スル所ノモノ、及汽船其他ニ依テ輸送サレルモノ  
ヲ合セマスルト云フト、是亦英國ノ五割以上ニナツテ居ルノデアリマシテ、世界一ト稱スルモノ  
テ過言デナイト思フノデアリマス、私ハ詳細ハ委員會ニ於テ説明致シタイト思ヒマス、何卒賢明  
ナル諸君ニ於カレマシテハ、私ガ只今申述ベマシタ趣旨ヲ御諒解下サイマシテ、何卒滿場一致ヲ  
以テ御賛成下サレマスルヤウニ懇願致シマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十日委員會ヲ  
開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長  
ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果  
委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

九五 高等工業學校設置ニ關スル建議案

北海道ニ高等工業學校ヲ設置セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

九六 北海道高等學校設置ニ關スル建議案

北海道ニ高等學校ヲ設置セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右兩案ハ孰レモ十四年二月十六日一柳仲次郎君外六名之ヲ提出ス三月十九日兩案ヲ一括シテ院議  
ニ付シ提出者(手代木隆吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

日程第十ノ議案ハ、北海道ニ高等工業學校ノ設置ヲ要望スル建議デアリマス、北海道ハ面積六千  
一百方里、海岸線ノ延長ガ一千三百里ニ上ツテ居リマス、隨テ海陸ノ天然資源ハ非常ニ豊富デ、又  
工業ノ材料ガ從ツテ多クアリマス、特ニ工場動力ノ源泉デアル所ノ石炭ノ產出ガ多ク、又水力發  
電ノ爲ニ利用セラレベキ所ノ河川湖沼ノ數ガ約二十ニ達シテ居ルノデアリマス、北海道ノ拓殖  
事業ハ既ニ六十年ニ達シテ、事業ガ大ニ進ンデ居リマス、今ヤ北海道ノ此產業ノ經營ニ一轉機ヲ  
劃スルヤウナ時代ニ達シテ居ルノデアリマシテ、工業ノ勃興ヲ促スコトガ非常ニ急ナノデアリ  
マス、最近ノ統計ニ依リマスレバ、工場ノ總數ガ三千三百ニ達シ、之ニ從事シテ居ル所ノ徒弟職  
工ノ數ガ三萬七千人、其生産高ガ一億六千萬圓ニ達シテ居リマシテ、北海道ノ生産額ノ六億ノ  
四分ノ一以上ニ達シテ居ルヤウナ狀況ニ在ルノデアリマス、然ルニ此工業ノ發達ト最モ緊切ナ



ル所ノ關係ノアル、工業教育ノ機關ハ、甚ダ振ハナイノデアリマス、唯僅ニ三ツノ中等工業學校ト北海道大學ニ工科ガ併置サレテ居ルニ過ギナイノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、北海道ノ工業發達ノ爲ニモットモット工業教育機關ノ完備ヲ要望スルト云フコトハ、自明ノ理デアリマス、其點カラ致シマシテ、速ニ北海道ニ、適當ノ地ニ高等工業學校ヲ設置セラレンコトヲ望ムヲデアリマス、次ニハ日程第十一ニアル所ノ高等學校ノ設置ヲ要望スル所ノ建議案ニ付テ説明イト思フノデアリマス、第一ニ人口ノ比例カラ見マスレバ、東北六縣ハ、百九十萬人ニ付キ高等學校一校設置セラレテアリマス、中國地方ハ、百六十五萬人ニ付テ一校ノ割合デアリマス、然ルニ北海道ノ人口ハ既ニ二百七十萬ニ達シテ居ルノデアリマシテ、此人口ノ上カラ見マシテ、一校ノ設置ヲ要望スル理由ガ十分ナノデアリマス、次ニハ面積ノ關係カラ申シマスレバ、北海道ノ面積ハ九州、四國、臺灣ヲ合シタヨリモ尙ホ廣イノデアリマス、今九州ニハ四ツノ高等學校ガアリ、四國ニ二校、中國ニハ五校、斯ウ云フヤウナ比例ニナツテ居リマス、此面積ノ點カラ言ヒマシテモ、北海道ニ高等學校ヲ一校設置セラレンコトヲ望ムノハ、十分ノ理由ガアルノデアリマス、次ニハ中學校ノ數ト其卒業生トノ數カラ見マスレバ、奥羽方面ハ中學校ノ數ガ十一校、卒業生ガ六百一人ニ對シテ一校ノ割合ニナツテ居リマス、中國地方ハ中學校十三校、卒業生ノ數ガ六百七十一人ニ對シテ一校ノ割合ニアリマス、北海道ノ現況ハ本年度ニ於テ中學校ノ數ガ十九、卒業生ノ數ガ八百人ニ達シテ居リ、明年度ハ中學校ガ二十四校、卒業生ガ千四百人ニ達スル狀況ニ在ルノデアリマス、是等ノ理由カラシマシテ、高等學校ノ設置ヲ速ニセラレンコトヲ望ムノデアリマス、其設置ノ場所ノ如キハ、當局ノ見ル適當ノ所ニ之ヲ置イテ貴ヒタイノデアリマシテ、ソレ等ノ點ニ付テハ特別ナル希望ハナイノデアリマス、詳細ノ事ハ委員會デ申上ゲル積リデアリマシテ、何卒北海道ノ工業發達ノ爲ニ、又一方帝國北方文化發達ノ爲ニ、此兩建議案ガ通過スルヤウニ諸君ノ御賛成ヲ望ミマス

次テ兩案ヲ一括シテ佐々木春作君外三名提出高等師範學校設置ニ關スル建議案(八〇)委員ニ併セ

付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十二日夫々報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

九七 刑餘者ニ對スル法令ノ差別待遇撤廢ニ關スル建議案

刑餘者ヲ保護善導シテ之ヲ良民ニ復歸セシメ以テ累犯ヲ防遏スルハ正義人道ノ要求ニシテ之ヲ刑事政策ノ上ヨリ見ルモ將又社會政策ノ上ヨリスルモ洵ニ國家ノ緊急事ナリトス  
 現今世相ニ鑑ミルニ刑餘者ニシテ改悛シタル者ノ再ヒ罪ヲ犯スニ至ルノ經路ハ社會ノ排斥ト適當ノ職ヲ得ル能ハサルカ爲營生ノ途ニ窮シ已ヲ得サルノ極此ニ至ル者最多シ從テ刑餘者ノ保護善導ノ要ハ社會ノ排斥ヲ緩和スルト同時ニ彼等ニ適當ナル職業ヲ得セシムルニアリ然ルニ現行法令中刑餘者ニ對シ前述ノ趣旨ニ反スル差別待遇ノ規定少カラス仍テ刑餘者ニ對スル差別待遇ニ關スル法律規則ノ撤廢ヲ爲シ時世ノ進運ニ適應セシムルハ國家トシテ最緊要ノ事柄ナリ政府ハ速ニ此ノ點ニ關スル法律規則ヲ撤廢セラレムコトヲ望ム  
 右建議ス



右ハ十四年二月十六日原夫次郎君外四名之ヲ提出ス三月十九日本案ヲ院議ニ付シ提出者(原夫次郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今提案ニ相成ツタル刑餘者ハ、目下全國デ約百五十萬人ニナッテ居ルノデアリマス、此刑餘者ヲ保護善導シテ、之ヲ良民ニ復歸セシメテ以テ累犯ヲ防遏スルコトハ、是ハ洵ニ正義人道ノ要求デゴザイマシテ、又刑事政策ノ上カラ見テモ、將又社會政策ノ上カラ見マシテモ、洵ニ國家ノ緊急ナ事務ニ屬スルコト、思ヒマス、現今ノ世態ニ鑑ミマスルニ刑餘者ニシテ、改悛シタル者ガ再ビ罪ヲ犯スニ至リマスル徑路ハ、概ネ社會ノ排斥ト適當ノ職業ヲ得ルコトガ出來ナイ爲メ、或ハ自暴自棄ニ陥リ、或ハ生活難ノ爲ニ止ムヲ得ザルノ極此ニ至ル者ガ最も多イノデアリマス、此種ノ再犯ハ是ハ全ク社會共同ノ責任デアリマシテ、此種ノ犯罪ヲ未發ニ防グコトハ、個人ニ取ツテモ、將又社會ニ取ツテモ極メテ重大ナル事柄ニ屬スルノデアリマス、隨テ刑餘者ノ保護善導ノ要ハ、社會ノ排斥ヲ緩和スルト同時ニ、彼等ニ適當ナル職業ヲ得セシメテ、以テ是等ノ社會的再犯條件ノ除却、若クハ制限ヲ目的トスル所ノ社會政策ノ遂行ニ在リト考ヘルノデアリマス、然ルニ現行法中ニハ、刑餘者ニ對シテ前述ノ趣旨ニ反スル差別的待遇ノ規定ガ實ニ少クナイノデアリマス、是ハ即チ我が國家及社會ノ爲ニ取ラザル所デアリマシテ、又刑事政策ノ上カラ、竝ニ社會政策ノ見地カラ申シマシテモ、此刑餘者ニ對スル所ノ差別待遇ニ對スル法律規則ヲ適當ニ按排改廢ヲ致シテ、以テ時勢ノ進運ニ適應セシムルト云フコトハ、國家ト致シテ最も緊要ノ事柄タルヲ認ムルノデアリマス、仍テ政府ハ速ニ此點ニ關スル法律規則ヲ改廢セラレンコトヲ望ムノデアリマス、是ガ本案提出ノ理由デアリマス

次テ本案ハ關直彦君外四名提出法律事務取扱ニ關スル法律案(第四項第二(一四)外一件委員ニ併

セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十四日作間耕逸君提出ノ動議(本項(一一四)參看)採用ノ結果即日議事日程ニ追加シテ院議ニ付シ委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

九八 生計調査ニ關スル建議案

政府ハ適當ノ機關ヲシテ政治ノ基調タル國民生活ノ實質及最低生活費ヲ調査セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月十七日加藤綱一君之ヲ提出ス三月十九日本案ヲ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今議題トナリマシタ生計調査ニ關スル建議案ノ説明ヲ致シマス、是カラ申上ゲントスル事ハ、極メテ微細ナル數字ガ多イノデアリマスルガ、詳細ヲ委員會ニ讓リマシテ、其大綱ヲ極メテ簡單ニ申上ゲマス、本案ハ國民ノ生活狀態ヲ調査シテ、ソレニ適應スル政策ヲ政府ニ行ハセタイト云フノガ其精神デアリマス、所ガ現在ノ制度ニ於キマシテハ、政治ノ基調トスベキ國民生活ノ實體ヲ確知スベキ材料ガ洵ニ乏シイノデアリマス、隨テ國民多數ノ翹望スル政治、即チ生活ヲ政治ニ反映セシムルコトハ困難デアルノデアリマス、其結果ハ眼前ノ利害ニ立脚シテ諸政策ガ樹テラ



レルコト、思ヒマスルガ、蓋シ現狀ノ儘ニ於キマシテハ已ムヲ得ナイコトデアリマセウ、併ナガラ是デハ人間ガ政治ヲ創造シタル目的ニ相反スルト思フデアリマス、吾々人間ハ生レナガラニシテ生活權ト云フ權利ヲ自然ニ依テ與ヘラレテ居ルベキ筈ナリト信ズルデアリマス、故ニ財產權ノ如キ、現在ノ經濟制度ノ上ニ於キマシテ重要ナルモノニ相違アリマセヌケレドモ、ソレハ單ニ財產ヲ有スル人ノミノ部分的ノ權利ニ過ギナイデアリマス、或ハ又勞働全收權ニ至リマシテモ、假令ソレガ當然デアルトシテモ、ソレハ矢張勞働ヲスル人ノミノ部分的權利ニ過ギナイデアリマス、然ルニ生活權ハ人間トシテ何人モ共通ニ有シテ居ル所ノ權利デアリマスカラ、總テノ權利上ニ位スル根本的ノ權利ナリト信ズルデアリマス、彼ノ「ラスキン」ノ警句ニ「世ノ中ニ生命ホド貴重ナル富ハ無イ」ト言ッテ居リマスルガ、此道理ヲ穿テ得タル眞理ナリト信ズルデアリマス、然ルニ現在ノ國民ハ此眞理ノ生活權ヲ十分ニ伸張シ能ハザルノミナラズ、政治ノ爲ニ却テ是ガ壓迫セラレテ居ルカニ見エルデアリマス、果シテ然ラバ國家存立ノ上ニ於キマシテ、由々シキ重大事ナリト謂ハナケレバナライノデアリマス、言フ迄モナイ事デアリマスガ、人間ガ政治ヲ創造シマシタル目的ハ、道德ヲ出發點ト致シマシテ、正義ヲ高調シ、幸福ヲ得ント欲シタカラデアリマス、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、自榮自達ノ具トシテ政治ヲ考ヘタノデアラウト思フデアリマス、果シテ然ラバ正義トカ幸福トカ云フコトハ、如何ナル事デアアルカト云フ議論ガ生ジマセウガ、是ハ如何様ニモ議論ヲスルコトハ出來マス、併ナガラ結論ハ人間ハ生存ヲ繼續スルコトガ最大ノ幸福デナケレバナリマセヌ、故ニ道德ノ標準モ生存ヲ肯定スル所ニ置カルベキデアルト信ジマス、正義モ亦然リデアリマス、以上述ベマシタルガ如ク、政治ソレ自體ガ政治ノ目的ニ相反シマシテ、即チ人間ガ生活ノ保障ヲ得ントシテ考ヘタル政治ガ、生活ノ保障ヲ爲シ能ハヌトスルナラバ、國民ノ政治ニ對スル信賴ト、尊敬ト、所期トハ漸次ニ失ハレマシテ、其結果或ハ政治トハ一種ノ階級的職業ナリトノ誤ッタル觀念ヲ醸成スルニ至リマシタナラバ、憂フベキ結果ヲ招來スルト考ヘルデアリマス、即チ人間ハ無限ノ機會ヲ欲求シテ已マヌモノデアリマスカラ、生活慾望ヲ達スル手段ト致シマシテ、如何ナル事ヲ考ヘルカモ分ラナイ、其所ニ國家ノ

危機ガ含マレテ居ルコトヲ考ヘナケレバナリマセヌ、殊ニ近來我國ノ思想界ハ大ニ動搖致シテ居ルヤウデアリマスルガ、其導因トモ謂フベキモノハ、概ネ生活ナキ陋習ヲ破ッテ、新シキ生活ヲ捉ヘントスル惱ミカラデアルト信ズルデアリマス、故ニ此際上下ノ政治家ハ舉ッテ之ニ善處セシケレバナラヌト思フデアリマスルガ、其途ハタツタ一ツ、國民ニ生活ノ安定ヲ得セシメルコトニ依テノミ達スルコトガ出來ルト信ズルデアリマス、然ルニ現在ノ國民生活ノ狀態ハ如何デアリマセウ、之ニ就キマシテ私ノ知り得マシタル材料ニ基イテ、其狀態ヲ一通リ申上ゲマシテ、諸君ノ御參考ニ供シタイト思フデアリマス、諸君、人間ガ天命ヲ全ウセント致シマスルニハ、常ニ健康ヲ保タネバナリマセヌガ、此健康ヲ保タント致シマスニハ、常ニ體內ニ於テ必要トスル細胞組織ヲ形式シ、且ツ其磨滅ヲ修繕致シマシテ、體內ニ一定ノ體溫ヲ保タナケレバナリマセヌガ、此體溫ヲ保ツガ爲ニハ、ソレニ相當スル燃料ヲ身體内ニ送ラナケレバナリマセヌ、其燃料ハ即チ食糧ノコトデアリマスルガ、果シテ然ラバ如何ナル食糧ヲ如何程攝ッタナラバ、健康ヲ維持スルニ足ルカト云フコトニナリマスルガ、之ニ就キマシテハ世界的ノ營養學者ナリト謂ハレテ居リマスル「フオイト」氏、「アトワーター」氏ノ研究ヲ基トシタルモノガ、相當ニ尊重サレテ居リマスルガ、是ハ委員會ニ讓リマス、我が國立營養研究所ニ於キマシテモ、相當ニ研究ヲ致シテ居リマスルガ、其發表ニ依リマスルト、吾々日本人ノ大人ノ體格ヲ一人十三貫五百匁ト致シマシテ、此人間ノ要求スル體溫ヲ二千四百乃至五百「カロリー」トシテ居ルデアリマス、是ダケノ體溫ヲ生ゼシムルガ爲ニ要スル食糧ヲ攝ラント致シマス、贅澤ヲ言ヒマシテハ限リハアリマセヌガ、經濟的ノ營養食、吾々ガ今日日常食シテ居リマスル種類ハ約四百種類アリマスルガ、此中ノ一番安イ物ノミヲ選ンデ調理致シマシテモ、本年ノ二月東京市内ノ物價ニ依リマスルト、即チ二月五日ヨリ十日間私ガ調査致シマシタル所ノ數字ニ依ルト、一日一人五十二錢六厘ヲ要スルデアリマス、我が陸軍ノ兵卒ハ、内地ニ於キマシテハ、一日一人三十八錢四厘ノ食糧ヲ與ヘ、海軍ハ四十三錢ヲ與ヘテ居リマスカラ、之ヲ平均致シマス、我が海陸ノ兵卒ノ食糧ハ一日四十錢七厘トナッテ居ルデアリマス、併ナガラ御承知ノ如ク、海陸軍ハ大家族的デアリマスカラ、普通



ノ世帯ニ比較致シマシテ、約三割以上安ク出來ルト云フコトハ軍務當局者ノ言明スル所デアリマス、然ラバ此兵卒ノ食糧ヲ普通ノ家庭ニ於テ攝ラント致シマス、五十二錢九厘ヲ要スル勘定ニナリマス、併ナガラ兵卒ハソレノミデハ不足ラ感ジマシテ、一日ニ七錢カ八錢位ハ、酒保ニ參リマシテ餛飩デアルトカ、麵麩デアルトカ、汁粉ト云フヤウナ物ヲ以テ補ッテ居ルデアリマスカラ、現在兵卒ノ食糧ハ一日一人六十錢前後ト云フ計算ニナルデアリマス、之ヲ見マシテモ一日五十二錢六厘ノ食糧ガ不當ノ物デアイト云フコトノ御想像ガ出來ルト思ヒマス、一日一人ノ食糧ガ五十二錢六厘ヲ要スルト致シマシタナラバ、我國ノ公定人口ハ御承知ノ通り五千五百九十六萬三千五百三十三人デアリマシテ、更ニ之ヲ世帯別ニ致シマス、ト一千二百二十一萬六千三百三十九アルデアリマス、隨テ一世帯ノ平均人員ハ四人八分九厘強トナルデアリマスガ、是ハ小人ヲ交ヘタノデアリマスカラ、大人ニ換算ヲ致シマス、ト凡ソ三人三分ト云フコトニナルデアリマス、一日一人デ五十二錢六厘ヲ要スルトスレバ、三人三分一日ノ食糧ハ、一日七十三錢五厘八毛ヲ要シ、一箇月五十二圓七錢四厘、一箇年六百二十四圓八十八錢八厘ヲ要スルデアリマス、併ナガラ吾々ハ生活スル爲ニ食糧ノミニ依テ生活ハ出來マセヌ、其外ニ當然必要ナル所ノ住居費ヲ要シ、被服費ヲ要シ、健康費ヲ要シ、修養費ヲ要シ、子弟ノ教育費ヲ要シ、公費ヲ要シ、交際費ヲ要シ、慰安費ヲ要シ、雜費ヲ要スルデアリマスカラ、是等ノモノヲ現在ノ物價ヲ以テ計算致シマス、トナラバ、一世帯一箇年ノ所得ハ千五百圓位ハナカッタナラバ、經濟上ノ安定ヲ得ルトハ言得ナイノデアリマス、然ルニ此千五百圓以上所得ノアル一千二百二十一萬六千三百三十九テ、大藏省ノ主稅局ノ發表致シマシタル統計年表ニ依レバ、大正十一年度ニ僅カ四十七萬八千五百七十七家族シカナイノデアリマス、是デハ百人ノ中ノ四人三分ハ經濟上ノ保障ヲ得テ居リマス、九十五人七分ハ經濟上不安ナル生活ヲ爲シテ居ル、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ血ト、汗ト、涙ヲ以テ生活シテ居ルト云フノガ國民生活ノ現狀ナリト云フデアリマス、然ルニ不思議ナルコトハ、一方ニ於キマシテハ無職業ノ者ヲ以テ構成シタ世帯ガ四十一萬八千世帯アルノデアリマス、是等ノ人ハ何モセズ遊ンデ居ル人デアアル、此數字ト、而シテ生活ノ樂ナ者トノ數字ガ能ク似テ居

ル、是デハ汝ノ額ニ汗シテ麵麩ヲ求メト云フ眞理ハ、明ニ裏切ラレマシテ、遊ンデ居ル者ダケハ生活ガ樂デアアルガ、働ク者ハ働ク程生活ガ困難デアアルト云フ奇現象ヲ呈シテ居ルデアリマス、斯ノ如キ遊民ニ對シテハ、當然遊民稅ヲ課スベキガ相當デアアルト信ズルデアリマス、又假ニ生活費ガ一箇年一世帯千圓出來ルト致シマシテモ、其千圓ノ所得ノアリマス者ハ八十九萬三千世帯ニ過ギナイノデアアル、又一部ノ或ハ階級ニ限ッテ之ヲ調査致シマシテモ、我國ニハ全國ニ判任官、小學校ノ教師、市町村役場ノ有給吏員ガ合計四十二萬七千七百七十七人アリマスガ、是等ノ人ノ平均收入ハ一箇年僅ニ六百四十六圓ニ過ギナイノデアリマス、又他方面カラ考ヘテ見マシテモ、我國ノ國富ハ大正十年十月十日ノ國勢院ノ發表ニ依リマス、ト八百六十億七千萬圓デアリマスカラ、之ヲ年五歩ノ利廻リニシマス、ト國民ノ一箇年ノ所得ハ四十三億ト云フコトニナルデアリマス、所ガ大正十一年度ノ國民ノ第一種、第二種、第三種ノ總所得ハ三十九億五千萬圓デアリマシテ、相當ニ是ハ算盤ガ合ッテ居ルデアリマス、即チ我が國民ノ國富ノ一人當リハ千五百圓見當デアアルガ、我が國民一人一箇年ノ所得ハ僅ニ七十圓三十一錢二厘ニナッテ居ルデアリマス、是ハドウシテモ動カスコトノ出來ナイ數字デアッテ、國富ニ基ク所ノモノデアリマスカラ、假ニ是ガ年一割ノ利廻リニナリマシテモ、其倍以上ニハ殖エナイ、何トシテモ是ハ動カスコトノ出來ナイ状態デアッテ、片方ニハ物價ガ騰貴ヲシテ生計費ヲ餘計ニ要スルデアリマスカラ、茲ニ吾々ハ一大國策ヲ考ヘナケレバナラヌト考ヘルデアリマス、諸君、又色々ノ方面カラ考ヘルコトガ出來ルノデアリマスガ、能ク人ハドノ政府ハ善政ヲ布イタトカ、或ハ稅政ヲ行ッタト云フ批評ヲ致シマスガ、吾々ノ欲スル最善ノ政治トハ、即チ國民ノ全體ノ者ニ對シテ最低ノ生活費ノ必要額ヲ所得セシメタル政治デナケレバナラヌデアリマス、併ナガラ此所デ考ヘナケレバナラヌコトハ、假ニ一箇年一世帯二千五百圓ノ所得ヲ與ヘマシテモ、物價ヲ現在ノ倍ニサレタナラバ、矢張千五百圓不足ヲ生ズルト反對ニ、一箇年一世帯ノ所得ハ七百五十圓ヨリ無クトモ、物價ヲ半分ニ低下セシムレバソレデ足ルデアリマス、物價調節ノ標準ハ此所ニナケレバナラヌ、豫算討議ノ時、本黨ノ諸君モ度々物價調節ノ議論ヲ爲サレマシタガ、其標準ガ無イ、對照ガ無イ、或者ハ



米ヲ高クシテ貫ヒタイト云フ意味ヲ以テ調節ヲ叫ビ、或者ハ米ヲ安クシテ貫ヒタイト云フ意思ヲ以テ調節ヲ叫ビマシテハ、如何ナル政府ト雖モ兩者ニ満足ヲ與ヘルコトハ出來ナイノデアリマス、故ニ物價調節ノ眞ノ標準ハ、此所ニ出發シナケレバナラヌト吾々ハ考ヘルノデアリマス、又之ヲ他方面カラ考ヘマシテモ、先般政友會ノ松山議員ヨリ公娼制限ニ關スル法律ヲ御出シニナリマシテ、諸君ノ有益ナル御議論ヲ拜聽致シマシタガ、其論旨ハ公娼制度ハ即チ善良ナル制度デハナイガ、止ムヲ得ナイ制度デアルト云フ意味ニ承ツタノデアリマス、此止ムヲ得ナイ餘儀ナイ公娼ガ、大正十二年度末ノ調査ニ依リマスルト云フト、全國ニ五萬五千九百九十九人アル、此公娼ニ稍似タル所ノ藝者ガ七萬二千三人、藝者ニ能ク似タル酌婦ガ四萬六千五百五十八人アルノデアリマス、然ルニ是等ノ者ハ如何ナル原因、如何ナル動機ニ依テ此職業ニ就イタカト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、其詳細ハ委員會ニ讓リマスガ、其五萬五千九百九十九人ノ公娼ハ、其始ト全部ト云ツテモ宜イ位ノ大部分ノ者ハ、皆生活難緩和ノ爲ニ、即チ父母ノ爲メ、家庭ノ爲メ、兄弟ノ爲ニ尊キ犠牲ヲ拂ツテ、人身賣買ヲサレテ居ルノデアリマス、故ニ國民ノ生活ニシテ安定シマシタナラバ、何モ好ンデ人身賣買ヲスル者デハナイノデアリマスカラ、是ハ自然ト消滅スル道理デアリマス、又我國ノ最近一箇年ノ死亡者ノ總數ハ百二十七萬乃至八萬ノ間ヲ往來致シテ居リマスルガ、其割二分ニ當リマスル十五萬三千人位ノ人ハ、年々歳々下痢及腸炎デ死亡致シテ居ル、其下痢及腸炎デ死ンデ居リマスル人ノ其又約六割ニ當リマスル者ハ、生活難カラ來タ直接間接ノ榮養不足デアルト云フコトヲ推定シ得ルノデアリマス、又從來過激ナ危險思想ヲ懷イテ居リマシタ者ノ、其大部分ハ身體虛弱ナ者デアッタト云フコトモ、政治家ハ考ヘナケレバナラヌ、若シ此國民ガ榮養不良トナリ、皆身體ノ虛弱ナ國民ヲ作リマシタナラバ、或ハ危險思想ノ種子ヲ蒔クヤウナモノデアルカモ知レヌ、大ニ考ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス、又國民ヲシテ其所ヲ得セシメナケレバナラヌト云フコトハ、政治ノ最大要諦デナケレバナラヌ、然ルニ年々歳々其所ヲ得ル能ハズシテ、自殺ヲスル者ガ一萬二千人ノ多キニ達シテ居ルノデアリマス、或ハ又最近生活難ノ爲ニ非常ニ結婚難ヲ來シマシテ、婚姻年齡ガ延長シテ居ルコトモ事實デアリマス、又本年二月十

一日ノ東京日日新聞及報知新聞ノ報ズル所ニ依レバ、最近生活難カラ來ル所ノ狂者ガ非常ニ殖エタト云フコトヲ報ジテ居リマシテ、東京驛頭ニ於テノミ本年一月中ニ二十八人、此患者ガ捕ヘラレテ居ルト報ジテ居リマス、之ヲ警視廳ニ就テ聞キマスルト、現在警視廳管轄内ニ於テ精神病院ニ收容シテ居ル者ガ二千七百八十一人アリマスルガ、アトハ病院ガ滿員ノ爲ニ收容シ能ハズシテ、家庭ニ保護ヲ加ヘテ居ル者ガ約三千人アルト云フ状態デアリマス、是等ノ人ハ色々ノ原因ガアリマセウ、固ヨリ遺傳カラ來テ居ルノガ一番多イニハ違ヒアリマセウガ、其内ニハ直接間接ノ生活難ヨリ來テ居ルノガ餘程アルノデアリマスルカラ、此儘ニシテ政治家ガ顧ミナカッタナラバ、最後ニハ狂者ノ多イ國トナツテシマフト云フ傾向ヲ持ツテ居ルノデアリマス、斯様ナ状態デアリマスカラ、以上申述ベマシタル趣旨ヲ御參酌下サレマシテ、政府ハ速ニ適當ノ機關ヲシテ國民ノ生活状態ヲ調査シ、而シテ其生活費ノ最低額ノ必要ヲ全體ノ國民ニ所得セシメルト云フ一大理想ノ下ニ、諸政策ヲ樹ツルコトヲ望ムノデアリマス、幸ニ現内閣ハ國民多數ノ輿望ヲ荷ウテ成立シテ居ルカラ、此事ヲ爲シマシタナラバ、名實共ニ相一致シマシテ、是ハ相應シキ事デアリマシテ、其機會ヲ得タリト信ジマスルガ故ニ、諸君モ政黨政派ノ觀念ヲ超越セラレマシテ、眞ニ國民ノ選良ノ名ニ於テ、滿場一致ヲ以テ御協贊アラシムコトヲ希フ次第デアリマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ



九九 日南鐵道東部線速成ニ關スル建議案

政府ハ宮崎縣宮崎郡大淀驛ヨリ内海ヲ經テ南那珂郡飲肥ニ至ル日南鐵道東部線ヲ速成セラレム  
コトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十七日山道襄一君之ヲ提出ス三月十九日本案ヲ院議ニ付シ提出者不在ナルニ付其  
ノ趣旨辯明ヲ省略シ清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(一八)外十  
六件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書  
ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ  
報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一〇〇 酒田、觀音寺及眞室川間鐵道敷設ニ關スル建議案

政府ハ山形縣酒田ヨリ觀音寺ヲ經テ奥羽本線眞室川驛ニ至ル鐵道ヲ速ニ敷設セラレムコトヲ望  
ム

右建議ス

右ハ十四年二月十七日熊谷直太君外四名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(西方利  
馬君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本建議案提出ノ理由ハ文書ニ明ニ述ベラレテ居ルノデアリマスカラ、何卒文書ヲ御覽ニナッテ、  
滿場ノ御賛成ヲ御願致シマス

次テ本案ハ清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(一八)外十六件委員  
ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長  
ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ  
報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一〇一 今泉坂町間鐵道起點變更ニ關スル建議案

新潟縣坂町ヨリ山形縣今泉ニ至ル鐵道未成線ノ起點ヲ新潟縣村上ニ變更シ山形縣小國郷ヲ經テ  
同縣長井ニ接續セシメラレムコトヲ望ム



右建議ス

右ハ十四年二月十七日石塚三郎君外四名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(石塚三郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本鐵道ハ明治二十五年ニ制定セラレマシタ鐵道敷設法ヲ、大正九年七月一日ニ改正セラレマシテ、同年八月六日法律第五十四號ニ追加サレタノデアリマス、其當時村上町ヲ起點トスルカ、或ハ坂町村ヲ起點トスルカニ付テ頗ル論議サレタノデアリマス、今其兩者ニ就テ交通其他ノ點ニ付テ比較致シマス、坂町村ハ僅カ百戸内外ノ一寒村デアリマシテ、其沿道部落ト申シマスレバ、僅ニ關谷、女川ト云フニ箇村ヲ有シテ居ルニ過ギナイノデアリマス、又其沿道部落ト山形縣ニ通ジマスル沿道部落ト申シマスレバ、十數里ノ間ニ於テ僅ニ數戸ヲ有シテ居ル村落ガ二三アルニ過ギナイノデアリマス、一方村上ハ舊内藤公ノ城下デアリマシテ、戸數ハ二千五百戸ヲ有シ、人口ハ一萬五千ヲ有シテ居ルノデアリマス、而シテ郡役所、裁判所、警察署、小林區署、中學校、或ハ雜產育所ト云フヤウナモノガ非常ニ澤山アルノデアリマシテ、其上瀨波港ヲ控ヘテ居リマス、三面川ハ其沿岸ニ沿ウテ居ルノデアリマス、物資ノ集散海陸共ニ甚大ノ利便ヲ有シテ居ルノデアリマス、若夫レ沿道部落ニ至リマシテハ、殆ド十數倍ノ多キヲ持ッテ居ルノデアリマス、更ニ坂町村ヨリ山形縣ニ達スル所ノ縣道ハ、斷崖絶壁ニ沿ウテ洵ニ危險ノ場所デアリマス、一度寒中ニナリマスルト雪崩ガアリマシテ、到底交通ガ出來ナイノデアリマス、此故ニ坂町村ハ山形縣ニ達スル縣道ヲ有シテ居リマスルケレドモ、鐵道ノ昇降客ニ至リマシテハ村上驛ト比較致シマスルト、全ク其半數ニモ充タナイノデアリマス、以上申述ベマシタル如ク坂町村ト村上町トノ比較ハ、其利害得失ニ於テ非常ニ懸隔ガアルノデアリマス、惟フニ本線ハ山形國境ヨリ長井町ニ至リマシテ、山形市ヲ經テ仙臺地方ニ達スル所ノ陸羽越ヲ横斷スル幹線トナルノデアリマシテ、東

北振興ノ上ニ於テハ極メテ重大ナル意義ヲ齎スモノデアリマス、又軍事上ニ於テモ此幹線ハ非常ナル有利ナモノデアリマシテ、一日モ速ニ是ガ速成ヲ期待シテ居ルノデアリマス、政府當局ニ於カレマシテハ御調査ノ上國家大局ニ著眼サレマシテ、鐵道永遠ノ策ヲ立テラレンコトヲ偏ニ希望スルノデアリマス、而シテ此不合理ナル坂町村起點ヲ村上町ニ變更セラレンコトヲ、願クハ滿場諸君ノ御贊成ヲ得マシテ、速ニ是ガ實現アラントコトヲ偏ニ希望シテ已マナイノデアリマス、次テ本案ハ清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(一八)外十七件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一〇二 借家人ノ利益保護ニ關スル建議案

政府ハ借家人ノ權利ヲ尊重シ其ノ經濟的利益ヲ確保スル爲借家法並土地收用法ノ改正案ヲ提出セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十七日廣瀨德藏君外四名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(廣瀨德



藏君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本建議案ハ、政府ハ借家人ノ權利ヲ尊重シ、其經濟的ノ利益ヲ確保スルガ爲ニ、土地收用法其他關係法規ノ適當ナル改正案ヲ、速ニ本會ニ提出セラレンコトヲ望ムト云フ趣旨デアリマス、物ヲ所有シテ居リマス人ト、物ヲ借リテ居リマス者トノ間ノ利害ノ調節ト云フコトハ、法制上興味アル問題デアリマス、殊ニ人ノ住居ニ關スル物件ニ至リマシテハ、近代ノ趨勢ニ鑑ミテ特ニ興味ヲ引ク問題デアルト思フデアリマス、私ノ考ヘル所ニ依リマスト、我國現代ノ法制ハ、家ヲ借リテ居ル者ノ待遇ニ於テ、少シ薄イ感ガアルト存ズルノデアリマス、而シテ此缺點ハ特ニ土地收用法ノ場合ニ於テ其顯著ナル痕跡ヲ現シテ居ルノデアリマス、土地收用法ニ依リマスト、土地ノ所有者及其關係人ハ、土地收用ノ手續ニ參加ヲ致シマシテ、サウシテ關係人ノ被ル損害ヲ賠償ヲ受ケルコトニ相成ツテ居リマスガ、借家人ニ至リマシテハ、其關係人ト看做サレテ居リマセヌガ爲ニ、其手續ニ參加スル機會ヲ與ヘラレルコトモ無ク、又其被ル損害ニ對シテモ賠償ヲ受ケルコトガ無イノデアリマス、是ガ爲ニ自分ノ知ラナイ間ニ、土地所有者若クハ建物ノ所有者トノ間ニ行ハル、所ノ協定ニ、自己ノ運命ヲ委ネマシテ、知ラナイ間ニ住居權ヲ剝奪サレル結果ヲ生ズル、又永年經營シテ居リマス爲ニ生ジマス老舖ノ權利ニ對シテモ、何等ノ賠償ヲ受ケルノ途ガ無イト云フノガ、現在ノ法制ノ著シイ缺陷デアルト思フノデアリマス、政府モ亦此點ニ御氣付キニナツタモノト見ヘマシテ、第四十五議會並ニ第四十六議會ニ土地收用法ノ改正案ヲ提出サレマシタケレドモ、是ハマダ兩院ノ決議ヲ經ルニ至リマセズ、殊ニ此政府提出案ニ依リマスト、一面借家人ヲ土地收用ノ利害關係人ト看做シテ居リマスケレドモ、他ノ一面期間ノ定メ無キ借家人ハ、之ヲ關係者ト看做サヌト云フ規定ヲ設ケテ居ル、所ガ大都會及其接續ノ繁華地ニ住ンデ居リマス所ノ借家人ハ、大抵貸賃借ノ期間ノ定メ無キ借家人デアリマスカラ、遂ニ此改正案ノ特典ヲ受ケルコトガ出來ナイノデアリマス、斯ノ如キ事ハ、一方ニ於テ權利ヲ與ヘ、一方ニ於テ之ヲ剝奪スルノデアリマス、立法上洵ニ惡戯事デアルト私ハ思フノデアリマス、我國ノ商法ニ依リマスト、營業稅ノ讓渡ヲ認メテ居リマスノニ、他ノ法規ニ於テハ一切ソレヲ否認ヲ致スト云フコトハ、法制

上ノ一大缺陷デアルト思フノデアリマス、嘗テ政府ガ提出致シマシタ土地收用法ノ改正案ニ於テ、期間ノ定メ無キ賃借人ニ對シテハ、土地收用ノ關係人ト看做サヌト云フヤウナ意味ノ規定ヲ設ケマシタコトハ、借家法トノ對照上、權衡上、左様ナ規定ヲ設ケタモノト存ズルノデアリマス、此故ニ本員ハ別ニ借家法ノ改正案ヲ提出致シマシタノデアリマスカラ、借家法ノ部分ニ付テハ説明ヲ省キマスガ、土地收用法ノ範圍ニ於テハ、今申上ゲルガ如キ著シキ缺點ガアルト存ズルノデアリマス、借家人ノ利益ヲ保護スル爲ニ、土地收用法ニ對シテ適切ナル改正ヲ加ヘルコトヲ望ムト云フノガ本建議案ノ趣旨デアリマス、之ヲ法律案トシテ提出シナカッタノハ、政府ガ既ニ四十五、四十六議會ニ於テ、似タヤウナ案ヲ提出シテ居ルノデアリマス、政府ニ成案ガアル、唯之ニ畫龍點睛、一點重要ナ點ヲ加ヘマスルナラバ、完璧ナル法案ト相成ルト存ズルノデアリマスカラ、特ニ法律案ト爲スヲ避ケテ、茲ニ政府ノ提出ヲ促スベク建議案トシテ提出シタ次第デアリマス、滿場諸君ノ御贊同ヲ求メル次第デアリマス

次テ本案ハ作間耕逸君外二名提出借家法中改正法律案(第四項第二(三四)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
即日議事日程ニ追加シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

### III 琵琶湖ヲ中心トスル國立公園設置ニ關スル建議案

琵琶湖ヲ中心トスル國立公園ヲ設置セラレムコトヲ望ム  
右建議ス



右八十四年二月十七日兼松寅太郎君外二名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(兼松寅太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ニ對シマシテ簡單ニ説明ヲ致シマス、御承知ノ通り琵琶湖ハ面積四十二方里ヲ有シテ居ル我國唯一ノ靈湖デゴザイマス、風光ノ明媚ナルコトハ世界ニ於テモ多ク其比ヲ見ナイノデゴザイマス、斯ノ如キ天與ノ大湖ヲ有シナガラ、未ダ廣ク海外ニ紹介ノ出來ナイコトヲ甚ダ遺憾ト致シテ居ルノデゴザイマス、固ヨリ國立公園ノ候補地ハ、我國ニハ澤山アルヤウデゴザイマスガ、琵琶湖ノ如キハ山水ノ美ヲ併セ備ヘテ居リマス、史蹟名勝ニモ富ンデ居リマス、殊ニ縣費二百三十五萬圓ヲ投ジテ琵琶湖ヲ一周スル周遊道路ノ改修ニ著手ヲシテ居ルノデゴザイマス、加フルニ交通ノ便モ十分ニ完備致シテ居リマス、多數候補地ノ中ニ於ケル最モ適當ナルモノ、一ナリト斷言シテ憚ラヌノデアリマス、何卒諸君ニ於カレマシテモ、本案ニ御賛成下サイマシテ、實現ノ期ノ一日モ速ナランコトヲ切望スル次第デアリマス

次テ本案ハ鈴木隆君外四名提出國立公園調査會設置ニ關スル建議案(八一)外四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一九三)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一〇四 瀬戸内海ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案

政府ハ日本ハ世界ノ公園ニシテ瀬戸内海ハ日本ノ公園ナリト稱セララル瀬戸内海ヲ中心トスル國立公園ヲ設定シ以テ内外人ノ一大樂園地タラシムヘシ  
右建議ス

右八十四年二月十九日山下谷次君外一名之ヲ提出ス三月十二日本案ヲ院議ニ付シ提出者(山下谷次)君ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ瀬戸内海ヲ中心トスル國立公園設定ニ關スル建議案デアリマス、日本ハ世界ノ公園デア  
ル瀬戸内海ハ日本ノ公園デアルト云フコトハ大體内外人トモ認メテ居ル所ノ評論デゴザイマ  
ス、瀬戸内海ヲ中心トスルト云フコトハ、敢テ水ヲ中心トスルト云フノミデハナイノデアリマ  
ス、瀬戸内海ハ東西二百四十海里程デアリマスガ、其間ニ三百有餘ノ諸島ガアリマス、是ハ禿山  
ト云フノデナクシテ、四季共ニ常ニ青々トシテ居ル所ノ島ミデゴザイマス、サウシテ雪ト致シマ  
シテモ多ク降ルコトガナク、夏ニ至リマシテハ到ル處ニ海水浴ガヤレルト云フヤウナ所デアリ  
マス、而シテ其海岸ニ於ケル所ノ都會ハ幾多ノ重要ナル都會ガアリマス、其都會ト都會トノ間  
ハ、最モ短イ時間ヲ以テマシテ往來スルコトノ出來ルヤウナ便利モゴザイマス、殊ニ此附近ニ參  
リマシタナラバ、高松ニ於キマシテ日本三大公園ヲ超越シテ居ルト言ハル、所ノ栗林公園ガ  
アリマス、ソレニ尙ホ西ニ參リマスレバ、眞言宗ノ開祖デアアル所ノ弘法大師ノ誕生地ガアリマ  
ス、ソレニ引續キマシテ天下崇敬ノ中心トナッテ居リマス所ノ金刀比羅宮モ祀ラレテアリマス、  
又其外ニハ今日ニ於テ有名ナル所ノ道後ノ温泉、或ハ精神修養トシテハ殊ニ弘法大師ガ四國八  
十八箇所ヲ選定致シマシタ、此八十八箇所ヲ廻ハラレタナラバ、如何ナル萬病苦惱モ治スルト言  
ハレタノデアリマス、此四國ヲ巡リマスレバ無論弘法大師ノ御利益ノアルコトハ當然デアリマ



スケレドモ、四國ノ風土ガ實ニ身體ノ保養ニナルト云フコトハ明瞭ナノデアリマス、此瀬戸内海ヲ中心トシ、或ハ廣島或ハ岡山、或ハ姫路ヲ通ジテ國立公園ヲ設ケルト云フコトハ、最モ適當デアラウト思ヒマス、乃チ此建議案ヲ提出シタ理由デゴザイマスカラ、滿場ノ諸君御賛成ノ程ヲ御願シマス

次テ本案ハ鈴木隆君外四名提出國立公園調査會設置ニ關スル建議案(八一)外三件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一〇五 廣島濱田間鐵道速成ニ關スル建議案

廣島ヨリ島根縣那賀郡濱田ニ達スル路線ハ既ニ鐵道網ニ編入サレ表日本ト裏日本ヲ連絡スル重要ナル路線ニシテ地方ノ産業交通ノ爲極メテ緊急ヲ要スルモノナルニ依リ該鐵道ヲ速ニ建設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十九日吉田眞策君之ヲ提出シタルモ三月二十三日提出者ハ之ヲ撤回セリ

一〇六 鳥栖長尾間鐵道建設ニ關スル建議案

鹿兒島本線鳥栖驛ヨリ太刀洗陸軍飛行場及甘木町ヲ經テ筑豊線長尾驛ニ達スル線路ハ軍事上及産業上至大ノ關係アル重要線路ニ付政府ハ速ニ之ヲ調査シ建設ノ計畫ヲ立テムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十九日加藤十四郎君之ヲ提出ス三月二十三日本案ヲ院議ニ付シ提出者ノ趣旨辯明ヲ省略シ(本項(一四〇)參看)清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(一八)外三十二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一九三)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一〇七 金鷄勳章年金令改正ニ關スル建議案

金鷄勳章年金令改正ニ就テハ曩ニ第四十九回帝國議會ニ於テ本院ハ滿場一致其ノ請願ヲ採擇シ



更ニ建議案ヲモ可決シテ之ヲ政府ニ送致セリ抑金鵄勳章ハ國家存亡ノ事變ニ際シ身命ヲ賭シテ祖國ノ急ニ臨ミ拔群ノ武功アリタル殊勳者ニ賜フ所ノモノニシテ更ニ此ノ名譽ヲ拜領スル者ニハ夫夫一定ノ年金ヲ加賜セラル誠ニ適當ナル恩賞方法ト謂フヘシ然ルニ年金令實施後既ニ三十年ヲ經過シ經濟上ノ實狀ヲ回顧セハ實ニ隔世ノ感ナシトセス今日ニ於テ年金令ヲ尙此ノ儘ニ放置シテ顧ミサルカ如キハ名實相伴ハスシテ御制定當時ノ趣旨ニ反シ又幾度トナク改正増額サレタル一般恩給ニ比シテ一ハ國家ニ對スル勤績者ニシテ他ハ國家ニ對スル勳功者ナルニ之ヲ遇スル上ニ於テ甚タ失當ナリ殊ニ軍縮整理ニ依ル退職者ノ一時賜金ノ利潤ニサヘ及ハサルカ如キハ假令年金ノ性質多少ノ異論アリトスルモ國家ニ盡シタル殊勳者ニ對シ物質的優遇ノ途ヲ誤リ最高勳章ノ權威ヲ失墜スルモノト謂フヘク延テハ將來ノ國民思想上ニ一大動搖ヲ來シ愛國ノ觀念ニ缺陷ヲ生セムコトヲ虞ル故ニ金鵄勳章年金令ヲ改正シ速ニ相當増額シ以テ第四十九回帝國議會滿場一致ノ要望ヲ實現セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右八十四年二月十九日中野寅吉君外五名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(佐藤實君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

金鵄勳章ノ年金令ハ御存知ノ如ク、明治二十七年ノ九月二十九日ニ御制定ニナリマシテ、其時ハ功一級ハ九百圓デアッタデアリマス、功二級ハ六百五十圓、功三級ガ四百圓デアリ、功四級ガ二百十圓、功五級ガ百四十圓デアリ、功六級ガ九十圓デアリ、功七級ガ六十五圓ニ制定セラレタデアリマス、翌年明治二十八年ノ七月勅令第百十號ヲ以テ改正ニナリマシテ、是ガ功一級ニ六百圓ヲ増シテ、千五百圓トシ、功二級ニ三百五十圓ヲ増シテ一千圓トナシ、功三級ニ三百圓ヲ増シテ之ヲ七百圓トナシ、功四級ニ於テハ二百九十圓ヲ増シテ五百圓トシタデアリマス、功五級ニハ六百六十圓ヲ増シテ三百圓トナシ、功六級ニハ百十圓ヲ増シテ二百圓トナシ、功七級ニ於テハ三十五圓ヲ増シテ百圓トシタデアリマス、又大正九年ノ六月勅令第百八十五號ヲ以テ改正ニナリマシテ、其時ノ改正ハ大正五年以後金鵄勳章ヲ賜ハル者ニシテ、受領後五年ニ滿タズシテ死亡シタルトキハ、五年ニ滿ルマデ其年金ヲ授與スルコトニナッタデアリマスカラ、是ハ根本的改正デアリマセヌ、此年金其他恩給ト一時賜金トノ關係上、非常ニ年金ガ薄イデアリマシテ、一時彌縫的ニ之ヲ改正シタデアリマス、デ明治二十八年ノ七月ニ於テ第二回ノ改正ヲセラレマシテカラ、今日マデ三十箇年ノ經過ヲ致シテ居ルデアリマスケレドモ、此三十年ノ間一日ノ如ク改正増額セラレズシテ今日ニ及ンダデアリマシテ、他ノ一時賜金ノ如キハ、經濟界ノ變遷ニ伴ウテ、改正増額セラレタデアリマス、其改正モ一時賜金ノ如キハ時代ノ變遷ニ於テ待遇ヲ受ケテ居ルデアリマスケレドモ、此年金ハ今マデ只一回モ改正セラレズシテ來タト云フコトハ、私ハ此間ニ非常ナ矛盾ガアルヤウニ思ッテ居ルデアリマス、デ今日ト其當時トノ經濟上ノ實狀ヲ回顧致シマスレバ、物價ハ幾十倍トナク騰貴ヲシテ居ル、又貨幣ノ價值ハ著シク低下ヲシテ居ルデアリマス、ソレニ拘ラズ、金鵄勳章年金令ノミガ取殘サレテ、明治二十七年ニ於テ相當トセラレマシタ金百圓、米三十俵ガ今日モ尙ホ依然トシテ其位置ヲ保ッテ居ルト云フコトハ、實ニ私ハ政治ノ公平均霑ヲ云々スル者ノ疑ヲ挾マザルヲ得ナイデアリマス、恩給ニ關シテハ以前斯ウ云フ話サヘアリマシタ、某大臣ハ一夜ニ自ラ筆ヲ執ッテ、一夜ニ三千萬圓ノ増額ヲ敢テシタト云ウテ、大言壯



語セラレタト云フコトサへ聞イテ居ルノデアリマス、是ト恩給ナリ、又一時賜金ト並ビ待遇シナケレバナラヌ、否、寧ロ是ヨリ先ニ改正ノ必要ニ迫ラレテ居リマス、所ノ金鷄勳章年金令ノミ願慮セラレザルト云フコトハ、私ハ受勳者ノ叫ビノ乏シキニ原因スルモノデハ、ナイカト思フノデアリマス、ケレドモ、實ニ私ハ其不徹底ヲ嘆ゼザルヲ得ナイノデアリマス、實ニ民意ヲ尊重スルモノガ立憲政治ノ本義ト致シマス、此武功拔群ノ人ヲ待遇スルニ、政府ハ何ノ逡巡スルノ必要ヲ要セナイコト、考ヘルノデアリマス、受勳者ノ總テハ御存知ノ國家興廢ノ岐レル時ニハ、戰場ノ第一線ニ立チマシテ、一意専心國家ノ爲ニ砲烟彈雨ノ中ヲ、死生ノ血税ヲ拂ヒ、家ヲ忘レ、親ヲ忘レ、妻子ヲ忘レタル武功赫赫タル至誠ノ日本愛國ノ男子デアリマス、又拔群ノ勇士デアルト共ニ、軍人中ノ私ハ軍人デアアルヤウニ考ヘルノデアリマス、然ルニ彼等ガ自ラ叫バザレバ與ヘヌト云フガ如キハ、正道ヲ守ル所ノ政府トシテ執ルベキ途デハナカラウト思フノデアリマス、現在我が帝國ノ地位ヲ築上ゲタルコトハ、御稜威ノ然ラシムルコトデアアルコトハ、無論デアリマス、ケレドモ、大和民族渾身ノ努力ニ因ルハ言フ俟チマセケレドモ、就中是等勇士ノ奮闘ニ俟ツコトガ私ハ大ナル力ガアルト思フノデアリマス、殊ニ現内閣ハ一大行政ノ整理ノ結果、軍備ノ縮小ヲ斷行セラレマシタ、其結果四個師團ノ縮小ヲ行ハレテ、是カラ捻出セラレル所ノ費用ヲ以テ新兵器ノ充實ヲ圖ラレルト云フ御聲明ガアルノデアリマス、歐洲動亂ノ結果ハ兵器、或ハ戰術ノ變革ヲ要スル今日ニ於テハ、最モ機宜ニ適スル所ノ政府ノ施設トシテ、私共ハ滿腔ノ贊意ヲ表スル者デアリマス、ケレドモ、此施設ヲ目シテ或ハ反對セラル、方々ハ、國防ヲ危タルモノデアルト言ハレルガ、洵ニ私ハ其言ヲ聽イテ、時代錯誤ノ言デアアルヤウニ思フノデアリマス、軍備ノ整理改善ハ決シテ國防ノ縮小デハナイ、軍備ノ縮小ト國防ノ縮小トハ、僅カニ字ノ違ヒデアリマス、ケレドモ、其根底ニ於テ、其根本ニ於テ大ナル相違ガアルノデアリマス、併シ此時代ニ順應スル所ノ新兵器ト云フケレドモ、此新兵器ヲ扱フ所ノ軍人ノ精神ニ於テ缺點ガアリ、或ハ缺陷ガアルナラバ、折角ノ苦心努力ニ因ッテ現レタル所ノ、吾々ガ歡迎スベキ所ノ此新施設ト雖モ、最終ノ目的ヲ達成スルコトガ出來ナイコト、考ヘルノデアリマス、故ニ御當局ハ新兵器ノ充實、或ハ軍事教育

ノ普及、是ト共ニ軍人精神ノ充實ヲ十分ニ圖ルコトガ、最モ必要デアアルヤウニ考ヘルノデアリマス、ソレカラ益十分ニ士氣ノ涵養ヲ圖リ、或ハ此士氣ノ涵養ヲ圖ッテ、軍人精神ノ充實ヲ圖ルノデアリマス、然ルニ此恩給ト年金トハ、其性質ヲ異ニシテ、恩給ハ生活上ノ保障デアアルカラ、是ガ増額ヲ要スルケレドモ、年金ハ名譽ノ報償デアアルガ故ニ其要ナシト云フコトハ、私ハ徒ニ理論ノミニ拘泥シテ、其根源ヲ顧ミザル所ノ人ノ言ハレル所デアラウト思フノデアリマス、年金ノ實質ハ御存知ノ如ク一時金ニ對スル所ノ名稱デアリマス、私ハ此年金ハ恩給ニ關シテ勳積ノ恩給デアルト之ヲ命名シタイノデアリマス、此勳積ノ恩給ト年金ニ依テ現レタル所ノ恩給ト何方ガ重イカ、何方ガ輕イカトスルト、職業ノ爲ニ相當ナ祿ヲ食ンデ、漸ク十一年間勳積シタル者ト、義務ノ爲ニ生命ヲ抛ッテ戰場ニ馳驅シ、殊勳ヲ奏シテ僅ニ自分ノ生命ヲ保ッテ居ル者ト、何レガ重キカト云フト、是ハ私ハ論ヲ俟タナイ所デアラウト思ヒマス、又給與ノ目的ヲ比較シテ見レバ、勳積恩給ノ方ガ、餘程私ハ勳積ノ恩給カラ見レバ重イト思フ、生活ノ保障ヲセザルヲ奈何セント言フ者ガアル、併ナガラ此生活ノ保障ガナイ爲ニ、如何ニ時代ガ激變シテモ之ヲ増額セヌト云フコトノ立論ハ出來ナイノデ、又貨幣價值ガ大激變ヲ來シタ今日デモ、一切改正ノ必要ガ無イト云フコトハ、私ハ言ハレマイト思フノデアリマス、日清役ニ於ケル伍長級ノ一時賜金ハ五十圓乃至八十圓デアリマシタ、是ガ日露戰爭ノ時代ニハ二百圓カラ三百圓ニ増額セラレタノデアリマス、是ガ大正ノ日獨戰爭ノ時代ニハ八百圓カラ千圓ニナッタノデアリマス、此一時賜金ハ何デ生活ノ保障ヲ意味スルモノデアラウカ、決シテ一時賜金ハ生活ノ保障ヲ意味シテ居ラナイ、又大正元年頃ノ准士官ノ年末賞與ハ三十圓内外デアッタノデアリマス、是ガ七八十圓ニ増加致シマシテ、今ヤ百五十圓内外ニ是ガ達シテ居ルノデアリマス、是等モ此賞與金ハ何等生活ノ保障ヲ意味シテ居ラナイノデアリマス、改正ノ必要ト申シマスルノハ、戰功者ニ對スル一時賜金ノ額ガ、其戰役毎ニ増加シタルガ爲ニ、殊勳者ニ下賜セラル、所ノ金鷄勳章年金ト其均衡ヲ失スルニ至リ、大正戰役ニ在ッテハ現ニ功級年金ニ加フルニ一時賜金ヲ併給セラレタノデアリマス、實ニ一ハ金鷄勳章御制定ノ御趣旨ニ反シ、一ハ明ニ金鷄勳章年金額ノ不備小額ヲ悟ルコト、思ヒマス、



又或人ハ戰死者ニ對シテ非常ニ均衡ガ取レナイト云フコトヲ申スノデアリマスケレドモ、私ハ決シテ然ラヌト思フ、戰死者ノ遺族ハ本人ノ恩給年限ノ有無ニ拘ラズ、悉ク等級相當ノ扶助料ト一時賜金ヲ頂戴シテ居ッテ、此扶助料ハ數回ノ恩給法改正ニ附隨シテ現ニ之ヲ増額セラレテ居ルノデアアル、又其當時ヲ考ヘテ見マス、曹長級ハ殆ド二百八十五圓幾ラニナッテ居リマス、本ハ死亡後ハ其子供ガ或ハ五人居ルト假定致シマスレバ、其上ノ子供ガ二十歳ニ到達スルマデハ此扶助料ガ渡ルコトニナリマシテ、二十歳ニ到達スレバ其次ギコトニ扶助料ガ渡ルコトニナッテ居リマス、畏クモ我國ノ金鵄勳章ノ御制定ノ御趣旨ハ、實ニ先帝陛下ガ忠勇御獎勵ノ御思召デアルト共ニ有難キ恩賞方法デアラウト思ヒマス、是等ノ有難キ恩賞方法ニ依テ、爾來幾多ノ戰役ニ於テ其神髓ヲ發揮セシハ、全ク御稜威ノ然ラシムル所ト考ヘルノデアリマス、受勳者ノ人格品位ヲ一生保タシムル爲ニハ、物質的ニモ亦相當考慮セラレタコトガ、此勳章ノ他ノ勳章ニ比シテ尊イ所以デアラウト思ヒマス、又之ヲ一箇年ノ賞與金トシテ考ヘテ見マシテモ、一箇年ノ賞與金ト致シマスレバ、一箇年ノ此購買力ヲ意味スルノデアリマスカラ、此購買力ノ點カラ致シマシテモ、此御制定ノ當時ト今日トハ非常ニ大ナル差ガアルト謂ハナケレバナラズ、デ此外國ノ例ヲ取リマシテモ、英國ニアリマスル所ノ「ビクトリヤクロス」トカ、或ハ前ノ獨逸ニアリマシタ鐵十字トカ、或ハ露國ノ「ギョルキー」トカ、或ハ佛國ノ「レジオンドヌール」トカ、或ハ伊太利ノ金銀銅ノ三種ノ「メタル」トカ、是等ノ勳章ハ外國ニ澤山アリマスケレドモ、是ト我國ノ金鵄勳章トハ、自ラ其性質ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、故ニ此意味ニ於キマシテ年金令ガ制定セラレタル以上ハ、時代ニ順應シテ、恩給ト同ジク優遇ノ途ヲ講ズルハ、政府自ラノ一大責務デアアルヤウニ考ヘルノデアリマス、然ラバ如何ニ改正スベキヤト申シマスルト、私ハ之ヲ下昇主義ニヤリタイ、此七級カラ五級マデヲ相當多額ニ上ゲテ、五級以上一級マデノ間ニ於テハ、其上ゲ方ヲ少クスルト云フ方針デアリマス、七級カラ五級マデノ人ハ殆ド其八割以上ハ金鵄勳章許リデアリマス、又五級カラ一級ノ人ヲ考ヘテ見マスルト、五級カラ一級ノ人ハ殆ド恩給トダブッテ居ル、故ニ私ハ七級カラ五級ノ人ヲ餘計ニ上ゲテ、五級カラ一級ノ人ヲ其率ニ於テ幾分カ少クシタイト云

フ意味ニ考ヘテ居ルノデアリマス、大正十三年マデノ此受勳者ノ現在ヲ調べテ見マス功一級ハ五人、功二級ハ四十三人、功三級ハ二百六十七人、功四級ハ千三百三十九人、功五級ハ五千二百八十七人、功六級ハ三千七十八人、功七級ハ五萬八千二百七十七人、合計六萬八千四百四十八人トナッテ居ルノデアリマス、其金額ハ八百九十七萬八千七百圓デアリマシテ、之ヲ大正十三年度ノ恩給總額ト比較スルト、恩給總額ハ一億二千二百萬圓ニナッテ居リマス、デ此恩給總額ト金鵄勳章年金總額トノ比例ヲ取ルト、殆ド十分ノ一ニモ足ラナイト思フノデアリマス、私ハ若シ此勢ヲ進ンデ行ッタナラバ、數十年ノ後ニハ恩給ノ爲ニ國家ガ非常ニ苦シム時代ガ來ハセヌカト思フノデアリマス、之ニ反シマシテ年金ノ方ニ於キマシテハ、假令今増額致シマシテモ、今後平和ノ時代ガ續クモノト致シマシテ、サウシテ受勳者ノ死亡率ヲ假ニ計算シテ見マス、大正二十年ニハ是ガ六萬二千八百六十人トナルノデアリマス、大正三十年ニハ五萬四千九十八人トナルノデアリマス、大正四十年ニハ三萬二千五百十三人トナリマス、大正五十年ニハ一萬二千八百六十人トナリマシテ、大正六十年ニ至ルト、殆ド私ハ此財源ハ要ラナイ事トナルト思フノデアリマス、之ニ反シテ年々増加スル所ノ恩給ハ、是ト正反對ノ現象ヲ呈スルノデアリマス、然ルニ之ヲ尙ホ看過シテ自ラ叫バザレバ之ヲ與ヘズト云フガ如キハ、私ハ返スルモ、政治ノ公平ヲ云々スル者ノ主張ニ悖ルモノト思フノデアリマス、況ヤ第四十六議會ニ於テモ、又第四十九議會ニ於テモ、本建議案ハ大多數ヲ以テ可決通過シタノデアリマス、又此受勳者ノ大部分ハ地方ノ模範的人物デアリマス、又在郷軍人トシテモ實社會ノ有力ナル團體トシテ、社會公共ノ爲ニ卒先盡力シテ居ルノデアリマス、彼等ノ切實ナル請願ノ多イコトハ、本院ニ對シテノ請願ノ中ニ於テモ、一番多數ヲ占メテ居ルノデアリマス、此願意ヲシテ此儘拋棄シテ置クナラバ、社會ニ於テ此運動ハ何時社會運動化シハセントモ限ラヌト思フノデアリマス、又昨年ノ佐々木春作君カラ在郷軍人ノ補助ニ關スル建議案ヲ出サレマシタガ、其建議案ノ趣旨ヲ讀ンデ見テモ、其第一要點ハ即チ在郷軍人ヲ養成スルニ在ルト云フコトガ書イテアリマス、是等ヲ以テモ此在郷軍人ト云フ社會ノ中堅人物ニ不平ヲ懷カシメナイト云フコトガ、政府トシテ最モ執ルベキ處置デアルト思フノデアリマス、是等



ノ人物ヲ優遇致シマシテ、士氣ノ涵養ヲ行ヒ、或ハ尙武ノ氣象ヲ養ヒ、國民ノ義勇奉公ノ觀念ヲ養成致シマスコトハ、將來國家有事ノ場合ヲ想到致シマスレバ、私ハ是等ノ優遇ハ將來ニ於テ大ナル效果ノアルモノト斷言シテ憚ラナイノデアリマス、忠君愛國ヲ基礎トスル現政府デアリマスカラ、須ク思フ茲ニ致サレマシテ、本問題ヲ大正十五年度ヨリ實施ヲ斷行セラレマシテ、彼等ニ不平ヲ懷カシメズ、是等ノ人ヲシテ優遇スルノ途ヲ講ゼラレンコトヲ切ニ私ハ望ンデ已マナイノデアリマス、滿場ノ諸君モ本建議案ニ對シテ慎重審議ノ上、御贊成アラシコトヲ深ク御願スル次第デアリマス

次テ本案ハ中林有信君外十名提出金鷄勳章年金改正ニ關スル建議案(一)外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末本案及(一)、(一三)、(四〇)ノ四案ヲ併合シテ一案ト爲シ修正スヘキモノト決シ(委員會ノ經過及結果ハ本項(一)參看)三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
翌二十四日本案及(五〇)、(一三四)、(一)、(一三)、(四〇)ノ六案ヲ一括シテ院議ニ付ス  
(議事ノ經過及結果ハ本項(一)參看)

一〇八 蠶絲局設置ニ關スル建議案

我カ邦ノ對外貿易ハ年年輸入超過ノ逆調ヲ示スト雖蠶絲ノ輸出ハ順調ニ進ミ今ヤ其ノ輸出額六七億圓ノ巨額ヲ算シ世界生絲產出額ノ首班ヲ占ム然リト雖退テ斯業ノ情勢ヲ顧ミレハ內生産ノ基礎未タ鞏固ナラサルモノアリ外支那蠶絲及人造絹絲ノ勁敵アリテ其ノ前途頗ル不安ノ念ニ堪

ヘサルモノアリ而モ我カ邦ノ經濟狀態ハ益蠶絲業ノ發展擴張ニ俟タサルヘカラサルモノアルヲ以テ政府ハ今回農林省ノ獨立ト共ニ速ニ蠶絲局ヲ設置シ蠶絲業行政機關ノ完備ヲ圖リ斯業ノ健全ナル發達ヲ促進セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月十九日武藤金吉君外六名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(高木音藏君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今議題ニナリマシタ蠶絲局設置ノ件デアリマス、提案者ノ一人トシテ最モ簡單ニ説明ヲ致シマス、一限リナク御國ノ富ヤコモルラン賤ガカフコノ繭ノ中ニハ、是ハ畏多クモ皇后陛下ガ皇太子妃ニ在シマス際、明治三十四年カト思ヒマスガ、御詠ジ遊バサレタ所ノ御歌デゴザイマス、申スマデモナク我國ノ蠶絲業ハ實ニ輸出ノ總本家デアリマス、是アルガ故ニ歷朝ニ於キマシテハ常ニ皇后自ラ桑ヲ採リ蠶ヲ養ウテ居ラセラレタコトハ、幾多歴史ニ遺ッテ居ル所デアリマス、而シテ我國ノ輸出ノ大宗家タル蠶絲業ハ、諸君御承知ノ通り一箇年七億圓ニ垂ントスルノデアリマス、總テノ輸出ハ頗ル減退シ、輸入超過ノ今日デアリナガラ、獨リ生絲ノミハ一年ト増加ヲ致ス、洵ニ喜バシイ所ノ傾向ヲ持ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ翻ッテ實際ノ内容ヲ見マスト云フト、此大切ナル蠶絲ニハ三ツノ敵ガアルノデアリマス、第一ハ人造絹絲、明治三十五年ニ內國勸業博覽會ガ大阪ニ開カレタ際、初メテ人造絹絲ナルモノヲ見タノデアリマス、當時ノ絹絲ナルモノハ、全ク其體ヲ爲シテ居ラヌ、天然絹絲ガ正宗デアリマシタナラバ、人造絹絲ハ木刀ニ銀紙ヲ塗ッタヨリ尙ヒドイノデアリマス、其光澤ト云ヒ、其伸度ト云ヒ、總テノ點ニ於テ到底天然絹絲



ノ足許ニモ寄ルベキモノデハナク、將來是ガ吾人ノ用途ニナルベキモノデアルト云フコトハ思ハナカッタノデアリマス、然ルニ輓近理化學ノ進歩、殊ニ此人造絹絲ガ著シク發達ヲ致シマシテ、實ニ天然絹絲ノ領域ニ一年ト進ンデ行キツ、アルノデアリマス、又第二ハ支那デアリマス、アノ廣イ、アノ氣候ノ良イ、勞銀ノ安イ所ノ支那ニ於キマシテハ、近時非常ナル所ノ目覺シキ所ノ發展ヲ見マシテ、其産額ノ大ナルコト實ニ我ガ蠶絲ヲ脅威スルヤウナ狀況ニナツテ居ルノデアリマス、第二ニハ米國デアリマス、曾テハ勞銀ノ高價ナル爲ニ顧ミナカッタ所ノ米國、我ガ蠶絲業ノ常得意ノ米國ガ近時非常ナル所ノ國帑ヲ以テ國ノ費用ヲ以テ、是ガ獎勵ヲ爲シツ、アルノデアリマス、隨テ我ガ蠶絲業ナルモノモ桃源ノ夢ヲ貪ツテ居ル時デハナイコトニナツテ來タノデアリマス、サウシテ是程大切ナル所ノ我ガ蠶絲業ノ行政機關ヲ見ルニ、農商務省ノ農務局ノ或ル一隅ニ蠶絲課トシテ殘ッテ在ルノデアリマス、畜産デアリマセウガ、工業デアリマセウガ、皆局ニナツテ居ルニ拘ラズ、斯ル大切ナル所ノ蠶絲業ガ農商務省ノ農務課ノ或ル一課ニ屬スルト云フノハ、甚ダ吾ミノ遺憾ニ堪ヘナイ次第デアリマス、今回農林省ガ獨立セラル、ニ付キマシテ、此機會ヲ以テ速ニ蠶絲局ヲ設置シ、以テ斯業ノ行政機關ノ完備ヲ圖リ、健全ナル所ノ斯業ノ發達ヲ期シタイト思フノデ、本案ヲ提出シタ次第デアリマス、幸ニ皆様ノ御協賛ヲ得タイト思ヒマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ三月二十二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ニ追加シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一〇九 農業教育振興ニ關スル建議案

農村振興ノ方策一ニシテ足ラスト雖農家ノ子弟ニ對シ農村生活ニ適切ナル教育ヲ施シ農業ニ關スル一般ノ智識技能ヲ具備セシムルヲ以テ第一策ト爲ス故ニ歐米諸國ニ於テハ夙ニ力ヲ農業教育ニ致シ輓近或ハ實業補習ヲ義務教育ト爲シ或ハ普通教育ノ期間ヲ短縮シテ一層實業教育ノ範圍ヲ擴大セムトスルモノアリ然ルニ我カ國ニ於テハ實業教育就中農業教育ノ如キ萎靡トシテ振ハス大ニ之カ獎勵ヲ要スルモノアルニ際シ動モスレハ財政ノ整理ニ急ナルノ餘リ農業學校ノ廢合スラ唱道スルモノアリ洵ニ之レ思ハサルノ甚シキモノニシテ農村將來ノ爲憂慮スヘキコトニ屬ス仍テ政府ハ此ノ際特ニ農業教育ノ振興ヲ圖リ之カ改善發達ノ爲適當ナル獎勵助長ノ方法ヲ講セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十九日加藤知正君外二名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(加藤知正君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

農業振興ノ問題ハ固ヨリ多事多端ニ互リマシテ、決シテ一言一句ノ能ク之ヲ解決スベキ問題デハアリマセヌ、併ナガラ農村ノ子弟ニ對シマシテ、農業ニ適切ナル所ノ教育ヲ施シ、農村ト農業トノ本質ヲ能ク理解セシメテ、之ニ由ツテ以テ彼等ヲシテ農村生活ヲ樂マシメ、農村ニ長ク安住



セシメテ、カト汗トニ依テ能ク一郷一國ノ幸福ヲ増進スルヤウニ働カシメ、社會文化ノ發達ニ  
 貢獻セシムルヤウニ働カシムルノ眞ノ農業者ヲ養成スルト云フコトガ、即チ是レ農村振興ノ大  
 問題ヲ解決スル所ノ、所謂是ガ眞ノ根本策デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、而モ是ハ焦眉ノ急  
 デアルト信ズルノデアリマス、諸君、御承知ノ如ク歐米各國ニ於キマシテハ、夙ニ農村振興ニ心  
 ヲ用キ、或ハ實業補習教育ヲバ義務教育ト爲シ、或ハ義務教育ノ年限ヲ短縮致シマシテ、實業教  
 育ノ範圍ヲ擴大シ、特ニ又程度ノ低イ農業教育ノ機關ヲ設置致シマシテ、以テ此農業教育ノ振興  
 ニ全力ヲ注ギ、日モ惟レ足ラザルノ状態デアリマス、我國ニ於キマシテハ幸ニ最近實業  
 補習教育ハ頗ル發達ヲ致シマシタ、今ヤ全國ニ於キマシテハ一萬五千ノ校數ヲ算シ、其就學兒童  
 ハ百四十萬ト稱シテ居ルノデアリマス、併ナガラ諸君、翻ッテ其真相ヲ見マシタナラバ如何デア  
 リマセウカ、全國市町村ノ中四百ノ市町村ハ、未ダ此實業補習教育ノ學校ノ設ケガ無イノデアリ  
 マス、又年々小學校、或ハ高等小學校卒業スル所ノ兒童ハ百萬以上ヲ算シマスケレドモ、其中ノ  
 五十萬ノ兒童ハ未ダ實業補習教育ニ就クコトガ出來ナイト云フヤウナ状態デアアルノデアリマ  
 ス、而シテ其教員ハ如何デゴザイマセウカ、七萬一千人ヲ算シマスケレドモ、專任教員ナル者ハ  
 十校ニ對シマシテ僅ニ六人ト云フ割合ニ過ギナイノデアリマス、其他ハ多クハ兼任教員ヲ以テ  
 間ニ合ハシテ居ルヤウナ有様デアアル、文部省ハ實業補習教育ノ教員ニ對シマシテ、其俸給ノ三分  
 ノ二ヲ限度トシ、三分ノ一ヲバ補充スベク大正九年度ヨリ三十萬圓宛交付シテ居ラレマス、併ナ  
 ガラ諸君、三分ノ一ハ當初ノ事デアリマシテ、大正十三年度ニ至リマシテハ、僅ニ其十六分ノ一  
 ヲ補助スルニ過ギナイノデアリマス、又實業補習學校ノ經費ハ一千萬圓カラ之ヲ算シマスケレ  
 ドモ、一校當リニ致シマスケレバ、僅ニ四百圓前後デアルカラ、何等ノ設備ヲスルコトガ出來ナイ、  
 教授上必要ナル所ノ校具其他ヲ備ヘルコトガ出來ナイ、斯ノ如キ有様デアアルカラ、其教育ノ不完  
 全ナルコトハ言ハズモガナデアリマス、實業補習教育ノ問題ニ付キマシテハ同僚竹原樸一君、長  
 田桃藏君ノ兩氏ト共ニ建議案ヲ提出致シテ置キマシタコトデアリマスカラ、此事ハ其方ニ讓リ  
 マシテ、私ハ農業學校ノコトニ付テ少シク述ベテ見タイト思フノデアリマス、諸君、我國ノ農業

校ハ今ヤ三百二十ヲ算スルノデアリマス、而シテ其卒業生ハ最近五箇年ノ平均ニ依リマスト、一  
 萬一千人ヅ、ヲ算スルノデアリマス、併ナガラ此學校ヲ郡ニ割ッテ見マスト、僅ニ二郡ニ對シテ  
 一校ノ割合ニ過ギナイノデアアル、又學校數ヲ農家ノ戶數ニ割當テ、見マスト、一萬七千戸ニ對シ  
 マシテ僅ニ一校ノ割合ニ過ギナイノデアアル、而シテ其卒業生ハ一萬一千人ト申シマスケレドモ、  
 農家百戸ニ對シテ僅ニ五人ト云フヤウナ有様デアアル、自作農ニ之ヲ割當テ、見マスト、農家百戸  
 ニ對シテ僅ニ十五人ト云フヤウナ有様デアアルノデアリマス、左様ナ状態デ、今日ノ農學校ノ經費  
 ハ一校當リガ僅ニ一萬六七千圓ニ過ギナイノデアリマスカラ、是亦其内容ノ貧弱ナルコトハ殆  
 ド御話ニナラヌノデアリマス、今ヤ向學ノ風盛ニシテ、中學校ニ入ル所ノ者ハ中々盛デアリマ  
 ス、洵ニ喜ブベキ事デアリマス、併ナガラ諸君、中學校ヤ女學校ヲ卒業致シマシタ所ノ者ハ如何  
 デゴザイマセウカ、其卒業生ノ成績ヲ見マスト云フト、上級學校へ進ム者ハ、大正五年ヨリ九年  
 マデノ五年間ノ平均成績ヲ見マスト、中學校ノ卒業生ガ二萬三千人中、其三分九分ガ漸ク上級學  
 校ニ進ムコトガ出來ルノデアリマシテ、其他ハドノヤウナ事ヲヤッテ居ルカ、即チ一割九分ノ卒  
 業生ガ辛ウジテ實業ニ從事シテ居ルト云フヤウナ有様デアアル、而シテ此學校トカ或ハ諸官省ニ  
 奉職スル所ノ卒業生ニハ、僅ニ一割強ト云フヤウナコトデアリマシテ、約三分ノ一者ハ何ヤッテ  
 居ルカ殆ド譯ノ分ラナイ、所謂バラ／＼人足ニナッテ日ヲ送ッテ居ル者ガ約三分アルノデアリマ  
 ス、惡口ヲ言ヒマシタナラバ、是等ノ者ガ羽織ゴロ、或ハ洋服ゴロニナッテ居ル者ガ大部分ヲ占メ  
 テ居ルト申シテ宜シイノデアリマス、諸君、今日中學校へ這入ル所ノ入學難ハ非常ナモノデアリ  
 マス、荒川五郎君ガ此入學難ヲ緩和スルコトニ付テ建議案ヲ出サレマシタコトニ徴シマシテモ、  
 如何ニ其入學ハ困難デアアルカト云フコトガ明ニ知ラレマス、而シテ辛ウジテ中學校へ這入ッ者  
 ガ、中學五箇年ノ課程ヲ了ヘテ、漸ク社會ニ出デ、而モ其三分九分ガ僅ニ上級學校ニ進ムニ過  
 ギナイヤウナ有様ニ至ッテハ如何デゴザイマセウカ、然ルニ農學校ヲ卒業シタ者ハドウデアアル  
 カ、是亦大正五年ヨリ九年マデノ平均成績ヲ見マスト云フト、是ハ中々中學校ノ如キ不良ノ成績  
 ハ示シテ居リマセヌ、即チ甲種農學校ヲ卒業致シマシタ者ノ六割ハ父兄ノ手許ニ在リマシテ、實



業ニ從事シテ居リマス、乙種農學校ヲ卒業致シマシタ者ハ、八割七分カラ父兄ノ手許ニ在ッテ働  
 イテ居ル者デアル、其平均ハ即チ七割六分ト云フモノガ父兄ノ手許ニ在ッテ、此農業ニ甘ンジテ  
 従事シテ居ル、所謂農村生活ヲ樂ミ、農村ノ中堅人物トナッテ働イテ居ルノデアリマス、而シテ其  
 中ノ僅ニ六分二厘ト云フ卒業生ガ上級學校ヘ進ンデ行クノデアアル、九分四厘ノ卒業生ガ是ガ學  
 校、或ハ諸官省ニ奉職シテ居ル、卒業後何ヲシテ居ルカ譯ノ分ラヌヤウナ者ハ、僅ニ七分六厘ニ  
 過ギナイノデアリマス、今日斯様ナ優良ナル所ノ成績ヲ示シテ居ル、所謂眞面目ニ農村ノ爲ニ働  
 キ、實業ニ從事スル所ノ者ヲ作リツ、アルノガ、今日ノ農業學校ノ成績デアアルノデアリマス、諸  
 君、我國ノ現狀ニ照シマシテ中學校ガ如何ニ貢獻シテ居ルカ、農學校ガ如何ニ適切ナル所ノ貢獻  
 ヲシテ居ルカ、斯様ナ事ヲ茲ニ論ズル時間ハゴザイマセヌカラ、私ハ之ヲ他日ニ讓リマスガ、只  
 今申上ゲマシタ所ノ卒業生ノ成績ヲ見マシテ、如何ニ此農業學校ナルモノガ農村振興ノ上ニ大  
 切ナル所ノ機關デアルト云フコトハ、敢テ多言ヲ要セザルコトデアルト私ハ信ズル者デアリマ  
 ス、然ルニ昨秋アタリカラ此行財政整理ノ結果ト致シマシテ、府縣ニ依リマシテハ地方費節約ノ  
 方法ト致シテ、斯様ニ農村ノ爲ニ非常ナル效果ノ多イ所ノ農學校其モノヲシテ、整理ヲ致スベ  
 シ、或ハ之ヲ廢止セントスルヤウナ考ヲ持ッテ居ル者ガ居ル、或ハ是ガ併合ヲ行ハントスルヤウ  
 ナ者ガアルノデアリマス、而シテ其理由トスル所ハ何デアルカ、入學者ガ少イ、卒業致シテモ直  
 グ實際ノ間ニ合ハナイ、洵ニ淺薄ナル所ノ考カラ來テ居ルノデアリマス、農學校ノ生徒ノ少イノ  
 ハ諸君、農學校其モノ、罪デゴザイマセヌ、私ニ言ハセマスト云フト父兄ノ罪デアアル、又小學校  
 ノ教師ノ罪デアアル、又縣ノ爲政者ノ罪デアリマス、是等ガ相集ッテ即チ此農學校ニ入學スル所ノ  
 者ガ少イノデアリマス、ソレヲ是レ顧ミズシテ、僅ノ地方費ヲ節約センガ爲ニ之ヲ廢止スルトカ  
 是ガ併合ヲ行ハントスルノハ、何タル無謀ノ考デゴザイマセウカ、無定見ノ考デアリマセウカ、  
 又更ニ悲ムベキハ、文部省ニ於キマシテハ、大正十三年度ニハ實業教育獎勵費ト致シマシテ二十  
 八萬圓ヲ計上シテ置カレタノデアリマス、此御蔭ニ依テ地方ノ農學校ハ其設備モ致シ教育モ致  
 シテ大ニ助カッテ居ルノデアアル、然ルニ何ゾヤ大正十四年度ニ於キマシテハ、八萬圓ヲ削除セラ

ル、コトニナッテ居ル、僅ニ二十八萬圓中ノ八萬圓ヲ削ッテ居ル、大正十五年ニモ八萬圓、大正十  
 六年ニモ八萬圓、段々蠲節ヲ削ルヤウニ之ヲ削ッテ、大正十七年ニハ僅ニ五萬圓サヘ殘サヌヤウ  
 ナ計算ニナッテ居ルノデアリマス、諸君、岡田文部大臣ノ眼中ニハ、普通教育ナルモノハアルケレ  
 ドモ、實業教育ナルモノハ無イノデアリマセウカ、若シ文相ノ眼中ニ此實業教育ナルモノガアリ  
 マシタナラバ、師範教育改善ノ爲ニ四百萬圓ヲ計上セラル、所ノ文相ガ何故ニ二十八萬圓ノ僅  
 ナモノヲ削ッテ、其儘ニシテ置カレルノデアリマセウカ、更ニ此文相ノ意中ヲ解スルニ苦ムノデ  
 アリマス、併ナガラ思フニ、文相ハ敢テ實業教育ヲ輕ンズル所ノ御考ガアッタノデアリマス、マ  
 イ、弘法モ筆ノ誤、猿モ木カラ落チル、智者モ千慮ノ一失、岡田文相ハ此實業教育ナルモノガ斯程  
 ニ效能ノアルモノデアルト云フコトヲ御忘レニナッテ、斯様ナ事ヲセラレタノデアリマセウカ、  
 此所デ私ガ大キナ聲ヲ出シテ怒鳴リマス、文相ノ耳ノ中ニ能ク入ッテ、必ズ大正十五年ニハ復  
 活セラル、ノミナラズ、更ニ是ハ増額ヲセラル、コトデアアラウト信ズル者デアリマス、若シ之ヲ  
 行ハザルニ於テハ、大ニ吾々共ハ考ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス、故ニ私ハ此農業教育  
 振興ノ建議案ヲ出シマシテ、一ハ實業教育ノ振興ヲ促シ、一ハ此農學校ノ繁盛ヲ圖ンラガ爲ニ、  
 此建議案ヲ出シタ次第デアリマス、農村振興ニ忠實ナル所ノ諸君、冀クハ此建議案ニ對シテ雙手  
 ヲ舉ゲテ賛成セラレンコトヲ切ニ御願ヒ致シマス

次テ本案ハ荒川五郎君外十五名提出農村振興ニ關スル建議案(七六)外二件委員ニ併セ付託スルニ  
 決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
 即日議事日程ニ追加シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一一四)參看)採用ノ結果委員長  
 ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ



一一〇 鳥栖白井間鐵道建設ニ關スル建議案

鹿兒島本線鳥栖驛ヨリ太刀洗陸軍飛行場甘木秋月ヲ經テ筑豊線白井驛ニ達スル線路ハ軍事上及産業上至大ノ關係アル重要線路ニ付政府ハ速ニ之ヲ調査シ建設ノ計畫ヲ立テラレムコトヲ望ム右建議ス

右ハ十四年二月十九日山内範造君外三名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(赤間嘉之吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本建議案ハ九州線鳥栖驛ヨリ、筑豊線白井驛ニ至ル間ノ鐵道ヲ建設シタイト云フ建議案デゴザイマス、鳥栖驛ハ諸君モ御承知デゴザイマセウガ、九州ニ於ケル重要ナル驛デゴザイマス、鳥栖驛ヨリ少シ離レテ太刀洗ト云フ所ニハ陸軍ノ飛行隊ガ出來テ居リマスルシ、更ニ太刀洗ヨリ甘木町——甘木町ハ一望平野ノ間ニ在ル所デアツテ、農産物ニ富ンデ居リ、其他緋或ハ綾、晒木綿、木蠟ト云フヤウナ産物ニ富ンデ居リマスルシ、同地ハ朝倉軌道トノ交叉點トナルベキ所デアツテ最モ重要ナ地デアアル、更ニ學校ガアル、或ハ各種ノ官衙ガアル、ソレヨリ少シ距テ、秋月町、是ハ昔福岡藩ノ支藩ノ所在地デアツテ、五萬石ノ城下デアツタノデアリマス、同地ニハ日本紙、或ハ葛粉、川茸漬、其他林産物等ニ富ンデ居ル、産物ノ豊富ナル所デアアル、更ニ是ト連結スベキ所ノ白井驛、是ハ筑豊線ノ一ノ重要ナル驛デゴザイマシテ、所謂北九州ノ工業地ノ中心ニ在ル所デアリマス、此炭坑地方ハ從來運搬ノ便利ノ宜イ方面カラ開發セラレテ、今日デハ段々山間部ノ方ノ昔運搬ノ便利ノ惡カッタ所ガ、今日ハ炭坑ノ中心ニナツテ居リマス、白井驛ハ此炭坑ノ中心ニ存在シテ居ル所デアツテ、此方面ニ於テ需要ノアル所ノ木材、或ハ薪炭、食糧品ノ如キ物ハ遠ク熊本、或ハ鹿

兒島、長崎、佐賀ノ諸縣ヨリ、遙ニ博多、打尾ヲ迂廻シテ此方面ニ持ッテ來テ居リマスガ、今建議ヲ出シテ居リマス所ノ鐵道ガ完成致シマスレバ、僅ナ距離デ連絡スルコトガ出來テ、此方面ニ在ル所ノ炭坑ノ便利ト云フコトハ非常ニ大デアリ、更ニ此方面ニ於ケル所ノ勞働者、或ハ薄給者、農業者等ノ交通ノ上ニ至大ノ便宜ヲ與ヘルノデゴザイマス、ソレノミナラズ九州方面ハ非常ニ輸送ガ頻繁デアアル、或ハ貨物ガ停滯スル、旅客ガ非常ニ不便ヲ感ズルコトガゴザイマスガ、此輸送ヲ緩和スルト云フヤウナ一ノ便利モゴザイマスノデ、願クハ、諸君御贊同下サイマシテ速ニ此建議案ガ成立致シ、政府ヲシテ速ニ此建設ノ計畫ヲ立テシメンコトヲ望ム次第デアリマス

次テ本案ハ清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(一八)外十八件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一一一 野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案

政府ハ茨城縣古河ヨリ栃木縣栃木ヲ經鹿沼ニ至ル鐵道栃木縣今市ヨリ藤原三依福島縣田島ヲ經會津若松ニ至ル鐵道及福島縣喜多方ヨリ日中ヲ經山形縣米澤ニ至ル鐵道ヲ速成シ以テ地方開發並運輸交通ノ便ヲ進メラレムコトヲ望ム



右建議ス

右八十四年二月十九日高橋元四郎君外二名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(中野寅吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ茨城縣古河ヨリ栃木縣栃木町、鹿沼、今市ヲ經テ福島縣ノ田島、會津若松ヲ經テ山形縣ノ米澤ニ到ル鐵道ノ速成ヲシテ戴キタイト云フ案デアリマス、是ハ本員ガ衆議院議員ニナラナイ前カラノ懸案デアリマシテ、數回建議案モ通過シテ居ルコトデアリマスカラ、是非此度ハ此案ヲ通過サシテ戴イテ、政府ニ於テモ速ニ此速成ヲセラレンコトヲ御願致シマス、其中若松ヨリ田島、ソレカラ喜多方ヨリ日中ト云フ所マデハ大正十四年度ニ於テ建設スルト云フコトニ豫算モ極リマシタ譯デアリマスカラ、ドウゾ御同情ヲ願ヒタイト思ヒマス、詳細ハ理由書ニ明デアリマスカラ、何卒御同情ヲ願ヒタイト思ヒマス

次テ本案ハ清水留三郎君外四名提出大間々長野原間鐵道建設ニ關スル建議案(一八)外十九件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一一二 高等蠶絲學校建設ニ關スル建議案

政府ハ高等蠶絲學校ヲ愛知縣下ニ建設セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右八十四年二月十九日岡本實太郎君外二名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(岡本實太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ノ辯明並政府ノ所見ヲ質セリ

私ガ茲ニ建議案ヲ提出致シマシタノハ、高等蠶絲學校ヲ愛知縣下ニ建設セラレンコトヲ望ム、斯ウ云フノデアリマス、養蠶並ニ製絲ニ關スル事業ガ、我國ノ産業中最モ重要ナル地位ヲ占ムルト云フコトハ、既ニ前建議案ノ御提出者カラ御説明ガアリマシタ通りデアリマス、本邦ノ輸出ノ貿易品カラ行キマシテモ其第一位、即チ大宗ヲ占メテ居リマシテ、年々七億ニ達シ、正ニ最モ盛ナル時ハ八億萬圓ヲ超過シタ時モアリマスノデアリマス、斯様ナ國家經濟上最モ重要ナル意義ヲ有スル此蠶絲業ノ消長ト云フコトハ、我國ノ國運ノ隆替ト頗ル密接ナル關係ガアリ、又最モ重大ナル意義ヲ持ッテ居ルト云フコトハ、今更私ガ此所ニ呶々スルノ必要モアリマセヌ、斯様ナ次第デアリマスルカラ、極力斯業ノ發達改善ヲ圖ルノ要ガアリマス、殊ニ農村ハ疲弊困憊振ハズ、之ニ對スル振興策ハ益其聲ノ高カラントスル時デアリマス、此際ニ方リマシテ此重要ナル蠶業ノ發達ヲ期スルト云フコトハ、此農村振興策カラモ、亦最モ重要ナル事柄ト謂ハナケレバナリマス、殊ニ養蠶地方ニ於キマシテハ、或ハ米價ノ調節トカ、乃至ハ義務教育費ノ國庫負擔増額、是等ノ問題ヨリモ寧ロヨリ以上ニ最モ重大ナル影響ヲ持ッテ居ル問題デアラウト思フノデアリマス、而シテ其進歩改善發達ヲ圖ルニハ、其方策ハ色々アリマセウケレドモ、此事業ニ從事致シマ



スル最モ優良ナル技術者ヲ養成スルト云フコトハ、此事業ヲ改善スル上ニ於テ第一ニ必要ナル事デアラウト思フノデアリマス、其素養ノアル技術者ヲ養成シマシテ、サウシテ之ニ從事スル者ニ益其知識ヲ與ヘル、是ガ第一ニ必要ナル事デアリマセウ、デ此種ノ教育機關ヲ設置スルト云フコトハ、其根源ヲ養フト云フ上ニ於テ必要デアリマス、而シテ我國ニ於ケル此教育機關ノ現狀ヲ見マスルト云フト、高等専門學校ト致シマシテハ東京或ハ長野縣ノ上田、乃至ハ京都、或ハ鹿兒島ノ農林學校ノ中ノ一部分ニ備付ケテアル僅ニ三四ヲ數ヘルノデアリマス、此際ニ於テ二三箇所ヲ増加スルノ必要ト云フコトハ、痛切ニ私ハ認メルト思フノデアリマス、而モ此現在アリマスル三四ノ學校ニ於キマシテハ、年々相當ナ生徒ヲ出シ——卒業生ヲ輩出致シマスルガ、是デハ此大キナ蠶業ノ發達ヲ期スルニハマダ足ラナイ、不足デアアル、此意味ニ於キマシテモ、尙ホ此學校増加ノ必要ガアルト思フノデアリマス、而シテ我ガ愛知縣ハ、此養蠶ニ付キマシテハ全國中長野縣ニ次グ第三ノ地位ニ在ル、試ニ其本デアル所ノ桑苗ノ産額カラ言ヒマスナラバ、全國ノ五分ノ二ヲ占メテ居ルノデアリマシテ、繭ノ生産高カラ申シマスナラバ全國ノ四分ノ一デアリマス、製絲ノ産額ハ全國ノ九分ノ一ヲ我ガ愛知縣デ占メテ居ル形ニナツテ居リマス、桑苗デ申シマスナラバ、第一ガ長野縣、第二ガ愛知縣、繭ハ長野ガ第一デ愛知ガ第二ト云フ地位ヲ占メテ居ル、製絲デ申シマスレバ實ニ全國ノ第一等ノ地位ヲ占メテ居ルノデアリマス、而モ御案内ノ如ク地位ハ全國ノ丁度中央デアリマシテ、交通ハ最モ便デアアル、全國各地カラノ生徒ノ集マルニ付テ最モ優良ナ地位ヲ占メテ居ル、サウシテ此事業ハ今申ス如ク盛ナル事情ニアリマスカラ、ドウシテモ政府ハ此愛知縣下ニ一ツノ蠶絲學校ヲ必ズ設ケテ戴キタイト云フコトヲ希望致ス次第デアリマス、尙ホ之ニ就キマシテハ、既ニ我ガ縣下ニ其基礎モアリマスコトデ、政府ニ於キマシテハ此策ヲ講ゼラレテモ、餘リ一時ニ多大ナル費額ヲ要セシテ事足ルト云フ自信ガアルノデアリマス、旁々本案ヲ提出シテ、早ク是ノ實現ヲ希望スルト云フ次第デアリマス、幸ニ議席ニオキデニナリマスル其當局ノ鈴置政務次官ノ之ニ對スル御意見ヲ承ルト云フコトガ出來マシタナラバ、最モ幸ト致ス所デアリマス

鈴置政府委員ノ應答

生絲ガ我國重要輸出品ノ第一位ニ在ル、且ツ斯業ノ改良發達ニハ教育ニ待ツコト大ナルモノガアル、隨テ此種ノ教育機關ノ増設ノ必要ナルコトハ、提案者ト全ク同感デアリマス、サリナガラ是ガ實現ニ付キマシテハ、相當經費モ要スル事デアリマスルカラ即答致シ兼オマス、將來此點ニ向ツテ最善ノ努力ヲ盡スト云フコトダケヲ御答致シマス

次テ本案ハ武藤金吉君外六名提出蠶絲局設置ニ關スル建議案(一〇八)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ未原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ニ追加シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一一三 教員俸給支給法改定ニ關スル建議案

公立小學校教員ノ俸給ハ之ヲ本俸及職務俸ニ分チ本俸ハ國庫之ヲ支給シ職務俸ハ地方團體之ヲ支給スルヲ適當ト認ム公立中等學校實業學校モ亦之ニ準スヘシ仍テ政府ハ教員俸給支給法ヲ改定セラレムコトヲ望ム  
右建議ス



右八十四年二月十九日建部遞吾君之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ主トシテ考ヘマスルノハ、小學教育者ニ對スル待遇ヲ改善シテ、由テ以テ小學教育者ノ地位ヲ高メ、小學教育者ノ職務上ノ能率ヲ高メ、又小學教育者ノ數ノ不足ヲ成ベク速ニ補ヒ得ルコトヲ期セントスルニ在リマス、小學教育者ノ俸給ノ支給ハ、現狀ニ於テハ公立小學デアリマスレバ、市町村ガ之ヲ支出スルコトヲ原則トシテ居ルノデアリマスガ、本案ハ其俸給ヲ本俸並ニ職務俸ノ二種ニ、又二部ニ分ケマシテ職務俸ハ從來ノ通り市町村カラ支給スルコトヲ原則トシ、本俸ハ國庫ヨリ直ニ之ヲ支給スルヤウニ改メタイト云フデアリマス、而シテ各教育者ノ功績並ニ能力等ガ次第ニ上進スルニ伴ウテ、俸給ガ上リ行クト云フコトハ、專ラ本俸ノ方面ニ於テスルコトニ致シマシテ、職務法ハ長イ間、帝國大學等ニ於テ行ハレテ居リマスル通り、一定セルモノト致シテ置クト云フ案デアリマス、斯様ニ致シマスルト、第一ニハ教員ノ俸給ノ出所ガ市町村ヨリ國家ニ移リマスルガ爲ニ、此教員ノ地位ガ高マルト云フ感ジテ社會並ニ本人ニ與ヘルト云フコトニナリマス、即チ精神的ノ優遇ガ出來ルト云フ結果ニナリマス、第二ニハ市町村ハ大ナル經濟的ノ發展ガ無イ限リハ、當該市町村ニ於テ或ル程度以上ニ優良ナル教員ヲ優遇スルコトハ出來マセヌ、故ニ教員ガ或ル程度マデノ俸給ガ上リマスルト、ソレヨリ先キニ進マンガ爲ニ、若クハ町村ノ有力者ノ同情アル側カラ見マシテモ、是レ以上ニ其教員ノ物質的待遇ヲ進メンガ爲ニ、如何ニモ其市町村ニ適合セル所ノ、又好成績ヲ舉ゲツ、アリ、又更ニ舉グベキ望ミノアル所ノ教育者其人ニ向ッテ、勢ヒ轉任ト云フコトノ出テ來ルコトヲ默過セザルベカラザルコトニナルノデア、從來年功加俸ト云フ一種ノ面白イ法ガ、我國ニハ出來テ居リマシテ、實行ニハナッテ居リマス、其精神ナドニシマシテモ、教員ノ勤績獎勵ノ趣旨ガ其大部分デアアルノデアリマスルガ、丁度ソレヲ裏切ルト云フ状態ニアルノデア、飽キモ飽カレモセヌ所ノ教員ガ勢ヒ當該市町村ヲ去ラザルベカラザルヤウナコトニナルノデア、今此支給法ヲ改正シテ當該市町村トシテハ一定

額デアリマスル所ノ職務俸ト云フモノダケヲ、當該市町村ガ負擔スルコトニナリマスレバ、右様ナ殘念ナル現象ハ之ヲ一掃スルコトガ出來ルノデア、第三ニハ貧弱町村ハ從來ノ支給法デアリマスルト云フト、優等ナル教育者ヲ得ルコトガ難イ、大ニ優遇シ得ル所ノ市町村デアリマスレバ、良イ教員ハ容易ニ得ラレマスルガ、固ヨリ今日嚴密ナル教育ヲ受ケ、又嚴密ナル銓衡ヲ受ケテ居リマスル教員ニ、惡イ教員ト云フ者ガアラウ苦ハアリマセヌケレドモ——是ハ申スマデモナク比較デ言フノデアリマス、即チ貧弱町村ノ子弟ト云フモノハ、當該ノ府縣下ニ於ケル評判ノ良イ教員カラ教育セラル、ト云フ機會ハ、永久ニ得難イコトニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ優遇法ガ右ノ如クニ行ハレマスレバ、運不運ト云フ點ハ幾ラカアルニ致シマシテモ、町村ガ貧弱ナルガ故ニ、或ル一定ノ待遇以上ノ教育者ヲ見付ケテ居ッテモ聘スルコトガ出來ナイト云フヤウナ、所謂甚シク機會ノ不均等ナリト云フ弊害ハ、茲ニ根絶セラレルコトニナルノデアリマス、即チ一言ニ申シマスレバ、斯様ニ致シマシテ教員ノ分布ガ頗ル公平ニナルト云フコトニナルノデアリマス、斯様ナル效能ヲ舉ゲマスルガ爲ニ、極メテ細カナル設計モ致シテハ居ルノデアリマス、此所ニハ唯大體ノ趣旨ヲ辯ズルニ止メルノデアリマシテ、全體吾ミハ金ガ多ケレバ仕事ハ澤山出來ル、是ハ當然デアリマスケレドモ、國民ノ負擔ト云フモノニハ限リガアルノデアリマスルカラ、政治ノ任務ト致シマシテハ、同ジ金ヲ活シテ使フト云フコトヲ以テセナケレバ、政治ノ任ニ當ル者ガ國民ニ對シテ申譯ガナイ、金ノ高ト正比例シテ國務ガ舉ルト云フコトハ誰デモ出來ル、凡庸政治家出來ルノデア、同ジ金ヲ活シテ使フト云フコトニシナケレバナラヌ、恰モ好シ、本議會ニ於テ當局者ノ言明セラレル所ニ依リマスルト、次ノ年度カラハ小學校教育費ノ國庫負擔ト云フモノガ四千萬圓ヨリ六千萬圓ニ増額サレサウデア、四千萬圓ナラ四千萬圓デモ本案ノ方法ハ適用出來ルノデアリマスケレドモ、是ガ六千萬圓ニナリマスルト、稍々教員俸給全體ノ半額ニ近イモノガ國庫カラ各地方ヘ支出サレルコトニナルノデアリマス、之ヲ地方ヘ支出シテ、從來ノ教員俸給ノ支辨、ソレヲ踏襲シテ行クトヲ廢メテ、丁度其機會迄ニ十分ニ研究、調査、立案ヲ進メテ置イテ、其金ヲ即チ此本俸ニ充テ、サウシテ全國ヲ以テ——少クトモ各府縣



ヲ以テ大キナ範圍ニ於テ教育者ノ功績若クハ造詣等ニ應ジテ高下黜陟ヲスル、サウ致シマスト  
 又經濟ガ大キイモノデアリマスルカラ、極メテ優良ナル教育者ニ對シテハ餘程優待スルコトモ  
 出來得ルト云フ算盤ガチャント立ツノデアリマス、尙ホ本案ハ主トシテ小學教育者ニ對シテ考  
 へ出シタコトデアリマスルケレドモ、右様相成リマスルト、中等學校、實業學校等ノ教育者ニ  
 對シテモ、勢ヒ鈞合ヲ考ヘナケレバナラズ、又適用セラルベキ原理ハ同ジコトデアリマスルカ  
 ラ、之ヲ併セテ大體斯様ナル方法デ教員俸給ノ支給法ヲ改訂シタイト云フノガ本案ノ趣旨デ  
 アリマス、極メテ簡單ニ趣旨ダケヲ辯明致シマス、何卒之ニ付テハ、諸君ノ御賛成ヲ願ヒタイノ  
 デアリマス、尙ホ本案ニ付キマシテハ、過日豫算分科會ニ於キマシテ、現文部當局ニ對シテハ質  
 問ノ形ニ於テ相談ニ及ビマシタ所ガ、此事ニ付テハ篤ト考慮ヲ加ヘルト云フ言明デアリマシタ、  
 之ヲモ附加ヘテ更ニ諸君ノ御賛成ヲ祈ル次第デアリマス。

右ニ付加藤知正君ハ政府ニ對シ質疑ヲ爲シ鈴置政府委員之ニ應答ス

加藤知正君ノ質疑

私ノ平素尊敬シテ居ル所ノ建部博士、而モ同ジ選舉區デ轡ヲ駢ベテ出テ居リマス所ノ同僚ノ  
 建部代議士ガ、此洵ニ良イ所ノ御建議ヲ爲シ下サツタコトヲ、僭越ナガラ全國ノ教育者ヲ代表シ  
 テ篤ト御禮ヲ申上ゲテ置キマス、私ハ此機會ニ於キマシテ、此小學校ノ教育職員諸氏ガ常ニ抱イ  
 テ居ラル、所ノ疑義ヲ、此際文部當局ノ方ニ向ッテ御伺ヒテ見タイト思フノデアリマス、  
 其第一ハ從來此小學校ノ教育職員ノ任免ハ、郡長ガ之ヲ縣ニ向ッテ内申ヲシテ、縣知事ガ之ヲ任  
 免致シタモノデアリマス、然ルニ大正十四年度限り、郡役所ハ廢止セラル、コトデアリマスル  
 ガサウナリマシタ結果ハ、此教育職員ノ任免ハ其内申權ヲ縣ニ御移シニナル御考デアアルカ、或ハ  
 又町村長ノ手ニ御移シニナル御考デアアルカ、是ハ大層此教育職員ガ心配ヲ致シテ居ルコトデア  
 リマス、若シ是ガ地方町村長ノ手ニ移ッタナラバ、或ハ之ガ爲ニ幾多ノ纏綿セル事情ガ生ジ、教權

ノ獨立ヲ害セララル、ヤウナコトニナリハセヌカ、之ヲ深ク心配ヲ致シテ居ルノデアリマス、此點  
 ニ於テ文部當局ハドノ様ナ御考デゴザルカ、之ヲ御伺ヒ申上ゲタイ、第二ニ於キマシテハ、只今  
 建部博士モ御述ニナリマシタガ、大正十五年度カラシテ國庫ノ補助額ハ二千萬圓ヲ増加セラ  
 ル、殆ド此教員給ノ半額ハ國費ヨリ之ヲ支出セララル、コトニナルノデアリマス、從來ハ此國庫ノ  
 補助ハ町村費ノ中ニ繰入レラレマシテ、町村長ガ小學校ノ教員ニ之ヲ支給シテ居ル、之ガ爲ニ動  
 モスルト云フト、町村長ト教育者トノ間ニ於テ、妙ナ感情ノ起ルヤウナコトガアリマシテ、教育  
 上甚ダ忌ハシイヤウナコトモ聞クノデゴザイマスルカラシテ、今度此二千萬圓ノ國庫ノ補助ト  
 シテ増額セララル、ヤウナコトニナリマシタナラバ、詰リ其半額ヲ補助セララル、コトニナルノデ  
 アルカラシテ、此機會ヲ利用致シマシテ、從來町村長ノ手カラ支給致シタル所ノ、教育者ノ俸給  
 等ハ之ヲ縣ニ御移シニナル御考ハナイカ、或ハ只今建部代議士ハ之ヲ本俸ト職務俸トノ二ツニ  
 分ケテ、職務俸ハ町村ノ方カラ之ヲ出ス、本俸ハ之ヲ國庫ノ方カラト云フヤウナ御建議モゴザイ  
 マシタガ、此點ニ於テ文部當局ノ御考ヲ御伺ヒ致シタイ、又第三ニ於キマシテハ此小學校ノ教職  
 員ノ中ニ於キマシテハ御承知ノ通り本科正教員、專科正教員、ソレカラ准教員代用教員等ガ居リ  
 マシテ、其數ハ中々多イノデゴザイマス、之ヲ合セマスルト云フト、十八萬九千四百六十五人ト  
 云フ多數ニ上ッテ居ルノデアリマスガ、私ハ茲ニ特ニ御伺ヒ致シタイノハ、本科正教員ト專科正  
 教員トノ待遇ガ違フノデアリマス、即チ小學校令施行規則第四百八條ニハ、此俸給ノ區別ガチ  
 ヤントシテアル、本科正教員ハ之ヲ上下ニ別チマシテ、上一級俸ガ百八十圓、下一級俸ガ百  
 六十圓、專科正教員ハ上ガ百二十圓、下ガ百十圓、之ヲ二級、三級、四級、五級、六級、七級ト別ケ  
 マシテ、悉ク本科正教員ト專科正教員トノ待遇ガ違ッテ居ル、所ガ此本科ト謂ヒ、或ハ專科ト申シ  
 テモ、精神的ノ勤勞、肉體的ノ勤勞、共ニ變リハナイ、教鞭ヲ取ッテ兒童ヲ教育スル上ニ付テハ、何  
 等其力ニ異ナル點ヲ見出サヌノデアアル、而モ之ヲ二ツニ區別シテ、唯本科ナルガ故ニ、專科ナル  
 ガ故ニ、斯ノ如キ差別的ノ取扱ヒヲ致シテ居ル、之ガ爲ニ、七千四百人ノ專科教員ハ常ニ不不満  
 滿デアアル、彼等ヲシテ不平ヲ懷カシムルト云フコトガ、果シテ其職務ヲ完ウセシメル所以デアラ



ウカ、ドウデアラウカ、是ハ決シテ策ノ得タルモノデアリマセヌ、教育上大ニ忌マナケレバナ  
 ラヌ、之ヲ此機會ニ於テ同一ノ待遇ニ爲サル所ノ御考ハナイカ、之ヲ私ハ御伺ヒ致シタイノデア  
 リマス、更ニ年功加俸ノコトデゴザイマス、是モ矢張俸給ノ方ニ斯ノ如キ差別的ノ待遇ガアルト  
 同様ニ、此本科正教員ノ年功加俸ニハ東京ニ於キマシテハ四十八圓ヲ支給シテ居ル、所ガ專科教  
 員ニ對シマシテ僅ニ十八圓サヘ支給セヌノデアアル、又此年功加俸ニ於キマシテハ、東京ニ於キマ  
 シテハ、只今申シマシタヤウニ初メノ五箇年ヲ經マスレバ四十八圓ヲ支給致シマスルガ、鹿兒島  
 等ニナリマスルト二十四圓サヘ吳レナイノデアアル、何故ニ斯ノ如キ所ノ差ヲ付ケテ居ルデアラ  
 ウカ、地方ノ教員デアアルカラシテ、半分サヘ働カナイ、都會ノ教員デアアルカラシテ十ノモノハ十  
 働クト限ッタモノデアナイ、同ジク彼等ハ誠心誠意、教鞭ヲ取ツテ居ルモノデアアル、ソレヲ斯ノ如  
 キ差ヲ附ケテ置クト云フノハ何事デゴザイマセウカ、之ニ付テモ文部當局ハ何トカ之ヲ改メテ  
 ヤラウト云フ御考ハナイノデゴザイマセウカ、之ヲ御伺ヒ致シタイノデアアル、又其次ニ於キマシ  
 テハ住宅料ノ事デアリマス、今日都會ニ於ケル教員ガ如何ニ住宅難ニ苦ンデ居ルカト云フコト  
 ハ、是ハ私ガ申スマデモナイ、而モ彼等ハ自分ノ貰ヒマシタ所ノ給料ノ半額、若クハ三分ノ一ニ  
 モ値スル所ノ住宅料ヲ拂ツテ居ルデアリマス、ソレガ爲ニ彼等ハ人ト共ニ同居スルトカ、或ハ  
 自分ガ一軒家ヲ借リテ居ツテモ、人ヲ同居セシムルトカ、或ハ下宿屋ノ二階ニ居ルトカ云フヤウ  
 ナコトデアリマスルカラ、自然父兄ヤ兒童ニ對シテモ權威ヲ保ツコトガ出來ナイヤウナ生活ヲ  
 致シテ居ルデアリマス、所ガ此教員ノ住宅料ニ對シテ、東京市ノ如キハ下ノ位補助シテアル  
 カ、僅ニ二戸ニ付テ四圓ノ補助デアアル、四圓トハ何事デゴザイマセウ、御恥カシクテ言ヘヌデハ  
 アリマセヌカ、更ニ住宅料ヲ支給セヌノナラバソレデ宜シイ、支給スル途ヲ開イテ居ルナラバ、  
 セメテハ其半額ナリトモ支給セラレテ、彼等ノ生活ニ餘裕ヲ與ヘルヤウニセラレテハドウデア  
 リマセウ、之ヲ一ツ御伺ヒ致シマス、之ニ付テ明快ナル文部當局ノ御答辯ヲ戴キタイ、諸君ノ愛  
 兒ヲ託シテ居ル所ノ教育家デアアル、其教育家ガ十分ナル恩典ニ浴シテ餘裕綽々トシテ其職務ニ  
 従事スルヤウナ途ヲ開イテ戴キタイ爲ニ、私ハ敢テ此論ヲスルデアリマス、好ンデ辯ヲ弄スル

者デアアリマセヌ

鈴置政府委員ノ應答

加藤君ノ御質問ニ御答致シマス、郡制ガ廢止サレルモノト假定致シマシテ、郡制廢止後ノ小學校  
 教員ノ任免ヲ如何ニスルカト云フ御質問デアリマス、是ハ從前ノ通り地方長官ガ之ヲ任免スル  
 コトニ相成ルデアリマス、隨テ郡制ガ廢止ニナリマスレバ何レ今日ノ郡視學ト云フモノニ代  
 ルベキ名ハ何ト付キマスカ知ラヌガ、其職務ヲ執ルベキ者ガ出來ルコトデアラウト思ヒマ  
 スカラ、依然地方長官ガ之ヲ任免スルコトニシテ何等差支ナイモノト考ヘテ居リマス、ソレカラ  
 第二ハ國庫カラ支給致シマスル、現今デハ四千萬圓デアリマスガ、此四千萬圓ヲ縣廳ニ交付  
 シテ縣廳カラ出シテハドウカト云フ御質問デアリマス、丁度建部君ノ此提案ノ趣意ハ國庫カラ  
 直接ニ渡シテハドウカト云フ御建議案デアリマスガ、加藤君ノハ中間說ヲ取ラレテ、之ヲ縣廳カ  
 ラ出シテハドウカト云フ中間的ノ方法ヲ定メル意思ハナイカト云フ御質問デアリマスガ、此問  
 題ハ先日豫算委員會ニ於キマシテ建部君ニ御答致シマシタ如ク、是ハ十分考慮スベキ問題デア  
 ルデアリマス、隨テ只今之ニ付テ御答スル譯ニ參リマセヌ、ソレカラ第三ノ正科、專科ノ區別  
 正科教員ト專科教員、斯ウ云フ區別ハ不必要デハナイカト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ小  
 學教員ニ免狀ヲ交付致シマスル其學科ノ種類ニ依テ、正科、專科ト云フ二ツノ區別ガアリマスノ  
 デ、例ヘバ體操デアリマストカ、裁縫、手工ト云フガ如キ、特殊ノ學科ヲ擔任スル教員ヲ專科正教  
 員ト云フデアリマス、隨テ其種類ニ依テ俸給ニ多少ノ差異ノアルコトハ已ムヲ得ヌモノト思  
 ヒマス、今之ヲ同一ニスルト云フ譯ニハ參リマスマイト思ヒマス、此段御答申上ゲマス

次テ本案ハ山枏儀重君外二名提出教育ノ機會均等ニ關スル建議案(一二)外十三件委員ニ併セ付託  
 スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スベキモノト決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ



即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一九三)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一一四 青森港ニ領事機關設置ノ交渉ニ關スル建議案

我が國本土ノ東北端ニ位スル青森港ハ日露國交回復ノ結果露國ニ對スル交通運輸貿易産業上將來益發展セムトスルノ情勢ニアリ依テ政府ハ將來露國政府ト領事機關設置ニ關スル協商ノ開カレタル場合ハ北日本方面ニ於テハ青森港ニ露國領事館ヲ設置スル爲相當ノ交渉ヲ遂ゲラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十九日工藤鐵男君之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

日露ノ國交ハ恢復セラレマシテ、兩國民ノ最モ熱望シテ居リマスル所ハ、通商航海ノ益發展センコトデアラダラウト考ヘテ居リマス、隨テ我國ニ於キマシテモ、亦露西亞ニ於キマシテモ、將來通商保護機關ナドノ設置ニ關シテハ相當ナル考慮ヲ費スベキ機會ガ到達シタモノト私ハ信ジテ居ルノデゴザイマス、私ハ我が帝國ノ東北端ニ露國領事機關ノ設置ヲ爲サントスル場合、我が當

局者ハ露西亞ノ交渉ニ應ズル際ニハ、青森港ノ特殊ナル地位ト地勢上、其他ノ關係ヲ考慮致シマシテ、左様ナ機會ニ於キマシテハ、相當ナル意見ヲ露西亞ノ當局者ニ對シテ、御示シニナツテ、此領事機關設置ノ場合ニ於ケル處置ヲ執ツテ戴キタイト云フコトノ建議案デアリマス、理由ハ簡單デアリマスルガ、御承知ノ通り青森港ハ我が帝國本土ノ北端ニ在リマシテ、北海道樺太若クハ露領地方ニ參リマスニハ、主トシテ陸路デアリマスガ、奥羽線若クハ東北線ヲ通ジマシテモ、何レニシテモ青森ニ寄ラナケレバナラヌノデアリマス、而シテ從來ノ例ニ依テ見マスレバ、左様ナ方面ニ對シテ物資、勞力、其他ノ供給ヲ致シ、或ハ本土トノ間ニ貿易ヲ開ク場合ニ於キマシテハ、矢張往返共ニ青森港ヲ經由スル場合ガアルノデアリマス、今日マデ函館ニ在リマシタ領事館ハ、或ル意味ニ於テハ適當デアリマセウケレドモ、今日ノ如ク日露ノ貿易ヲバ最モ有利ニ導カウト云フ場合ニ於キマシテハ、本土ト又露領トノ關係ニ於キマシテ、其中繼地帯ニ足ヲ留ムルト云フコトノ必要ハ全クナイモノト考ヘテ居ルノデアアル、併ナガラ己ノ方ノミヲ進メテ他ヲ排斥スルト云フ意味デハ全クナイノデアリマスガ、斯様ニ致シマスレバ、一旦本土ノ北端ニナツテ居ル青森港ヨリ、更ニ北海道若クハ或ル地點ニ上陸シ、其他ノ手續ヲ執ル必要モナク、直ニ往復共ニ航路ニ於テモ或ハ物資ノ運搬ニ於テモ、十分便宜ガアルト考ヘマスカラシテ、政府ニ於カレマシテハ近キ將來ニ於テ、日露兩國ノ通商條約ニ關スル細目協定ノ場合ニ、若シ露國政府ニ於テ我が帝國ノ北部方面、即チ東北地方ニ選定スルナラバ、領事館ヲ願クハ青森港モ有力ナル一地點トシテ、交渉ノ場合ニ露國當局ニ對シテ慫慂セラレンコトヲ希望致シマスガ爲ニ、茲ニ此建議案ヲ提出致シタ次第デアリマス、詳シイコトハ追テ委員會デ申上ゲルコト、致シマシテ、此建議案ニ對シ皆様ノ御同情ヲ得タイ次第デアリマス

次テ本案ハ山本厚三君外六名提出小樽港ニ露國領事館設置ニ關スル建議案(六三)外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ



三月二十四日作間耕逸君ハ左ノ動議ヲ提出ス

議事日程追加ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ是ヨリ讀上ゲマスル建議案四十四件ノ委員長報告ヲ、此際特ニ上程シテ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ハ書面ニ之ヲ讓リテ其ノ辯明及ビ討論ヲ省略シ、委員長ノ報告通り可決セラレムコトヲ望ミマス

院議之ヲ採用ノ結果本案ハ委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一一五 敦賀港ニ露國領事館設置ニ關スル建議案

對露通商上敦賀港ニ露國領事館設置ノ要アリ政府ハ速ニ露國政府ニ交渉シ之ヲ實現セシメラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月十九日河崎清君外一名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(河崎清君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

敦賀港ハ御承知ノ通り、裏日本海ニ於ケル所ノ世界ノ大道タル歐洲トノ連絡通路ト致シマシテ、最モ近キ我國ノ關門デアリマス、敦賀港ハ開港以來露國ノ領事館ハ既ニ設置サレマシテ、一般旅客ニ對シ旅券ノ查照ハ固ヨリ、一般通商ノ事務ヲ取扱ツ、來ツタノデアリマス、國交ガ斷絶致シマシタ爲ニ、領事館ノ一時閉鎖サレタル事實ハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、今ヤ國交ハ舊ニ復

シマシテ、日露條約恢復サレマシタ結果、今後ハ露國トノ通商貿易ノ一日モ早く發展スベク熱望ニ堪ヘナイ場合ニ吾々ハ在リマスガ、最近ノ報ニ依リマスレバ、日露條約恢復サル、ト聞クヤ否ヤ、先般來先ヲ爭フテ彼地ニ渡航センガ爲ニ多數ノ實業家、或ハ曾テ彼地ニ於キマシテ多年辛苦經營致シマシタル事業ヲ中途ニシテ、引揚ゲテ歸朝致シマシタル所ノ同情スベキ我が同胞ガ、是亦一日モ早く再ビ渡航セント、目下敦賀ニ集ッテ旅券ヲ得ンガ爲ニ待チツ、アル次第デアリマス、然ルニ遺憾ナガラ現在ニ於キマシテハ、直接願書ヲ露國政府ニ差出シマシテ、露國ヨリ其許可ヲ得マセヌケレバ、渡航スルコトノ出來ナイ有様デアリマシテ、ソレガ爲ニ多クノ時日ヲ要スルコトハ洵ニ遺憾ニ堪ヘナイデアリマス、仍テ一日モ早く露國ヲシテ此敦賀港ニ領事館ヲ再ビ設ケマシテ、以テ渡航者ノ便宜ハ勿論、通商貿易ノ爲ニ便ナラシムベク露國ハ政府ヨリ交渉セラレンコトヲ望ムガ爲ニ、此建議案ヲ提出シタ次第デアリマス、委細ハ委員會ニ於テ申上ゲタイト思ヒマス、諸君ドウゾ御賛成ヲ願ヒマス

次テ本案ハ山本厚三君外六名提出小樽港ニ露國領事館設置ニ關スル建議案(六三)外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ニ追加シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一一六 受験資格撤廢ニ關スル建議案

政府ハ人材登用ノ趣旨ニ於テ高等試驗中等教員醫師藥劑師等ノ受験資格ヲ撤廢セラレムコトヲ



望ム

右建議ス

右ハ十四年二月二十一日山下谷次君之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此吾人出世ノ登龍門デアアル所ノ試験制度ニ於ケルコトハ、非常ニ現在ハ不都合ナ状態ニナッテ居リマス、是ガ一ツ宛ノ門デアアルナラバ如何ナル困難ノ門デアッテモ、突破スルコトハ容易デアリマスケレドモ、現在ノ登龍門ノ制度ハ、丁度富士ノ山ノ一合目、二合目、三合目、四合目ト云フヤウナ所ニ登龍門ヲ設ケテアルヤウナコトニナッテ居ルノデアリマス、即チ高等文官試験ヲ受ケマスノニハ、中學ヲ卒業シテ、或ハ他ノ專門學校ヲ經テ高等試験受験資格認定試験ニ合格シタ者、サウ云フ資格ガ要ルヤウニナッテ居ルノデアリマス、或ハ中學ノ教員ノ試験ヲ受ケマスニ付キマシテモ、中學ヲ卒業シテ居ル者デアルトカ、或ハ小學校ノ本科正教員デアルトカ云フヤウナ、種々ナル試験ヲ受ケマスノニ資格ガ要ルノデアリマス、或ハ藥劑師或ハ醫師ノ試験ヲ受ケマスニモ、中學ヲ卒業シタ者、其上ニ尙ホ二三年程度ノ專門學校ヲ卒業シタ者デナケレバ、試験ヲ受ケラレヌヤウニナッテ居ルノデアリマス、又高等學校教員ノ試験ヲ受ケルノニモ、斯ノ如ク種々ナル資格ヲ要スルヤウニナッテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ規定ハ、國家ノ人材ヲ登用スル途デハナイト思フノデアリマスカラ、總テノ受験資格ヲ撤廢シテ、望ム所ノ試験ヲ直ニ受クルヤウニスルト云フコトガ、天下ノ人材ヲ登用スル一ノ途デアラウト思ヒマス、尙且ツ之ヲ用キマスレバ入學難ノ緩和ニモナルダラウト思ヒマス、委細ハ委員會ニ於テ説明ヲ申シマスガ、希クハ滿場諸君ノ一致御賛成アラントヲ御願致シマス

次テ本案ハ山杵儀重君外二名提出教育ノ機會均等ニ關スル建議案(一二)外十四件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一九三)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一一七 蛋粉ノ關稅定率法改正ニ關スル建議案

政府ハ蛋粉ノ關稅定率法改正法案ヲ速ニ今期議會ニ提出セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

右ハ十四年二月二十一日平野光雄君外一名之ヲ提出ス三月十日本案ハ武藤金吉君外一名提出染料關稅撤廢ニ關スル建議案(六六)外五件(本項第二(六六)參看)ト一括シテ院議ニ付シ提出者平野光雄君ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本建議案ハ一方食糧問題ノ解決ノ一助デアルト思フ、他方ニ於テ農村振興ニ尠カラザル效果ヲ齎スモノデアッテ、先程武藤君ノ御述ニナリマシタ綿絲關稅ノ撤廢ニ劣ラザル、國民生活上ニ至大ノ關係アル重要ノ問題デアリマス、目下我國ニ輸入セラレマスル所ノ支那卵、此輸入額ハ三四年來年額一千七百萬圓ニ及ンデ居リマス、是ト共ニ此卵ヲ乾燥シタル物、即チ粉卵若クハ乾燥卵



ト謂ハレテ居ル物モ尠カラザル額ニ上テ居リマス、然ルニ一方生卵ノ多大ノ輸入ノアルニ拘ラズ、乾燥鶏卵ノ輸入ノシレニ比例セザルハ、當局ガ如何ナル見解ノ下ニ從來禁止的ノ高稅率ヲ課シテ居ッタカ、生卵ト乾燥鶏卵トハ自ラ用途ガ違ッテ居リマス、生卵ナラザレバ能ハザル所ノモノハ即チ食料上、調理上ニ必要ナルモノト然ラザルモノ、加工品或ハ藥品乃至ハ其他ノ需要ニ充サル、所ノモノガ乾燥鶏卵デアアル、故ニ乾燥鶏卵ノ輸入關稅ヲ低下スルナラバ、從來生卵デ輸入サレタモノハ其輸送關係、又ハ保存等ノ便ニ照シテ、十分乾燥鶏卵ニ是ガ向ケラレテ來ルノデアリマス、先程申ス通り其用途ハ違ッテ居リマス、而モ經濟關係カラシテ、生卵ガ自ラ乾燥鶏卵ニ向ケラレマシテ、ソレダケ生卵ノ輸入ハ減退サレ、防止サレルノデアリマス、此結果ハ言フマデモナク、我國ニ於ケル養鶏業、即チ農村振興ノ一ツタル所ノ養鶏業ニモ間接ノ效果ヲ齎ス、而モ我が國民ノ最モ缺乏シテ居ルト謂ハレル「ヴァイタミンA」是ハ專ラ卵ニアルノデアリマス、是ハ學者ノ定説デアリマス、然ラバ此乾燥鶏卵ヲ安價ニスルコトハ、一方ニ於テ養鶏業ヲ助ケ、他ニ於テハ國民ニ安價ナル「ヴァイタミンA」ヲ供給シ、即チ「ヴァイタミンA」ノ民衆化トナリ、一舉兩得ノ妙案ト思ヒマス、詳細ハ委員會ニ於テ説明致シマス、既ニ當局ニ於テモ此案ニ付テハ御諒解ニナッテ居リマス、今マデハ餘リ高率過ギタカラ、近ク改正サルベキ關稅定率ニ於テ、當局モ之ヲ引下ゲヤウト云フ御意見デアリマス、願クハ滿場ノ御贊成ヲ得マシテ、國民生活ノ爲ニ、農村振興ノ爲ニ此案ノ通過ヲ欲シテ已マナイ者デアリマス。

次テ本案ハ武藤金吉君外一名提出染料關稅撤廢ニ關スル建議案(六六)外五件(六六)參看)ト一括シテ政府提出染料製造獎勵ニ關スル法律案(第四項第一(三三))委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果

委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一一八 高等試驗委員官制改正ニ關スル建議案

政府ハ人材登用ニ關シ門戶開放主義ヲ徹底シ朝ニ曠職ノ更ナク野ニ遺賢ナカラシムル目的ヲ以テ大正七年勅令第九號高等試驗委員及普通試驗委員官制ヲ改正シ同令第六條並第七條中ノ常任委員臨時委員ノ任命ヲ高等官中ヨリノミスルノ制限ヲ撤廢セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月二十一日内ヶ崎作三郎君外三名之ヲ提出ス三月二十日日本案ヲ院議ニ付シ提出者(内ヶ崎作三郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

官吏登用ニ付キマシテハ、一定ノ能力ヲ證明スル爲ニ種々ナル試驗ガアッタノデアリマス、從來高等文官試驗、判檢事試驗、辯護士試驗、外交官試驗等ガアリマシタガ、先年政府ガ之ヲ統一一致シマシテ、高等試驗ト云フモノニ致シマシタ、只今山下君ノ提案ノ御説明ニ依リマス、マダ、其間ニ種々ナル障礙ガアルヤウニ御話ニナッテ居ルノデアリマスケレドモ、ソレデモ高等試驗令ハ官學私學ノ差別ヲ撤廢致シマシテ、又一定ノ學校出身者ナラザルモ、成規ノ試驗ヲ受ケルトキハ同一待遇ヲ爲スト云フヤウナ特權ガ與ヘラレテアルノデアリマス、然ルニ其試驗ヲスル所ノ委員、高等試驗委員ノ方ハドウデアアルカト云ヘバ、常任委員並ニ臨時委員ハ高等官中ノミヨリ任命



スルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、ソコデ試験ヲ受ケル者ノ方ノ差別ハ撤廢サレテ居リ  
マスケレドモ、試験ヲスル方ノ委員ニ於キマシテハ差別ノ撤廢ガ十分デナイノデアリマシテ、公  
平ニ考ヘルナラバ、是ハ片手落ノ處分ト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス、ソコデ此建議案ノ提案  
ノ理由ハ、ドウカ政府ガ此差別ヲ撤廢サレマシテ、高等試験官中ノ常任委員、臨時委員ヲ高等官  
中ノミヨリ任命スルト云フコトヲ撤廢サレマシテ、民間ノ學者、若クハ相當實業家ナドノ中ヨリ  
モ委員ヲ任命セラレンコトヲ希望スルノデアリマス、現ニ教員檢定試験委員會ノ官制ニ於キマ  
シテハ、委員ノ任命ニ關シテハ何等ノ制限ガ無いノデアリマシテ、民間ノ人物モ矢張試験委員ニ  
ナツテ居ルノデアリマス、今日官吏ニナル者ノ大多數ハ官立大學、及帝國大學ノ出身者ガ多イノ  
デゴザイマスケレドモ、民間ノ篤學者若クハ私立大學卒業者ナドガ官吏登用試験ニ應ゼント致  
シマシテモ、試験委員ノ中ニ自分等ニ親ミガアル人ガ居ナイト云フコトハ、非常ニ損ニナツテ居  
ルノデゴザイマス、官吏ハ成ベク人民ニ接觸スルノガ本分デアリマス故ニ、出來ルダケ多方面ノ  
人材ヲ採用スルコトガ必要デアリマスカラシテ、此建議案ガ採用ニナリマスナラバ、人材ヲ得ル  
方面ニ於キマシテ、更ニ一段ノ進歩ガアルト思フノデアリマス、何卒諸君ノ御協賛ヲ願ヒタイト  
思フノデアリマス

次テ本案ハ關直彦君外四名提出法律事務取扱ニ關スル法律案(第四項第二(一四)外二件委員ニ併  
セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十五日報告書ヲ議長ニ提  
出セリ

即日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一九三)參看)採用ノ結果委員長  
ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一一九 遠洋漁業遭難者救助ニ關スル建議案

遠洋漁業獎勵ト共ニ生命ヲ賭シテ此ノ業ニ從事スル者ニ對シ慰安ノ途ヲ講スルハ最緊要ナルコ  
トト認ム仍テ政府ハ速ニ遭難者救助ニ關スル方法ヲ定メ以テ獎勵ノ目的ヲ達成スルニ努メラレ  
タシ

右建議ス

一二〇 水産増殖業助成ニ關スル建議案

水産増殖業ハ農家ノ副業トシテ大ニ獎勵スヘキハ勿論食糧問題ノ上ヨリモ之カ開發進展ヲ計ル  
ハ目下ノ急務ナリト認ム仍テ政府ハ速ニ左記事項ノ實施ニ努メラレタシ

- 一 水産増殖法定
- 一 水産増殖業者營業稅免除

右建議ス

右兩案ハ孰レモ十四年二月二十一日山本勝次君之ヲ提出ス三月二十日兩案ヲ一括シテ院議ニ付シ  
提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ



政府ハ今回遠洋漁業獎勵ノ爲ニ獎勵法ヲ改正致シマシテ、サウシテ大型漁船ニ補助ヲ與ヘルト云フ案ガ通過シテ居リマス、此遠洋漁業ノ獎勵ノ爲ニ大型漁船ノ製造ニ關シテ補助ヲ致スト云フコトハ、最モ必要ナル事デアリマスルガ、私共ノ考ト致シマシテハ、尙ホ進ンデ此遠洋漁業ニ從事スル者ガ遭難シタル場合ニ、之ヲ救助スルト云フ一ツノ方針ヲ政府ニ於テ定メテ戴キタイト思ッテ居ルノデアリマス、漁船ノ遭難スルモノハ其數甚ダ多クアリマシテ、一一申上ゲマセヌガ、一例トシテ大正十一年ニ於ケル所ノ此遭難船及人ニ就テ御參考マデニ申上ゲマスレバ、船ニ於キマシテ一千四百八十五艘ト云フモノガ遭難シテ居リマス、而シテ死亡シタル者ガ一千百七十人、負傷シタル者ガ四千五百三十五人ト云フヤウナ數ニ上ッテ居リマス、此船及漁具ノ損害高ダケニシマシテモ、百七十八萬六千圓ト云フヤウナ金ヲ要シテ居リマス、斯ウ云フ有様デアリマスルカラ、遠洋漁業ヲ獎勵スルノニハ、遭難シタル場合ニ其船及人ニ對シテ相當ノ救助ヲ致シ、遺族者ニ對シ、相當ニ慰安ヲスルト云フ途ヲ講ズルト云フコトガ、最モ必要ト考ヘテ居ル事デアリマス、此意味ニ於キマシテ、先以テ各府縣ノ水産會ニ是等ノ一ツノ救濟規定ヲ作ラシ、ソレニ對シテ國及地方費デ相當ノ補助ヲ與ヘルト云フヤウナ仕組ニ致シタラ宜カラウト思ッテ居リマス、ソナ意味ニ於キマシテ、先以テ政府ガ進ンデ此救濟ノ一ノ規定ヲ作ッテ發布スルヤウニ希望スル次第デアリマス、次ニ水産増殖業助成ニ關スル建議案デアリマス、此水産増殖業、即チ一口ニ養殖業ト言ッテ居リマスガ、過般ノ本會議ニテ藤澤君カラ縷々其必要ヲ御述ニナリマシタカラ、茲ニ省スマキガ、藤澤君ノ結論ハ先以テ魚ノ苗——魚苗製造所ヲ作ルコト、及一般増殖ニ關スル試驗場ヲ設クルト云フコトノ御話デアリマシタ、無論是ハ必要デアリマスガ、尙ホ私ノ考トシテハ此養殖業者ガ據ル所ノ一ツノ法規ヲ作ルト云フコトガ大切デアラウト思フ、此養殖業ヲ國ニ於テ一層進ンデ保護獎勵スル意味ノ増殖法ヲ制定スルノ必要ガアルト思ヒマス、農商務省ノ一部ニ於テモ確ニ其必要ヲ叫ンデ居ル人ガアルト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、是非近ク此水産増殖法ヲ定メテ、此養殖業者ガ據ルベキ、保護サルベキ一ツノ法規ヲ制定サレンコトヲ望ムノデアリマス今一ツ此増殖業助成ト云フコトニ關シマシテハ、此養殖業者ニ課シテ居リマ

ス營業稅ノ免除ト云フ事デアリマス、水産養殖業者ハ唯水面ヲ利用スルト云フコトデ、農業者ト同ジ狀態ニ働イテ居リマシテ、取上ゲタ物モ矢張り農業者ガ農作物或ハ繭ナドヲ賣リマスルト同ジヤウニ賣ッテ居ル、此營業行爲ト云フモノハ別ニ店舖ヲ設ケテヤル譯デモ何デモナイ、營業行爲ト云フモノハ何モ無イノデ、全ク此農業者ノ農産販賣ト同ジ狀態デアアルノデアリマス、ソレガ故ニ此養殖業ニ對シテ營業稅ヲ課スルト云フコトハ酷デアルト云フコトヲ當業者ガ懇ヘテ居リマス、而モ一面ニ於キマシテハ此増殖業者ハ高キ地租ヲ負擔シテ居リマスト申シマスルノハ、最初極ク荒地ノ所、或ハ池沼ノヤウナ極ク地價ノ低イ所ノモノヲ養魚地ニ致シマスルト、是ガ課稅ノ免除ガナイドコロデナク、直ニ高率ナ地價ヲ付スルノデアリマス、極端ナモノヲ申シマス、濱名湖附近ニ於キマシテ僅カニ二錢五厘位ナ地價ノモノヲ養魚地ニスレバ、直グト之ヲ二十圓ニ決メタ、一錢五厘ト二十圓ト言ヘバ八百倍ト云フ地價ヲ直ニ定メタト云フヤウナ極端ナ例モアル、ソナ工合ニシテ高キ率ノ地租ヲ拂ッテ居ルノニ、一面ニ於テ尙ホ營業稅ヲ課スルト云フノハ甚ダ酷デアアルト云フコトヲ懇ヘテ居リマスカラ、是モ是非免除致シタイト云フヤウナ考ヲ以テ、茲ニ助成ニ關スル建議案ヲ出シタ次第デアリマス、ドウゾ滿場ノ御贊成ヲ願ヒマス

次テ兩案ハ之ヲ一括シテ秋田寅之介君外一名提出下關漁港速成ニ關スル建議案(九四)外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ執レモ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ



一一一 綿絲輸入關稅撤廢ニ關スル建議案

政府ハ速ニ關稅定率法中綿織絲ニ關スル輸入關稅ヲ廢止スルノ法律案ヲ帝國議會ニ提出スヘシ  
右建議ス

右ハ十四年二月二十一日飯塚春太郎君外一名之ヲ提出ス三月十日本案ハ武藤金吉君外一名提出染料關稅撤廢ニ關スル建議案(六六)外五件(本項第二(六六)參看)ト一括シテ院議ニ付シ提出者(飯塚春太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ既ニ武藤金吉君ノ説明ト同一趣旨ノ建議案デアリマス、大要武藤君ヨリ述ベラレマシタ、尙ホ補足スベキ點ハ委員會ニ於テ辯明スルコトニ致シマス

次テ本案ハ武藤金吉君外一名提出染料關稅撤廢ニ關スル建議案(六六)外五件(六六)參看)ト一括シテ政府提出染料製造獎勵ニ關スル法律案(第四項第一(三三))委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十三日議事日程ヲ變更シテ院議ニ付シ作間耕逸君提出ノ動議(本項(一四)參看)採用ノ結果委員長ノ報告ヲ省略シテ原案ノ通可決シ即日之ヲ政府ニ呈出セリ

一一二 伏木港ニ露國領事館設置ニ關スル建議案

伏木港ハ裏日本ニ於ケル中部日本海ニ沿フ重要ナル港灣ニシテ「カムチャツカ」「オコツク」沿海州及北樺太へ出漁スル漁夫ノ大半ハ同港ヨリ出入シ又對岸浦潮港ト同港トノ貿易ハ已ニ二十年來緊密ナル關係ヲ有シ政府ニ於テモ夙ニ本伏木港ノ對岸露國ニ對シ重要ナル通商上ノ地點ナルコトヲ認メ大正九年以來伏木港ヲ起點トシ七尾港經由浦潮港ニ至ル定期命令補助航路ヲ開設シテ露國トノ通商貿易ノ助長ヲ計リ來レリ加フルニ晩近富山縣ニ於ケル豐富低廉ナル水力電氣ハ伏木港ヲ中心ニ幾多ノ製造工業ヲ勃興セシメ特ニ製紙事業「バルブ」製造業魚肥製造業等對岸露領ノ特産物タル木材及魚獲物ヲ原料トスル工業發達シ對岸露國トノ貿易益増進スルニ至レリ依テ政府ハ速ニ適當ノ方法ヲ講シ露國政府ニ交渉シ伏木港ニ露國領事館ヲ設置セシメ對露通商ノ發展ヲ計ラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ十四年二月二十一日石原正太郎君外四名之ヲ提出ス三月二十日本案ヲ院議ニ付シ提出者(荒井建三君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本建議案モ先刻來ノ建議案ト同一趣旨ノモノデアリマスガ、此建議案ニアリマス伏木港ト申シ